

2025(令和7)年度 高齢者実態調査報告書 《本人調査》

素案

大 阪 市

一 目 次

Ⅰ 調査概要	Ⅰ
(1) 調査目的	Ⅰ
(2) 調査設計	Ⅰ
(3) 調査項目	Ⅰ
(4) 回収状況	2
(5) 報告書の見方	3
Ⅱ 調査結果	5
(1) 調査回答者の基本属性	5
問1 記入者	5
問2 (1) 本人の性別	6
問2 (2) 本人の年齢	8
問2 (3) 居住区	10
問2 (4) 居住年数	13
(2) 世帯・住まいの状況	15
問3 世帯状況	15
問3-1 昼間の状況	18
(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	20
問4 要介護・要支援認定状況	20
問5 介護が必要になった場合の暮らし方	24
問6 日常生活への不安の有無	31
問6-1 日常生活への不安	34
問6-2 不安を感じた時の相談先	39
問7 情報通信機器の所有状況と利用状況	43
問8 情報通信機器の利用目的	52
問9 医療の相談先	56
問10 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度	62
問11 在宅医療の利用状況	65
問12 人生会議（ACP）の認知度	69
問13 人生の最終段階に過ごしたい場所	71
問14 人生の最終段階についての話し合いの有無	76
問14-1 人生の最終段階についての話し合った相手	78
問14-2 話し合いで決めた内容の共有有無	81
(4) 地域生活支援	82
問15 認知症の認知度	82
問16 認知症基本法の認知度	84
問17 認知症の人の支援	86

問 18 孤立死に対する意識	92
問 18-1 孤立死を身近に感じる理由	95
問 19 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否	99
問 19-1 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無	102
問 20 災害時の心配事	105
問 21 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の利用状況	112
問 21-1 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）を知った経緯.....	117
問 21-2 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の利用目的と満足度	124
問 22 高齢者虐待の相談先の認知度.....	126
問 23 消費者被害の経験有無	128
(5) 将来の介護や援護に対する考え.....	130
問 24 特養入所意向	130
問 25 特養の整備と介護保険料.....	133
問 26 介護保険サービスと介護保険料に対する考え	137
問 27 介護保険料の上昇を抑制するために必要な取組	140
(6) 高齢者施策全般	145
問 28 高齢者向け施設・事業の利用状況・意向	145
問 29 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向	147
(7) 高齢者施策に関する意見・要望等	150
3 個別テーマに関する分析【ひとり暮らし高齢者の状況】	152
(1) 回答者の基本属性	152
問 2 (1) 本人の性別	152
問 2 (2) 本人の年齢	152
(2) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	153
問 4 要介護・要支援認定状況.....	153
問 5 介護が必要になった場合の暮らし方	154
問 6 日常生活への不安の有無.....	154
問 6-1 日常生活への不安内容	155
問 6-2 不安を感じた時の相談先	156
問 7 情報通信機器の所有状況と利用状況	157
問 8 情報通信機器の利用目的.....	158
問 9 医療の相談先	159
問 10 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度	160
問 11 在宅医療の利用状況	160
問 13 人生の最終段階に過ごしたい場所.....	161
問 14 人生の最終段階についての話し合いの有無	162
問 14-1 人生の最終段階について話し合った相手.....	162
(3) 地域生活支援	163
問 17 認知症の人の支援	163

問 18 孤立死に対する意識	164
問 18-1 孤立死を身近に感じる理由	164
問 19 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否	165
問 19-1 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無	165
問 20 災害時の心配事	166
問 21 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の利用状況	167
問 21-1 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）を知った経緯.....	168
問 23 消費者被害の経験有無	169
（4）将来の介護や援護に対する考え.....	169
問 24 特養入所意向	169
問 25 特養の整備と介護保険料.....	170
問 26 介護保険サービスと介護保険料に対する考え	170
問 27 介護保険料の上昇を抑制するために必要な取組	171
（5）高齢者施策全般	172
問 28 高齢者向け施設・事業の利用状況・意向	172
資料編	173

1 調査概要

(1) 調査目的

大阪市に居住する65歳以上の高齢者を対象に、世帯の状況、日常生活の状況、将来の介護に対する考え、地域生活の状況、高齢者向けサービスの利用状況と利用意向などを把握し、大阪市における今後の高齢者施策及び介護保険事業制度の運営に資する基礎資料を得ることを目的に実施した。

(2) 調査設計

- ① 調査地域：大阪市内全域
- ② 調査対象：大阪市内に居住する満65歳以上の高齢者から無作為に抽出した19,200人
- ③ 調査方法：郵送配布、郵送回収及びWEB（インターネット）による回答
- ④ 調査期間：令和7年7月11日（金）から令和7年8月8日（金）

(3) 調査項目

① 調査回答者の基本属性

記入者、性別、年齢、居住区、居住年数

② 世帯・住まいの状況

世帯状況、昼間の状況

③ 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

要介護・要支援認定状況、介護が必要になった場合の暮らし方、日常生活への不安、情報通信機器の所有状況と利用状況、医療の相談先、希望すれば在宅医療を受けられることの認知度、在宅医療の利用状況、人生会議（ACP）の認知度、人生の最終段階に過ごしたい場所、人生の最終段階についての話し合い

④ 地域生活支援

認知症の認知度、認知症基本法の認知度、認知症の人の支援、孤立死に対する意識、災害時・緊急時の支援、地域包括支援センター・ランチの利用状況・満足度、高齢者虐待の相談先の認知度、消費者被害の経験有無

⑤ 将来の介護や援護に対する考え

特養入所意向、特養整備と介護保険料、介護保険サービスと介護保険料

⑥ 高齢者施策全般

高齢者向け施設・事業の利用状況・意向、自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向

⑦ 高齢者施策に関する意見・要望等

(4) 回収状況

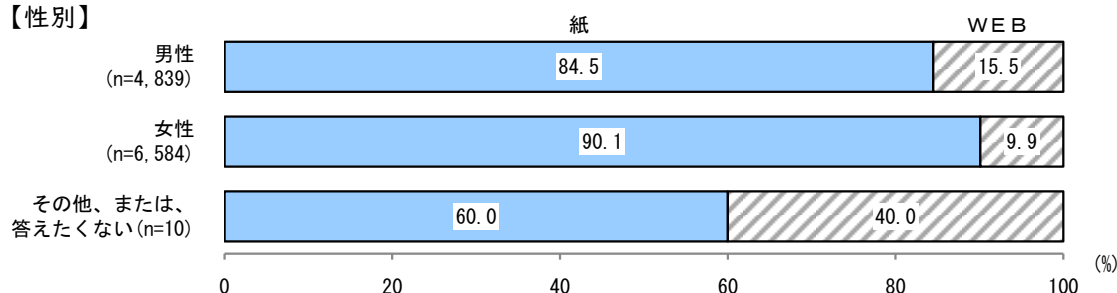
調査対象者 (a)	回収数 (b)	集計対象外数 (c)	有効回答数 (d)=(b)-(c)	有効回答率 (e)=(d)/(a)
19,200	11,657	170	11,487	59.8%

※有効回答数／紙調査票・WEB回答の内訳

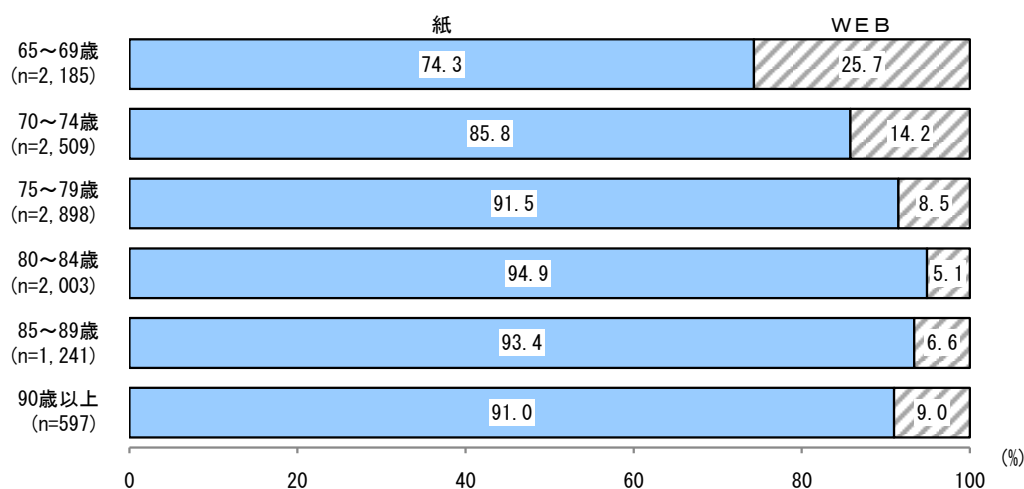
紙調査票	WEB	計
10,084 87.8%	1,403 12.2%	11,487 100.0%

◇回答方法の内訳

【性別】



【年齢別】



性別不明、年齢不明を除く

※集計対象外数の内訳（調査票の返送があったが、下記の理由により集計対象から外したもの）

本人の状況を 把握している 者がいない	転居	死亡	その他	白票 回答不備	計
10	16	29	99	16	170

※その他とは、入院（入所）中、認知症等により回答が困難という理由により返送されたもの。

【年齢】有効回答数を全体とした各回答者の人数（上段）と割合（下段）

65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上	無回答	計
2,185 19.0%	2,509 21.8%	2,898 25.2%	2,003 17.4%	1,241 10.8%	597 5.2%	54 0.5%	11,487 100.0%

【要支援・要介護認定状況】有効回答数を全体とした各回答者の人数（上段）と割合（下段）

要支援・要介護認定者							非該当 (自立)	事業 対象者	未申請・申請中	無回答 わからない・ 無回答	計
要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5					
679 5.9%	389 3.4%	325 2.8%	341 3.0%	249 2.2%	198 1.7%	135 1.2%	1,368 11.9%	24 0.2%	6,878 59.9%	901 7.8%	11,487 100.0%

（５）報告書の見方

- ① 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示し、小数点第２位を四捨五入した。（比率の合計が100.0%にならない場合がある。）
- ② 図表上の「MA％」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の、また、「LA％」という表記は制限つき複数回答（Limited Answer の略）の意味である。
- ③ コンピュータ入力の都合上、図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。
- ④ 報告書記載の「前回調査」とは、令和４年度実施の高齢者実態調査の結果を示している。
- ⑤ クロス集計結果の『性別』における「その他、または、答えたくない」、『所得段階別』の「不明」、『介護度別』の「事業対象者」は、回答者数が少ないため、分析に関するコメントは省略している。
- ⑥ 前期・後期高齢者別による分析について

年齢や性別に加え、要介護・要支援認定が増加していく後期高齢者以降と前期高齢者別の意識や傾向、各種サービス等の利用状況に関するデータの一部を、「※前期・後期別」としてグラフ化している。

【例】今回の調査の【問6】「あなたは、日常生活全般で不安を感じていますか。」という問いでは、「とても不安を感じる」と「多少不安を感じる」を合わせた割合は、前期高齢者が52.7%であるのに対し、後期高齢者は6割近く（58.1%）が不安を感じている。

本人調査 編

2 調査結果

(1) 調査回答者の基本属性

問1 記入者

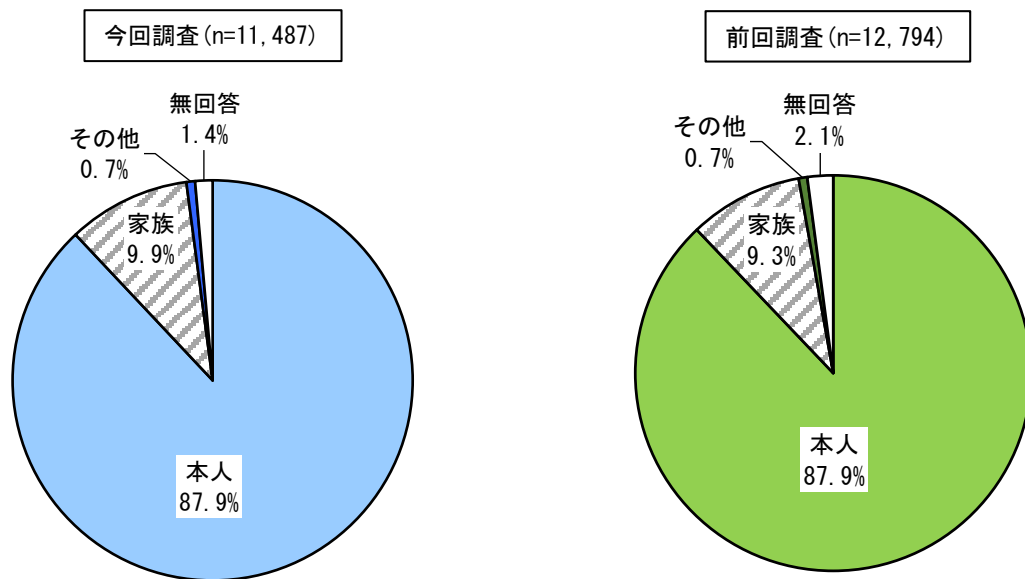
問 この調査票をご記入されるのはどなたですか。(○はひとつ)

記入者は、「本人」が87.9%、「家族」が9.9%となっている。(問1)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。(問1)

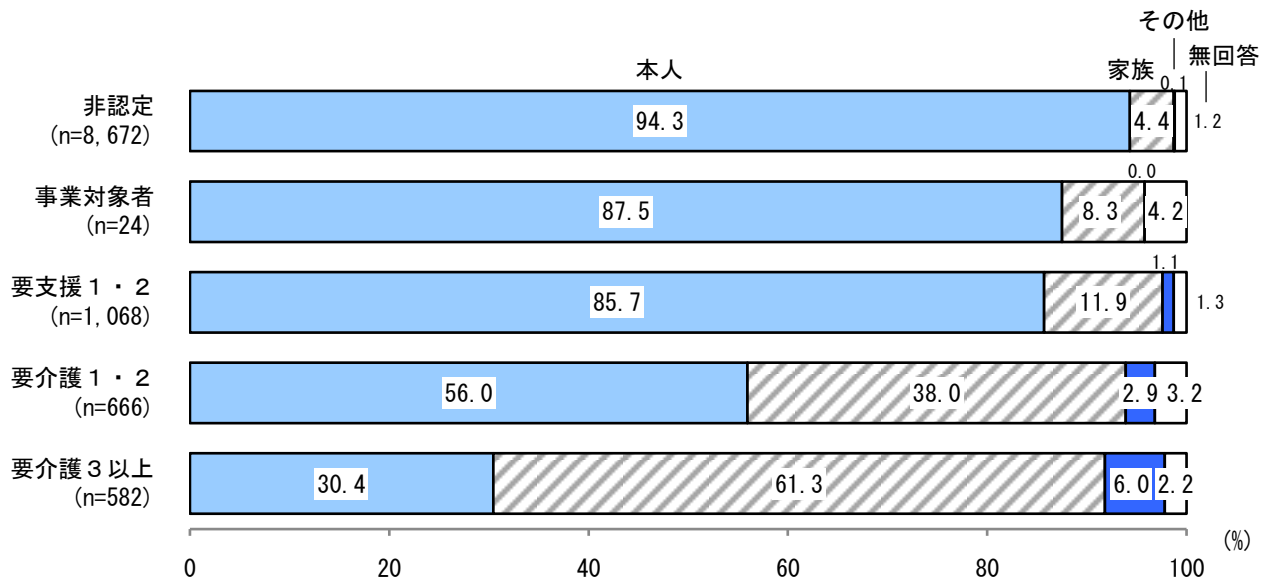
なお、今回の調査から、従来の郵送による回答に加え、WEB回答と併用とした。全体としては、男性の方が女性よりもWEB回答率が高く、また、65～69歳の25.7%がWEB回答を選択している。(P2(4)回収状況参照)

【問1 記入者（経年比較）】



介護度別では、介護度が上がるほど「本人」による記入割合は減少しており、要介護3以上では、6割以上の方が「家族」等の協力による回答となっている。(問1-a)

【問1-a 記入者（介護度別）】



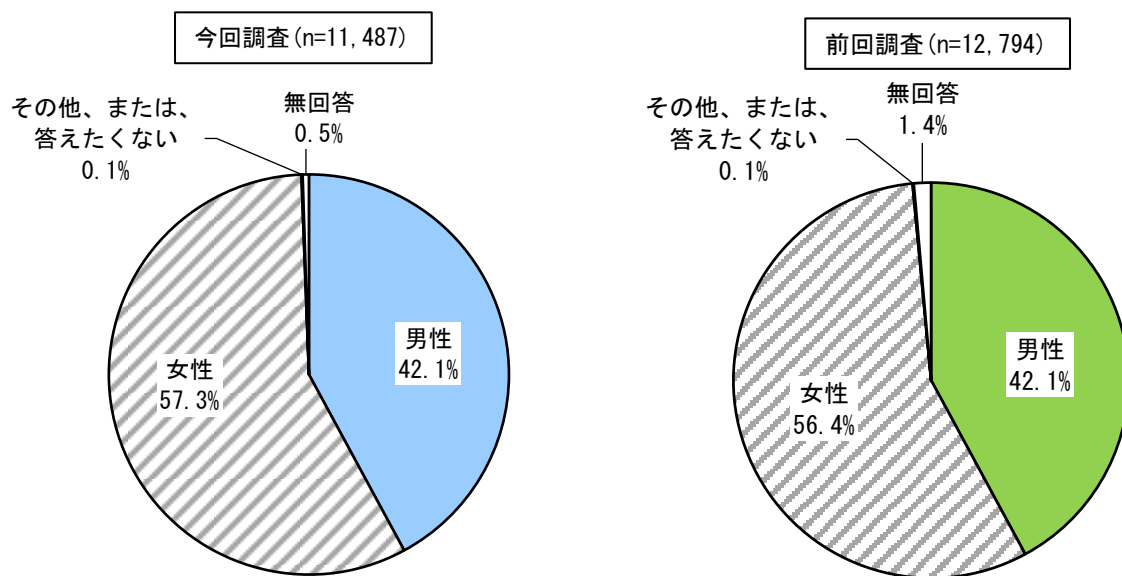
問2(1) 本人の性別

あなた（あて名ご本人：以降の質問も同じ）の性別、年齢などについておうかがいします。
あなたの性別をお答えください。（○はひとつ）

本人の性別では、「男性」より「女性」の割合の方が高くなっている。（問2(1)）

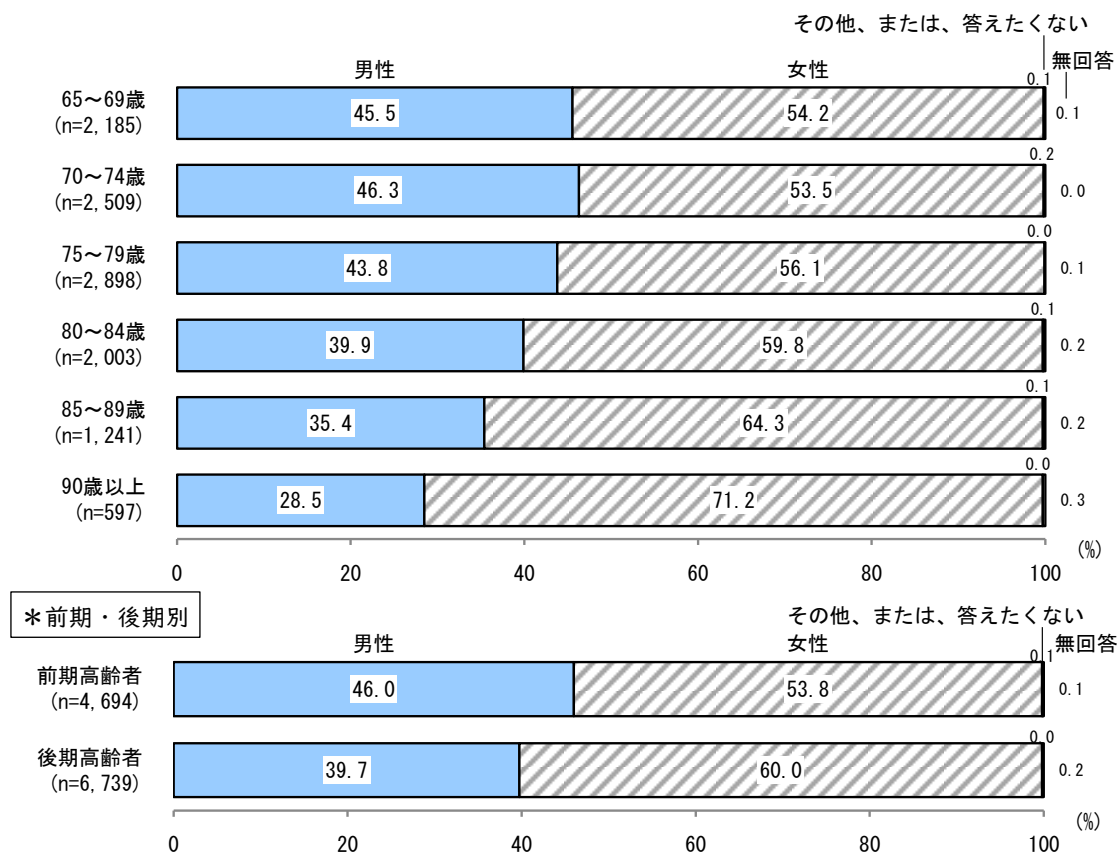
また、前回調査の結果から大きな変化はみられない。（問2(1)）

【問2(1) 本人の性別（経年比較）】

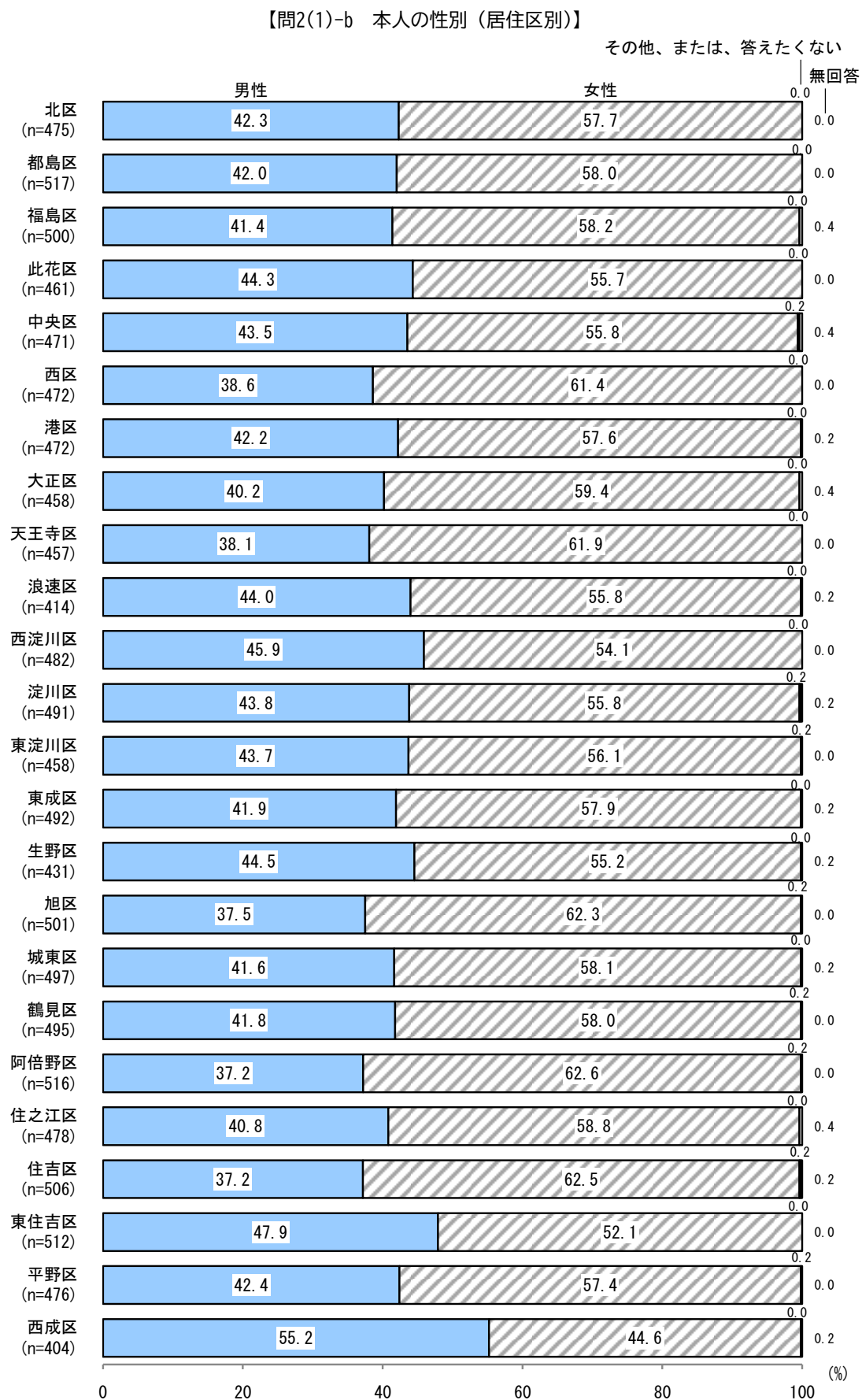


年齢別では、高齢になるほど、男性の割合が低くなっている。（問2(1)-a）

【問2(1)-a 本人の性別（年齢別）】



居住区別では、男性は西成区（55.2％）で過半数を占めており、それ以外の区については女性の割合の方が高くなっている。（問2(1)-b）



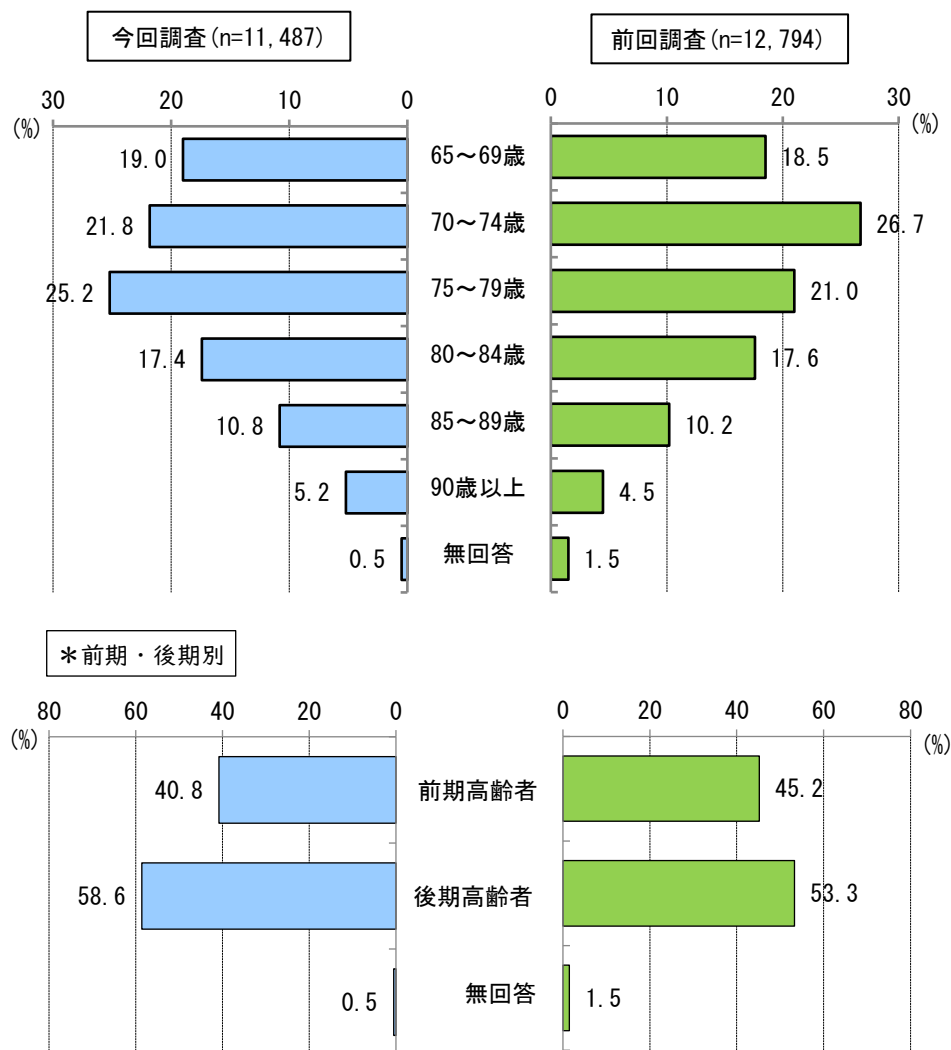
問2(2) 本人の年齢

あなたの年齢をお答えください。(〇はひとつ)

本人の年齢は、75歳以上の後期高齢者が58.6%に対し、前期高齢者（65～74歳）は40.8%となっている。(問2(2))

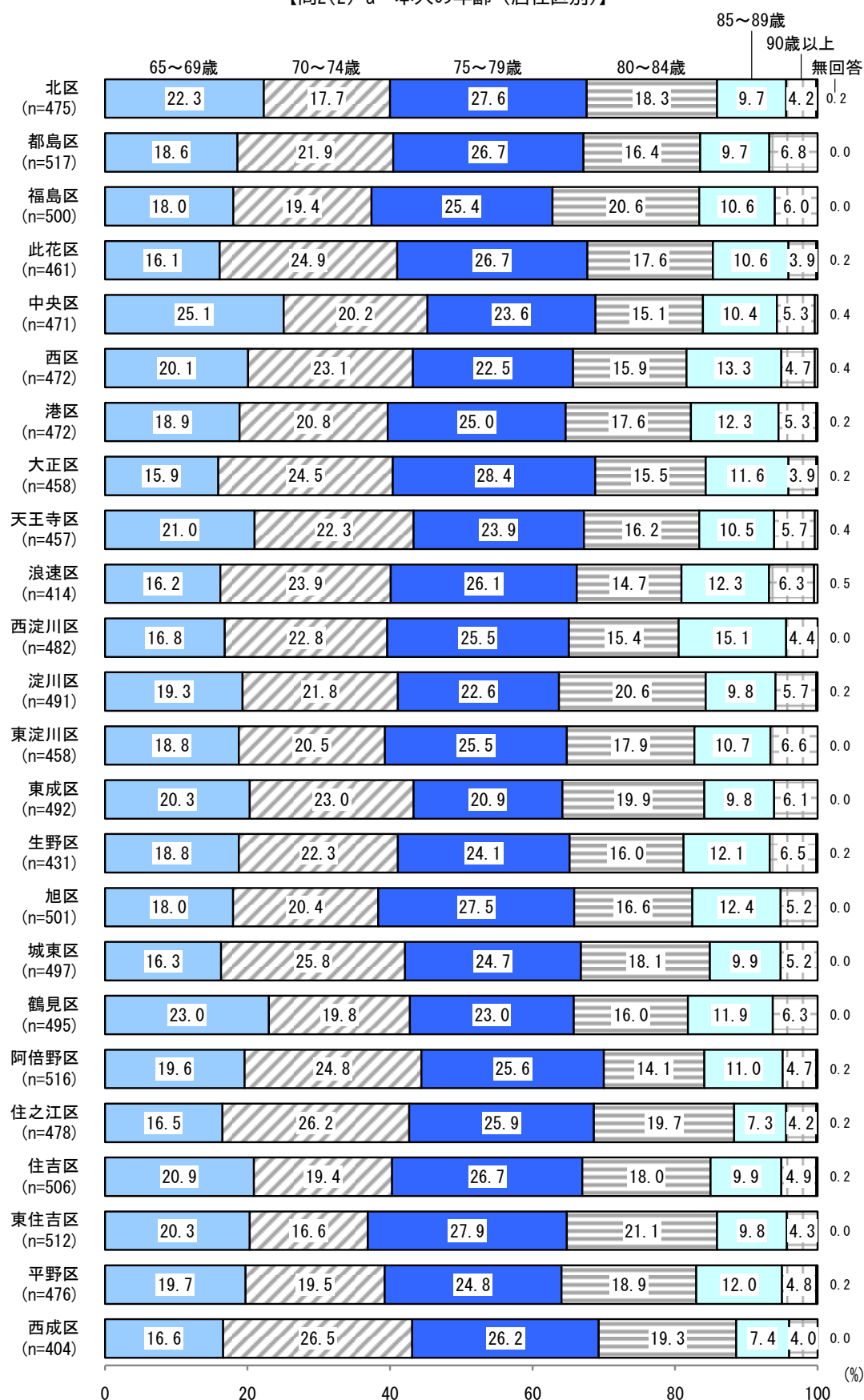
前回調査と比較すると、「70～74歳」の割合は4.9ポイント減少し、「75～79歳」が4.2ポイント増え、前期高齢者の割合は4.4ポイント減少し、後期高齢者の割合が5.3ポイント増加している。(問2(2))

【問2(2) 本人の年齢（経年比較）】



居住区別では、後期高齢者は東住吉区（63.1％）の割合が最も高く、次いで福島区（62.6％）、旭区（61.7％）となっている。逆に、後期高齢者の割合が最も低い区は、中央区（54.4％）で、次いで阿倍野区（55.4％）、天王寺区（56.3％）となっている。（問2(2)-a）

【問2(2)-a 本人の年齢（居住区別）】

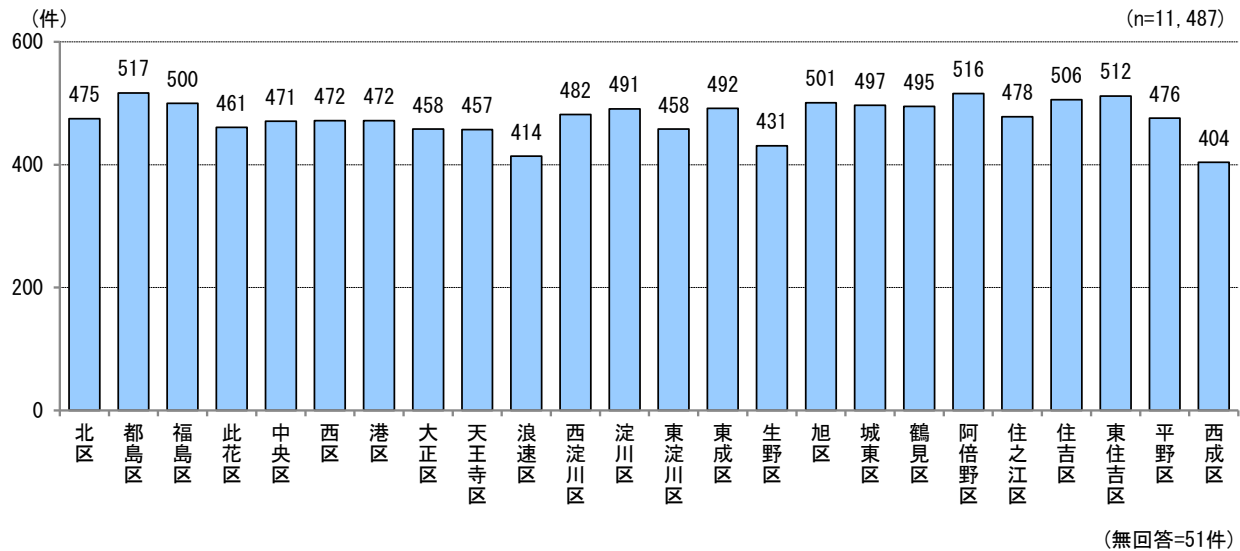


問2(3) 居住区

あなたのお住まいの区はどちらですか。(○はひとつ)

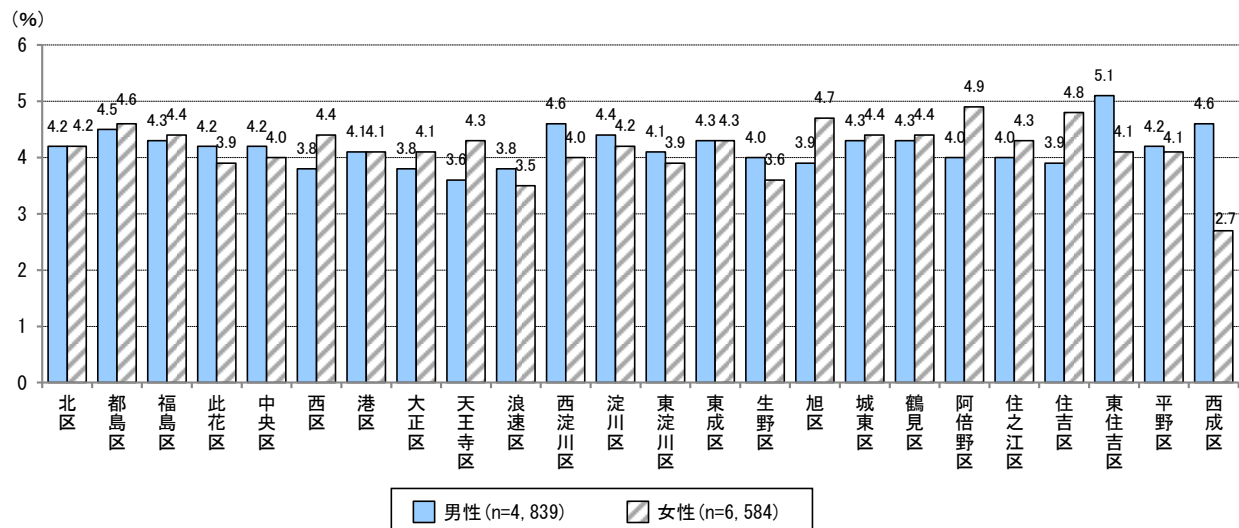
居住区別の回答件数は、「西成区」(404件)、「浪速区」(414件)、「生野区」(431件)がやや少なく、それ以外の区の回答件数は450件を超えている。(問2(3))

【問2(3) 居住区】



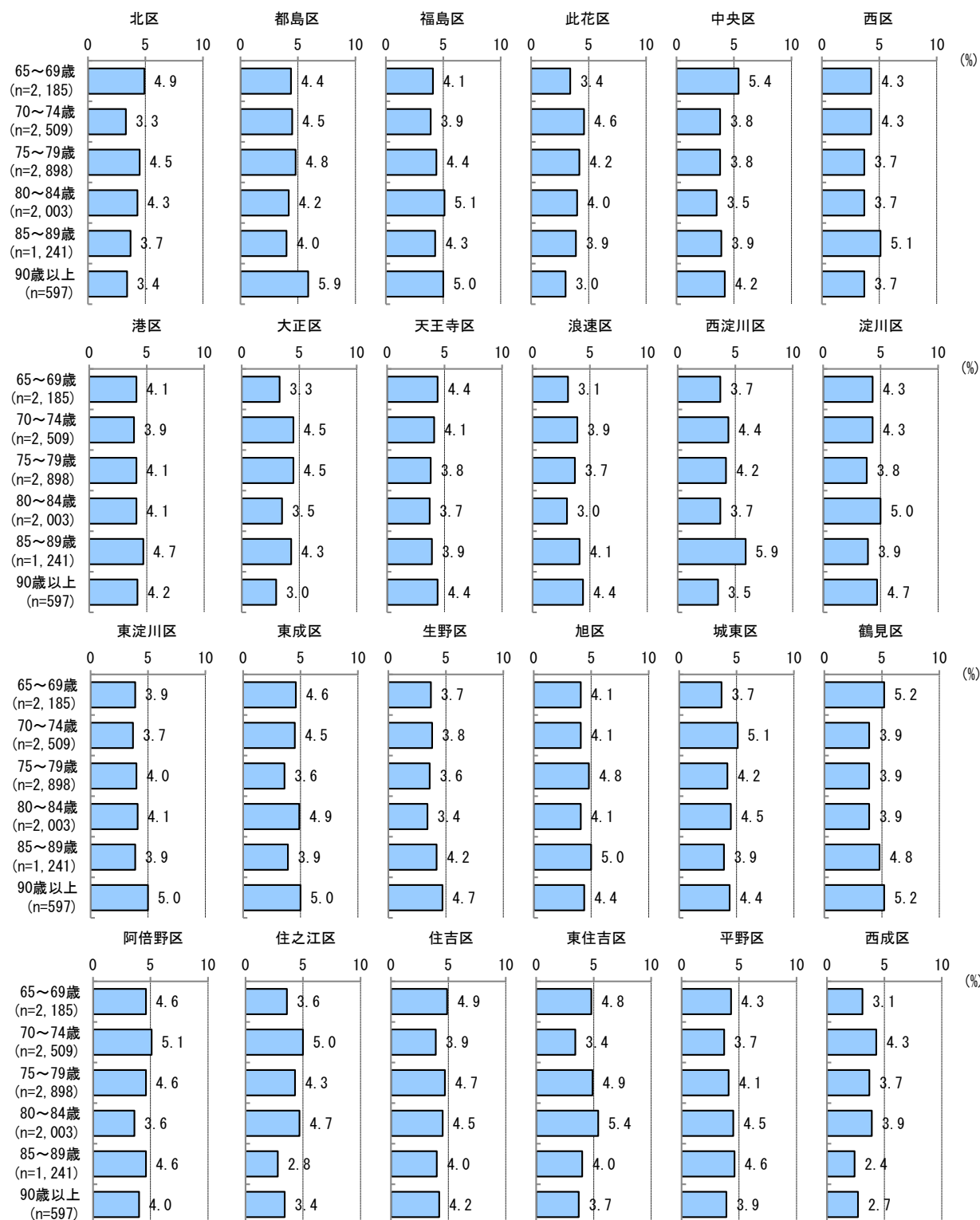
性別は、男性は「東住吉区」の割合が5.1%(245件)で最も高く、女性は「阿倍野区」が4.9%(323件)で最も高くなっている。(問2(3)-a)

【問2(3)-a 居住区(性別)】

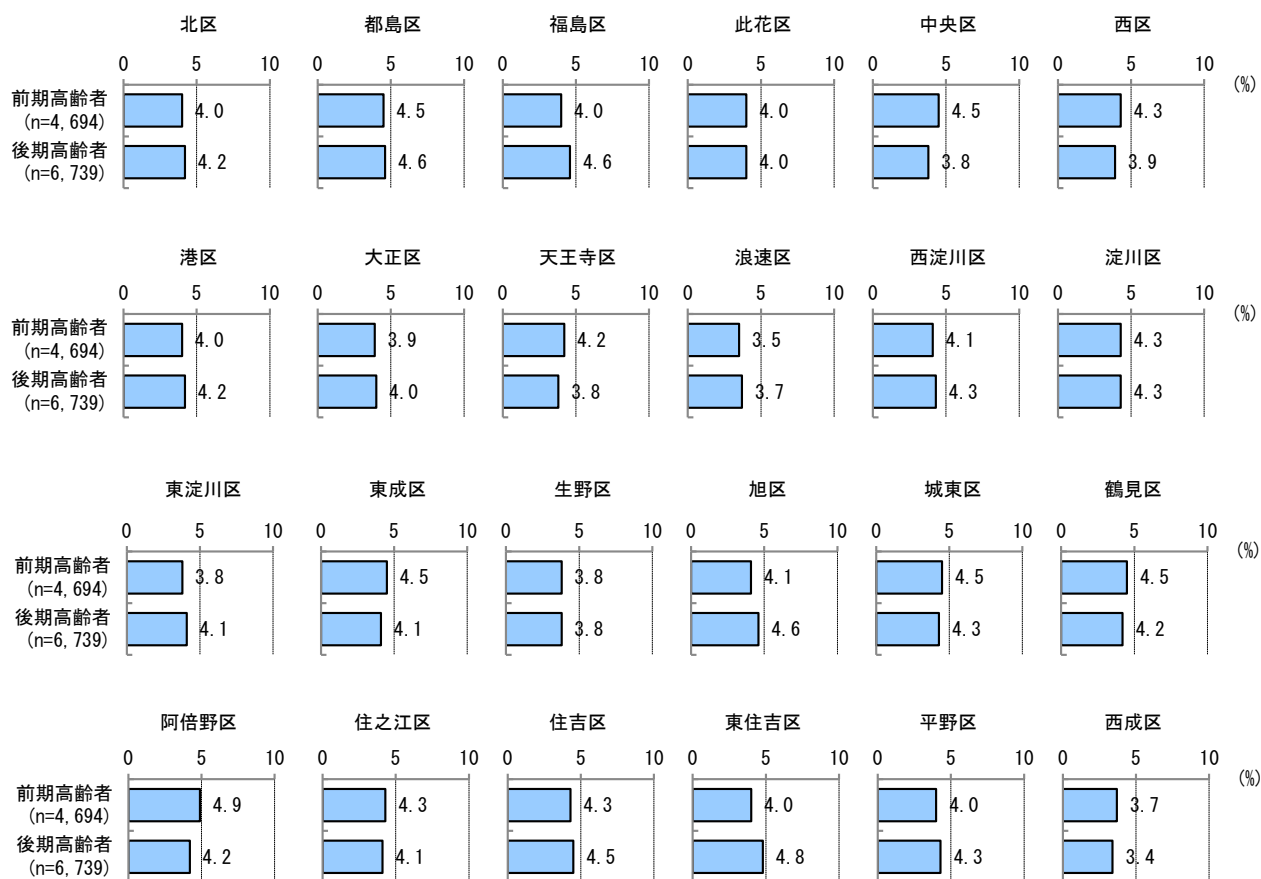


年齢別では、後期高齢者の居住割合は、西成区を除いて各区とも4%前後となっている。後期高齢者の居住割合の最大は「東住吉区」の4.8%、最小は「西成区」の3.1%である。(問2(3)-b)

【問2(3)-b 居住区（年齢別）】



＊前期・後期別



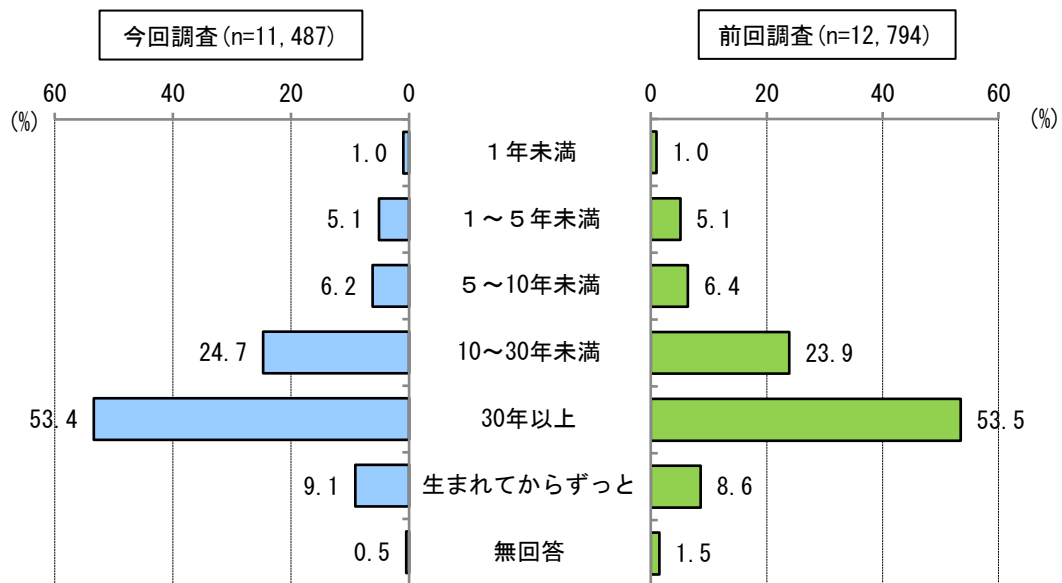
問2(4) 居住年数

あなたは、現在お住まいの区内に暮らし始めてどれくらい経ちますか。(○はひとつ)

現在住んでいる区に暮らしている年数は、「30年以上」の割合が53.4%で最も高く、次いで「10～30年未満」が24.7%、「生まれてからずっと」が9.1%となっている。(問2(4))

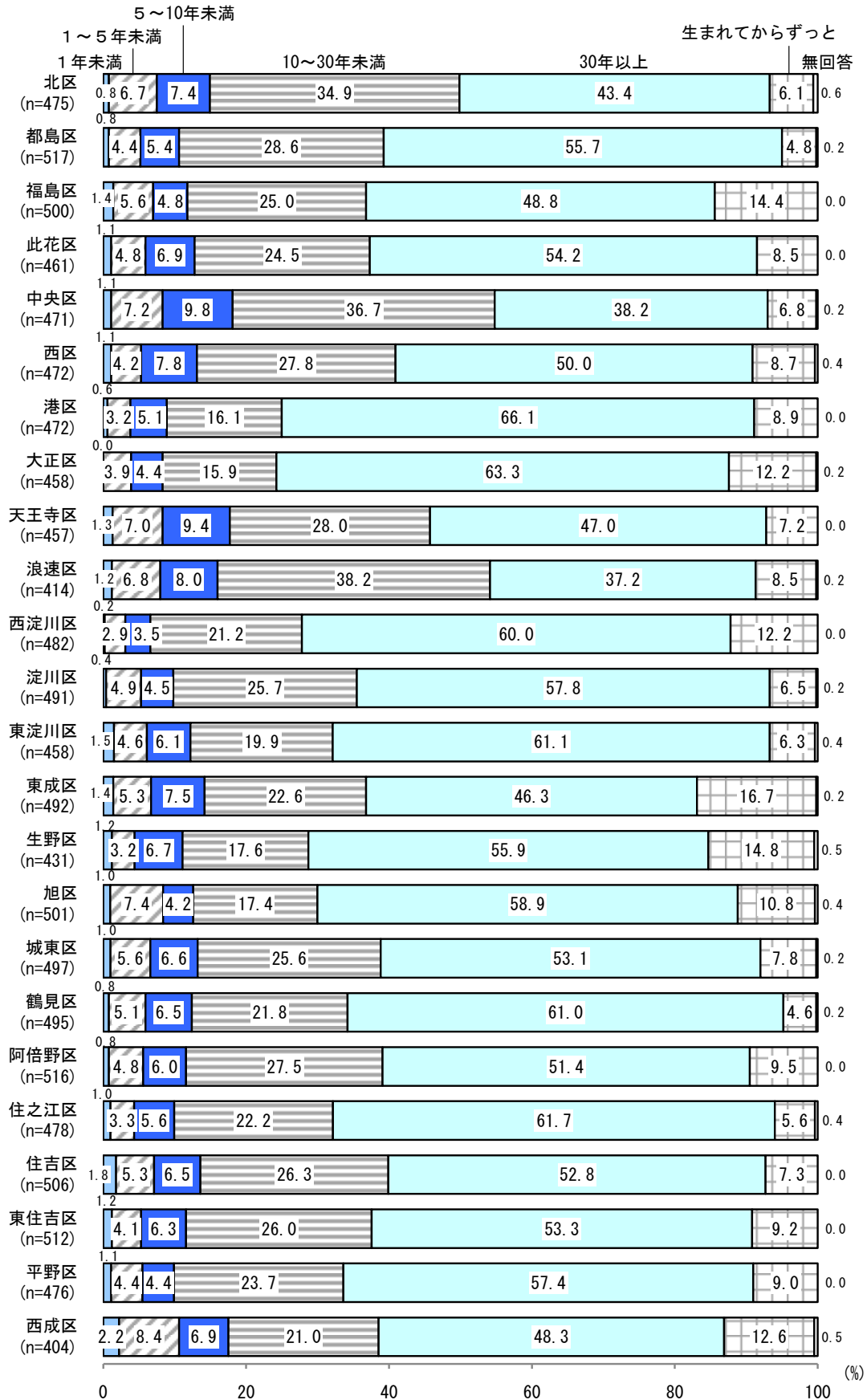
前回調査の結果から大きな変化はみられない。(問2(4))

【問2(4) 居住年数（経年比較）】



居住年数は、「生まれてからずっと」を含む30年以上の居住者が港区、大正区、西淀川区、生野区で7割を超えており、北区と中央区、浪速区を除く区で過半数を占めている。(問2(4)-a)

【問2(4)-a 居住年数（居住区別）】



(2) 世帯・住まいの状況

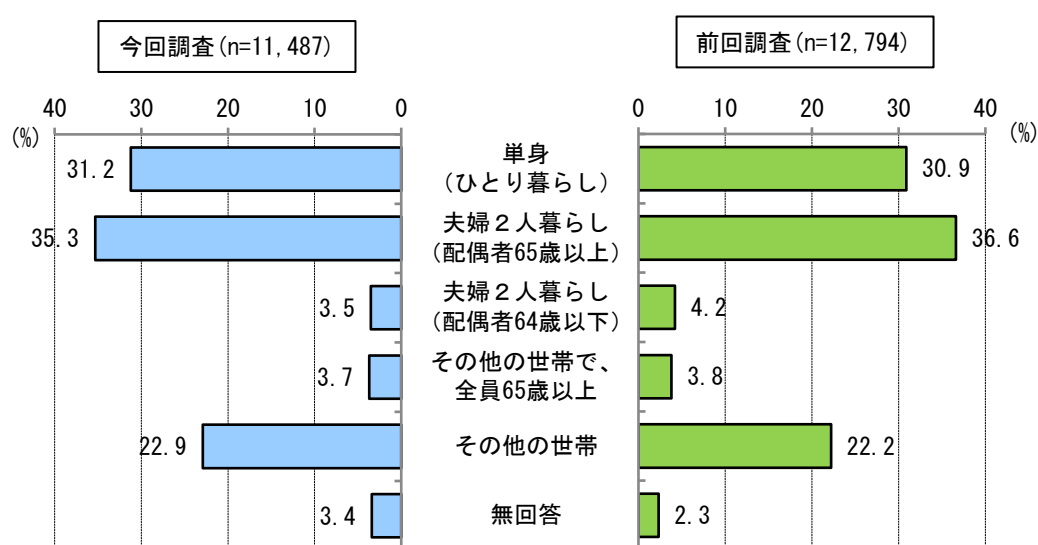
問3 世帯状況

あなたと同居されている家族の状況についてお答えください。(○はひとつ)

世帯状況は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」の割合が35.3%で最も高く、次いで「単身（ひとり暮らし）」の31.2%となっている。

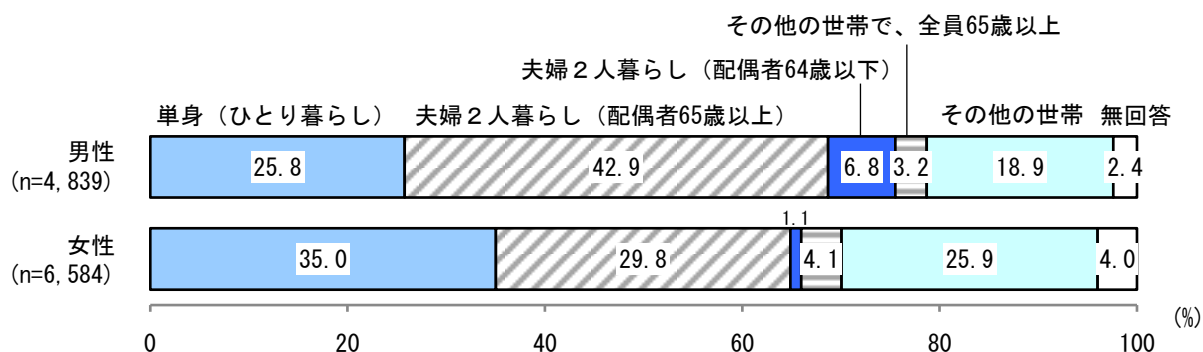
前回調査の結果から大きな変化はみられない。(問3)

【問3 世帯状況（経年比較）】



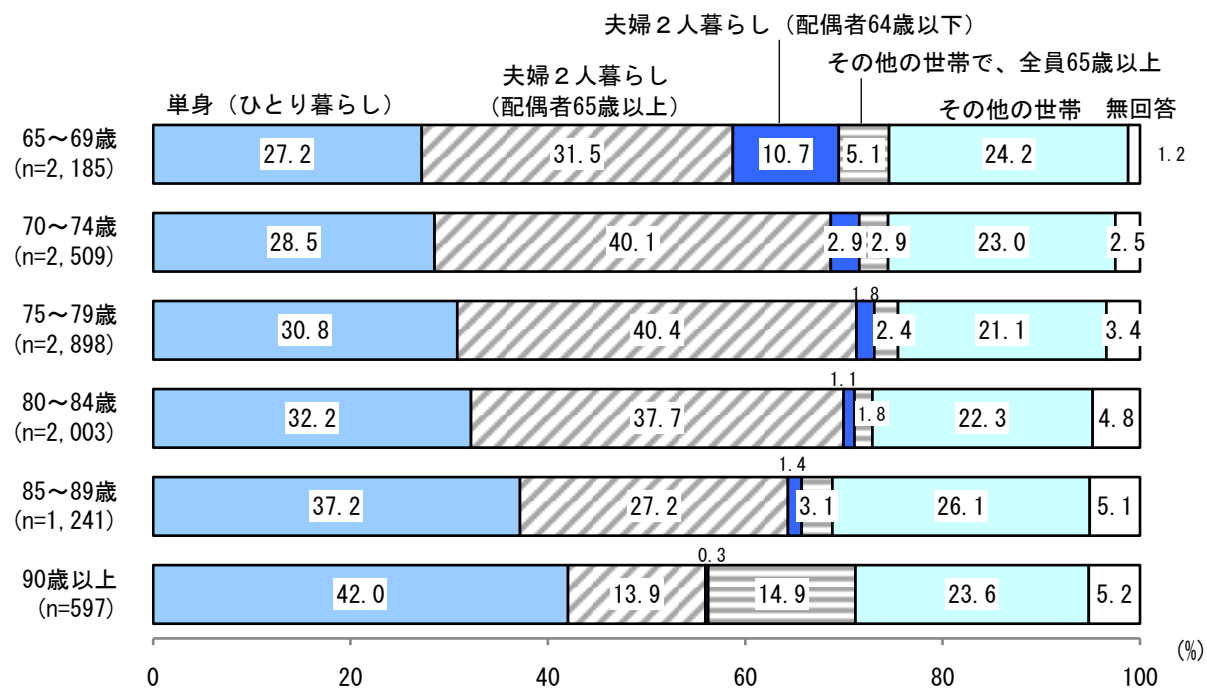
性別では、「単身（ひとり暮らし）」は、男性（25.8%）に比べ女性（35.0%）の方が9.2ポイント高くなっている。(問3-a)

【問3-a 世帯の状況（性別）】

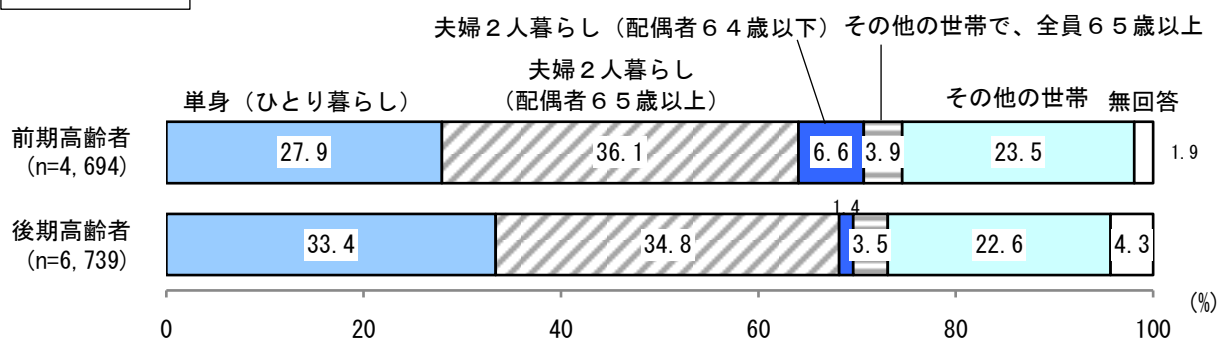


年齢別では、高齢になるほど「単身（ひとり暮らし）」の割合が増加している。（問3-b）

【問3-b 世帯の状況（年齢別）】

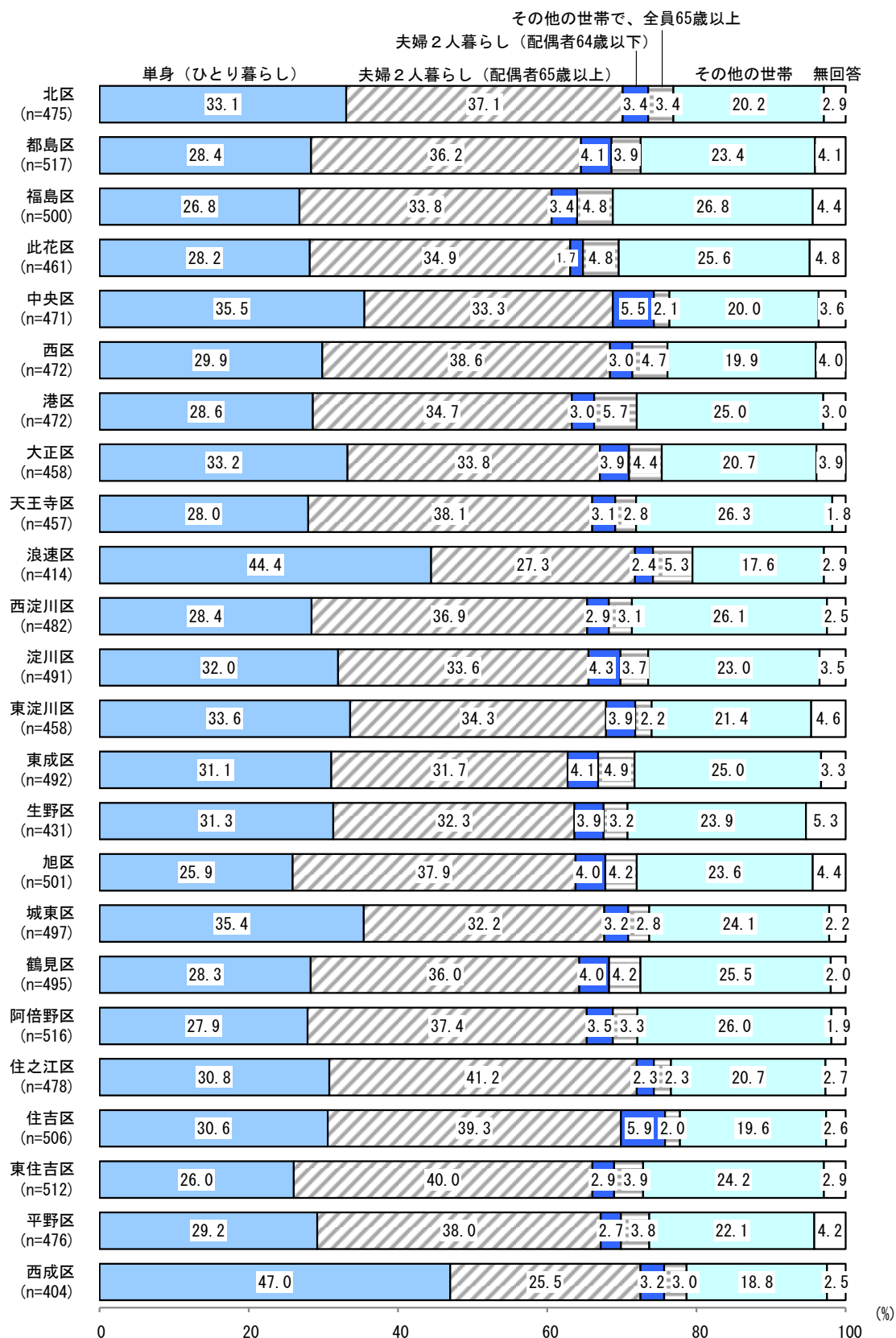


*前期・後期別



居住区別では、「単身（ひとり暮らし）」は西成区の割合が47.0%で最も高く、次いで浪速区が44.4%となっている。「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」の割合は住之江区が41.2%で最も高く、次いで東住吉区が40.0%となっている。（問3-c）

【問3-c 世帯の状況（居住区別）】



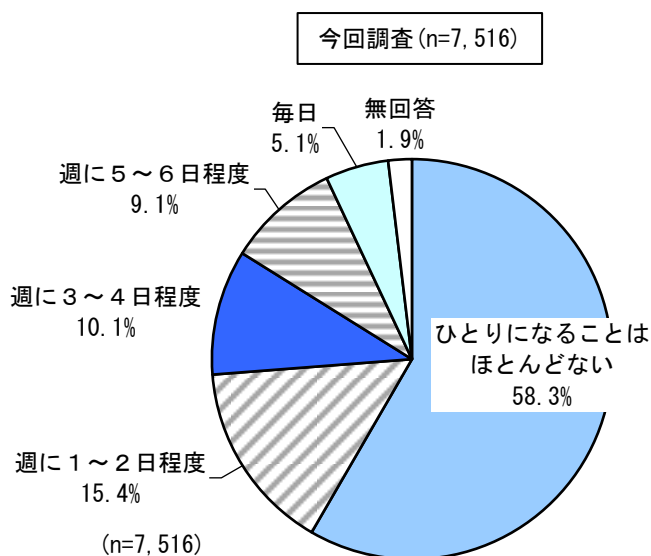
問3-1 昼間の状況

問3で「2」～「5」と回答された方におうかがいします。

同居している方が仕事などで外出し、昼間、家の中で、半日以上（6時間以上）ひとりになることがどのくらいありますか。（○はひとつ）

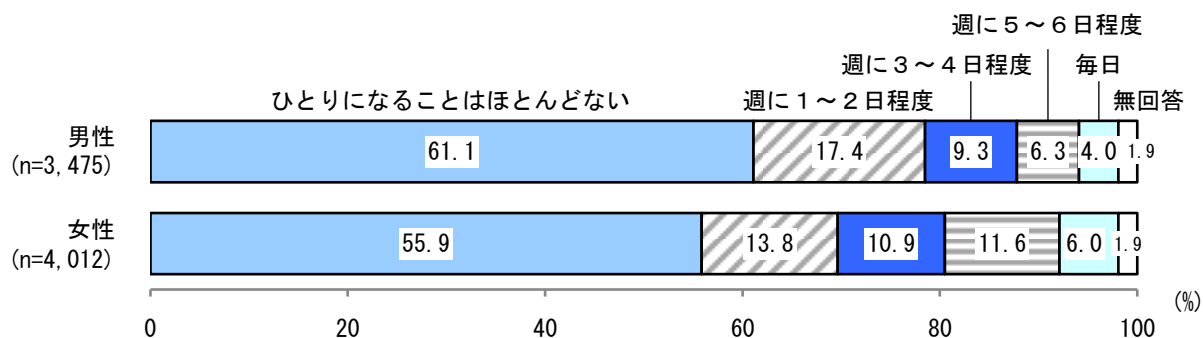
同居者のいる世帯の回答者に、昼間にひとりになる日数についてたずねると、「ひとりになることはほとんどない」の割合が58.3%と6割程度を占めている。これに対し、「毎日」は5.1%となっている。（問3-1）

【問3-1 昼間の状況】



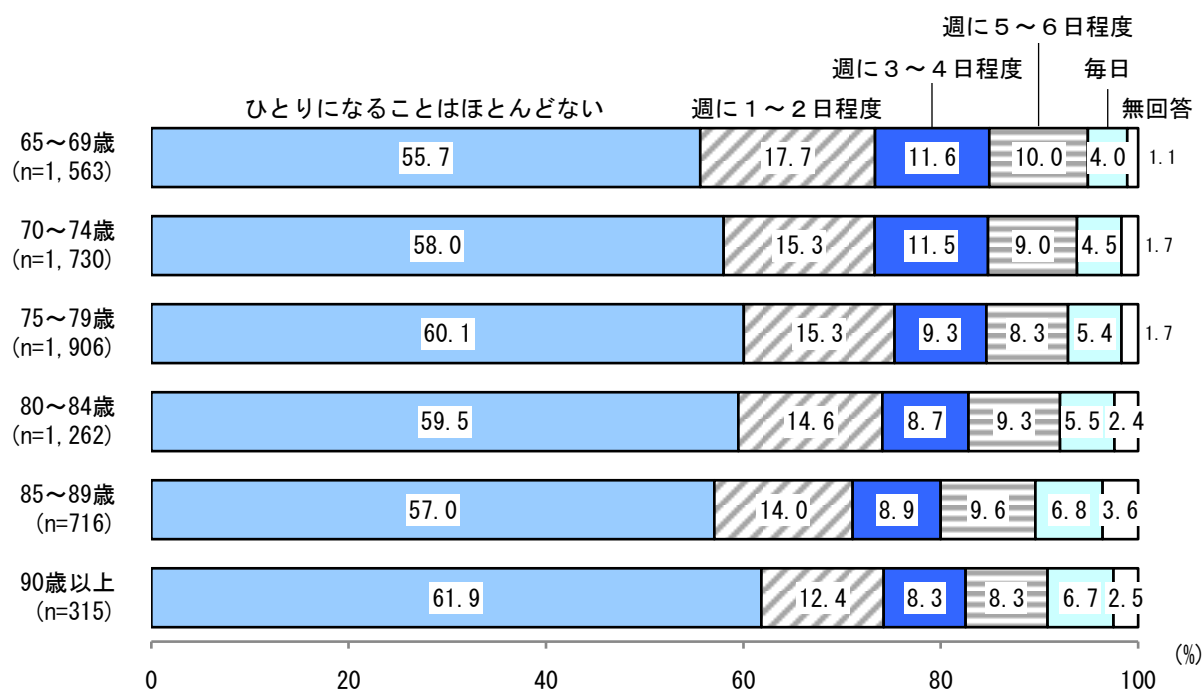
性別では、男性よりも女性の方が、「週に3～4日程度」「週に5～6日程度」、「毎日」の割合が高くなっている。（問3-1-a）

【問3-1-a 昼間の状況（性別）】

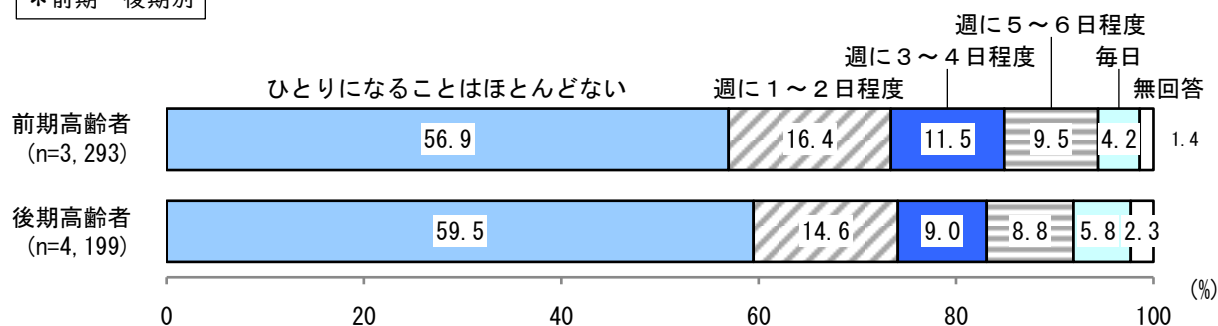


年齢別では、いずれの年齢も「ひとりになることはほとんどない」の割合が最も高く、90歳以上の割合が61.9%で最も高くなっている。「毎日」の割合は85～89歳が6.8%で最も高くなっている。(問3-1-b)

【問3-1-b 昼間の状況（年齢別）】



* 前期・後期別



(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

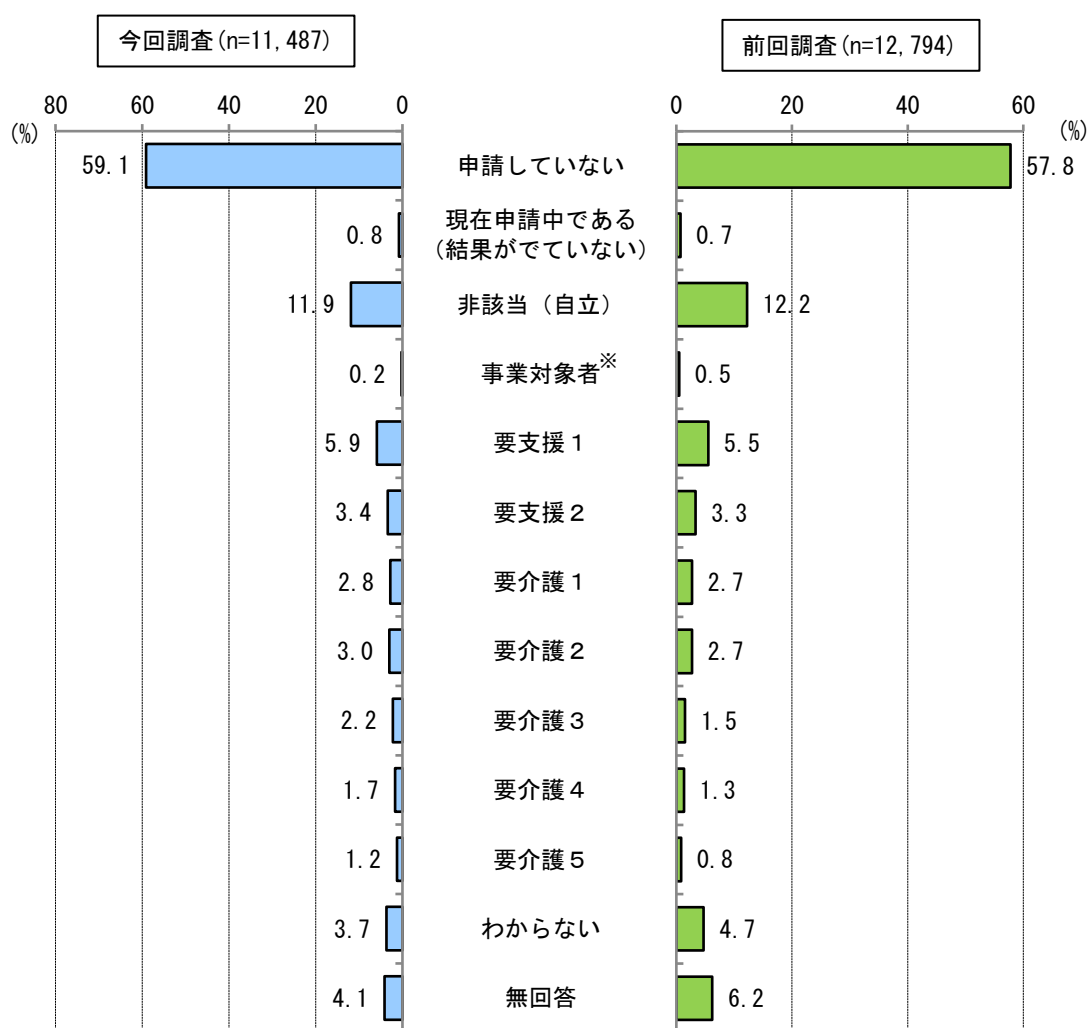
問4 要介護・要支援認定状況

あなたの介護保険の申請、認定状況は、次のどれにあてはまりますか。(○はひとつ)

要介護・要支援認定状況は、「申請していない」の割合が59.1%で最も高く、次いで「非該当（自立）」が11.9%となっている。また、認定を受けている方の中では、「要支援1」「要支援2」「要介護2」の順で割合が高く、比較的軽度の割合が高くなっている。

前回調査の結果から大きな変化はみられない。(問4)

【問4 要介護・要支援認定状況（経年比較）】

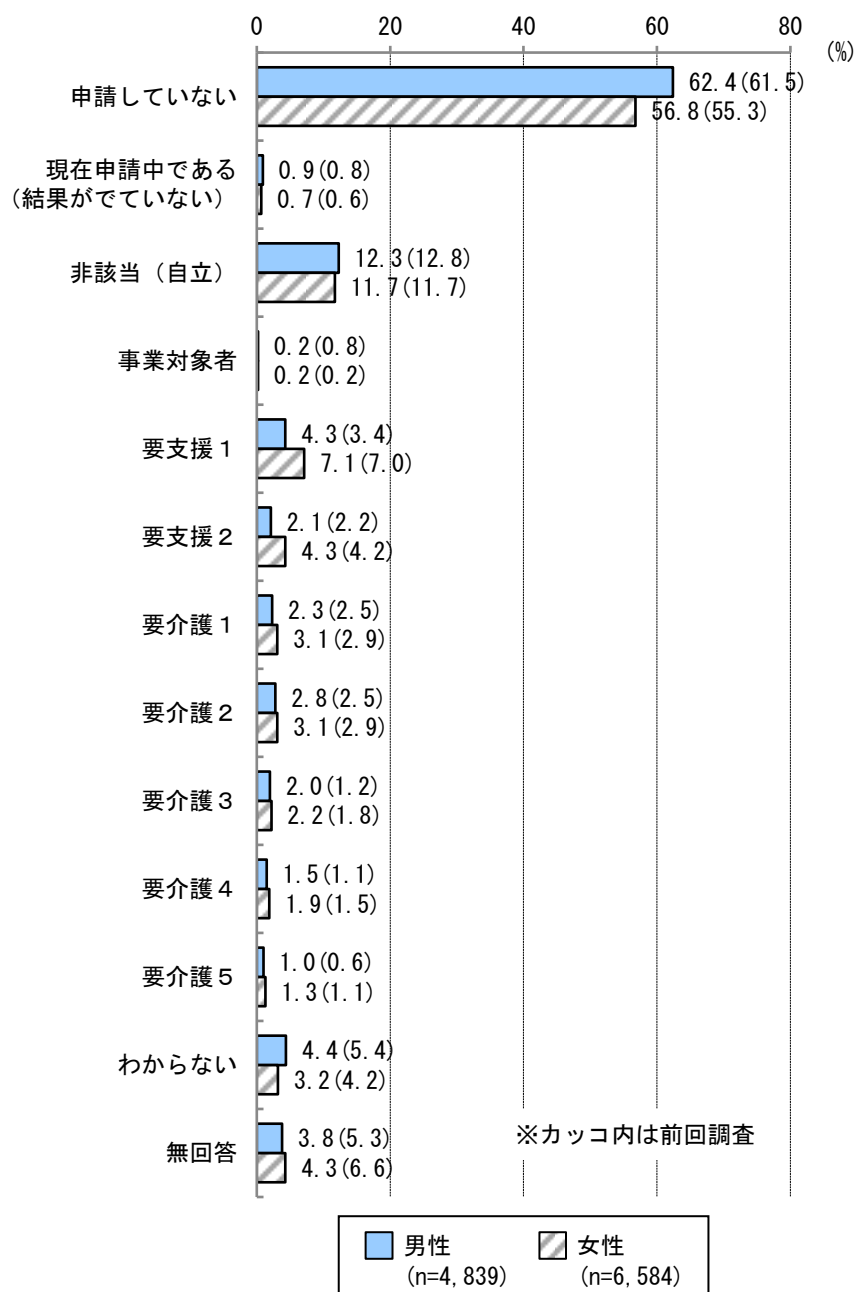


※「事業対象者」とは、地域包括支援センターまたは各区役所保健福祉課で基本チェックリストを実施し、市が実施している「介護予防・日常生活支援総合事業」の対象となった方をいう。

性別では、「非該当（自立）」の割合は女性より男性の方が高く、「要支援Ⅰ」～「要介護Ⅴ」の割合は女性の方が高い。

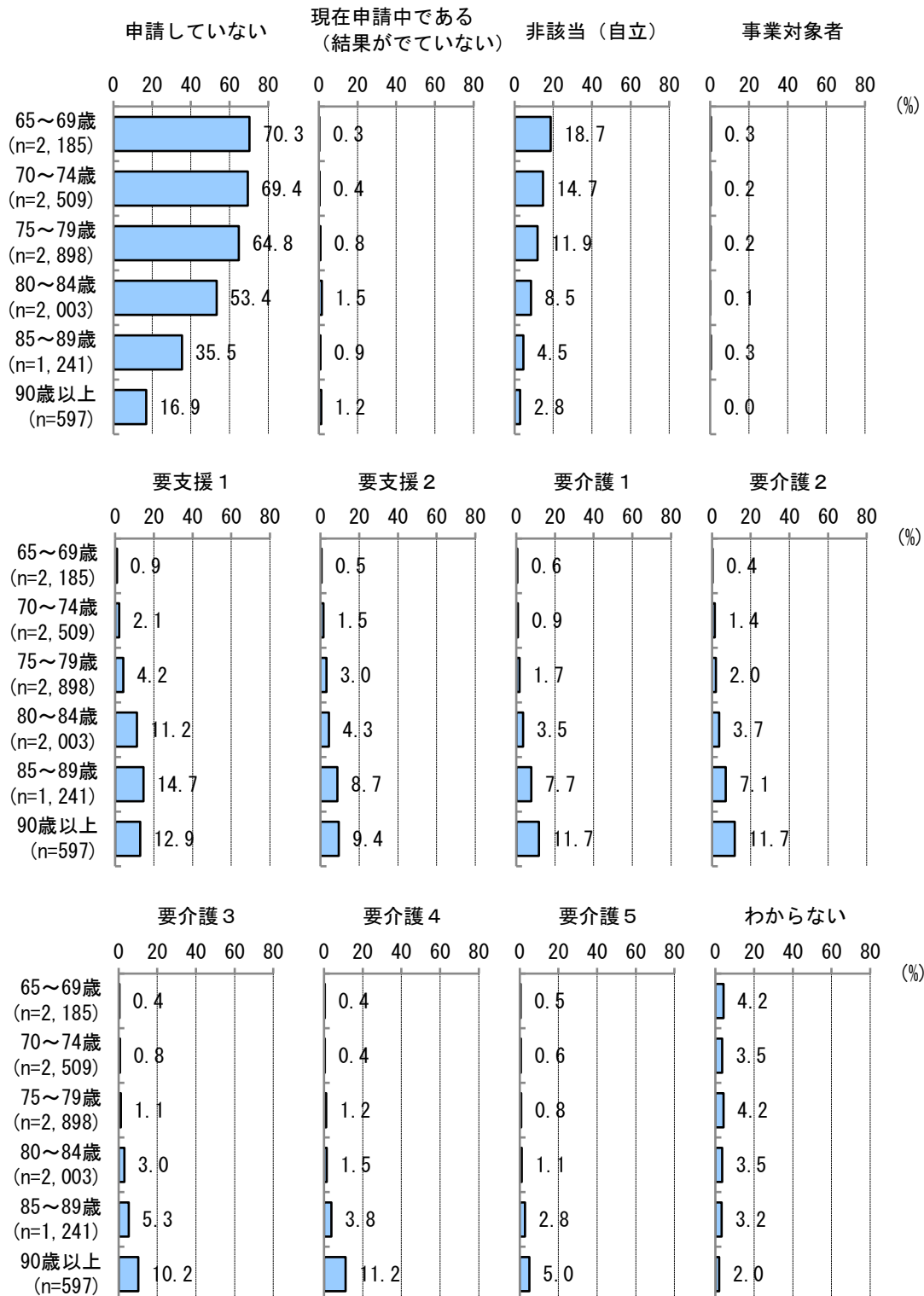
男女とも、前回調査の結果から大きな変化はみられない。（問4-a）

【問4-a 要介護・要支援認定状況（性別）】

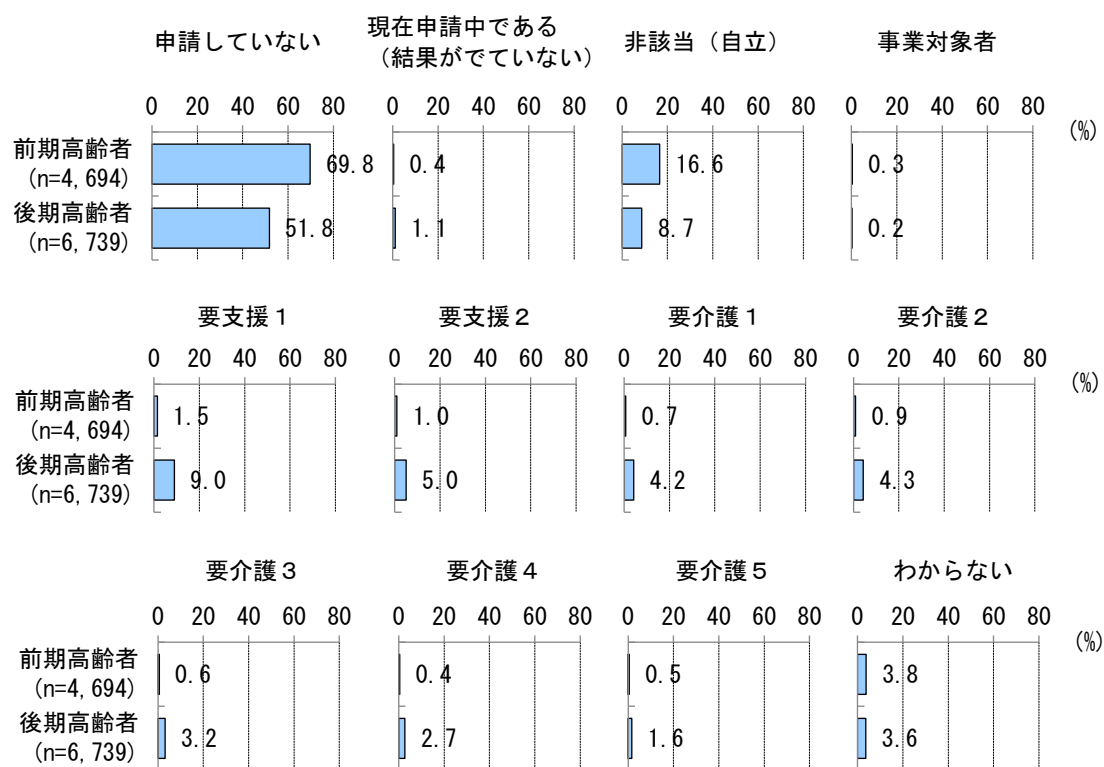


年齢別では、各認定の割合は前期高齢者に比べ後期高齢者で高くなっている。(問4-b)

【問4-b 要介護・要支援認定状況（年齢別）】



＊前期・後期別

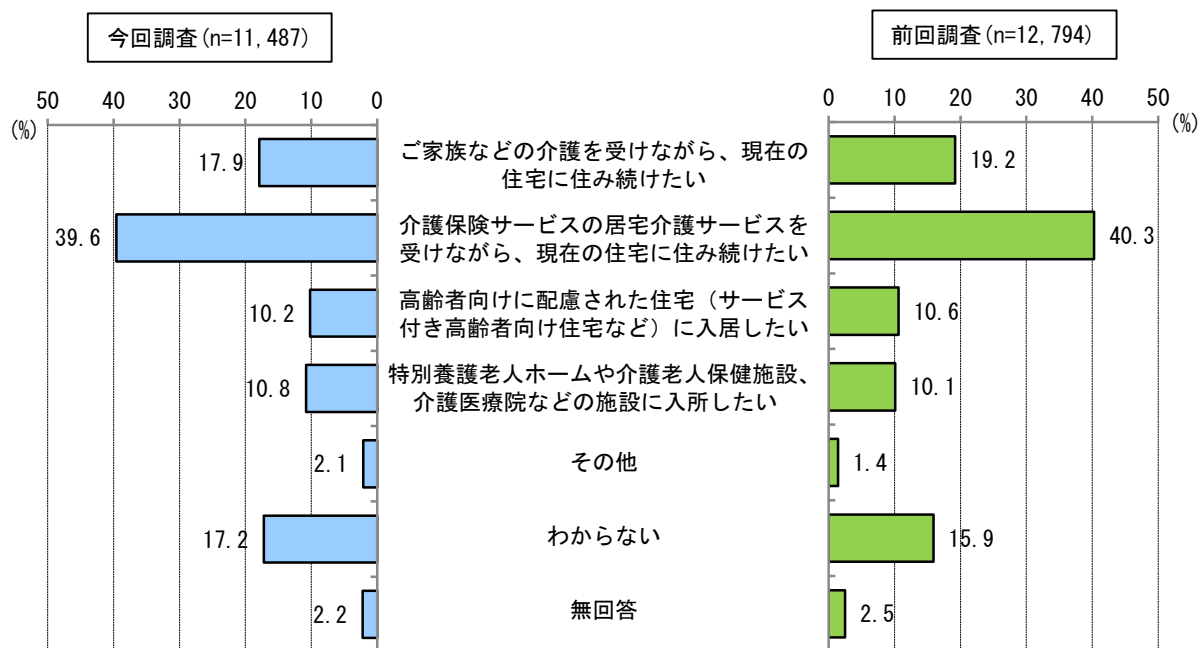


問5 介護が必要になった場合の暮らし方

あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいと思いますか。
(〇はひとつ)

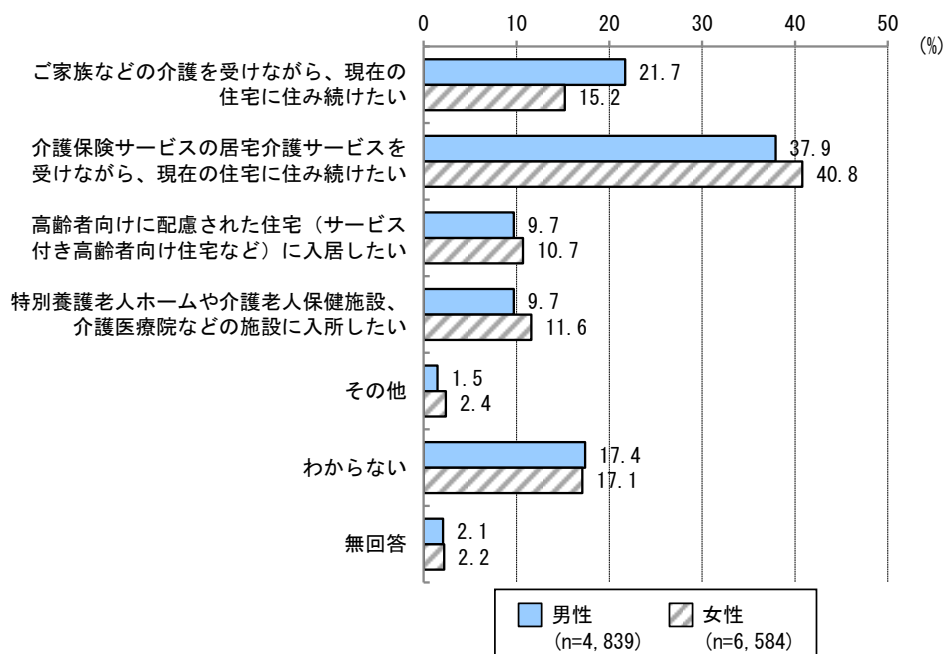
介護が必要になった場合の暮らし方は、「介護保険サービスの居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」、「わからない」の割合が39.6%で最も高くなっている。
前回調査の結果から大きな変化はみられない。(問5)

【問5 介護が必要になった場合の暮らし方（経年比較）】



性別では、「ご家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」「わからない」の割合は男性の方が高く、それ以外の項目は女性の方が高くなっている。（問5-a）

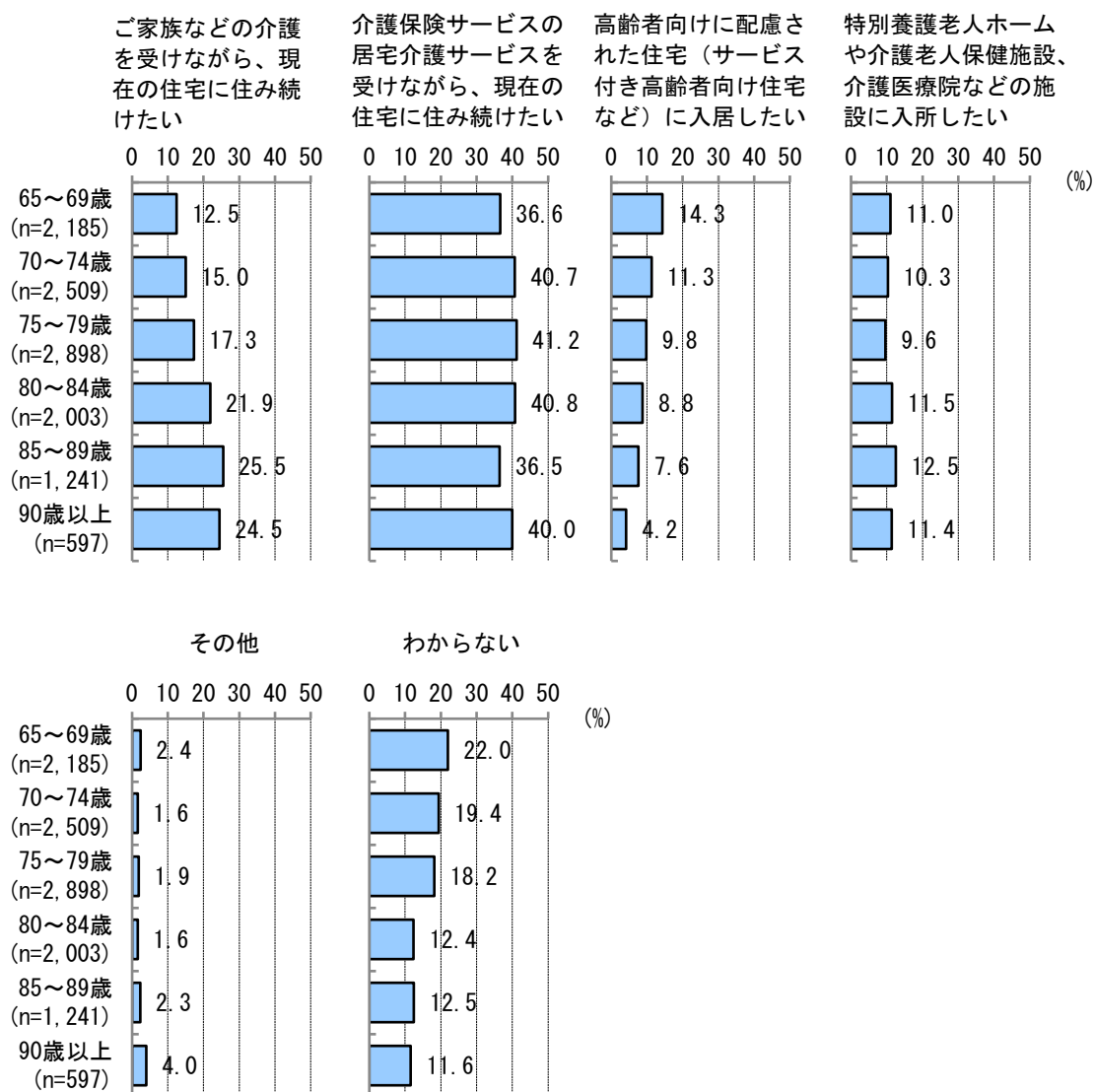
【問5-a 介護が必要になった場合の暮らし方（性別）】



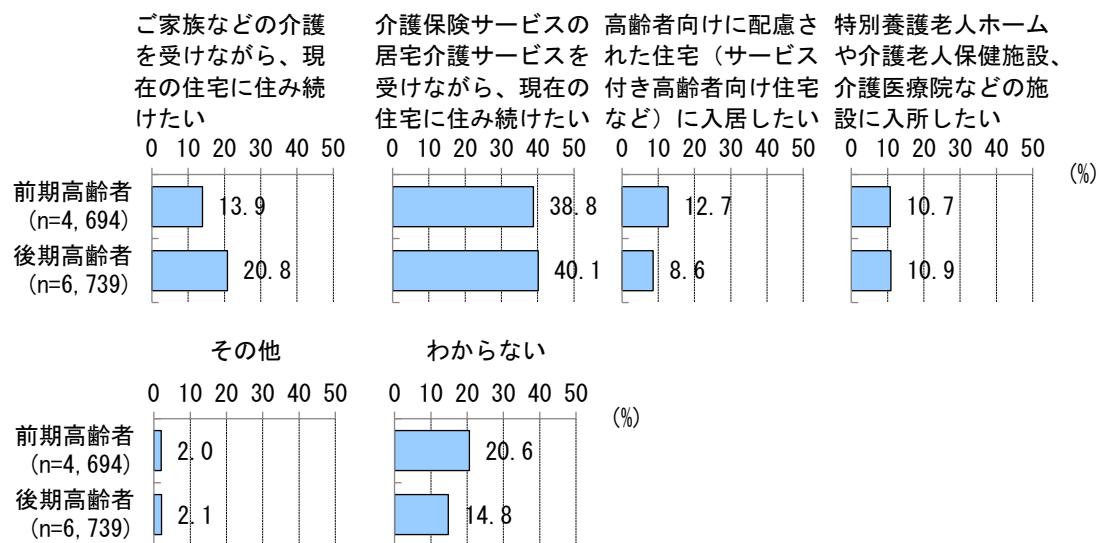
年齢別では、「ご家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の割合は高齢になるほど高い傾向にあり、85～89歳が25.5%で最も高くなっている。「介護保険サービスの居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の割合は75～79歳が41.2%で最も高くなっている。

また、年齢に関係なく、ほぼ10人に1人が「特別養護老人ホームや介護老人保健施設、介護医療院などの施設に入所したい」と回答している。（問5-b）

【問5-b 介護が必要になった場合の暮らし方（年齢別）】

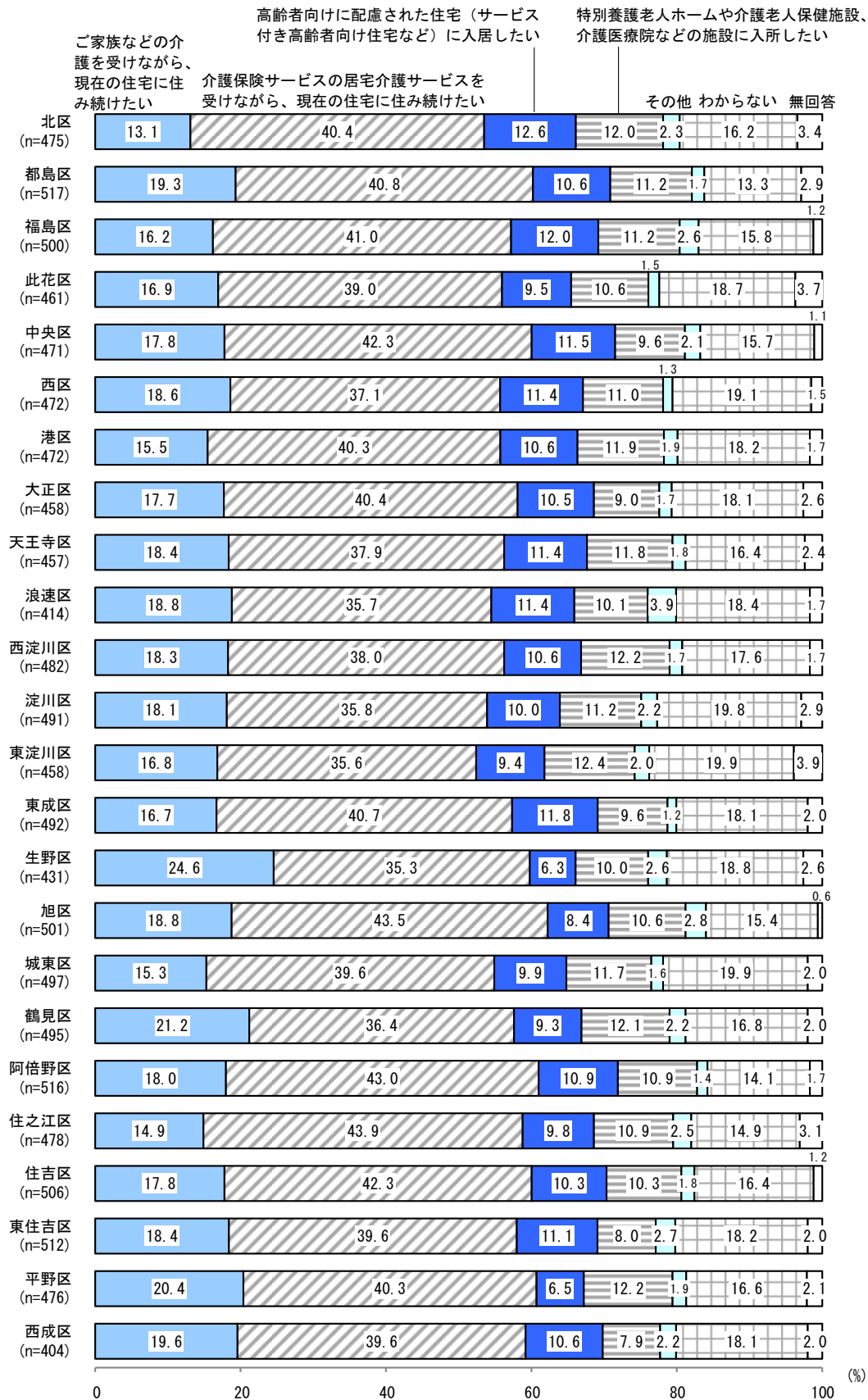


＊前期・後期別



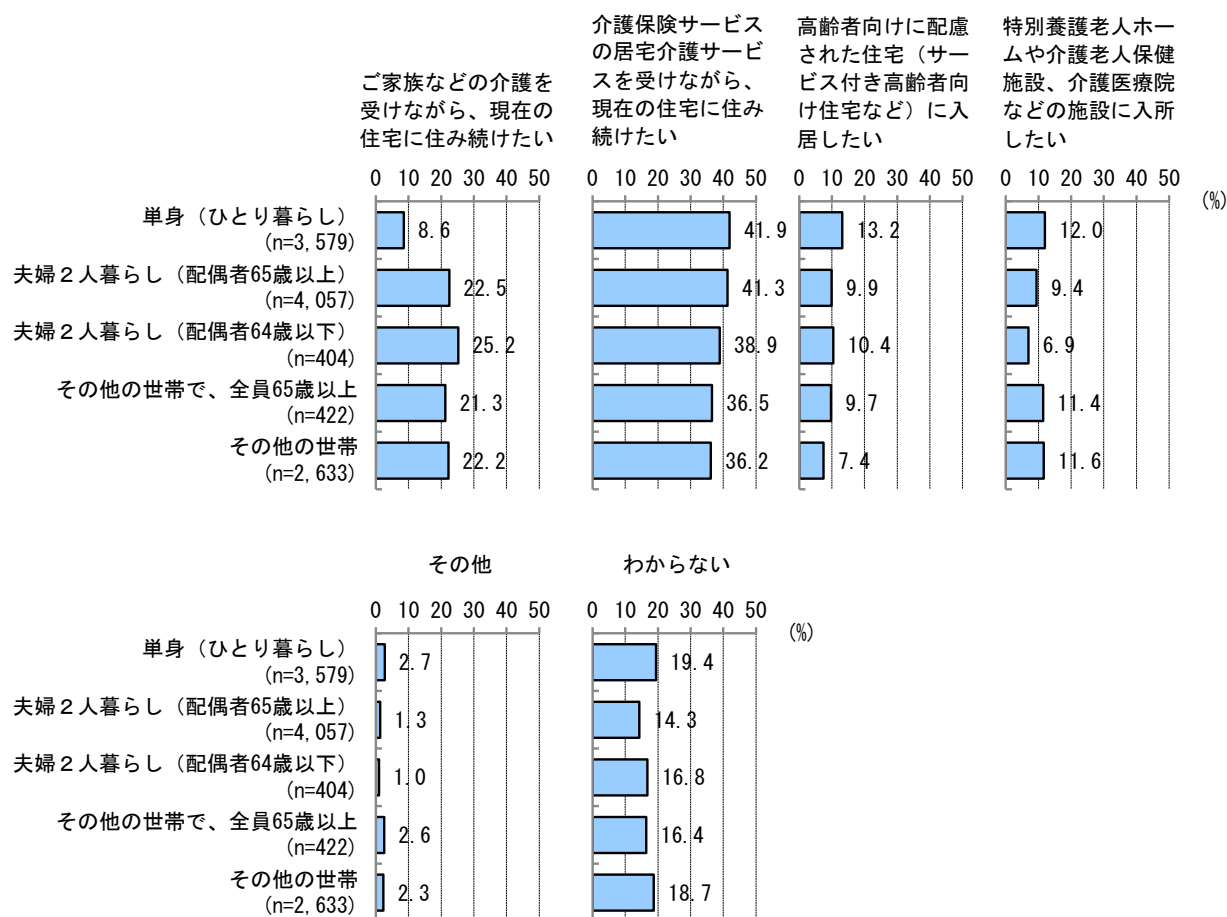
居住区別では、「介護保険サービスの居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の割合は住之江区が43.9%で最も高く、次いで旭区が43.5%となっている。（問5-c）

【問5-c 介護が必要になった場合の暮らし方（居住区別）】



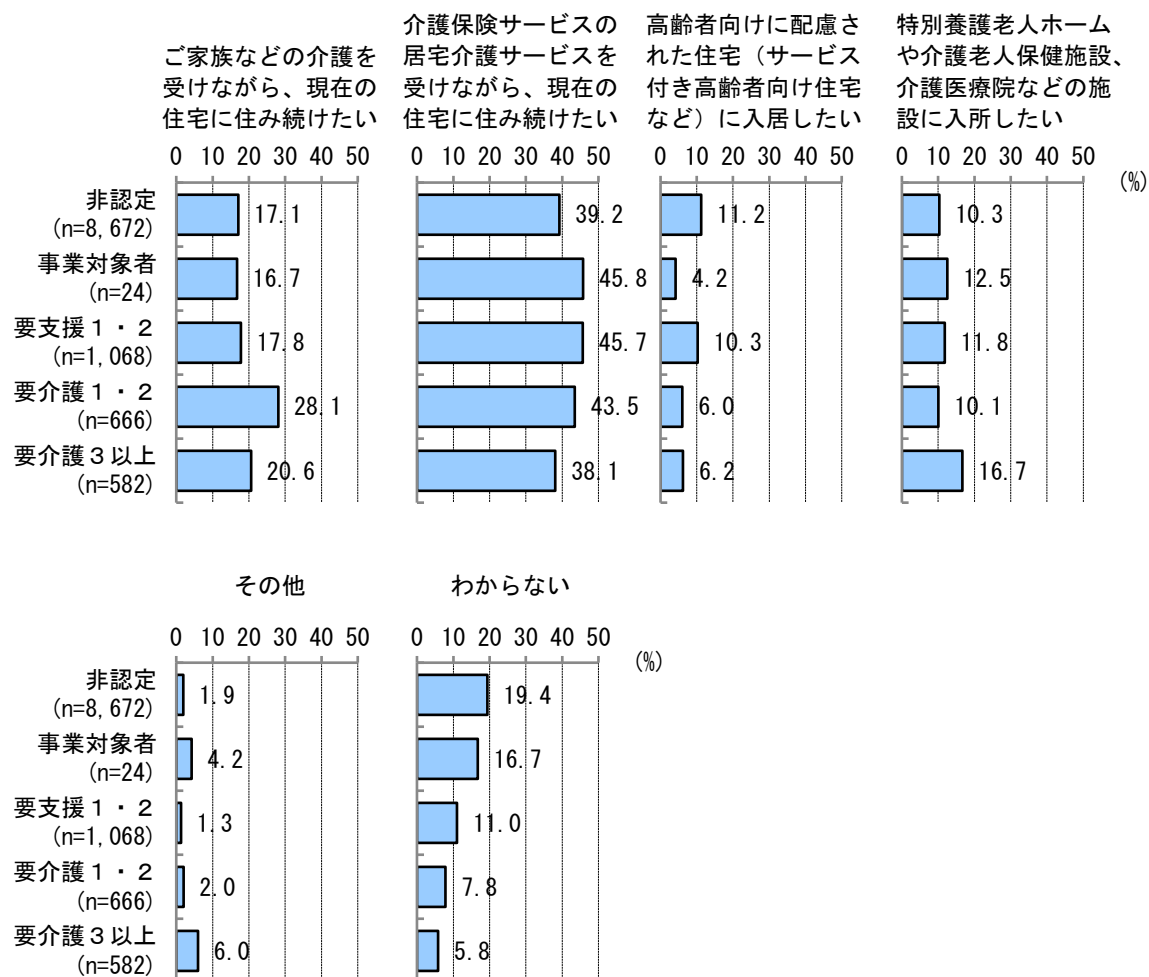
世帯状況別では、「ご家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の割合は夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の世帯が25.2%で最も高く、「高齢者向けに配慮された住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」の割合は、単身（ひとり暮らし）の世帯が13.2%で最も高くなっている。（問5-d）

【問5-d 介護が必要になった場合の暮らし方（世帯状況別）】



介護度別では、「ご家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の割合は要介護１・２が28.1%で最も高くなっている。「介護保険サービスの居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の割合は、事業対象者、要支援１・２、要介護１・２で4割となっている。（問5-e）

【問5-e 介護が必要になった場合の暮らし方（介護度別）】



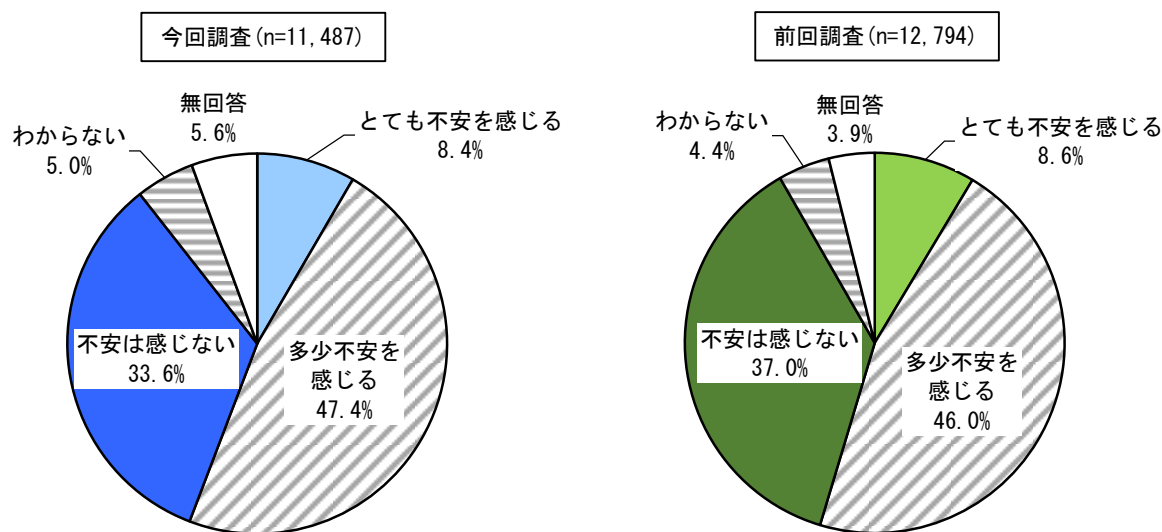
問6 日常生活への不安の有無

あなたは、日常生活全般で不安を感じていますか。(〇はひとつ)

日常生活への不安は、「多少不安を感じる」の割合が47.4%で最も高く、次いで「不安は感じない」が33.6%、「とても不安を感じる」が8.4%で、『不安を感じている』割合（「とても不安を感じる」と「多少不安を感じる」の合計）は55.8%となっている。

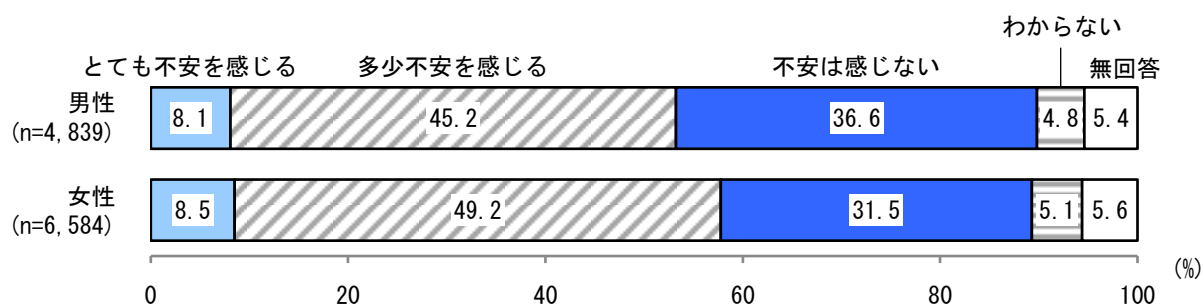
前回調査の結果に比べ、「不安は感じない」の割合が3.4ポイント減少している。（問6）

【問6 日常生活への不安の有無】



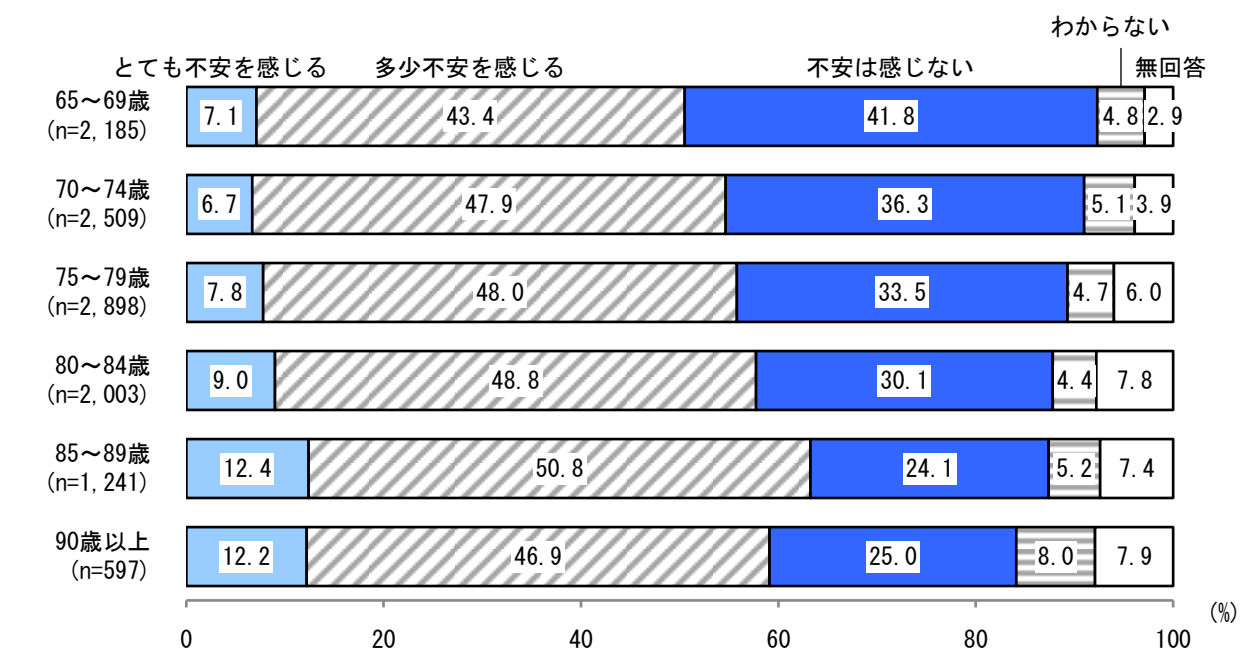
性別では、『不安を感じている』割合は、男性より女性の方が高くなっている。（問6-a）

【問6-a 日常生活への不安の有無（性別）】

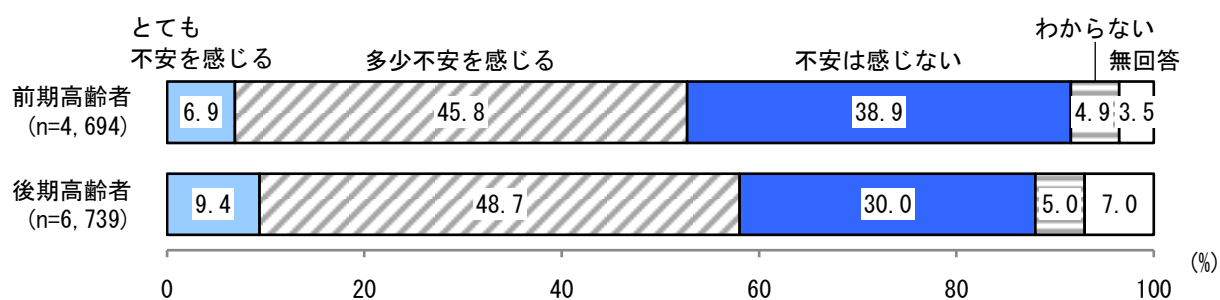


年齢別では、『不安を感じている』割合は、いずれの年代も過半数を占め、85～89歳が63.2%で最も高くなっている。(問6-b)

【問6-b 日常生活への不安の有無（年齢別）】

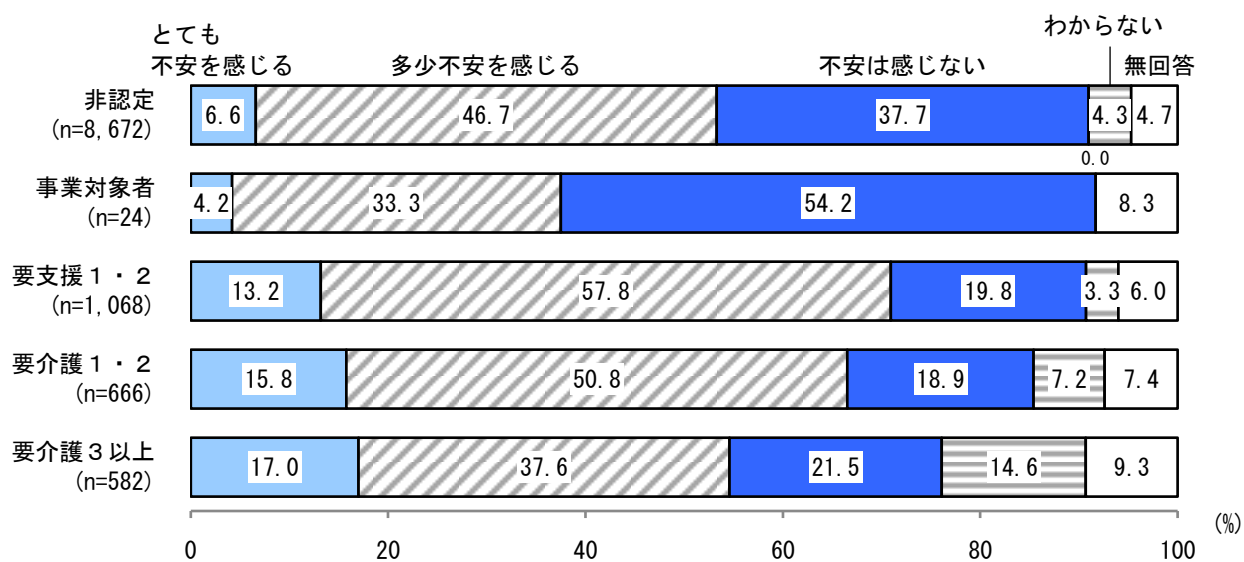


*前期・後期別



介護度別では、『不安を感じている』割合は、要支援１・２が71.0%で最も高く、次いで要介護１・２が66.6%となっている。（問6-c）

【問6-c 日常生活への不安の有無（介護度別）】

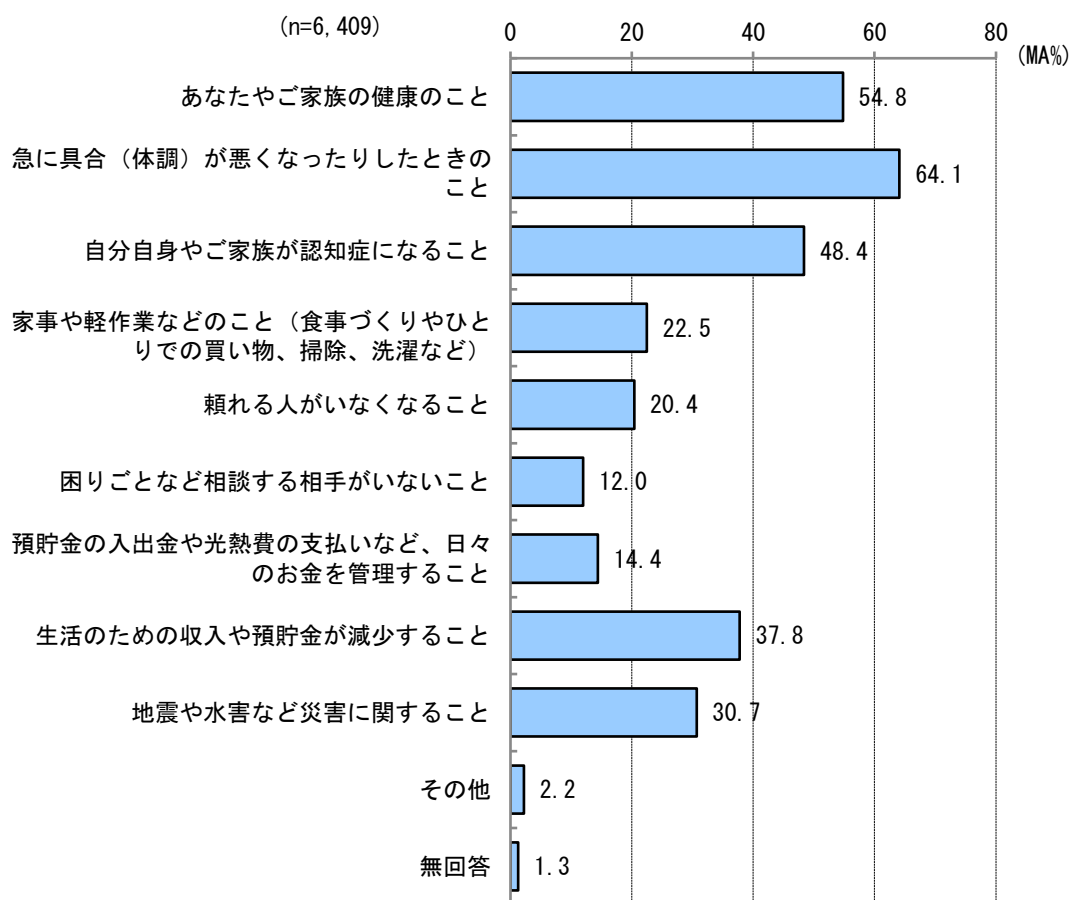


問6-1 日常生活への不安

問6で「1 とても不安を感じる」「2 多少不安を感じる」と回答された方におうかがいします。
あなたは、日常生活全般で不安に感じることはどのようなことですか。（〇はいくつでも）

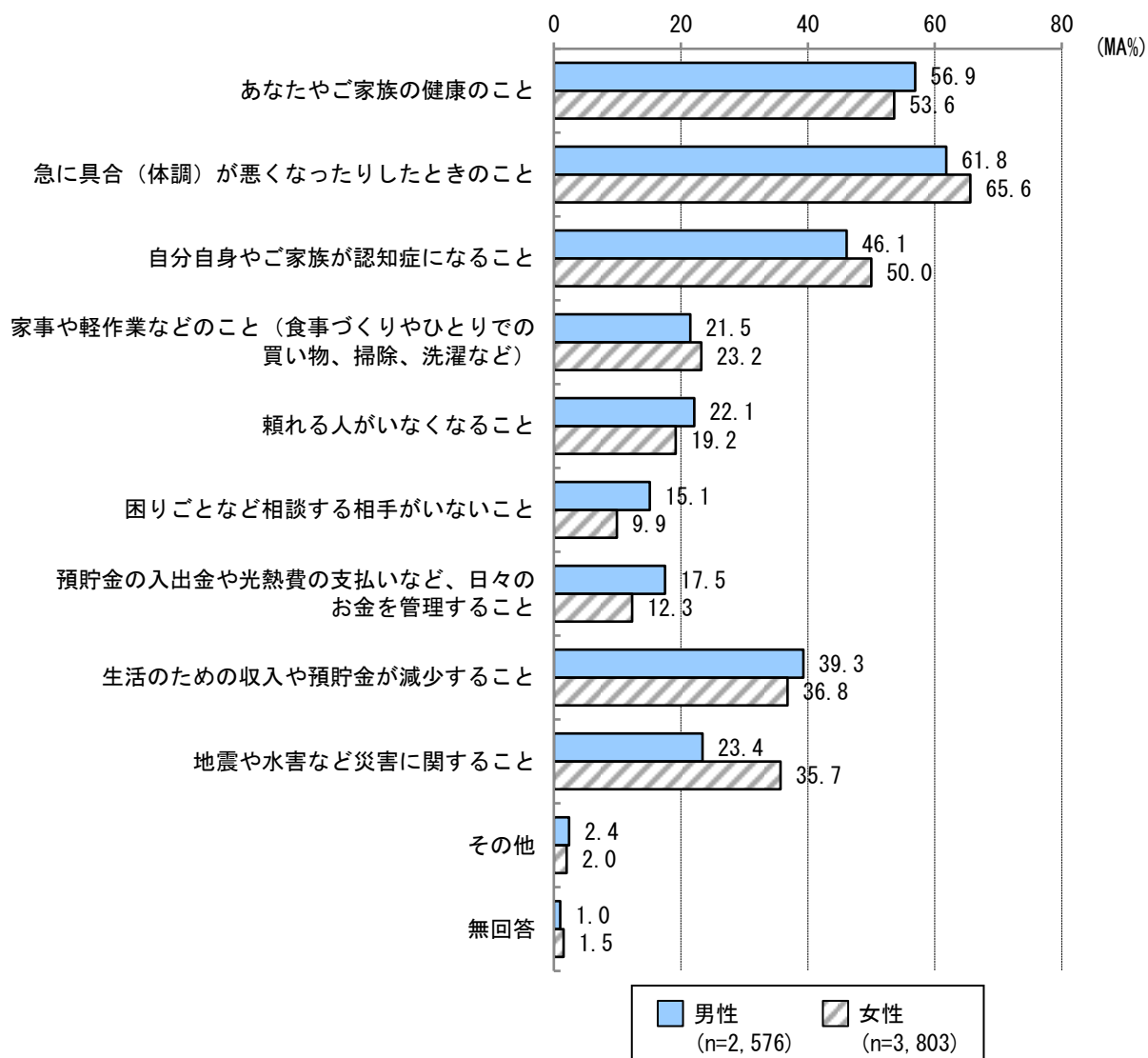
日常生活への不安は、「急に具合（体調）が悪くなったりしたときのこと」の割合が64.1%で最も高く、次いで「あなたやご家族の健康のこと」が54.8%、「自分自身やご家族が認知症になること」が48.4%となっている。（問6-1）

【問6-1 日常生活への不安】



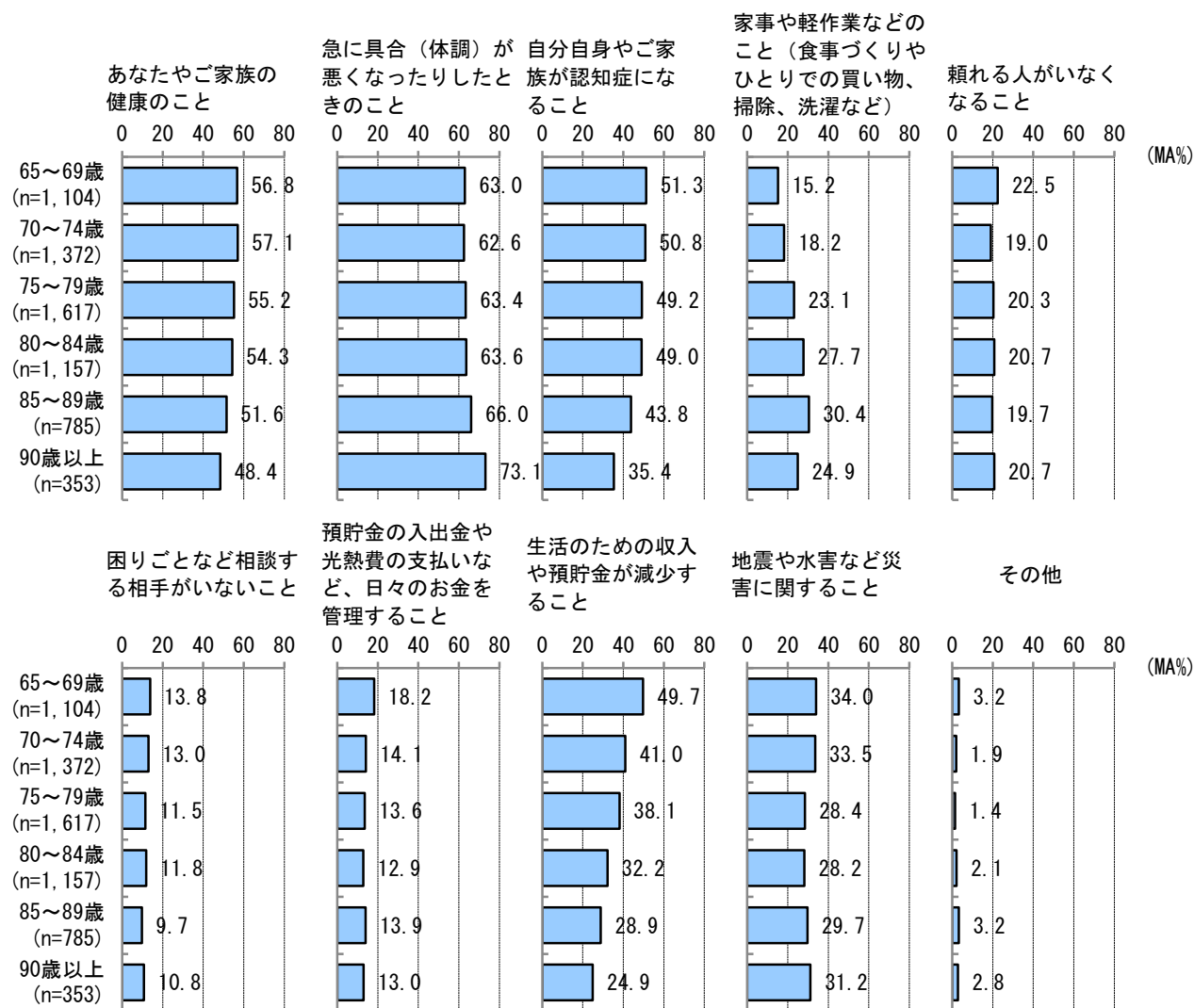
性別では、男女とも「急に具合（体調）が悪くなったりしたときのこと」の割合が最も高くなっている。また、「地震や水害など災害に関すること」の割合は男性より女性の方が12.3ポイント高くなっている。（問6-1-a）

【問6-1-a 日常生活への不安（性別）（上位項目）】

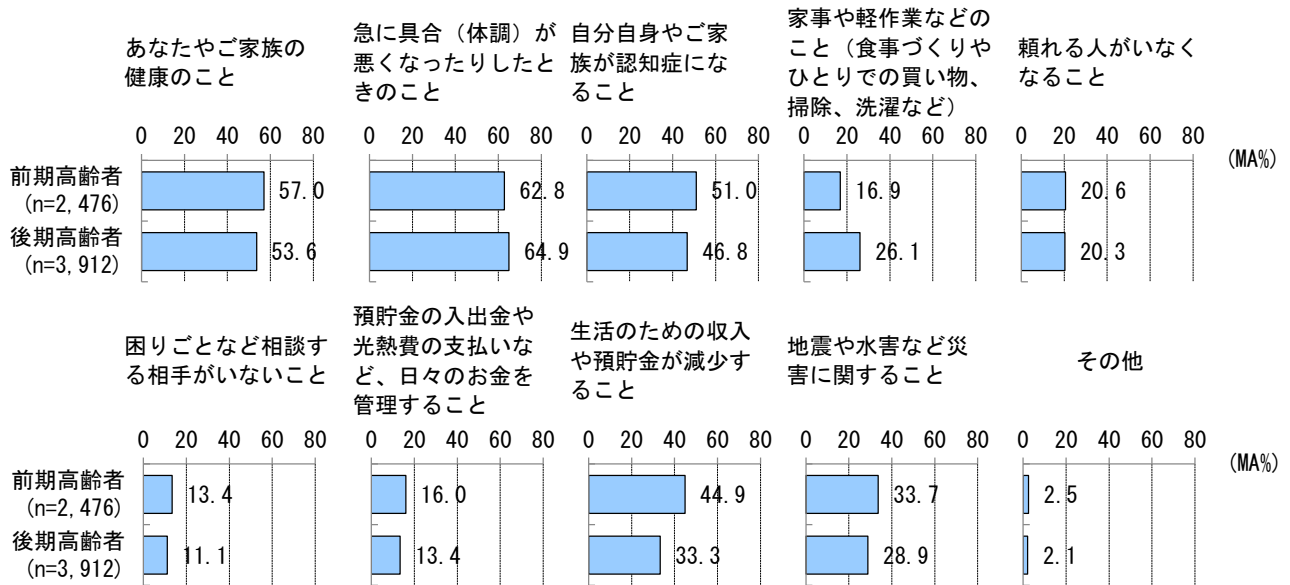


いずれの年齢層においても、「急に具合（体調）が悪くなったりしたときのこと」の割合が最も高く、90歳以上では73.1%を占める。「あなたやご家族の健康のこと」や「自分自身やご家族が認知症になること」「生活のための収入や預貯金が減少すること」の各割合は高齢になるほど低くなっている。（問6-1-b）

【問6-1-b 日常生活への不安（年齢別）】

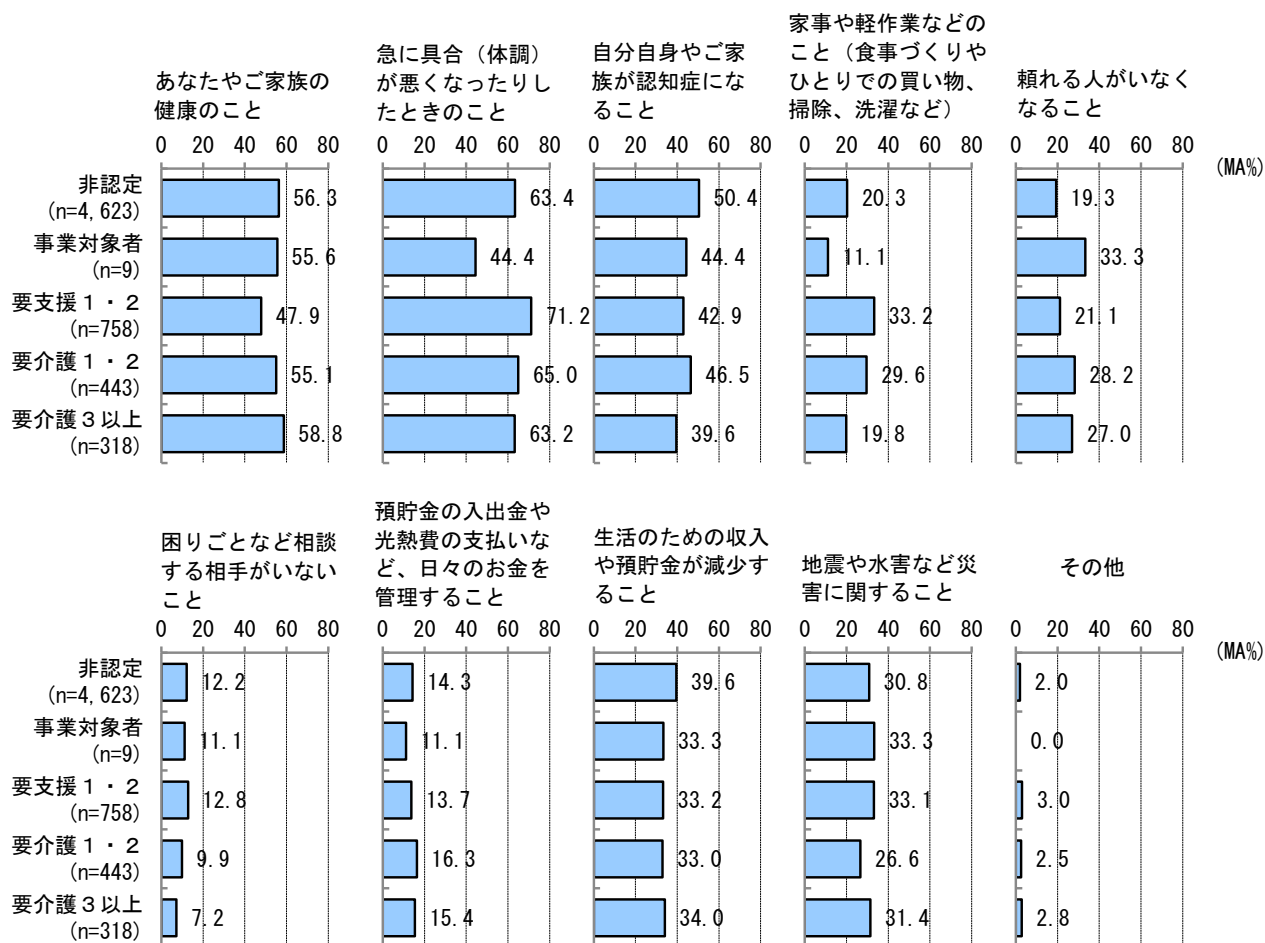


＊前期・後期別



介護度別では、要支援１・２における「急に具合（体調）が悪くなったりしたときのこと」の割合が71.2%で最も高い。（問6-1-c）

【問6-1-c 日常生活への不安（介護度別）（上位項目）】

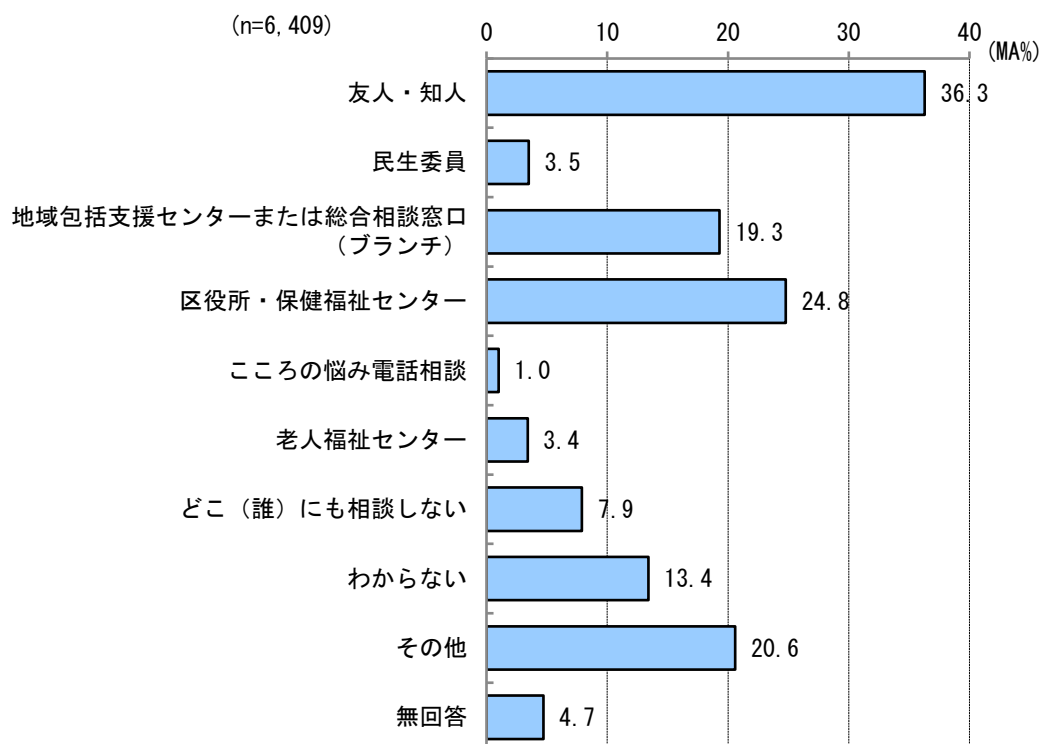


問6-2 不安を感じた時の相談先

問6で「1 とても不安を感じる」「2 多少不安を感じる」と回答された方におうかがいします。
日常生活全般で不安を感じた時、どこ（誰）に相談されますか。（〇はいくつでも）

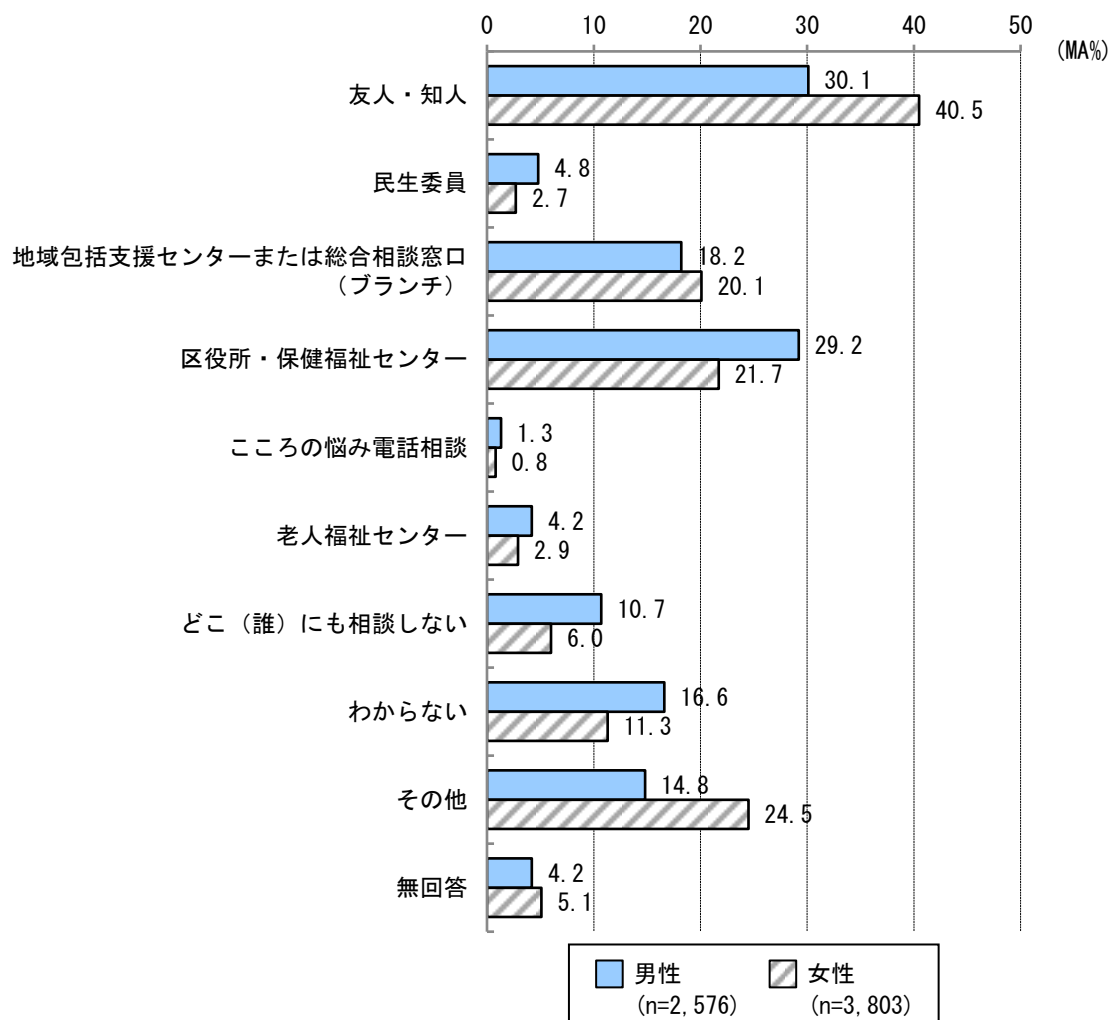
不安を感じた時の相談先については、「友人・知人」の割合が36.3%で最も高く、次いで「区役所・保健福祉センター」が24.8%、「地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）」が19.3%となっている。（問6-2）

【問6-2 不安を感じた時の相談先】



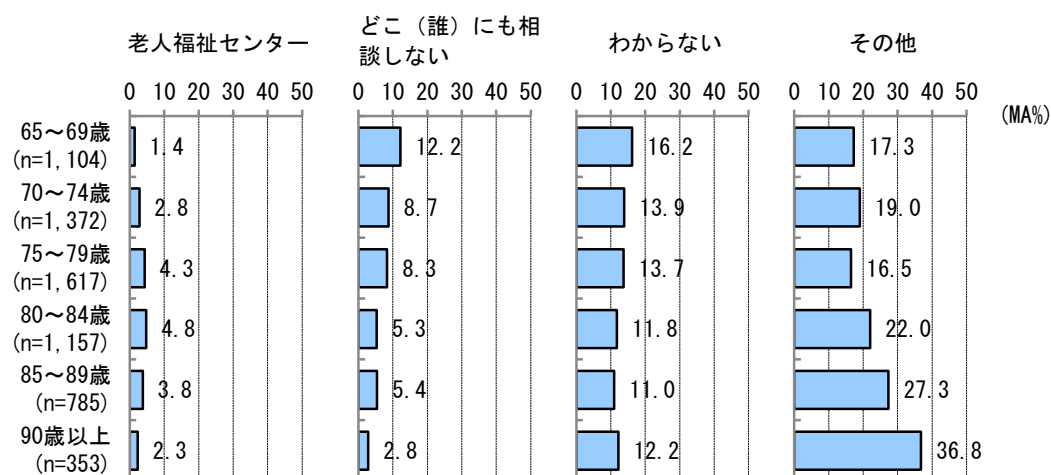
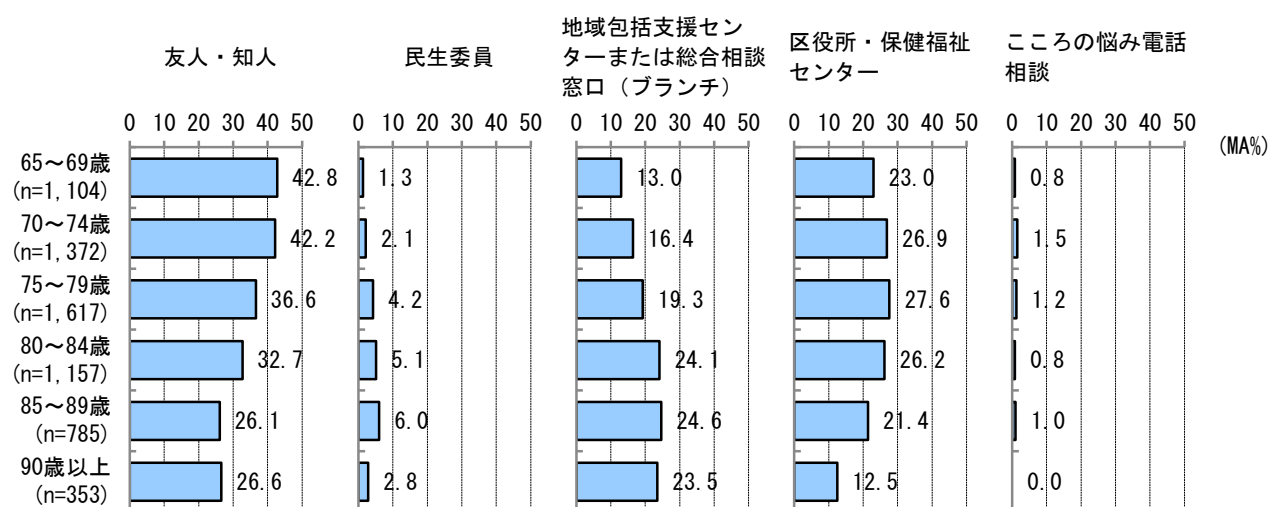
性別では、「友人・知人」の割合は男性より女性の方が10.4ポイント高くなっている。「区役所・保健福祉センター」の割合は女性より男性の方が高く、「どこ（誰）にも相談しない」の割合も女性より男性の方が高くなっている。（問6-2-a）

【問6-2-a 不安を感じた時の相談先（性別）】

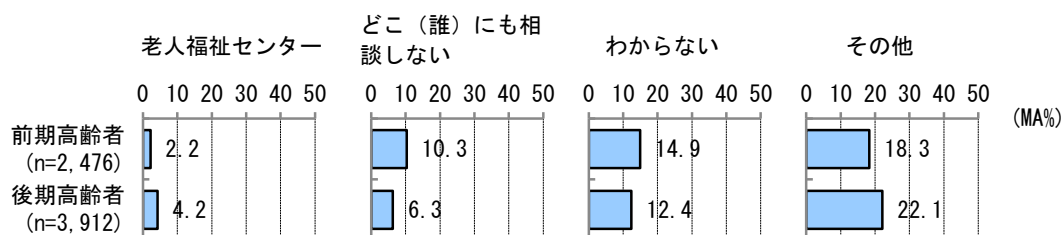
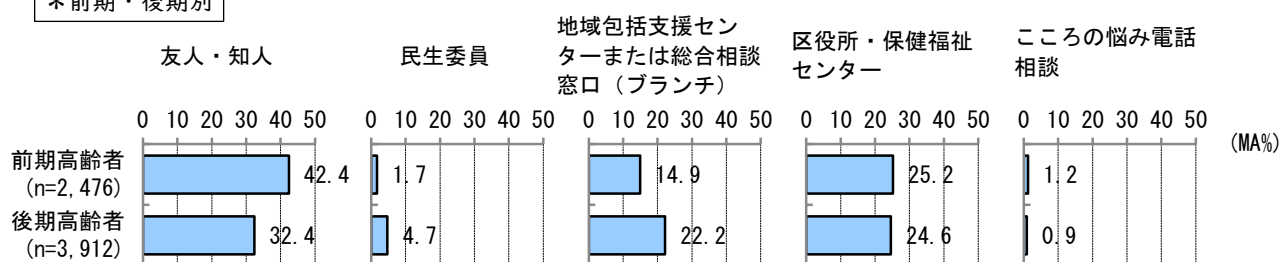


年齢別では、「友人・知人」の割合は後期高齢者に比べ前期高齢者で高く、65～69歳、70～74歳とも4割を超えている。(問6-2-b)

【問6-2-b 不安を感じた時の相談先（年齢別）】

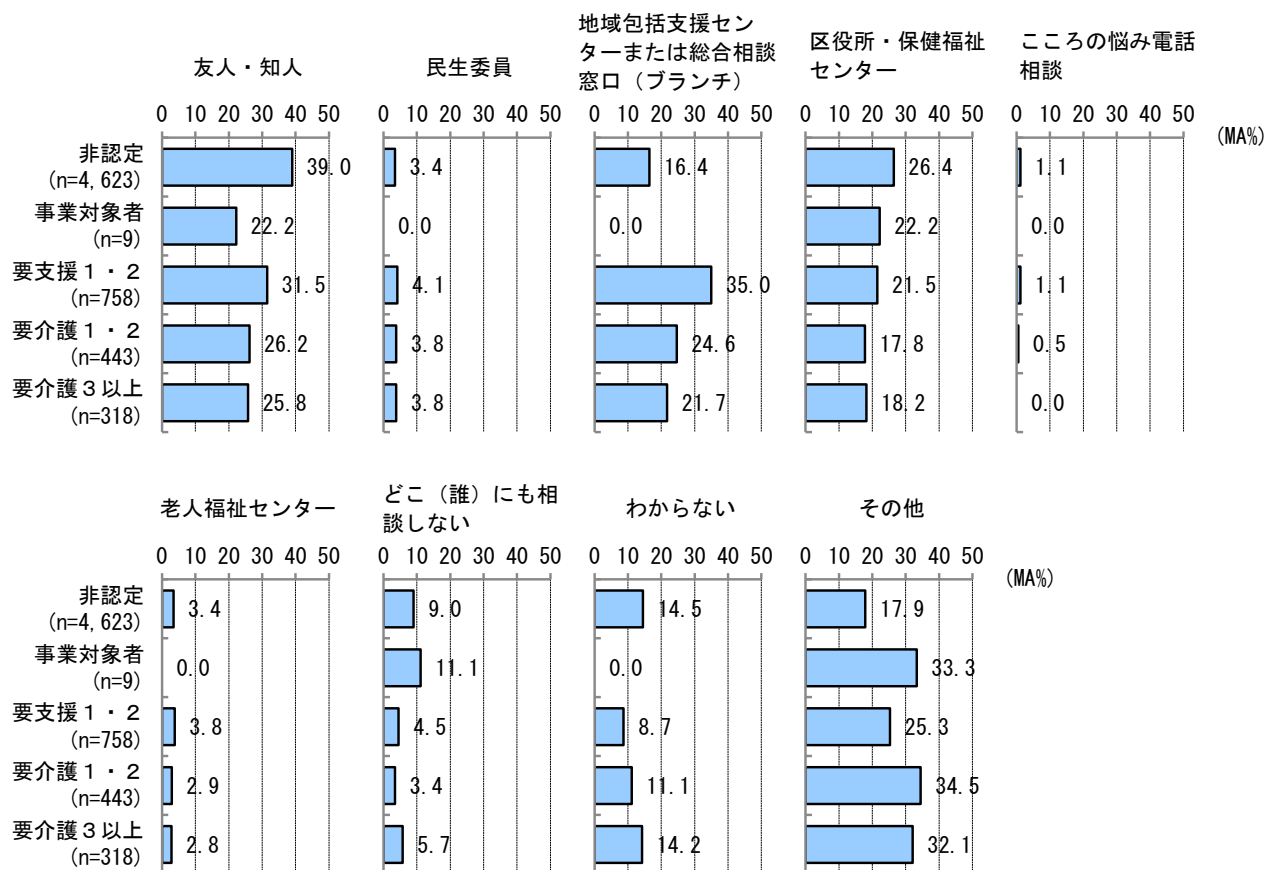


*前期・後期別



介護度別では、「友人・知人」「区役所・保健福祉センター」の割合は非認定で高く、「地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）」の割合は要支援１・２が35.0%で最も高くなっている。（問6-2-c）

【問6-2-c 不安を感じた時の相談先（介護度別）】



問7 情報通信機器の所有状況と利用状況

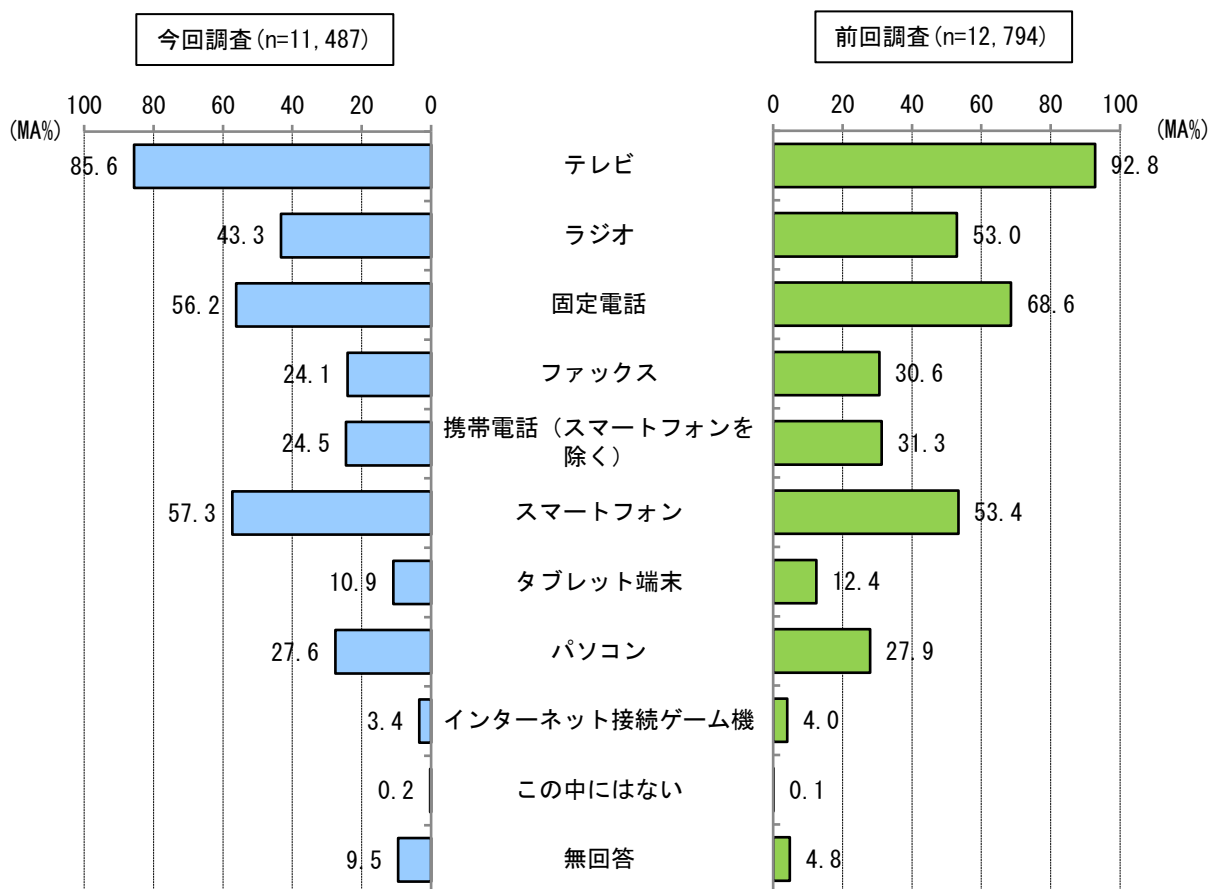
あなたが、情報収集や情報伝達のために、所有している情報通信機器を、すべてお答えください。(○はいくつでも)

また、あなたが、ふだん利用しているものを、すべてお答えください。(○はいくつでも)

所有している情報通信機器は、「テレビ」の割合が85.6%で最も高く、次いで「スマートフォン」が57.3%、「固定電話」が56.2%、「ラジオ」が43.3%となっている。

前回調査の結果に比べ、「テレビ」「ラジオ」「固定電話」「ファックス」「携帯電話（スマートフォンを除く）」の各割合は5ポイント以上低くなっている。(問7①)

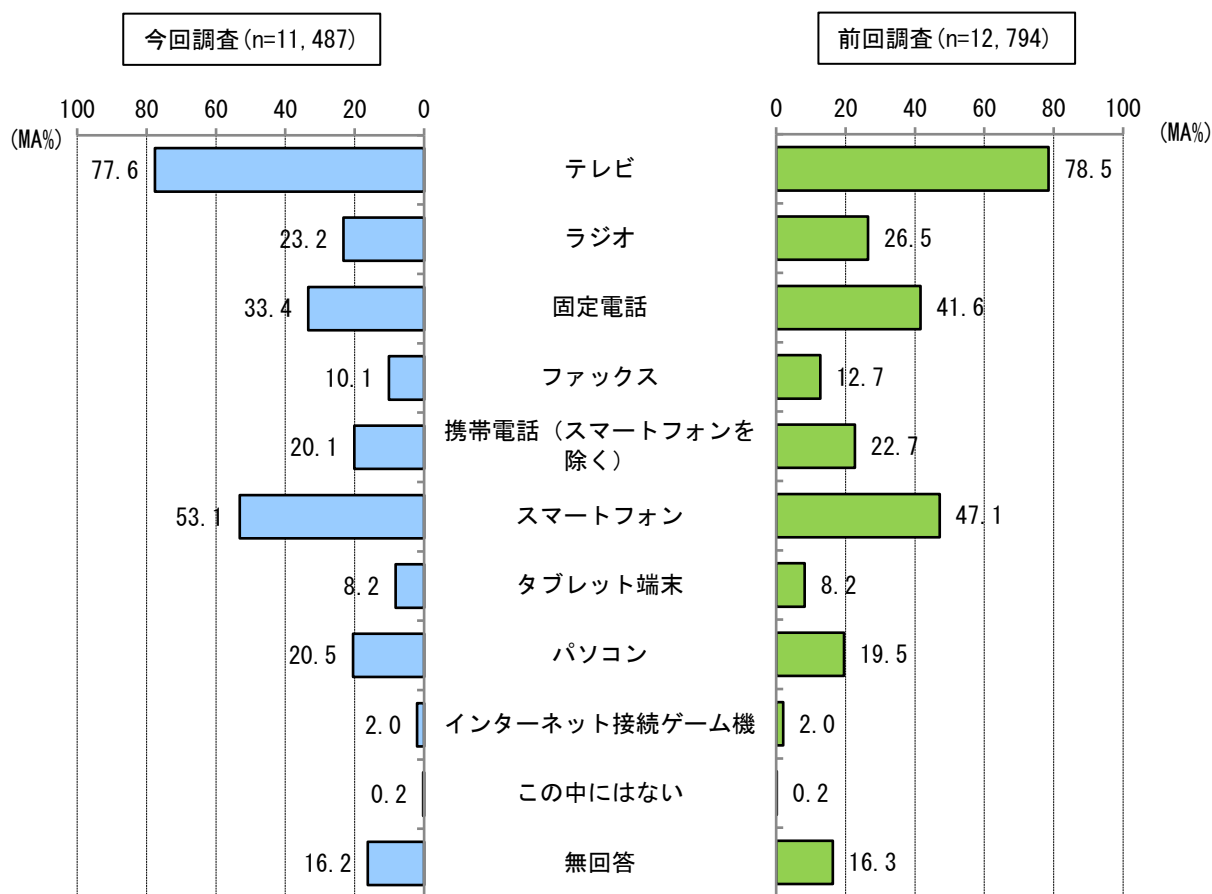
【問7① 情報通信機器の所有状況】



普段の利用状況は、「テレビ」の割合が77.6%で最も高く、次いで「スマートフォン」が53.1%、「固定電話」が33.4%、「ラジオ」が23.2%となっている。

前回調査の結果に比べ、「固定電話」は8.2ポイント減少した一方で、「スマートフォン」は6.0ポイント増加している。(問7②)

【問7② 情報通信機器の利用状況】



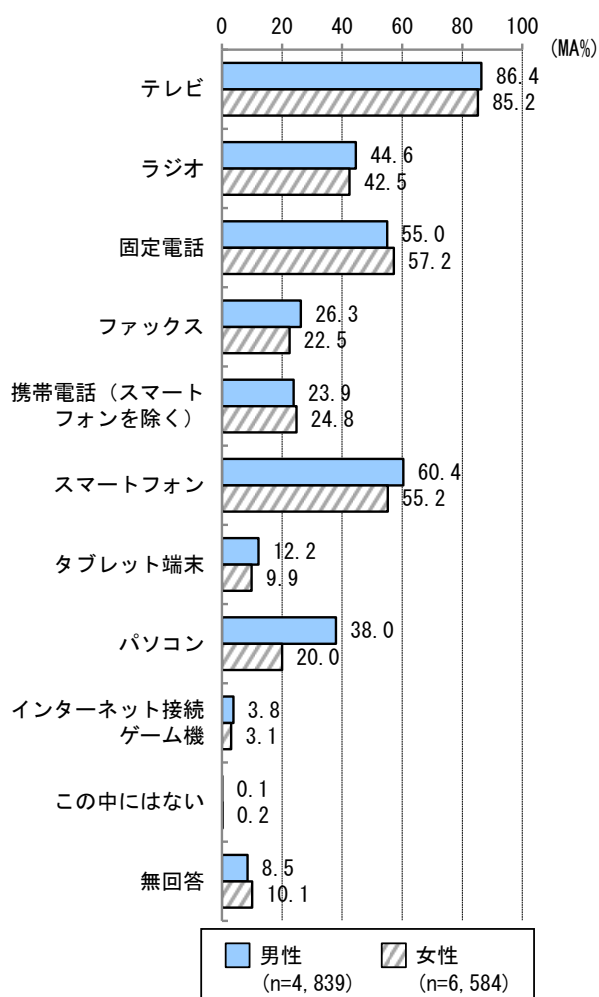
◇性別所有状況・利用状況

性別の所有割合は、「パソコン」は女性より男性の方が18.0ポイント高くなっている。「スマートフォン」は男女とも5割以上が所有している。(問7①-a)

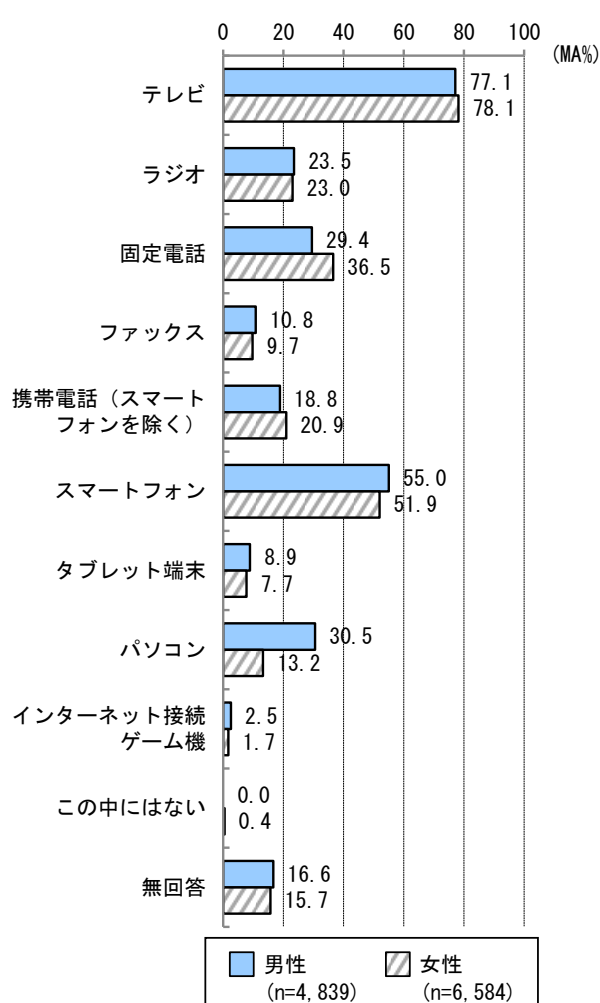
利用割合では、「パソコン」は女性より男性の方が17.3ポイント高くなっている。(問7②-a)

所有割合と利用割合の比較では、男女とも「ラジオ」「固定電話」「ファックス」の利用割合は所有割合の半分程度という結果となった。(問7③-a)

【問7①-a 情報通信機器の所有状況（性別）】



【問7②-a 情報通信機器の利用状況（性別）】



【問7③-a 情報通信機器の所有状況・利用状況の比較（性別）】

												(MA%)
		テレビ	ラジオ	固定電話	ファックス	携帯電話（スマートフォンを除く）	スマートフォン	タブレット端末	パソコン	インターネット接続ゲーム機	この中にはない	無回答
男性 (n=4, 839)	所有機器	86.4	44.6	55.0	26.3	23.9	60.4	12.2	38.0	3.8	0.1	8.5
	利用機器	77.1	23.5	29.4	10.8	18.8	55.0	8.9	30.5	2.5	0.0	16.6
女性 (n=6, 584)	所有機器	85.2	42.5	57.2	22.5	24.8	55.2	9.9	20.0	3.1	0.2	10.1
	利用機器	78.1	23.0	36.5	9.7	20.9	51.9	7.7	13.2	1.7	0.4	15.7

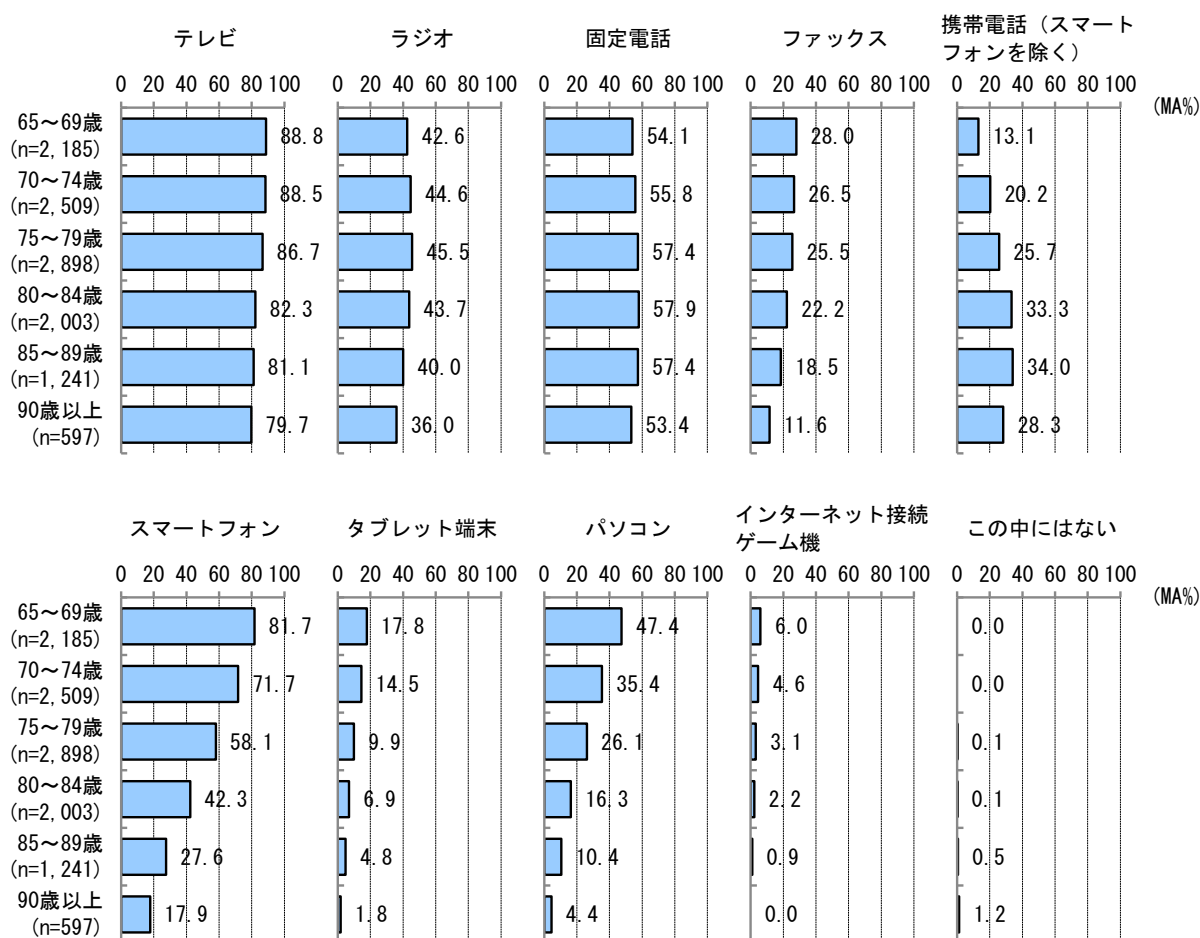
◇年齢別所有状況・利用状況

年齢別の所有割合は、「固定電話」と「携帯電話（スマートフォンを除く）」を除く各機器の割合は、概ね高齢になるほど低くなっている。「携帯電話（スマートフォンを除く）」の割合は85～89歳が最も高くなっている。（問7①-b）

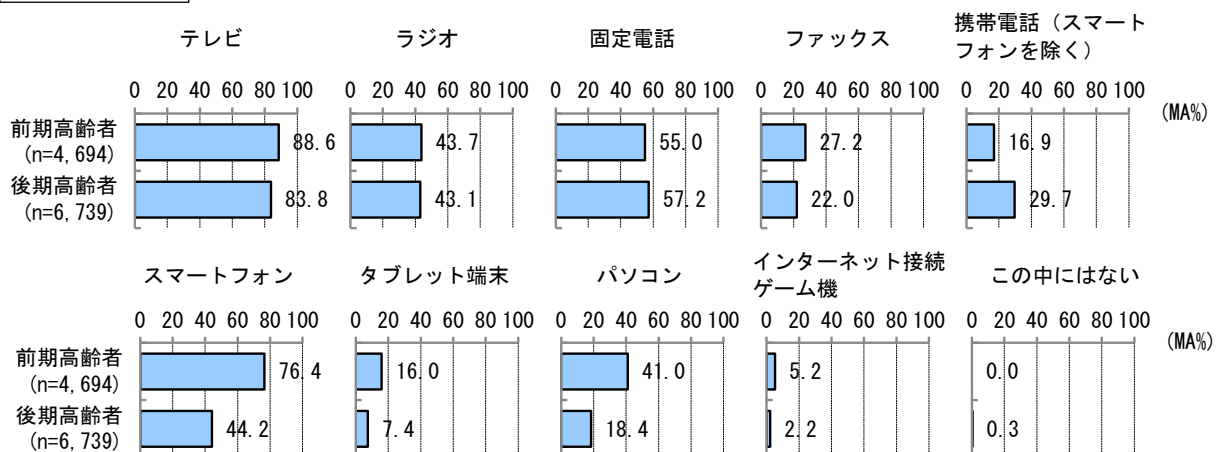
利用割合は、「テレビ」「スマートフォン」「タブレット端末」「パソコン」「インターネット接続ゲーム機」では、高齢になるほど低くなっている。（問7②-b）

どの年代も、「ラジオ」「ファックス」の利用割合は、所有割合の概ね半分程度となっており、「固定電話」については、後期高齢者から利用割合が高くなっている。（問7③-b）

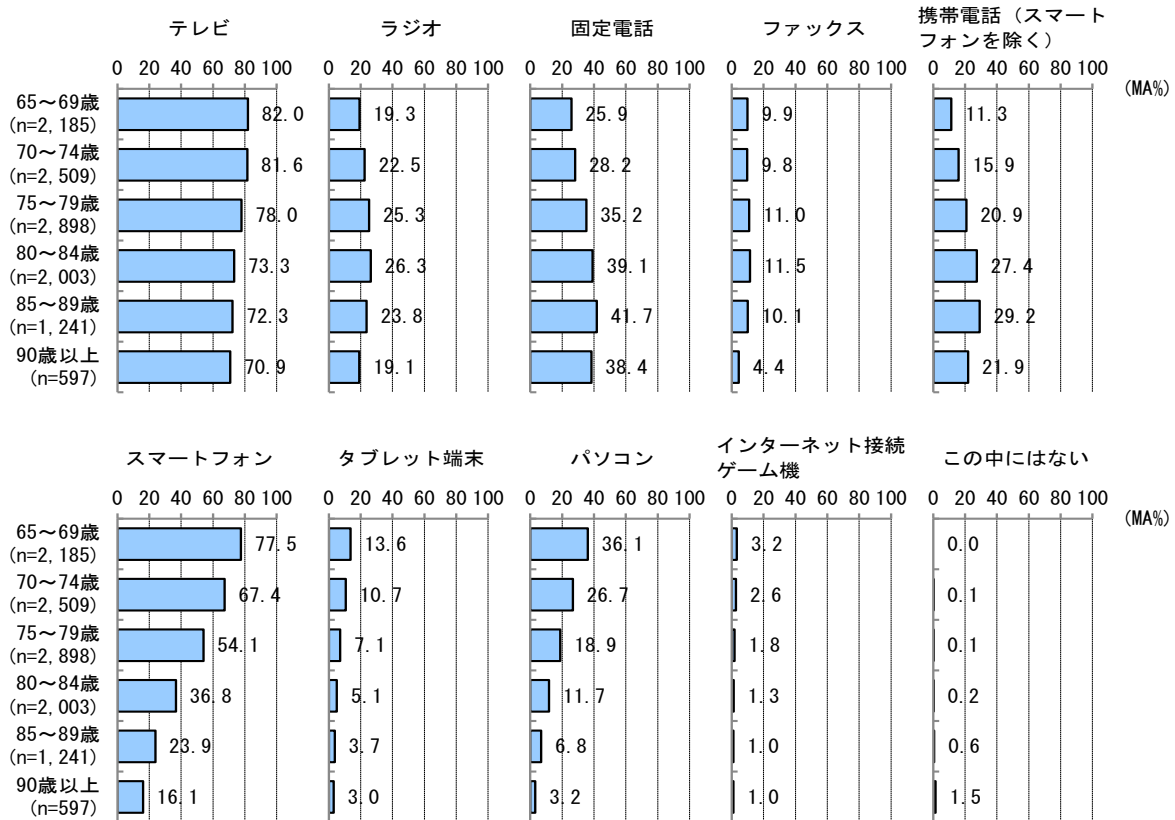
【問7①-b 情報通信機器の所有状況（年齢別）】



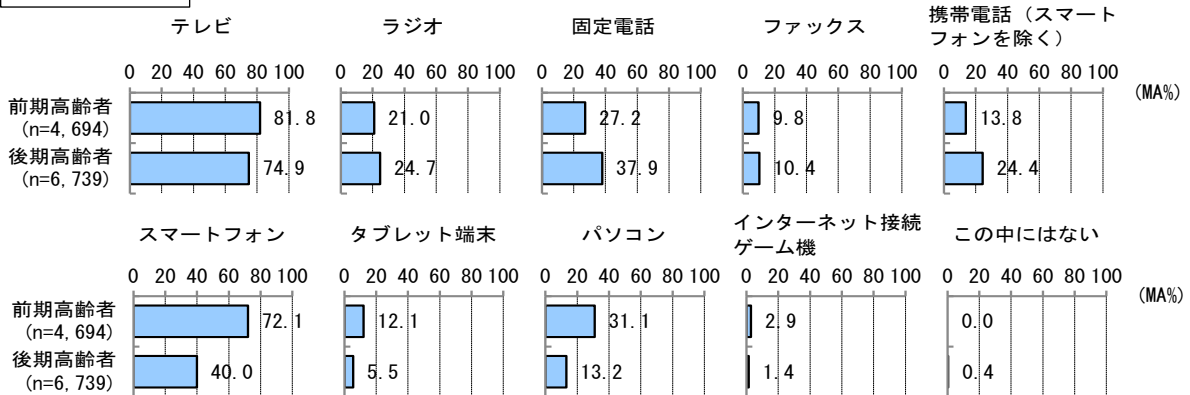
*前期・後期別



【問7②-b 情報通信機器の利用状況（年齢別）】



*前期・後期別



【問7③-b 情報通信機器の所有状況・利用状況の比較（年齢別）】

		テレビ	ラジオ	固定電話	ファックス	携帯電話（スマートフォンを除く）	スマートフォン	タブレット端末	パソコン	インターネット接続ゲーム機	この中にはない	無回答
65～69歳 (n=2, 185)	所有機器	88.8	42.6	54.1	28.0	13.1	81.7	17.8	47.4	6.0	0.0	5.2
	利用機器	82.0	19.3	25.9	9.9	11.3	77.5	13.6	36.1	3.2	0.0	10.1
70～74歳 (n=2, 509)	所有機器	88.5	44.6	55.8	26.5	20.2	71.7	14.5	35.4	4.6	0.0	7.1
	利用機器	81.6	22.5	28.2	9.8	15.9	67.4	10.7	26.7	2.6	0.1	12.8
75～79歳 (n=2, 898)	所有機器	86.7	45.5	57.4	25.5	25.7	58.1	9.9	26.1	3.1	0.1	8.9
	利用機器	78.0	25.3	35.2	11.0	20.9	54.1	7.1	18.9	1.8	0.1	16.0
80～84歳 (n=2, 003)	所有機器	82.3	43.7	57.9	22.2	33.3	42.3	6.9	16.3	2.2	0.1	13.1
	利用機器	73.3	26.3	39.1	11.5	27.4	36.8	5.1	11.7	1.3	0.2	20.9
85～89歳 (n=1, 241)	所有機器	81.1	40.0	57.4	18.5	34.0	27.6	4.8	10.4	0.9	0.5	14.4
	利用機器	72.3	23.8	41.7	10.1	29.2	23.9	3.7	6.8	1.0	0.6	22.6
90歳以上 (n=597)	所有機器	79.7	36.0	53.4	11.6	28.3	17.9	1.8	4.4	0.0	1.2	14.4
	利用機器	70.9	19.1	38.4	4.4	21.9	16.1	3.0	3.2	1.0	1.5	21.9

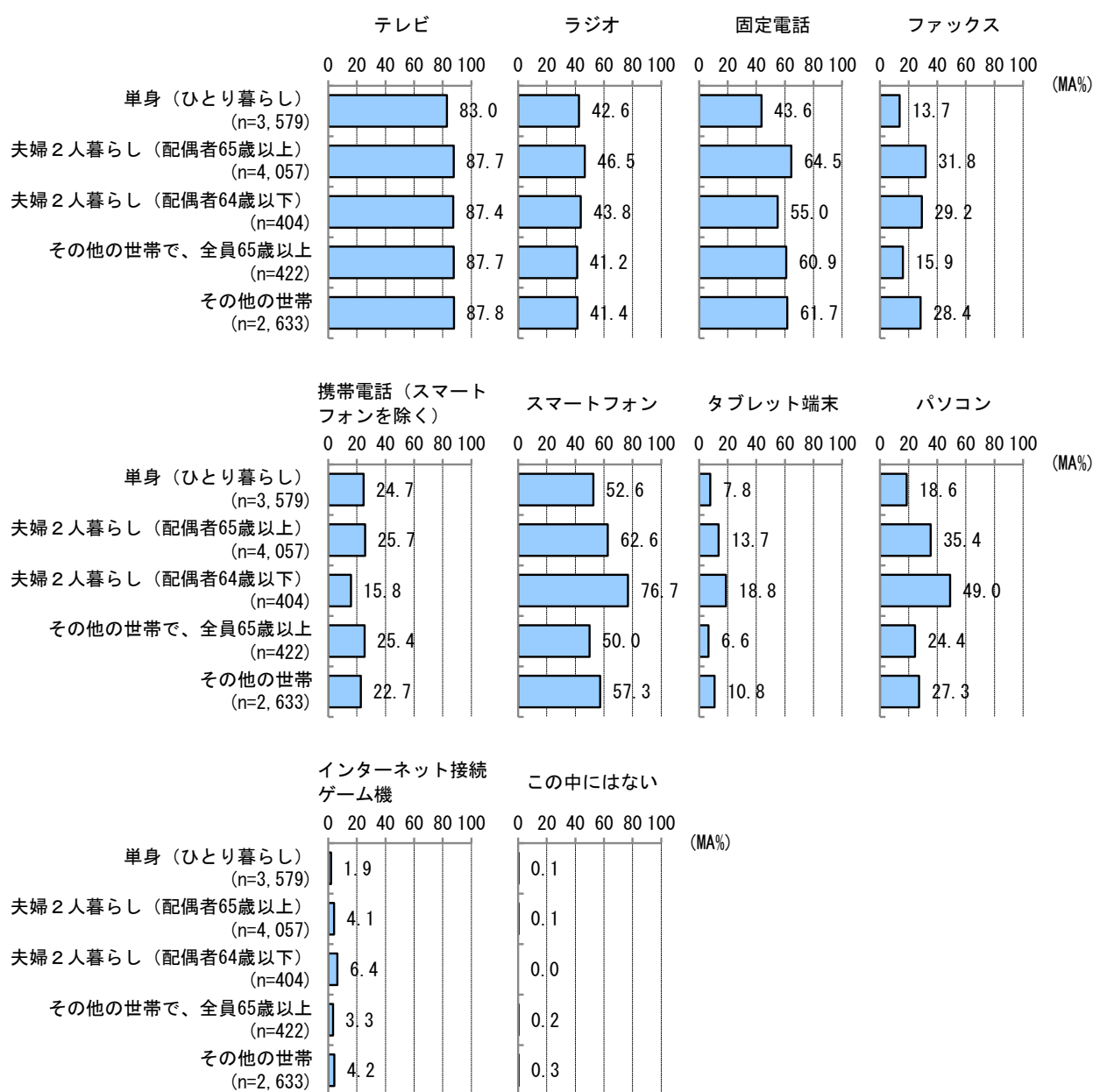
◇世帯状況別所有状況・利用状況

世帯状況別の所有割合は、「スマートフォン」「タブレット端末」「パソコン」「インターネット接続ゲーム機」では、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の世帯が最も高く、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）の世帯では、「ラジオ」「固定電話」「ファックス」「携帯電話（スマートフォンを除く）」の各割合が高くなっている。（問7①-c）

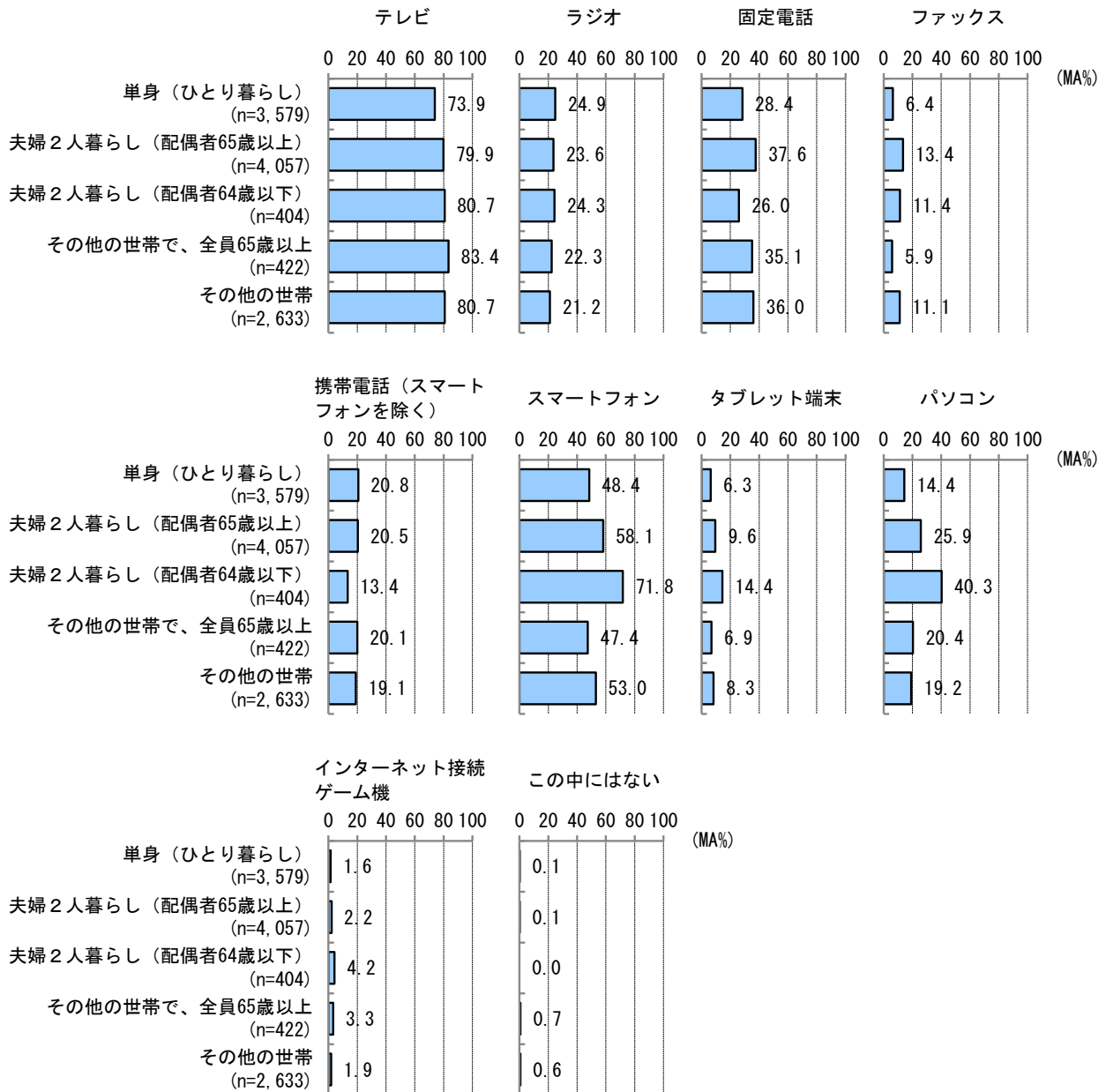
利用割合は、「スマートフォン」「タブレット端末」「パソコン」では、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の世帯が最も高く、「固定電話」は、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）の世帯が最も高い。（問7②-c）

どの世帯状況別でも、「ラジオ」「固定電話」「ファックス」の利用割合は、所有割合の概ね半分程度となっている。（問7③-c）

【問7①-c 情報通信機器の所有状況（世帯状況別）】



【問7②-c 情報通信機器の利用状況（世帯状況別）】



【問7③-c 情報通信機器の所有状況・利用状況の比較（世帯状況別）】

		(MA%)									
		テレビ	ラジオ	固定電話	ファックス	携帯電話（スマートフォンを除く）	スマートフォン	タブレット端末	パソコン	インターネット接続ゲーム機	この中にはない
		所有機器	利用機器	所有機器	利用機器	所有機器	利用機器	所有機器	利用機器	所有機器	利用機器
単身（ひとり暮らし） (n=3,579)	所有機器	83.0	42.6	43.6	13.7	24.7	52.6	7.8	18.6	1.9	0.1
	利用機器	73.9	24.9	28.4	6.4	20.8	48.4	6.3	14.4	1.6	0.1
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上） (n=4,057)	所有機器	87.7	46.5	64.5	31.8	25.7	62.6	13.7	35.4	4.1	0.1
	利用機器	79.9	23.6	37.6	13.4	20.5	58.1	9.6	25.9	2.2	0.1
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下） (n=404)	所有機器	87.4	43.8	55.0	29.2	15.8	76.7	18.8	49.0	6.4	0.0
	利用機器	80.7	24.3	26.0	11.4	13.4	71.8	14.4	40.3	4.2	0.0
その他の世帯で、全員65歳以上 (n=422)	所有機器	87.7	41.2	60.9	15.9	25.4	50.0	6.6	24.4	3.3	0.2
	利用機器	83.4	22.3	35.1	5.9	20.1	47.4	6.9	20.4	3.3	0.7
その他の世帯 (n=2,633)	所有機器	87.8	41.4	61.7	28.4	22.7	57.3	10.8	27.3	4.2	0.3
	利用機器	80.7	21.2	36.0	11.1	19.1	53.0	8.3	19.2	1.9	0.6

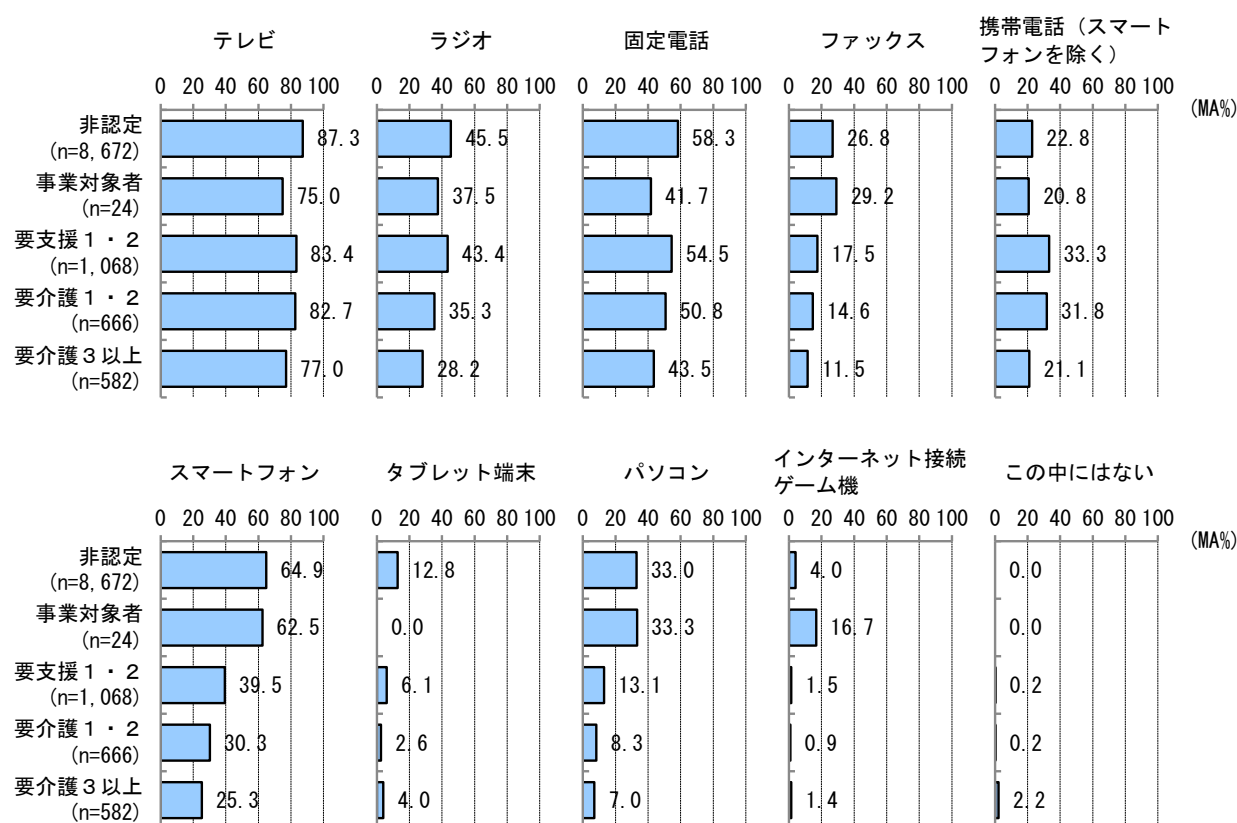
◇介護度別所有状況・利用状況

介護度別の所有割合は、いずれも介護度が重度になるほど減少している。(問7①-d)

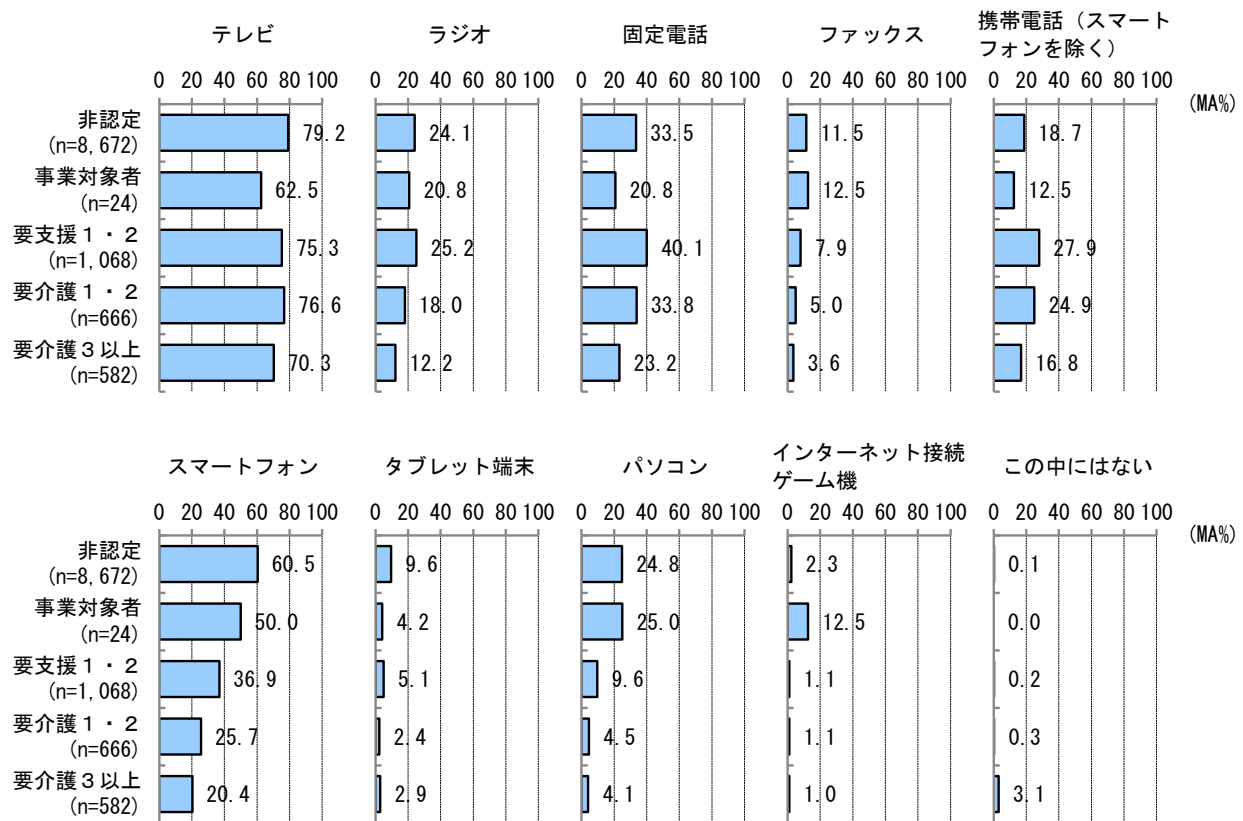
利用割合では、「ラジオ」「固定電話」「携帯電話(スマートフォンを除く)」は要支援1・2が最も高く、概ね重度になるほど割合は減少傾向にある。

また、いずれの介護度別でも「携帯電話(スマートフォンを除く)」に比べ、「スマートフォン」の利用割合の方が高くなっている。(問7②-d)

【問7①-d 情報通信機器の所有状況(介護度別)】



【問7②-d 情報通信機器の利用状況（介護度別）】



【問7③-d 情報通信機器の所有状況・利用状況の比較（介護度別）】

		(MA%)										
		テレビ	ラジオ	固定電話	ファックス	携帯電話（スマートフォンを除く）	スマートフォン	タブレット端末	パソコン	インターネット接続ゲーム機	この中にはない	無回答
非認定 (n=8, 672)	所有機器	87.3	45.5	58.3	26.8	22.8	64.9	12.8	33.0	4.0	0.0	8.0
	利用機器	79.2	24.1	33.5	11.5	18.7	60.5	9.6	24.8	2.3	0.1	14.6
事業対象者 (n=24)	所有機器	75.0	37.5	41.7	29.2	20.8	62.5	0.0	33.3	16.7	0.0	16.7
	利用機器	62.5	20.8	20.8	12.5	12.5	50.0	4.2	25.0	12.5	0.0	29.2
要支援 1・2 (n=1, 068)	所有機器	83.4	43.4	54.5	17.5	33.3	39.5	6.1	13.1	1.5	0.2	12.2
	利用機器	75.3	25.2	40.1	7.9	27.9	36.9	5.1	9.6	1.1	0.2	19.4
要介護 1・2 (n=666)	所有機器	82.7	35.3	50.8	14.6	31.8	30.3	2.6	8.3	0.9	0.2	12.3
	利用機器	76.6	18.0	33.8	5.0	24.9	25.7	2.4	4.5	1.1	0.3	17.3
要介護 3 以上 (n=582)	所有機器	77.0	28.2	43.5	11.5	21.1	25.3	4.0	7.0	1.4	2.2	15.3
	利用機器	70.3	12.2	23.2	3.6	16.8	20.4	2.9	4.1	1.0	3.1	21.6

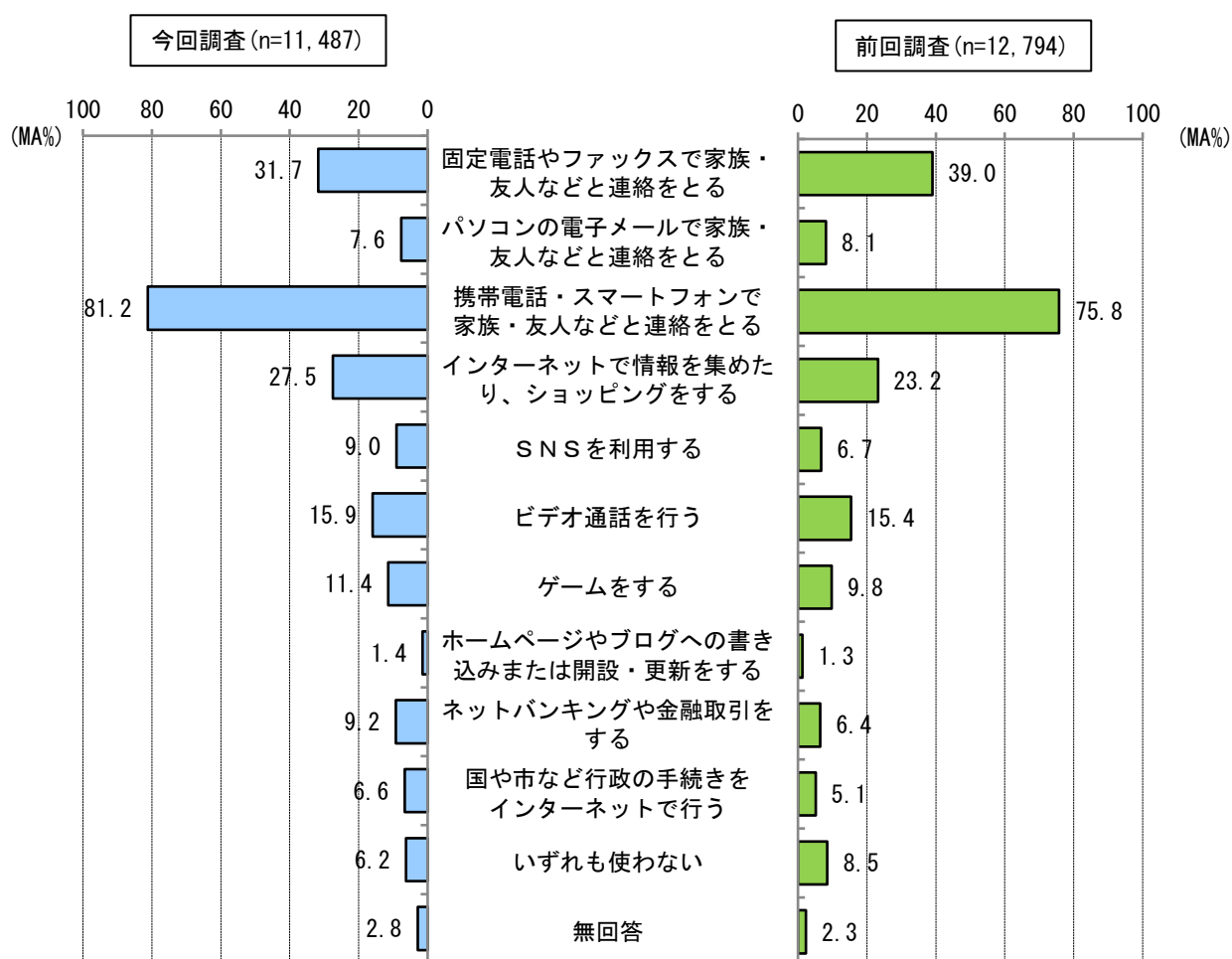
問8 情報通信機器の利用目的

あなたは、情報通信機器を使って、どのようなことをされますか。あてはまるものをすべてあげてください。(〇はいくつでも)

情報通信機器の利用目的は、「携帯電話・スマートフォンで家族・友人などと連絡をとる」の割合が81.2%で最も高く、次いで「固定電話やファックスで家族・友人などと連絡をとる」が31.7%、「インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする」が27.5%となっている。

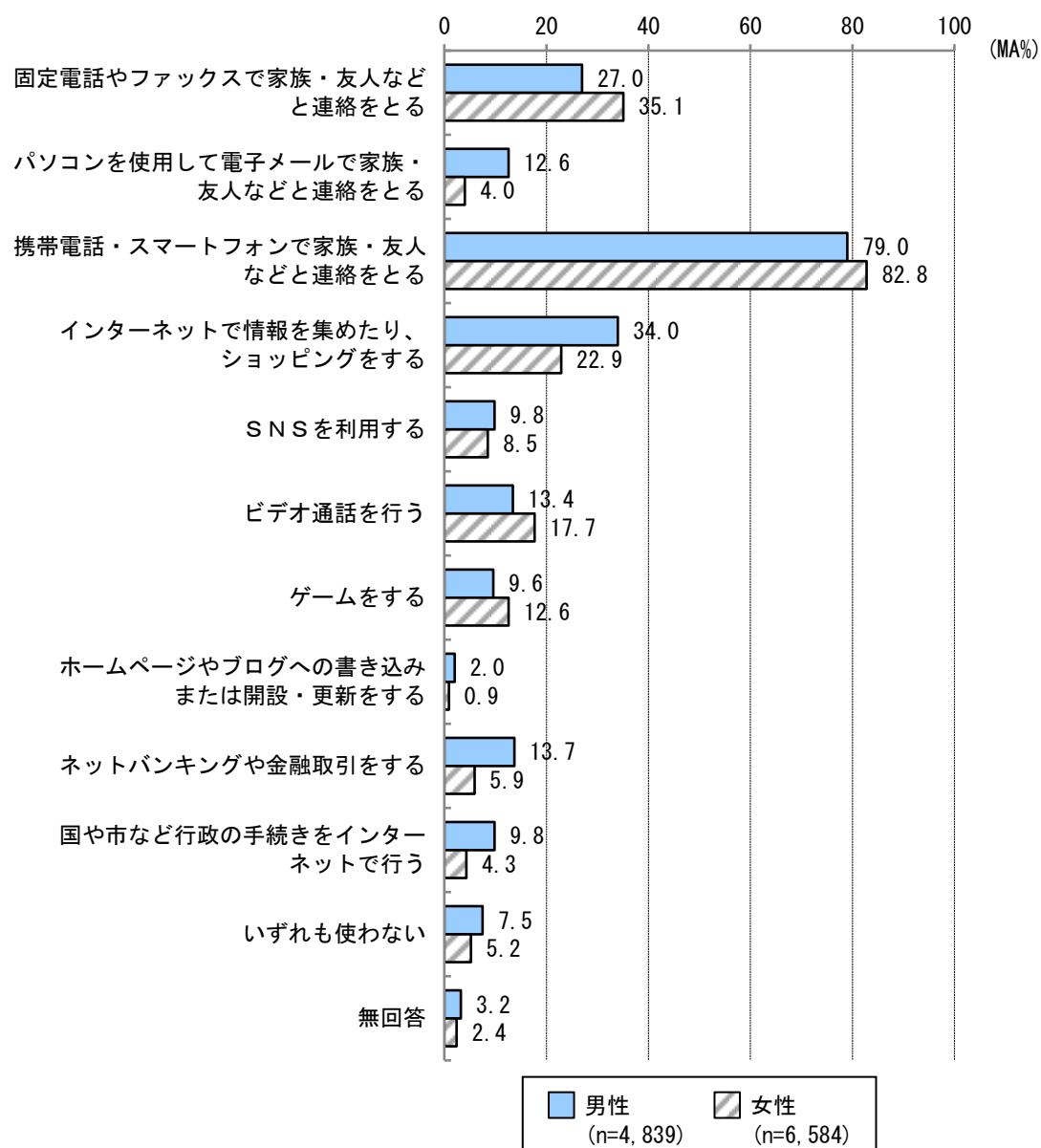
前回調査の結果に比べ、「携帯電話・スマートフォンで家族・友人などと連絡をとる」の割合は5.4ポイント増加している。(問8)

【問8 情報通信機器の利用目的】



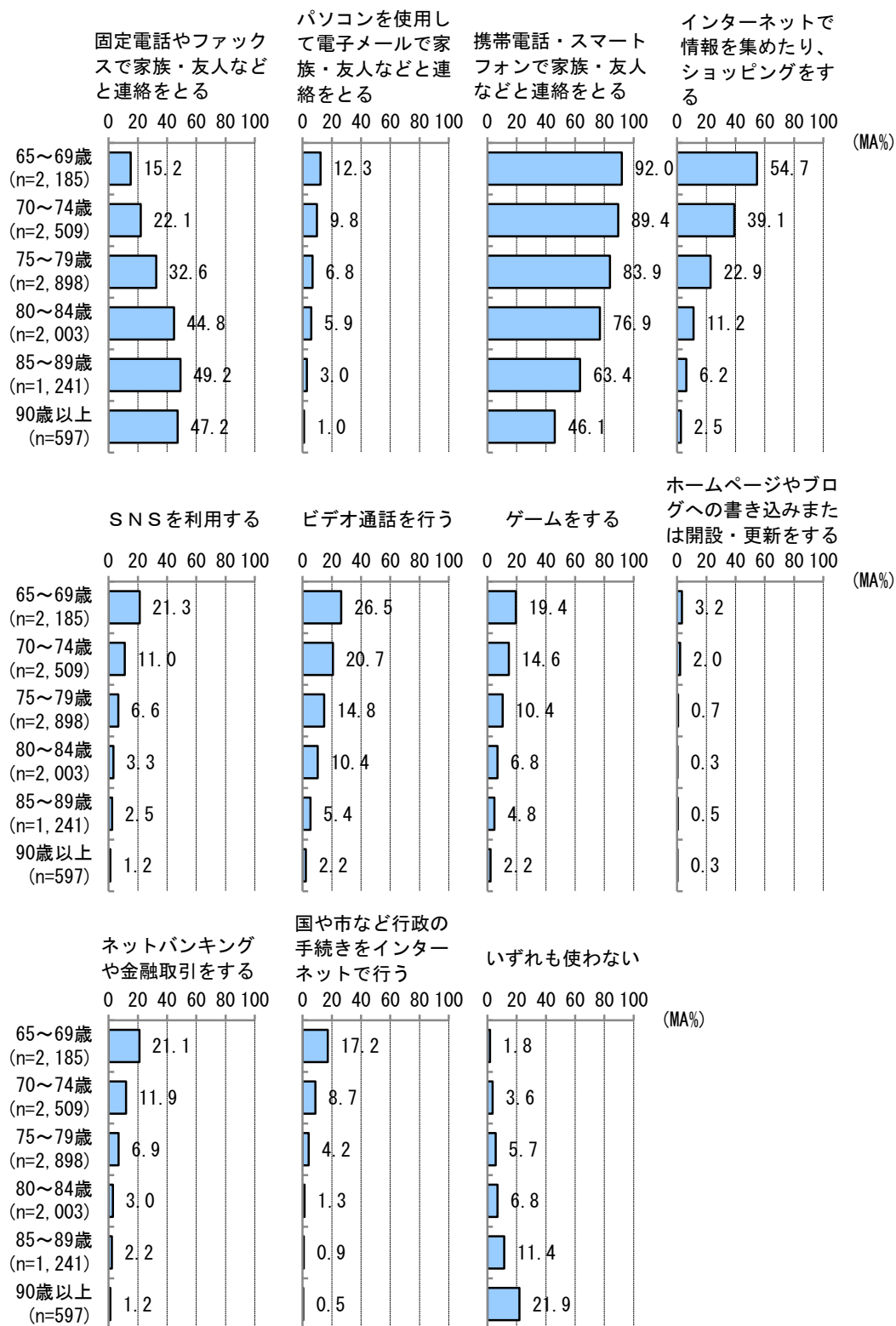
性別では、「インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする」の割合は女性より男性の方が11.1ポイント高くなっている。(問8-a)

【問8-a 情報通信機器の利用目的（性別）】

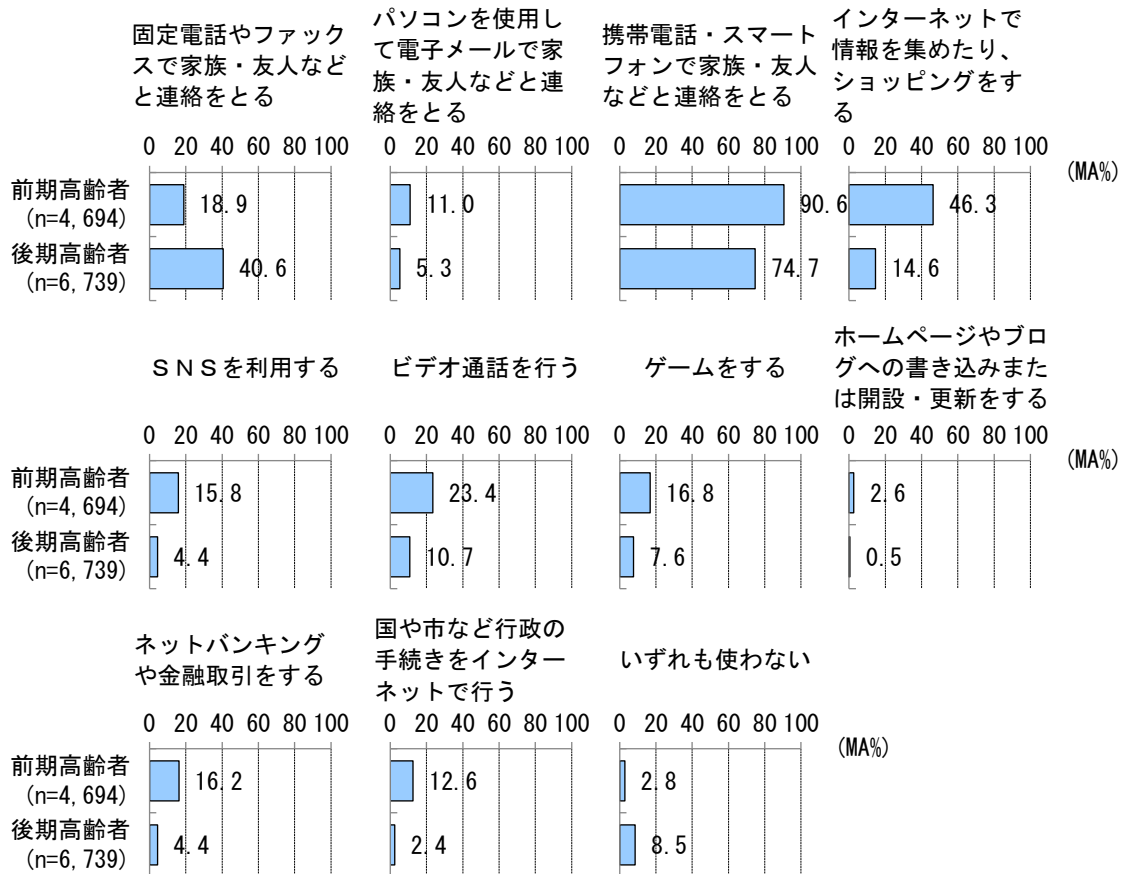


年齢別では、「固定電話やファックスで家族・友人などと連絡をとる」の割合は、高齢になるほど概ね高く、85～89歳が49.2%で最も高くなっている。それ以外の目的の割合は、いずれも高齢になるほど低くなっている。（問8-b）

【問8-b 情報通信機器の利用目的（年齢別）】



＊前期・後期別



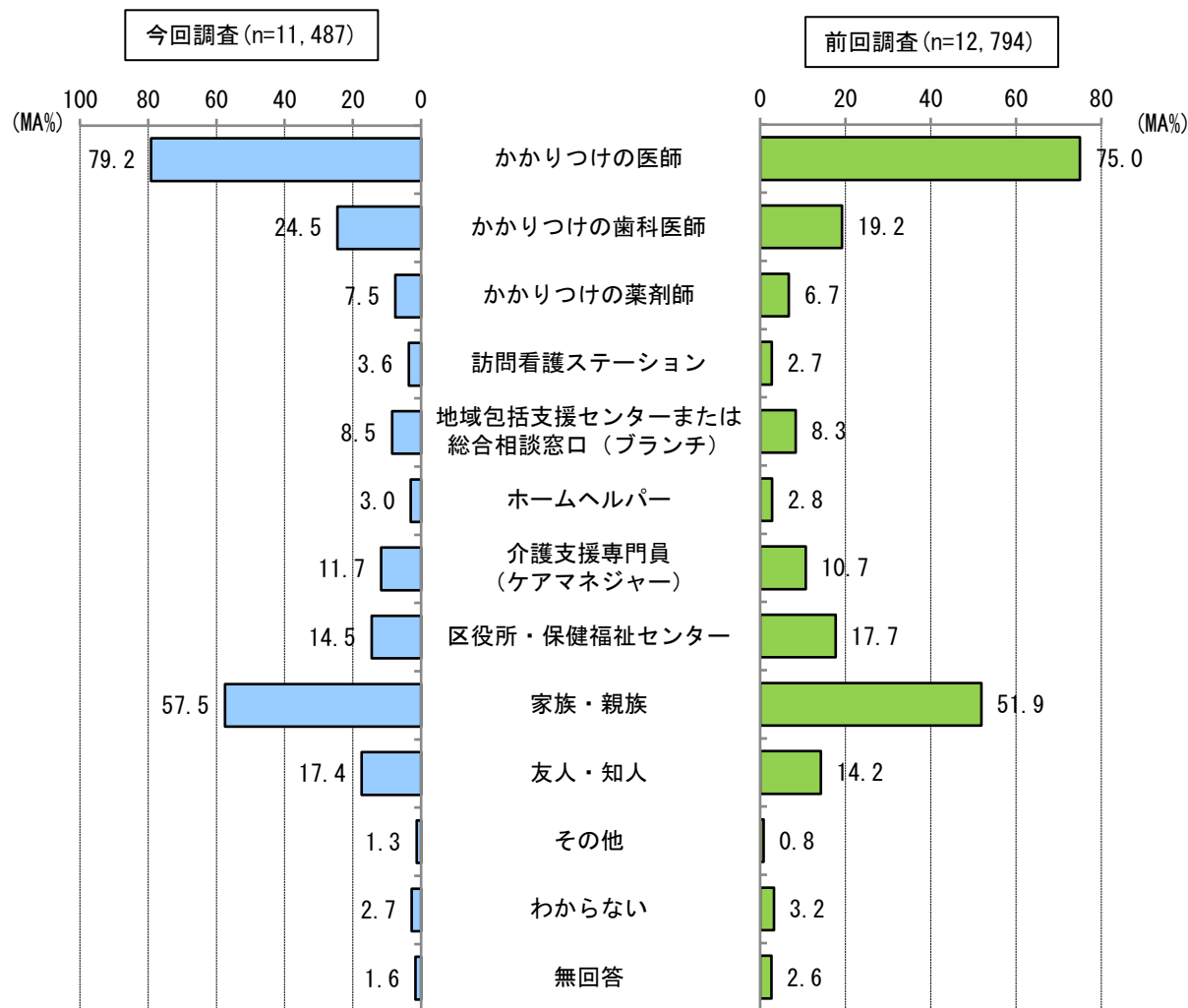
問9 医療の相談先

在宅で生活をしていて医療が必要になった時、どこに相談されますか。(〇はいくつでも)

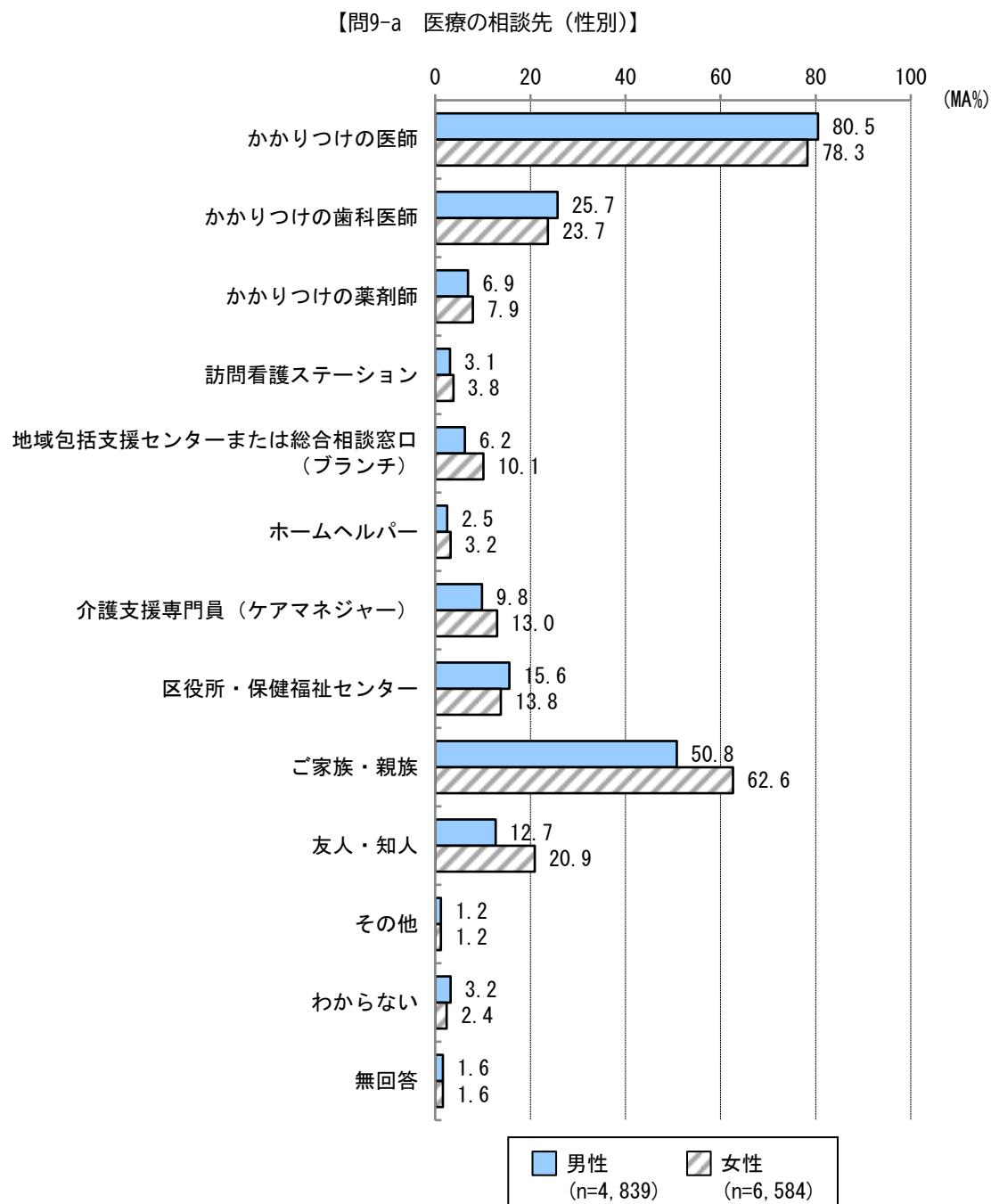
医療の相談先は、「かかりつけの医師」の割合が79.2%で最も高く、次いで「ご家族・親族」が57.5%、「かかりつけの歯科医師」が24.5%となっている。

前回調査の結果に比べ、「家族・親族」の割合が5.6ポイント、「かかりつけの歯科医師」が5.3ポイント増加している。(問9)

【問9 医療の相談先（経年比較）】

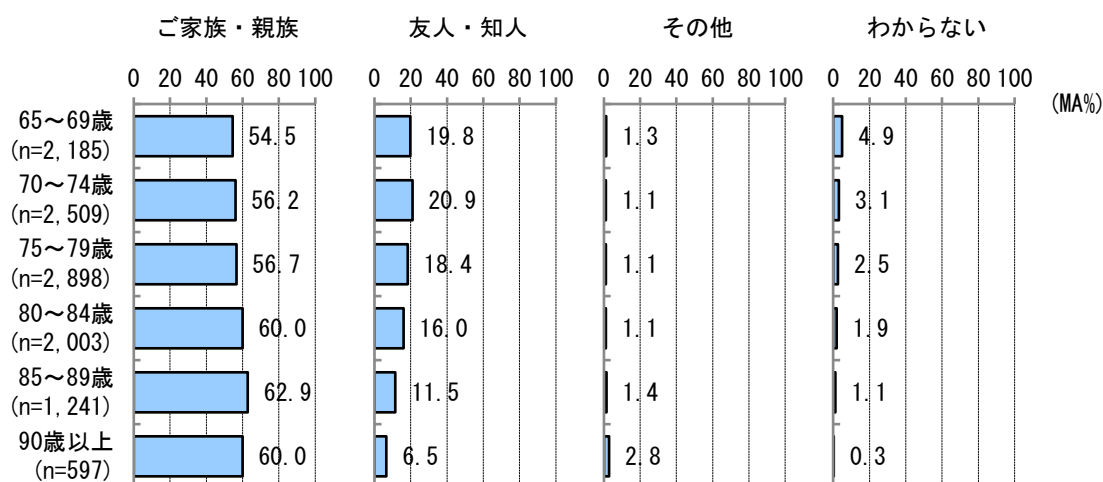
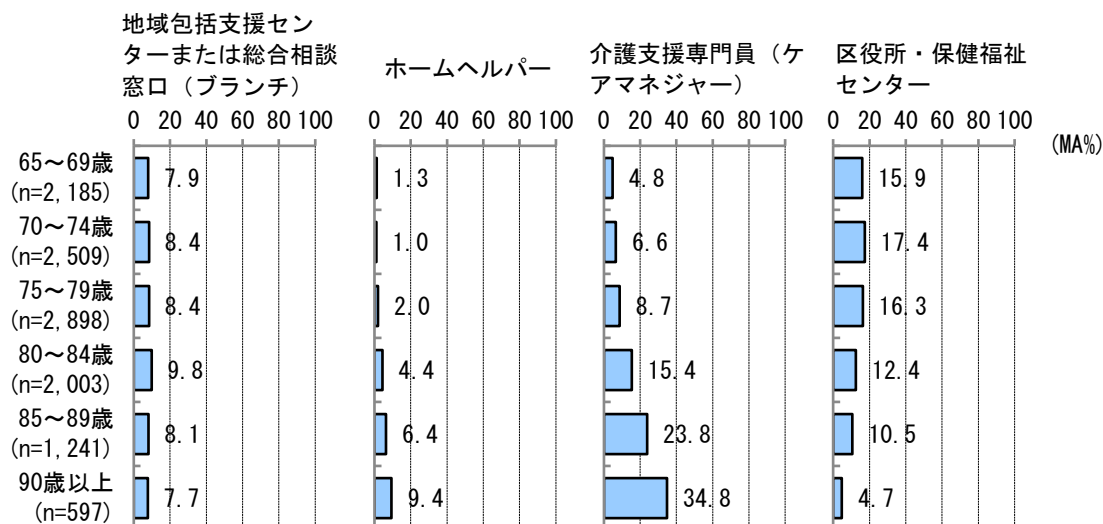
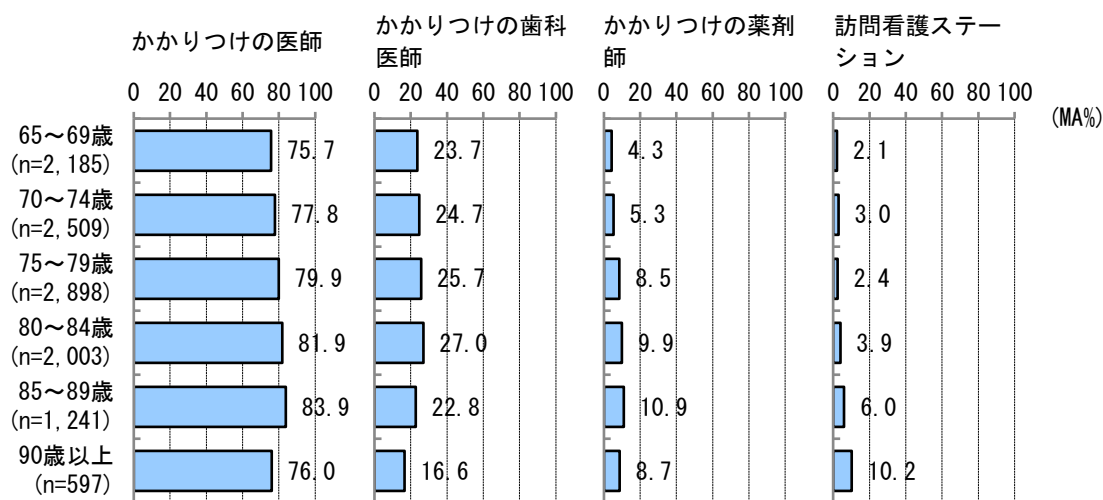


性別では、「ご家族・親族」の割合は男性より女性の方が11.8ポイント高くなっている。（問8-a）

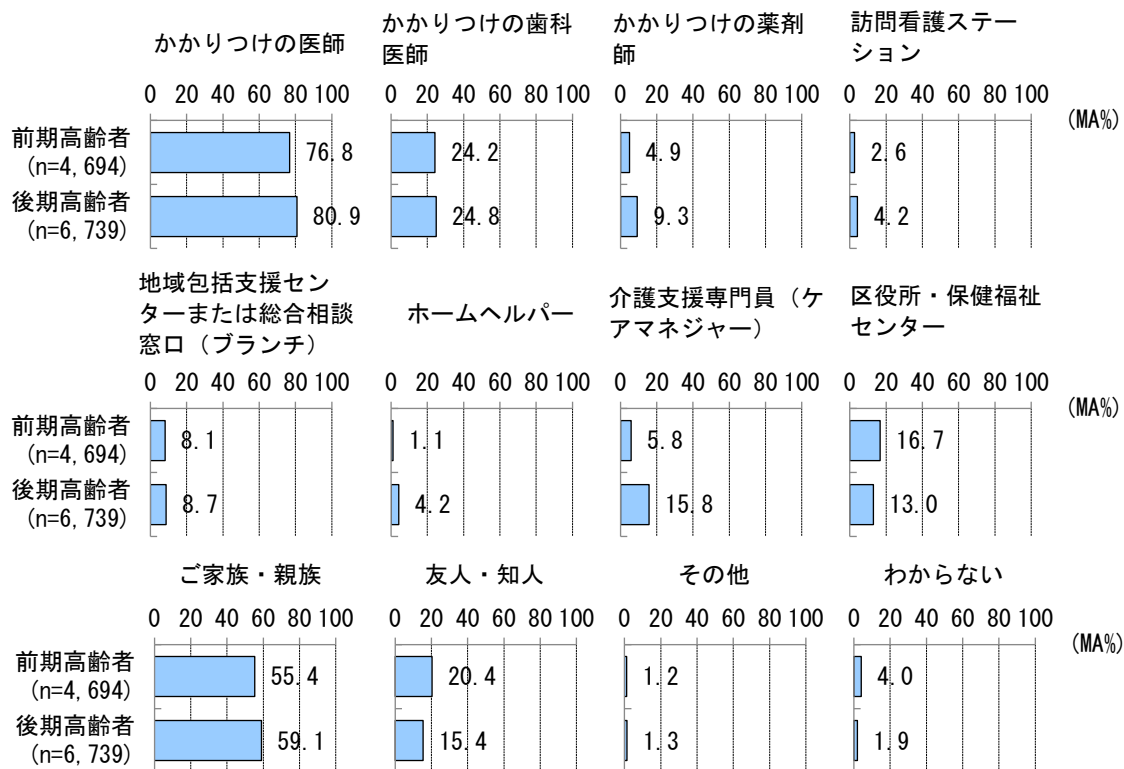


年齢別では、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」の割合は高齢になるほど高くなっている。
（問9-b）

【問9-b 医療の相談先（年齢別）】

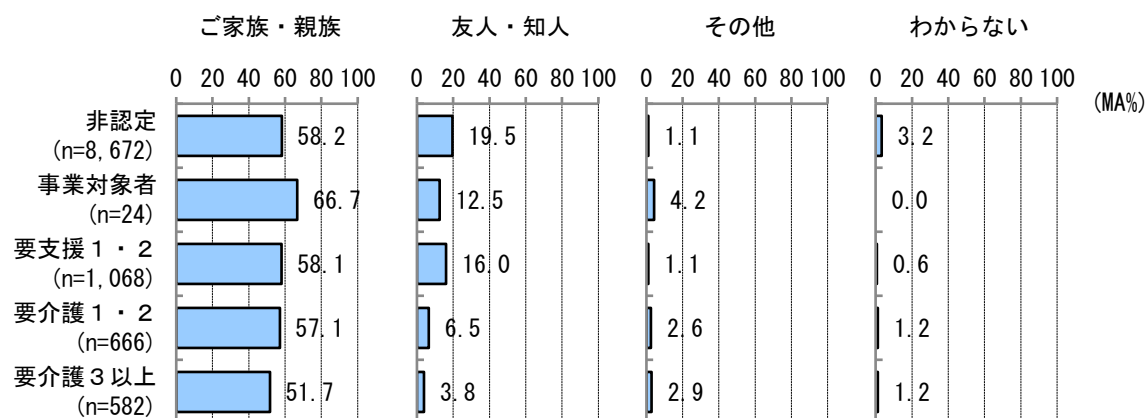
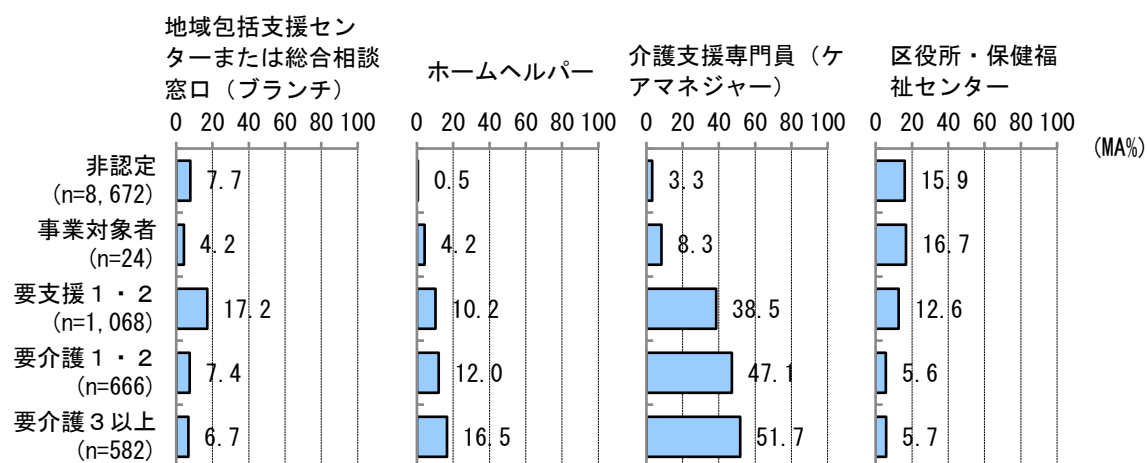
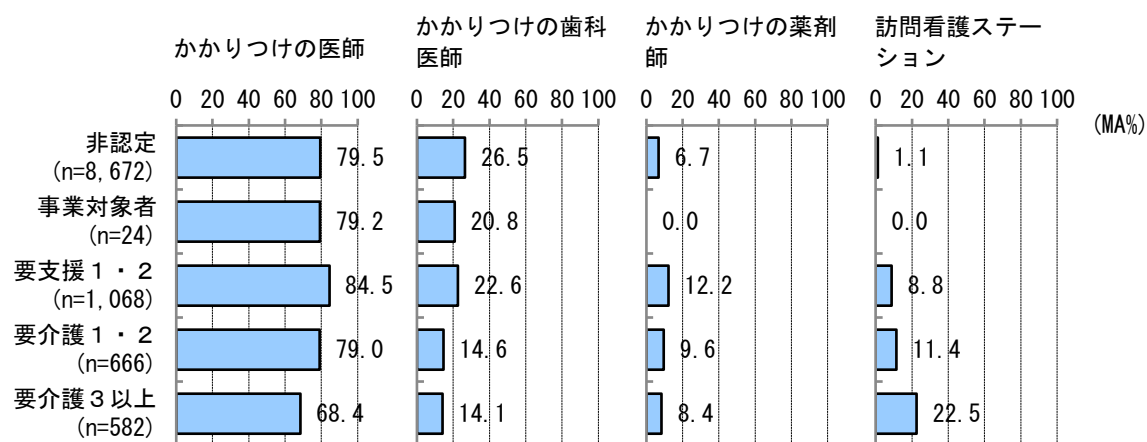


＊前期・後期別



介護度別では、「訪問看護ステーション」「ホームヘルパー」「介護支援専門員（ケアマネジャー）」の割合は、いずれも要介護3以上で最も高くなっている。（問9-c）

【問9-c 医療の相談先（介護度別）】



介護が必要になった場合の暮らし方（問5）と医療の相談先（問9）との関係では、相談先を「かかりつけの医師」と回答した場合は、「ご家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」が83.6%と最も高く、次に、「介護保険サービスの居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」が82.4%で、在宅で継続した生活を望む割合が高くなっている。

また、「区役所・保健福祉センター」に相談するとの回答した場合は、「高齢者向けに配慮された住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」が17.6%で最も高くなっている。（問9-d）

【問9-d 医療の相談先（介護が必要になった場合の暮らし方別）】

(単位：MA%)

	n	かかりつけの医師	かかりつけの歯科医師	かかりつけの薬剤師	訪問看護ステーション	地域包括支援センターまたは総合相談窓口（プランチ）	ホームヘルパー	介護支援専門員（ケアマネジャー）	区役所・保健福祉センター	ご家族・親族	友人・知人	その他	わからない	無回答
ご家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい	2,061	83.6	25.8	8.4	3.8	5.2	2.3	11.1	9.7	64.4	14.1	0.6	1.1	0.8
介護保険サービスの居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい	4,546	82.4	26.4	8.4	4.8	10.7	4.2	14.4	15.9	59.6	19.1	1.2	1.7	1.0
高齢者向けに配慮された住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい	1,177	79.8	28.9	5.7	2.3	10.1	2.4	9.4	17.6	54.0	22.9	0.8	3.3	1.0
特別養護老人ホームや介護老人保健施設、介護医療院などの施設に入所したい	1,236	76.4	21.9	6.6	3.2	11.2	2.8	14.2	16.0	56.1	16.7	1.9	3.1	1.5
その他	236	69.5	18.6	5.9	2.5	7.6	4.2	11.0	11.9	48.7	16.1	9.7	2.1	6.4
わからない	1,975	71.7	19.6	6.2	1.8	4.8	1.2	6.0	14.4	51.9	14.7	0.9	6.4	1.6

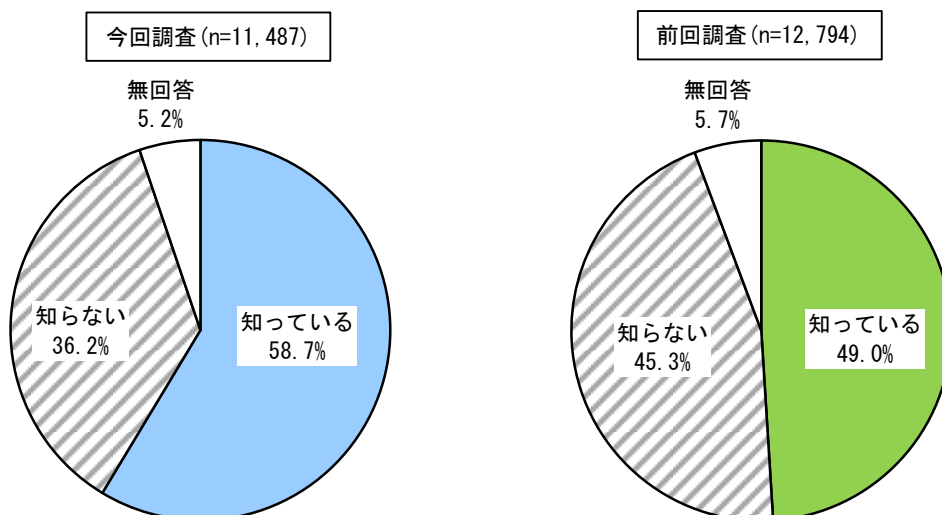
問10 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度

あなたは、希望すれば在宅医療を受けられることを知っていますか。(〇はひとつ)

希望すれば在宅医療を受けられることを「知っている」の割合が58.7%に対し、「知らない」が36.2%となっている。

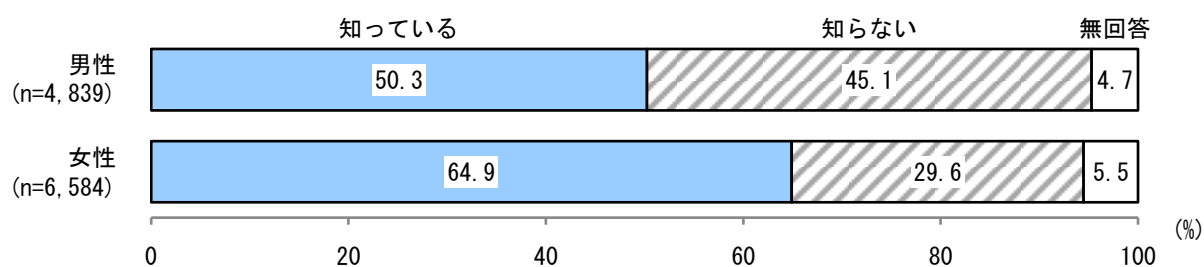
前回調査の結果に比べ、「知っている」の割合は前回から9.7ポイント増加し、認知度は向上している。(問10)

【問10 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度（経年比較）】



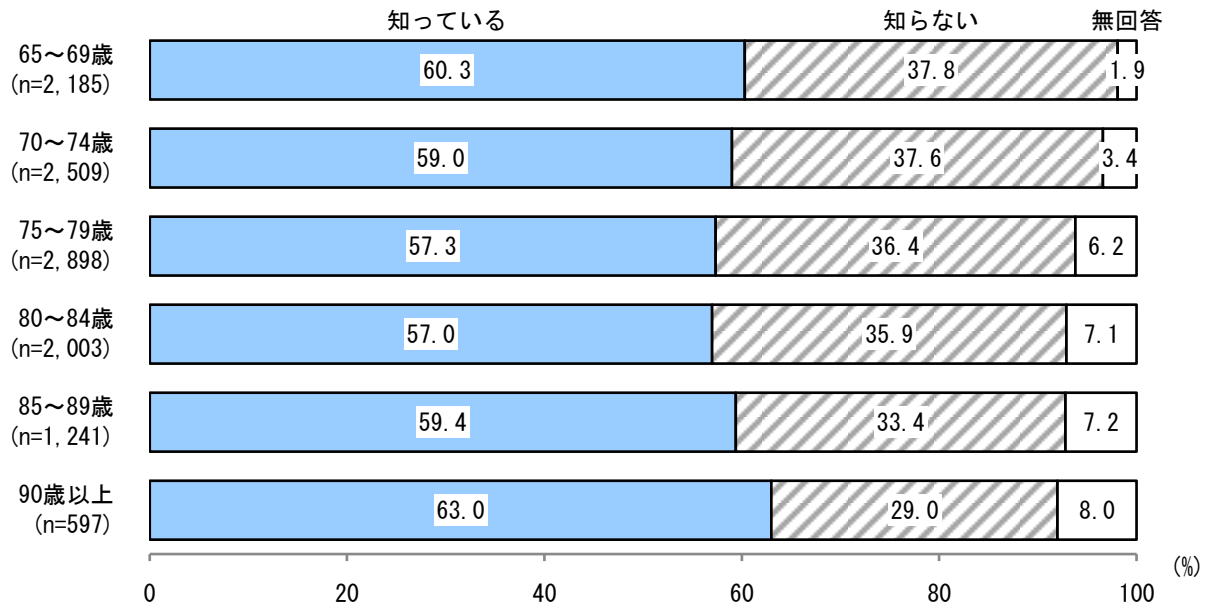
性別では、「知らない」の割合は女性より男性の方が高くなっている。(問10-a)

【問10-a 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度（性別）】

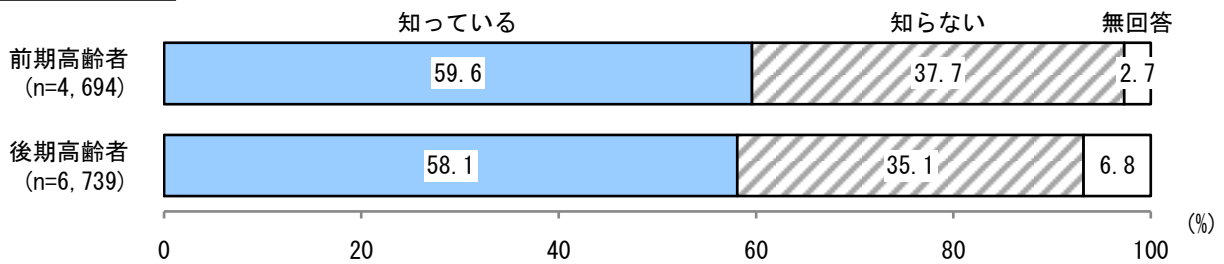


年齢別では、「知らない」の割合は高齢になるほど低くなっている。(問10-b)

【問10-b 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度(年齢別)】

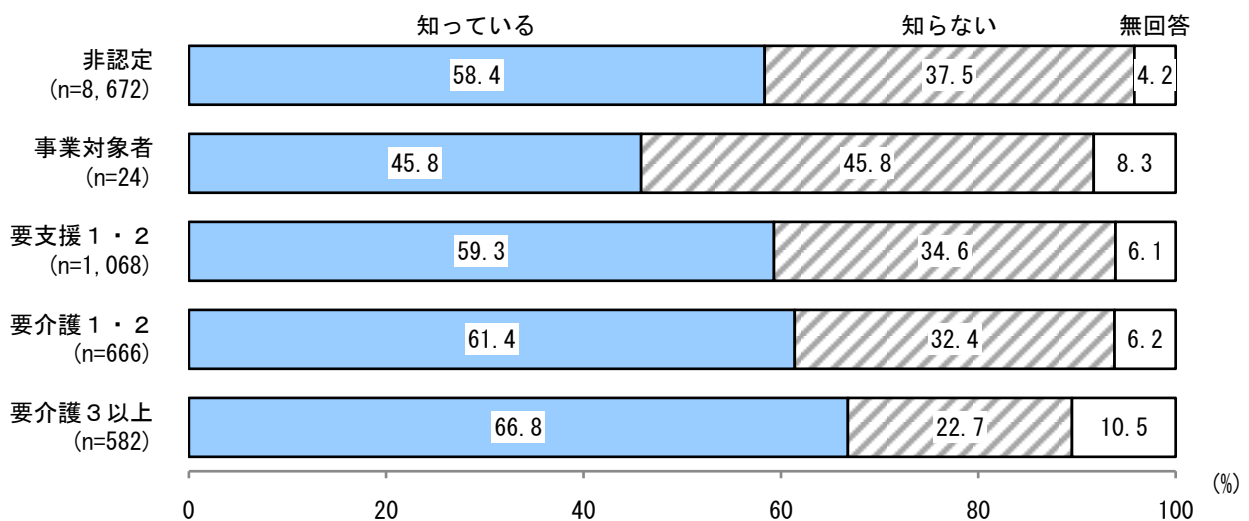


*前期・後期別



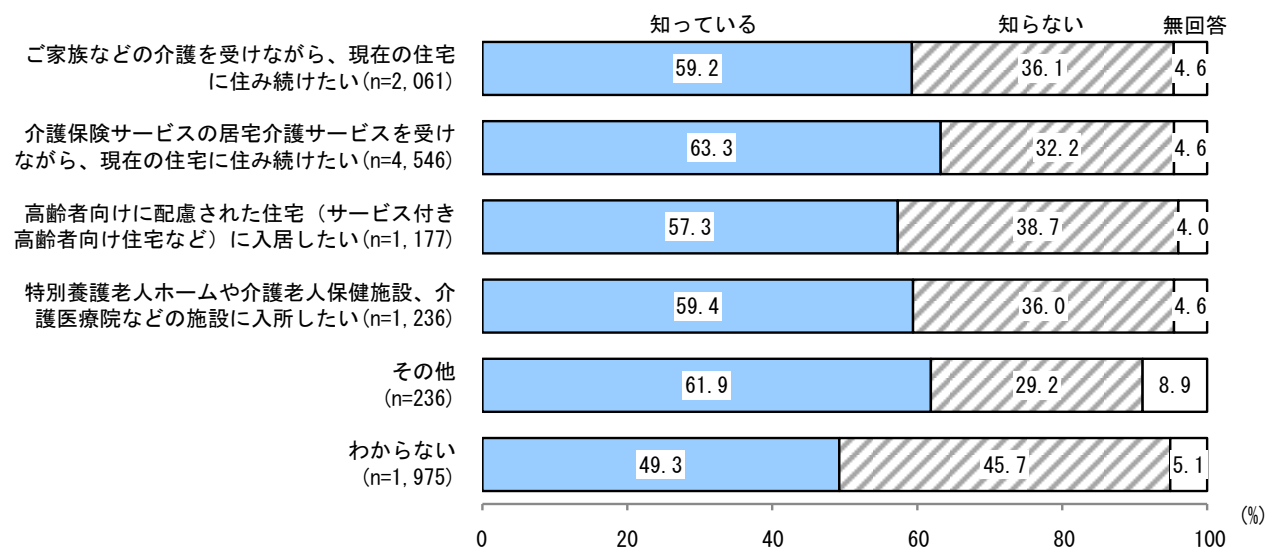
介護度別では、「知らない」の割合は介護度が重度になるほど低くなっている。(問10-c)

【問10-c 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度(介護度別)】



介護保険サービスの居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたいと回答した方で、希望すれば在宅医療を受けられることを「知っている」の割合が63.3%で最も高くなっている。（問10-d）

【問10-d 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度（介護が必要になった場合の暮らし方別）】



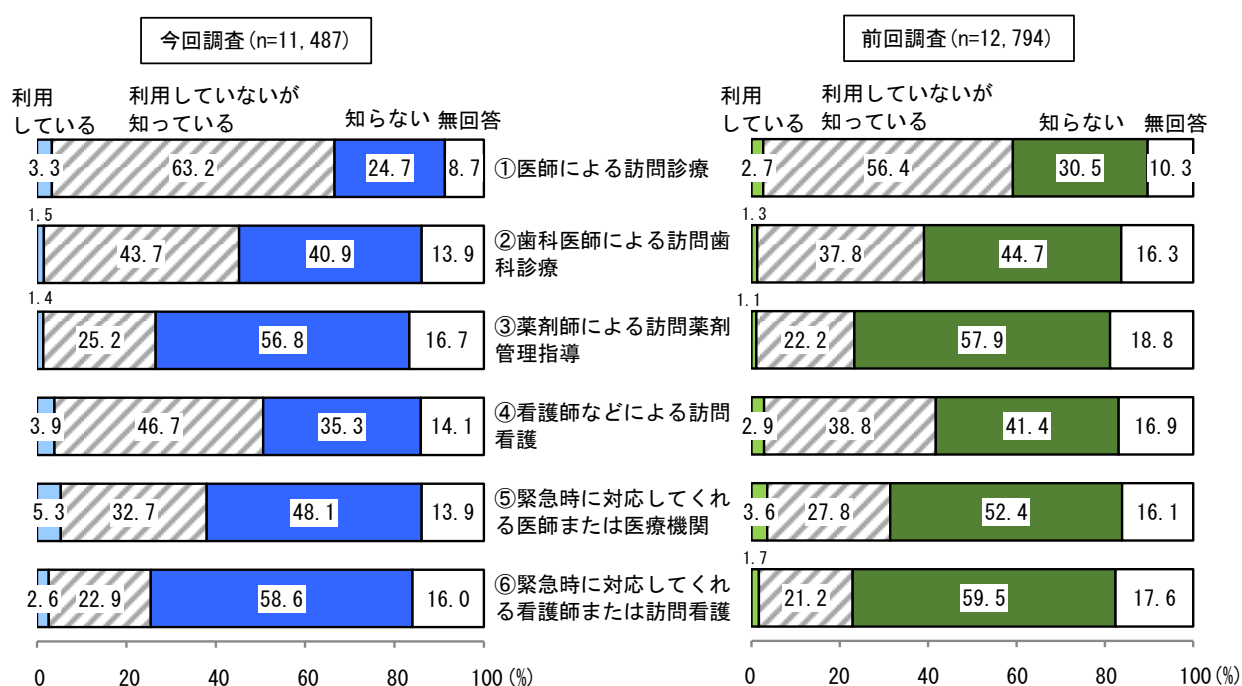
問11 在宅医療の利用状況

次の項目それぞれについて「利用している」「利用していないが知っている」「知らない」「知らない」のいずれが該当するものを番号で選んでください。(○はひとつずつ)

在宅医療の利用状況で、「利用している」の割合が最も高いのは、“⑤緊急時に対応してくれる医師または医療機関”(5.3%)となっている。「利用している」と「利用していないが知っている」の各割合を合計した認知度は、“①医師による訪問診療”(66.5%)が最も高くなっている。

前回調査の結果と概ね同様の傾向であるが、「知らない」の割合は、いずれの項目も前回調査の結果から減少し、認知度は増加傾向にある。(問11)

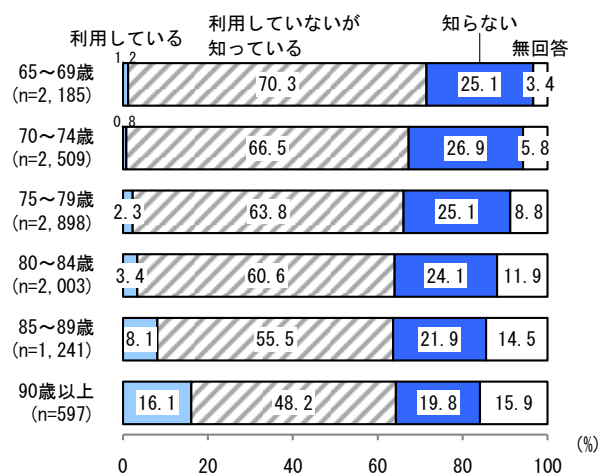
【問11 在宅医療の利用状況（経年比較）】



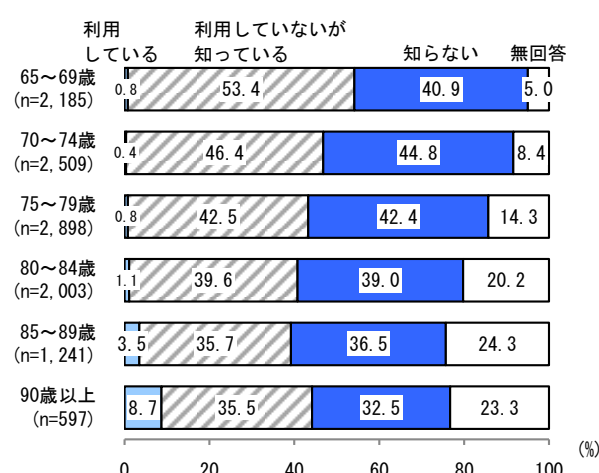
年齢別では、いずれの項目も、「利用している」の割合は後期高齢者になるほど高くなっている。(問11-a)

【問11-a 在宅医療の利用状況（年齢別）】

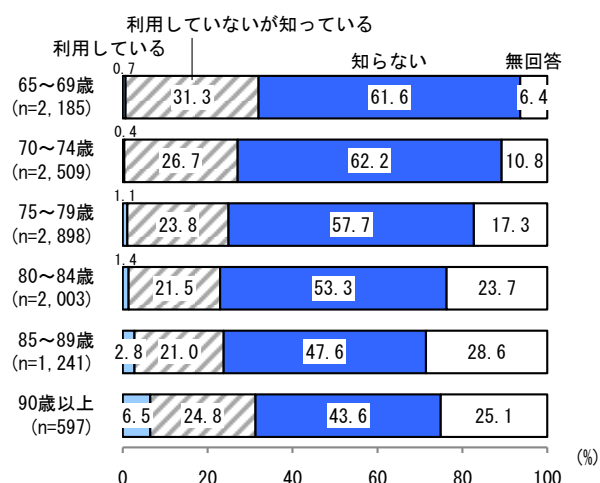
①医師による訪問診療



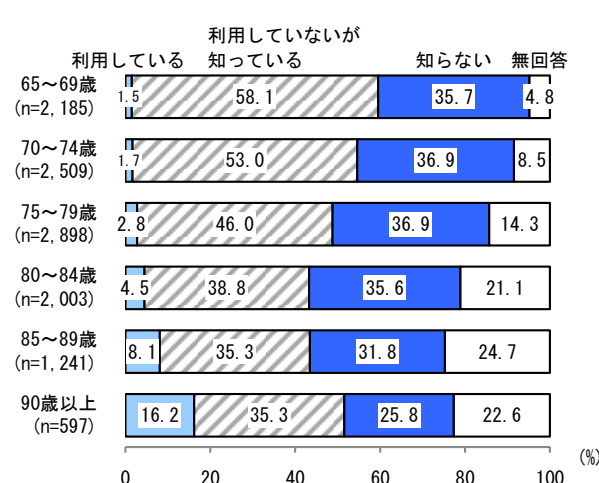
②歯科医師による訪問歯科診療



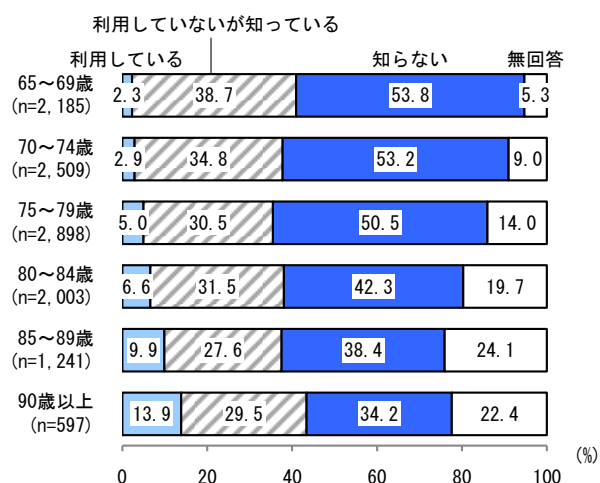
③薬剤師による訪問薬剤管理指導



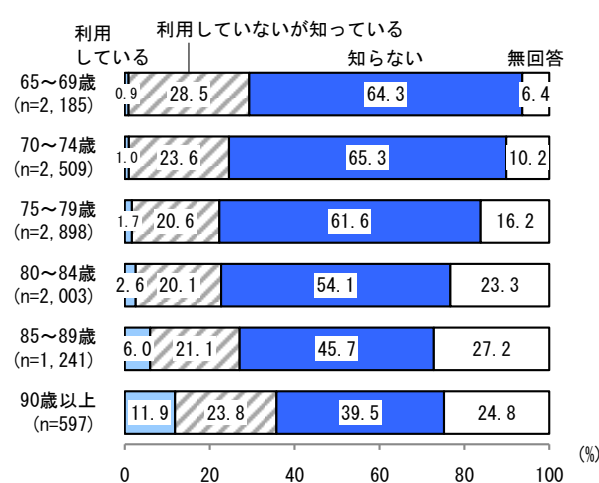
④看護師などによる訪問看護



⑤緊急時に対応してくれる医師または医療機関

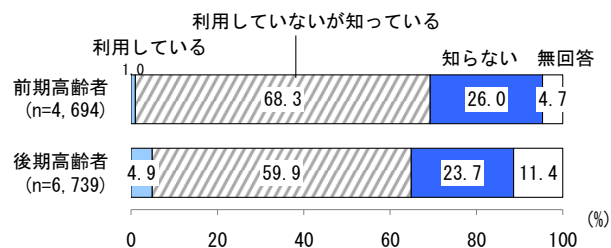


⑥緊急時に対応してくれる看護師または訪問看護

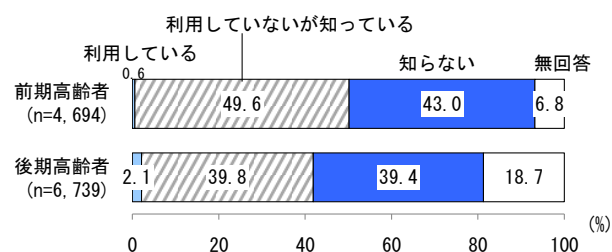


＊前期・後期別

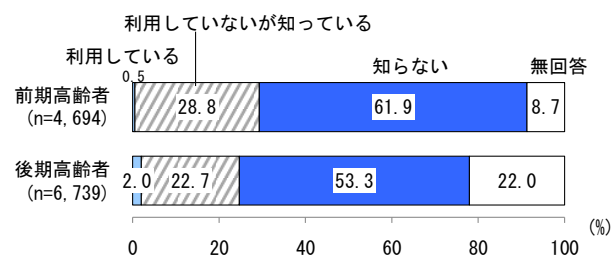
①医師による訪問診療



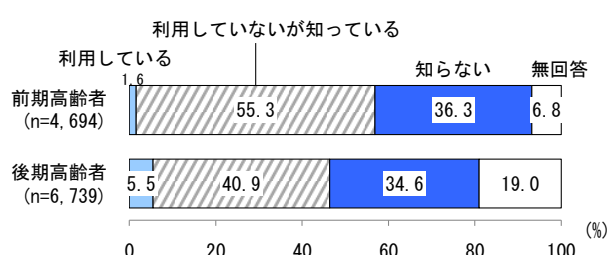
②歯科医師による訪問歯科診療



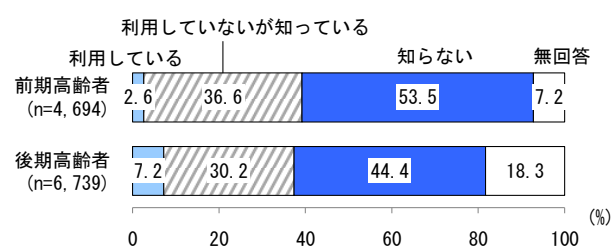
③薬剤師による訪問薬剤管理指導



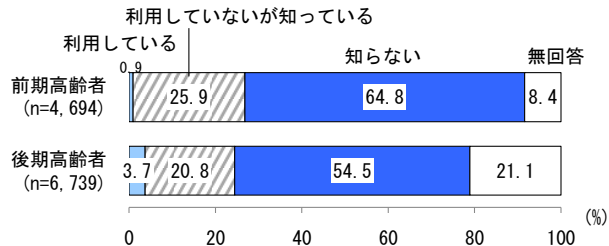
④看護師などによる訪問看護



⑤緊急時に対応してくれる医師または医療機関



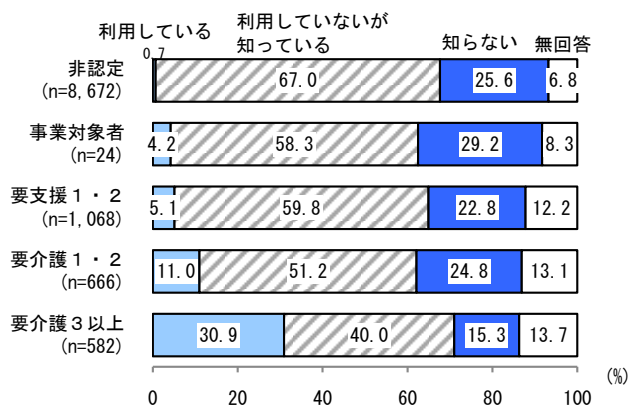
⑥緊急時に対応してくれる看護師または訪問看護



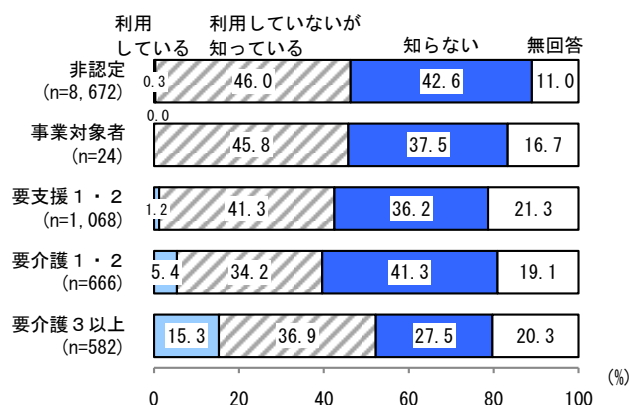
介護度別では、いずれの項目も、「利用している」の割合は重度になるほど高くなっている。
(問11-b)

【問11-b 在宅医療の利用状況（介護度別）】

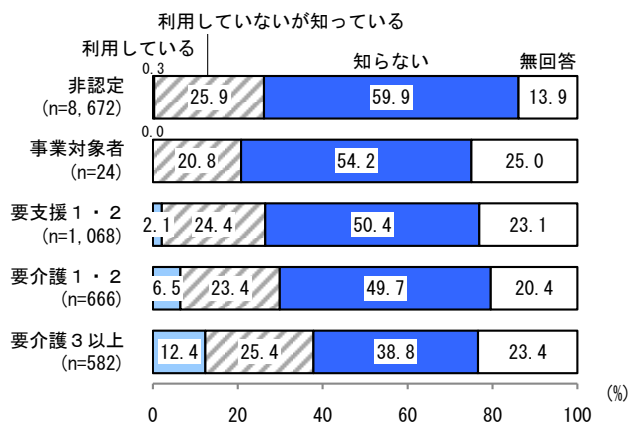
①医師による訪問診療



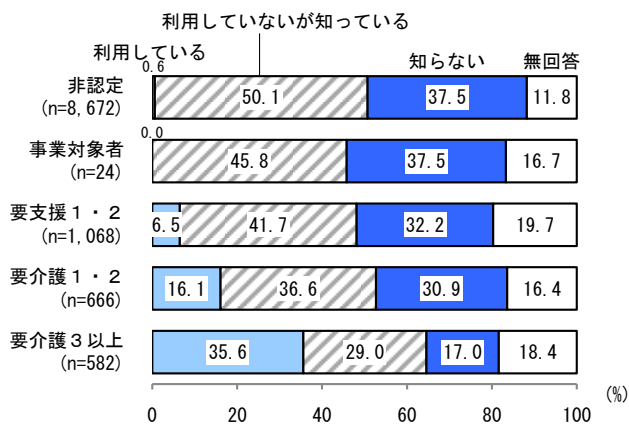
②歯科医師による訪問歯科診療



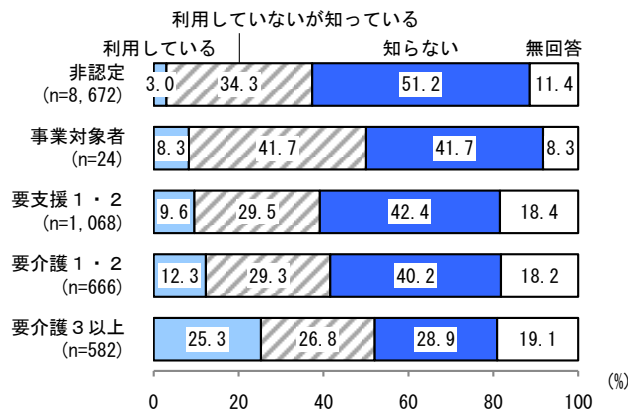
③薬剤師による訪問薬剤管理指導



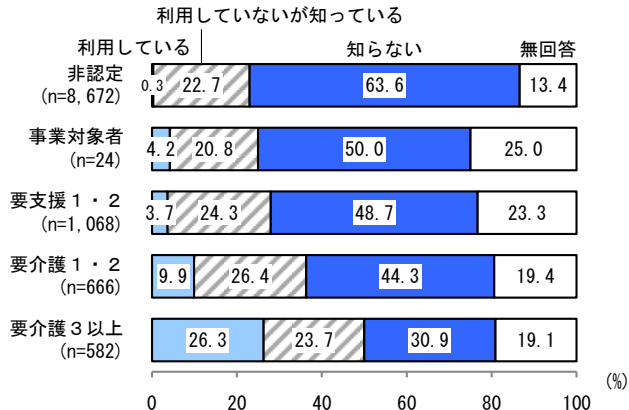
④看護師などによる訪問看護



⑤緊急時に対応してくれる医師または医療機関



⑥緊急時に対応してくれる看護師または訪問看護



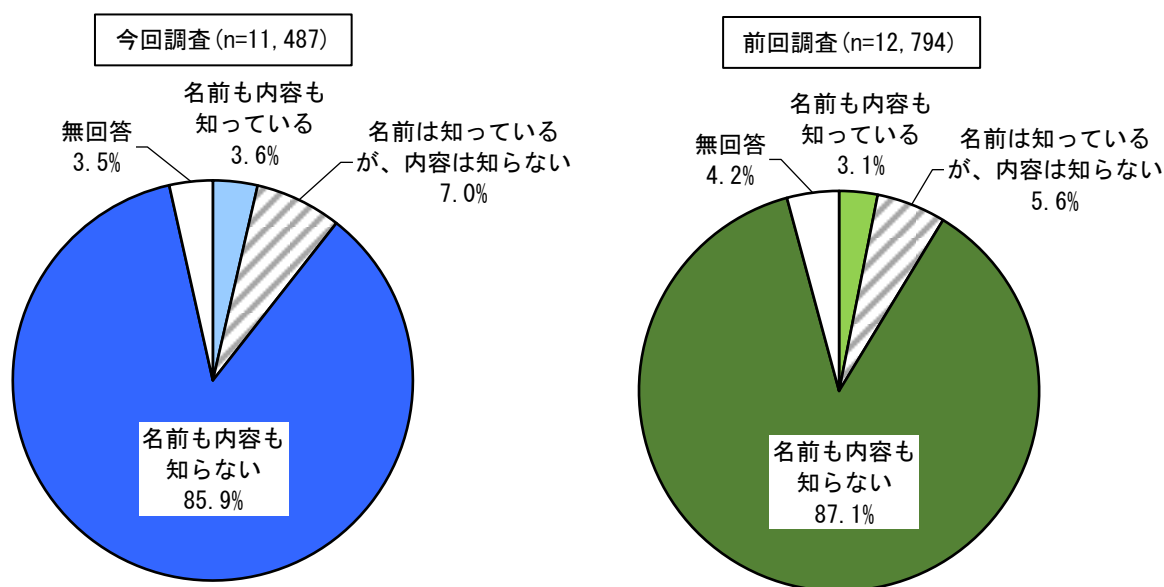
問12 人生会議(ACP)の認知度

あなたは、『人生会議（ACP）』について知っていますか。（○はひとつ）

人生会議（ACP）の認知度は、「名前も内容も知らない」の割合が85.9%で最も高く、次いで「名前は知っているが、内容は知らない」が7.0%、「名前も内容も知っている」が3.6%となっている。

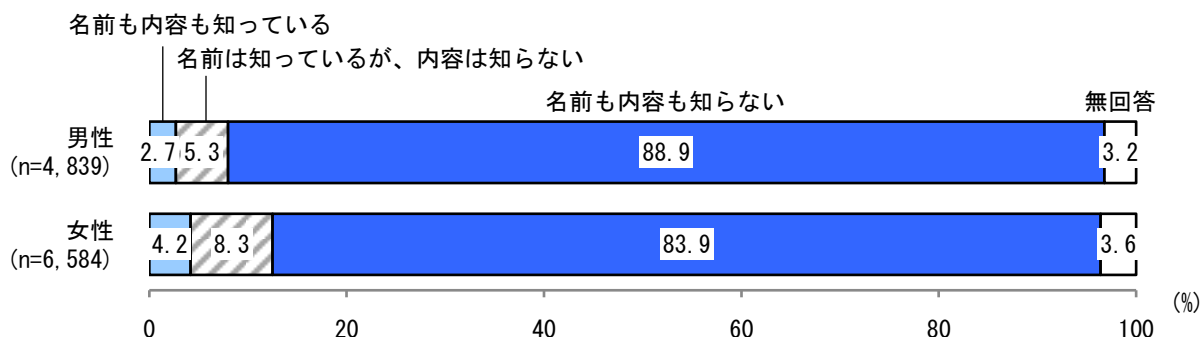
前回調査の結果から大きな変化はみられない。（問12）

【問12 人生会議（ACP）の認知度（経年比較）】



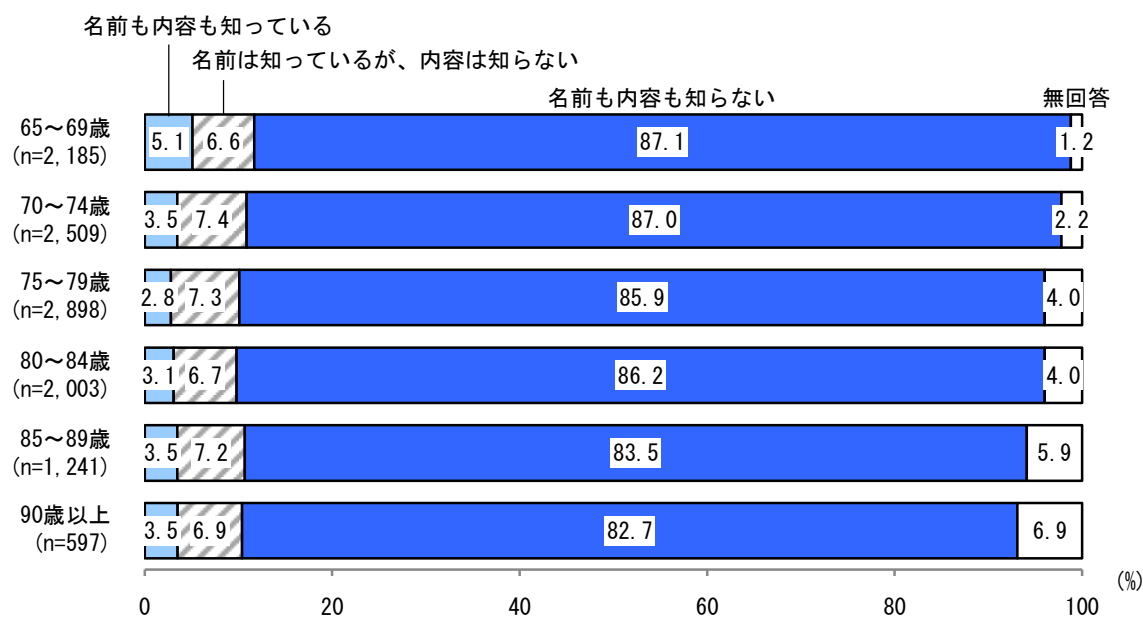
性別では、「名前も内容も知らない」の割合は女性より男性の方が高くなっている。（問12-a）

【問12-a 人生会議（ACP）の認知度（性別）】

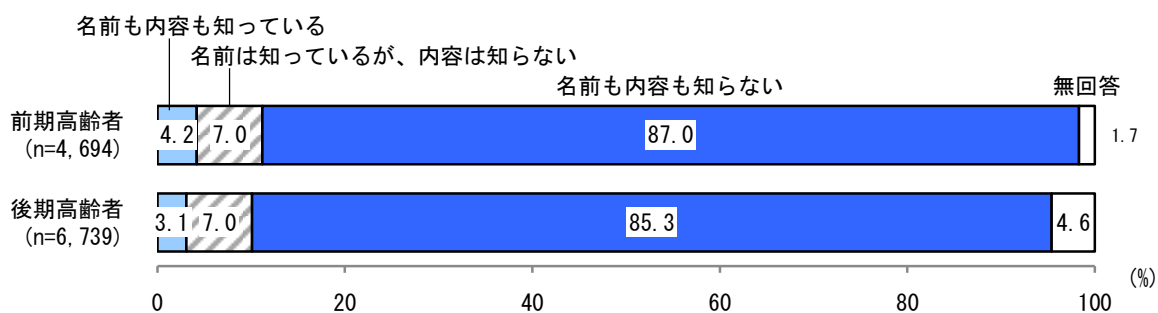


年齢別では、すべての年齢層で「名前も内容も知らない」の割合が8割台となっている。(問12-b)

【問12-b 人生会議（ACP）の認知度（年齢別）】



*前期・後期別



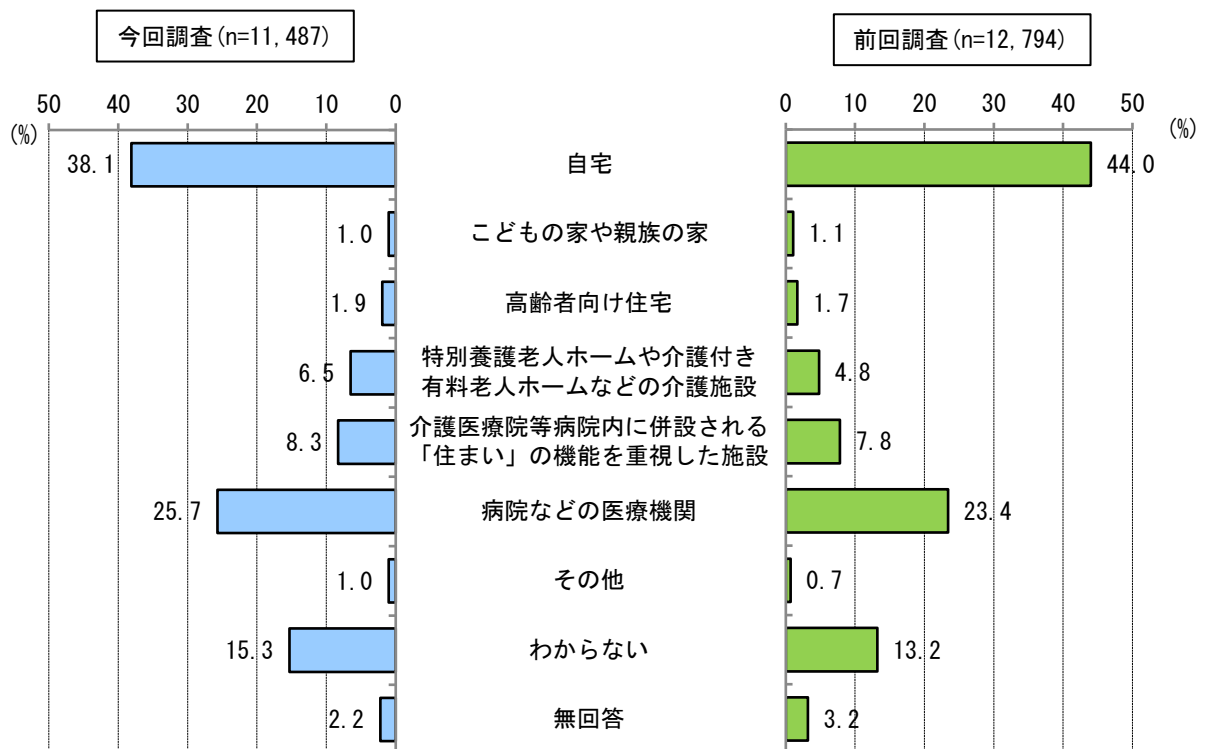
問13 人生の最終段階に過ごしたい場所

万一、あなたが治る見込みのない病気になった場合、人生の最終段階をどこで過ごしたいですか。なお、必要な医療については、それぞれの場所で受けることができるものとしてお答えください。（○はひとつ）

人生の最終段階に過ごしたい場所は、「自宅」の割合が38.1%で最も高く、次いで「病院などの医療機関」が25.7%となっている。

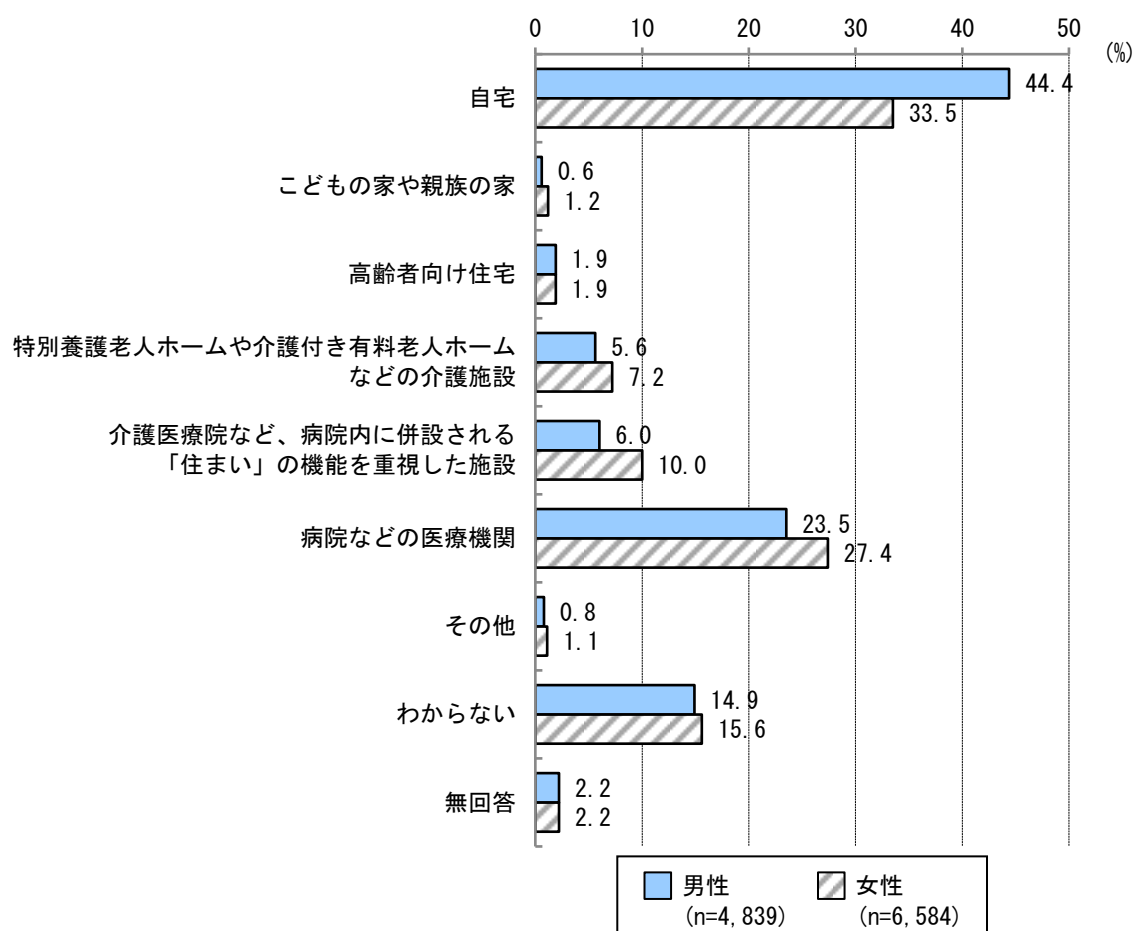
前回調査の結果に比べ、「自宅」は5.9ポイント減少している。（問13）

【問13 人生の最終段階に過ごしたい場所（経年比較）】



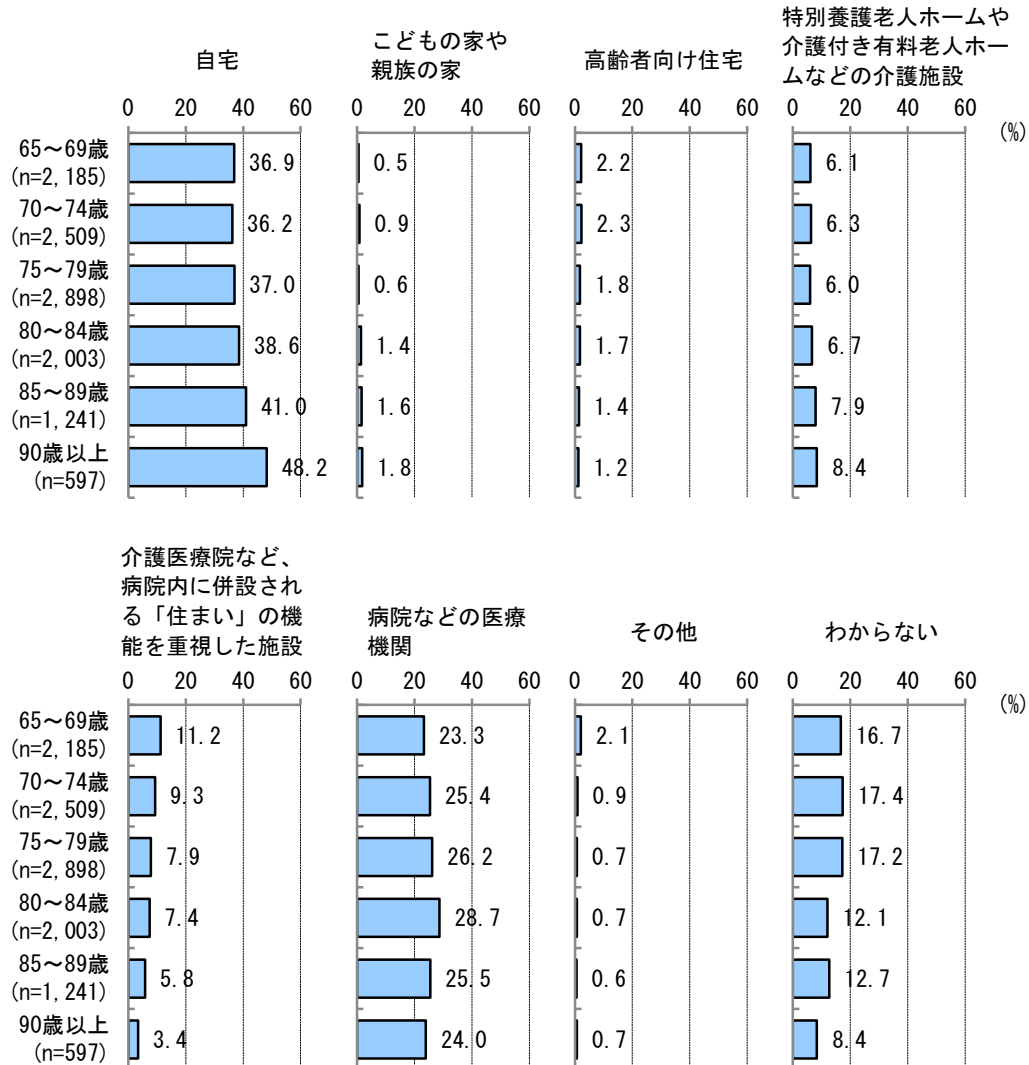
性別では、「自宅」の割合は女性より男性の方が10.9ポイント高くなっている。(問13-a)

【問13-a 人生の最終段階に過ごしたい場所（性別）】

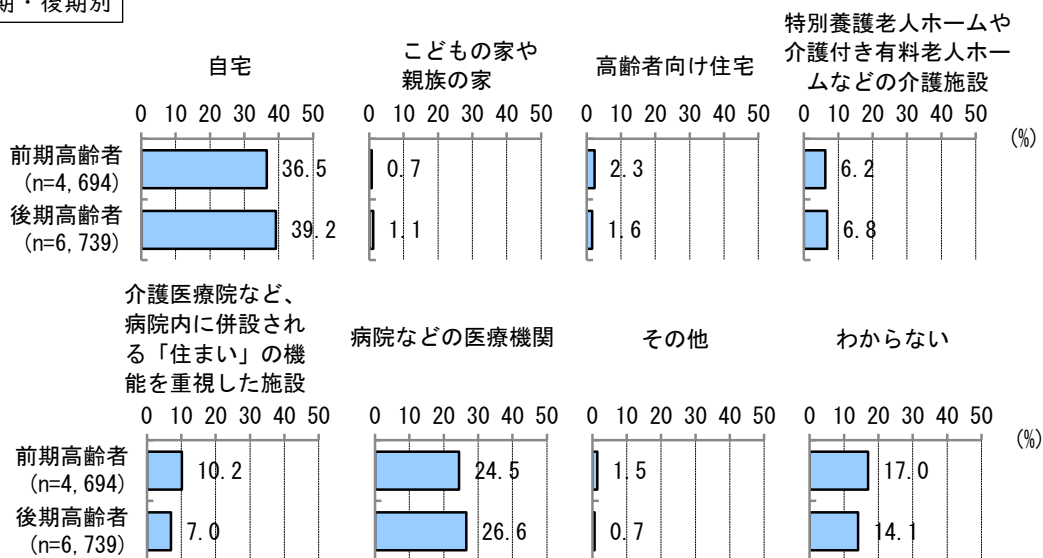


年齢別では、高齢になるほど「自宅」の割合が高くなっている。(問13-b)

【問13-b 人生の最終段階に過ごしたい場所（年齢別）】

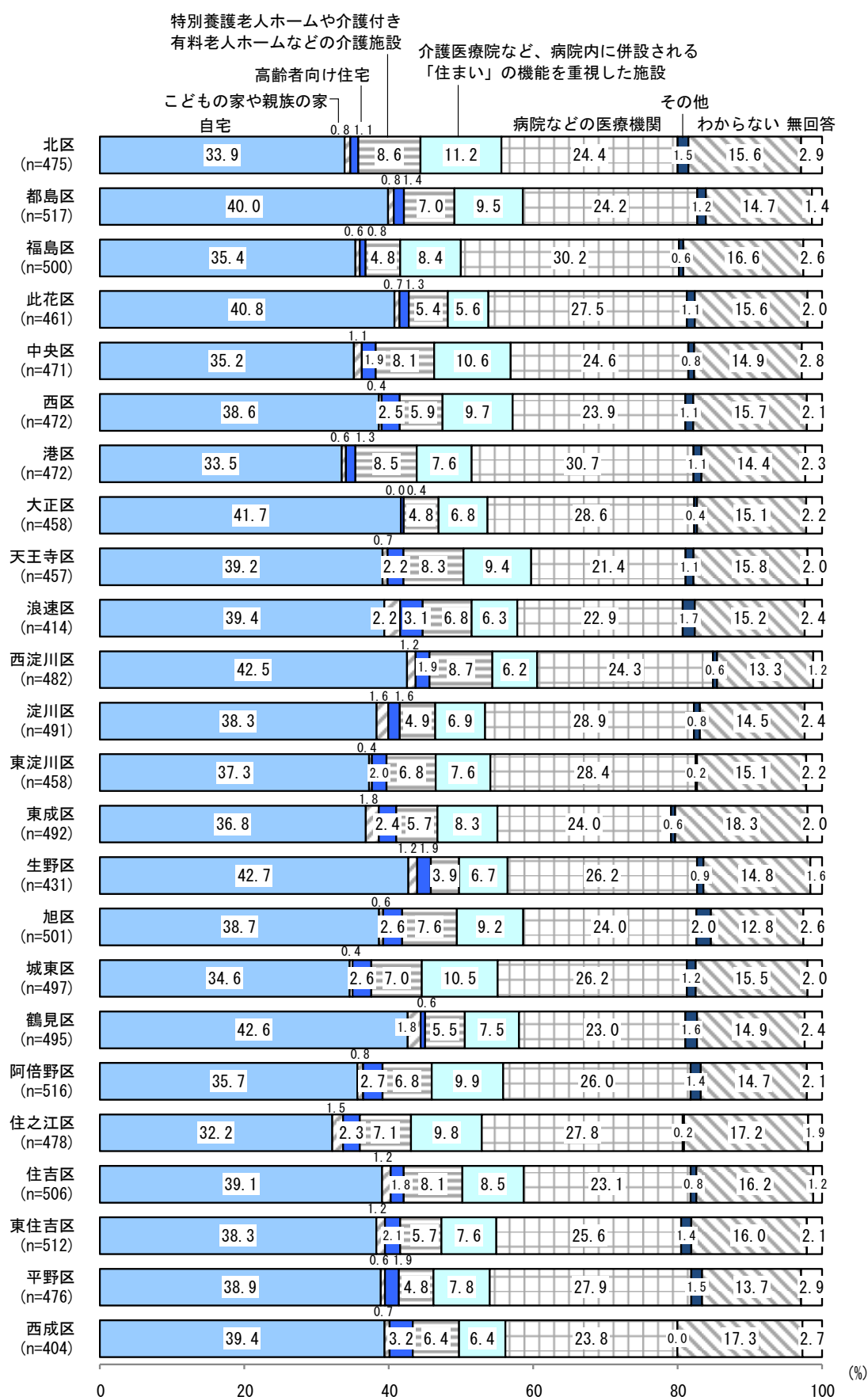


* 前期・後期別



居住区別では、「自宅」の割合は生野区が42.7%で最も高く、「病院などの医療機関」は港区が30.7%で最も高くなっている。(問13-c)

【問13-c 人生の最終段階に過ごしたい場所（居住区別）】



介護が必要になった場合の暮らし方（問5）と人生の最終段階に過ごしたい場所（問13）との関係では、介護が必要になった場合の暮らし方を「自宅」と回答した場合は、「ご家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」が65.4%、「介護保険サービスの居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」が45.8%で上位となっている。

また、「病院などの医療機関」と回答した場合では、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設、介護医療院などの施設に入所したい」が34.5%、「高齢者向けに配慮された住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」が28.5%となっている。（問13-c）

【問13-c 人生の最終段階に過ごしたい場所（介護が必要になった場合の暮らし方別）】

（単位：％）

	n	自宅	こどもの家や親族の家	高齢者向け住宅	特別養護老人ホームなどの介護施設	介護医療院など、病院内に併設される「住まい」の機能を重視した施設	病院などの医療機関	その他	わからない	無回答
ご家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい	2,061	65.4	1.0	0.7	2.2	2.7	18.8	0.3	6.9	2.0
介護保険サービスの居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい	4,546	45.8	1.0	1.0	4.1	7.6	27.9	0.9	9.9	1.7
高齢者向けに配慮された住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい	1,177	14.4	0.6	10.1	13.6	19.0	28.5	1.3	11.1	1.4
特別養護老人ホームや介護老人保健施設、介護医療院などの施設に入所したい	1,236	12.5	0.7	0.8	23.1	16.4	34.5	0.8	9.3	1.8
その他	236	23.7	3.8	3.4	8.9	6.8	19.1	10.6	18.2	5.5
わからない	1,975	25.0	0.8	0.8	2.2	4.9	22.5	0.8	41.1	2.0

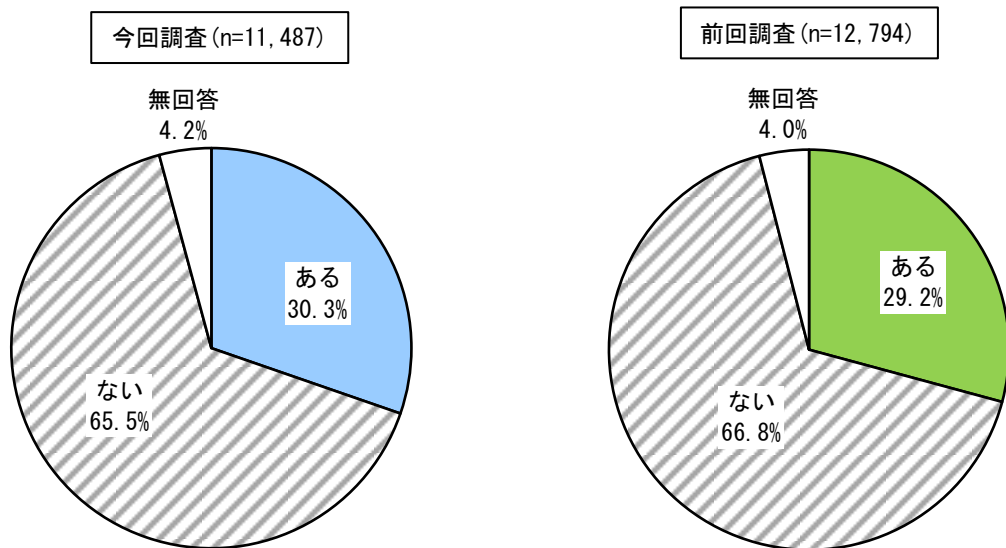
問14 人生の最終段階についての話し合いの有無

問13の人生の最終段階の過ごし方について、誰かと話し合ったことがありますか。
(○はひとつ)

人生の最終段階について話し合ったことが「ある」の割合が30.3%に対し、「ない」が65.5%となっている。

前回調査の結果から大きな変化はみられない。(問14)

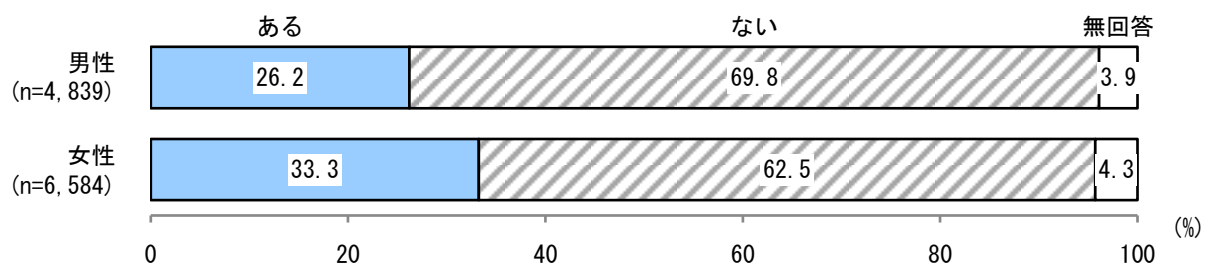
【問14 人生の最終段階についての話し合いの有無（経年比較）】



※選択肢の変換：「はい」→「ある」、「いいえ」→「ない」

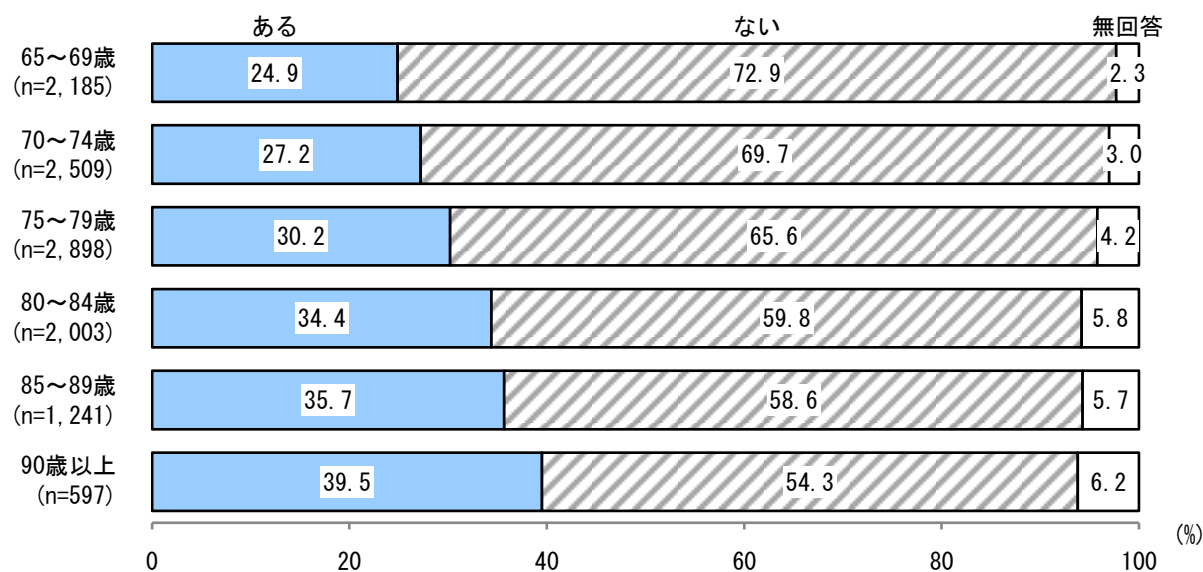
性別では、「ある」の割合は男性より女性の方が高くなっている。(問14-a)

【問14-a 人生の最終段階についての話し合いの有無（性別）】

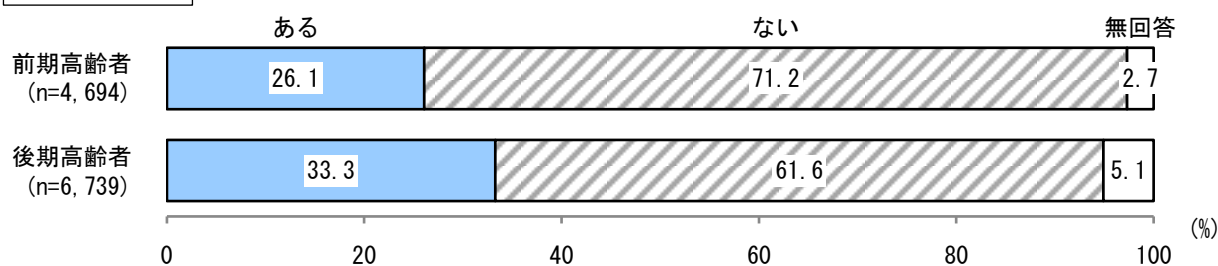


年齢別では、「ある」の割合は高齢になるほど高くなる傾向がある。(問14-b)

【問14-b 人生の最終段階についての話し合いの有無(年齢別)】



*前期・後期別

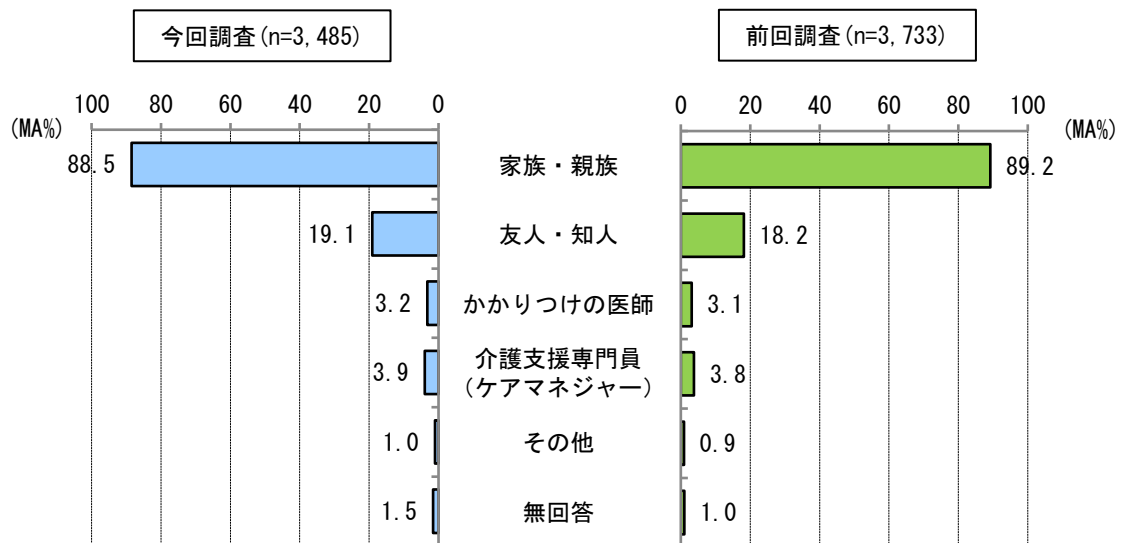


問14-1 人生の最終段階についての話し合った相手

問14で「1 はい」と回答された方におうかがいします。
誰と話し合われましたか。(〇はいくつでも)

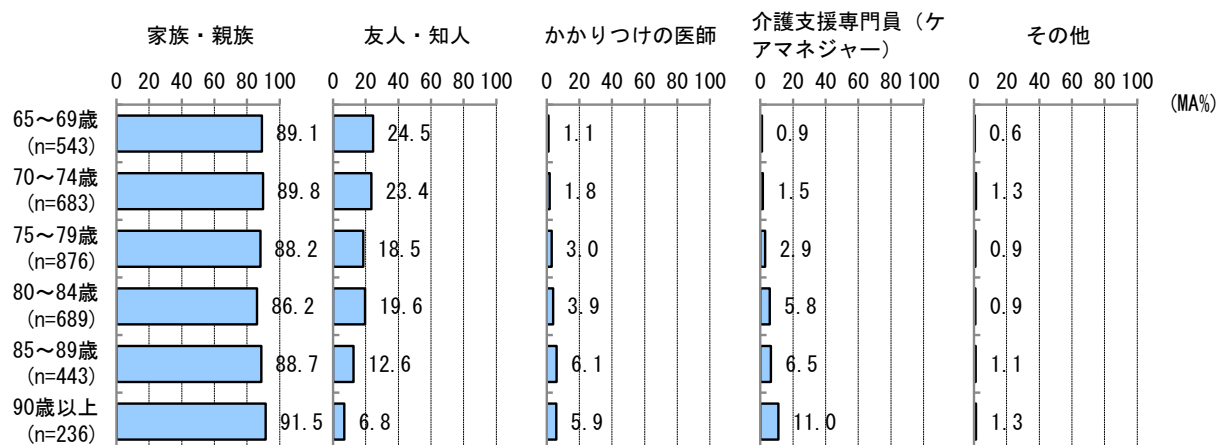
人生の最終段階について話し合ったことがあると回答した人に、話し合った相手をたずねると、「家族・親族」の割合が88.5%で最も高く、次いで「友人・知人」が19.1%となっている。前回調査の結果から大きな変化はみられない。(問14-1)

【問14-1 人生の最終段階についての話し合った相手（経年比較）】



年齢別では、後期高齢者から「介護支援専門員（ケアマネジャー）」の割合が増加している。(問14-1-a)

【問14-1-a 人生の最終段階についての話し合った相手（年齢別）】

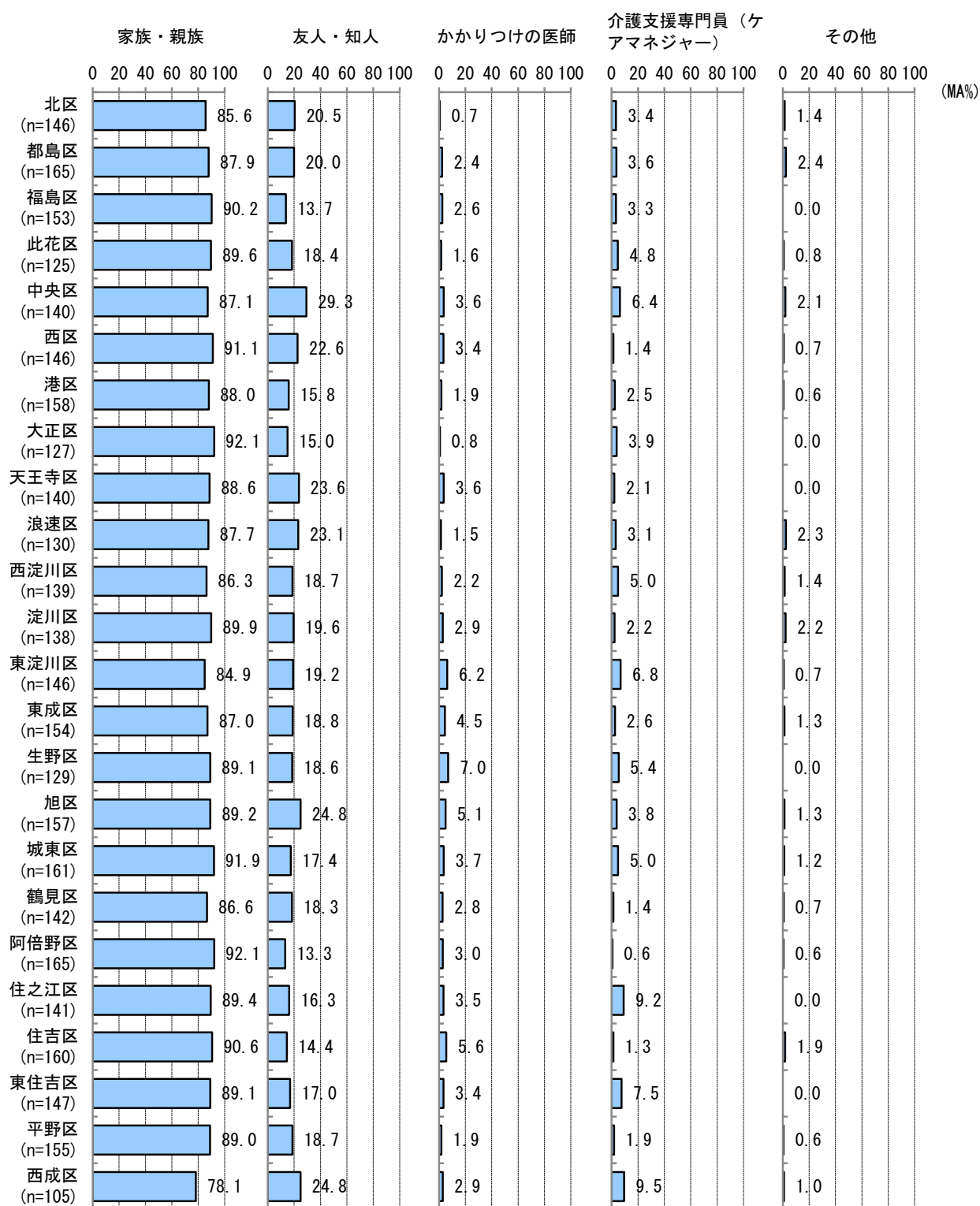


* 前期・後期別



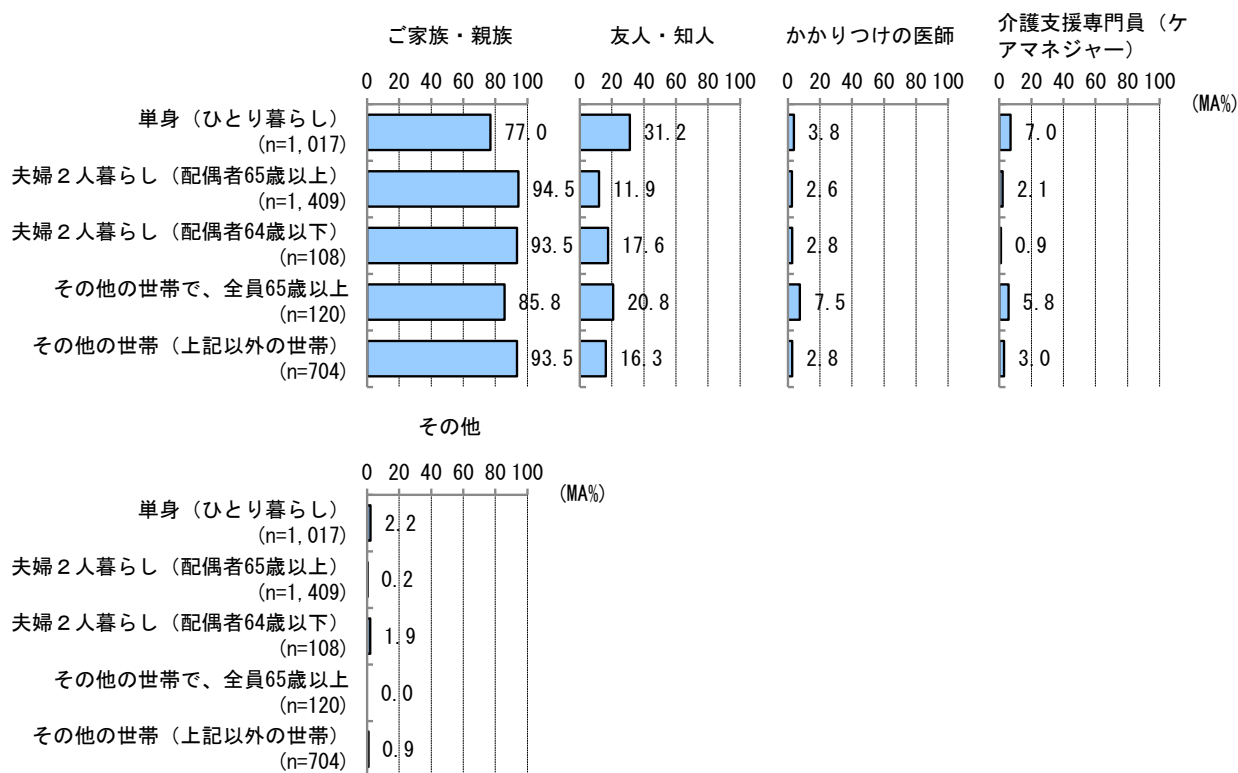
居住区別では、「家族・親族」の割合は西成区が78.1%で最も低く、「友人・知人」は中央区が29.3%で最も高くなっている。(問14-1-b)

【問14-1-b 人生の最終段階についての話し合った相手(居住区別)】



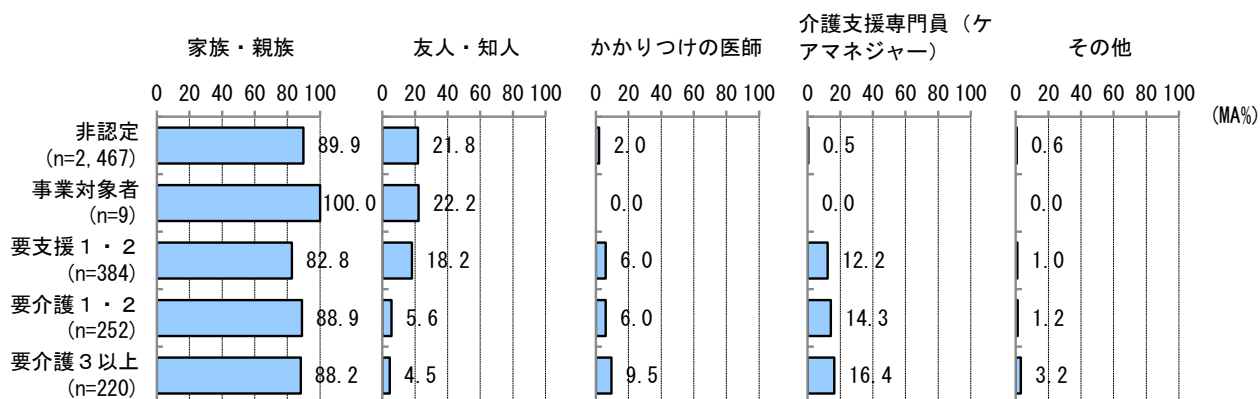
世帯状況別では、「ご家族・親族」の割合は、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）において94.5%と最も高く、この割合が77.0%と最も低い単身（ひとり暮らし）の世帯は、他の世帯よりも「友人・知人」「介護支援専門員（ケアマネジャー）」の割合が高くなっている。（問14-1-c）

【問14-1-c 人生の最終段階についての話し合った相手（世帯状況別）】



介護度別では、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」の割合は介護度が重度になるほど高くなっている。（問14-1-d）

【問14-1-d 人生の最終段階についての話し合った相手（介護度別）】



問14-2 話し合いで決めた内容の共有有無

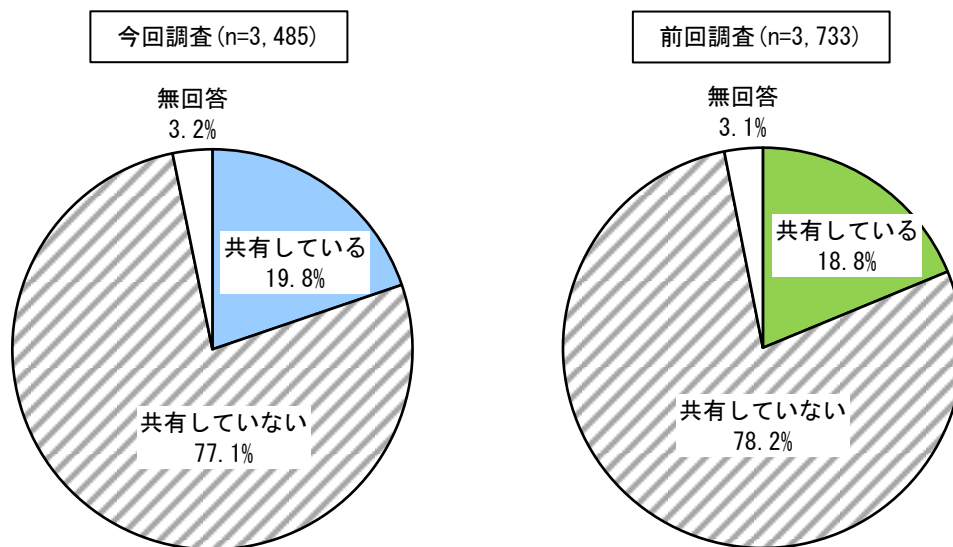
問14で「1 はい」と回答された方におうかがいします。

決めた内容を文書に記載するなど共有できるようにしていますか。(○はひとつ)

人生の最終段階について話し合ったことがあると回答した人に、決めた内容を共有できるようにしているかたずねると、「共有している」が19.8%に対し、「共有していない」が77.1%となっている。

前回調査の結果から大きな変化はみられない。(問14-2)

【問14-2-a 話し合いで決めた内容の共有有無（経年比較）】



※選択肢記述の変換：「はい」→「共有している」、「いいえ」→「共有していない」

（４）地域生活支援

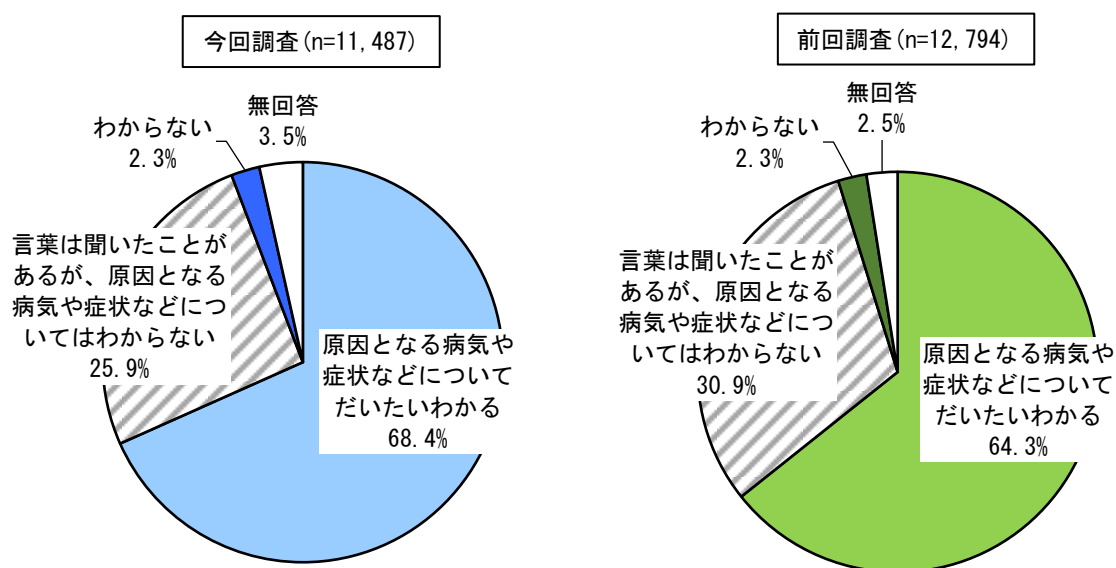
問15 認知症の認知度

あなたは「認知症」という病気を知っていますか。（○はひとつ）

認知症という病気について、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」の割合が68.4%で最も高く、次いで「言葉は聞いたことがあるが、原因となる病気や症状などについてはわからない」が25.9%となっている。

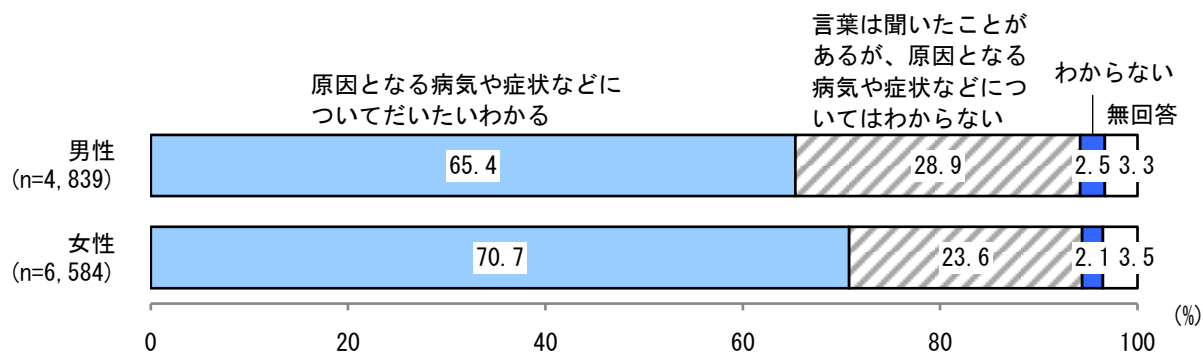
前回調査の結果に比べ、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」の割合が4.1ポイント増加している。（問15）

【問15 認知症の認知度（経年比較）】



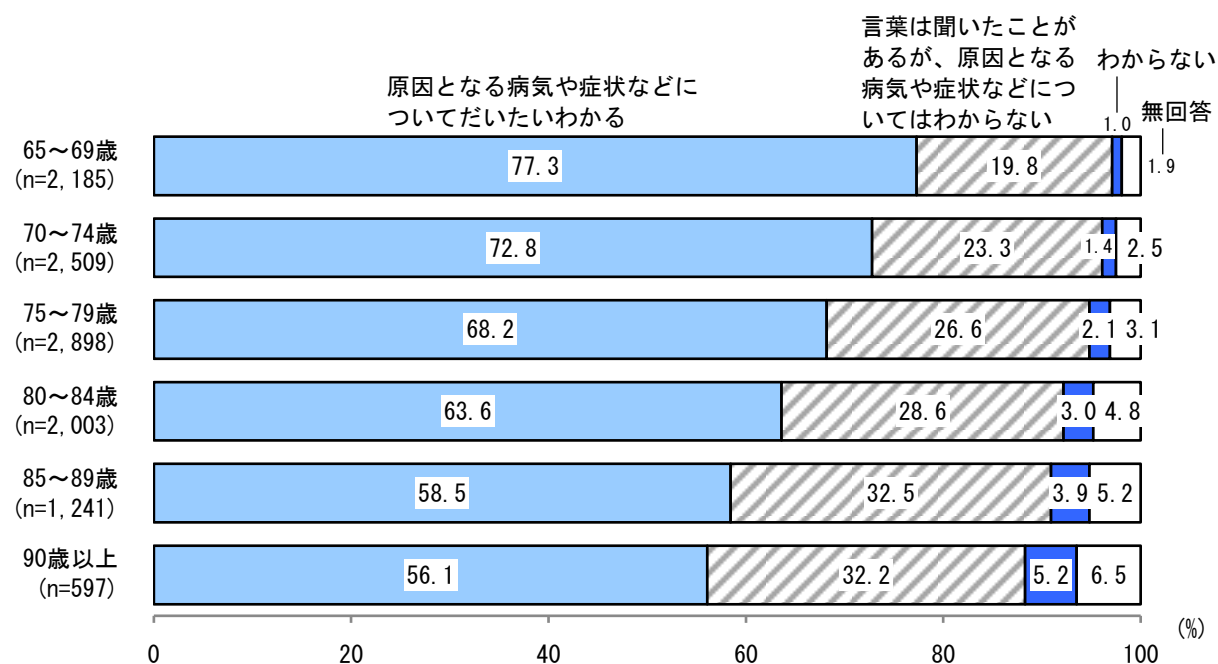
性別では、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」の割合は男性より女性の方が高くなっている。（問15-a）

【問15-a 認知症の認知度（性別）】

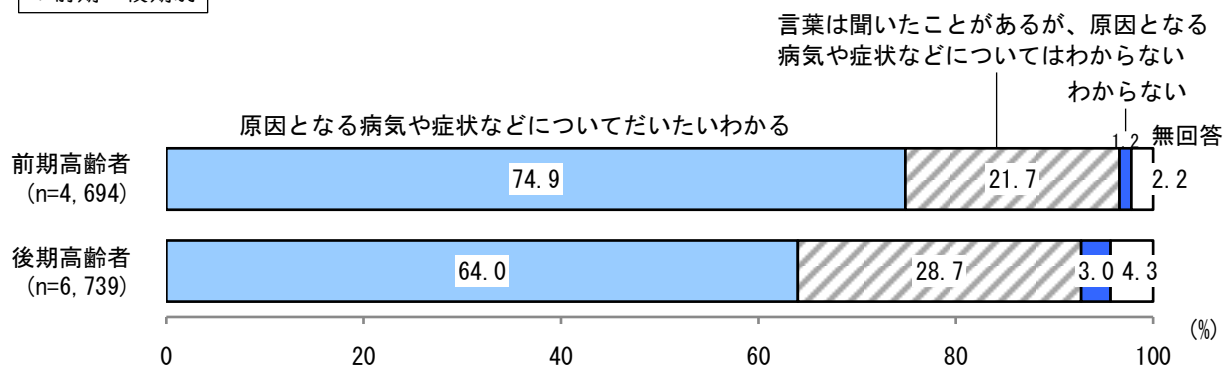


年齢別では、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」の割合は高齢になるほど低くなっている。(問15-b)

【問15-b 認知症の認知度（年齢別）】



*前期・後期別



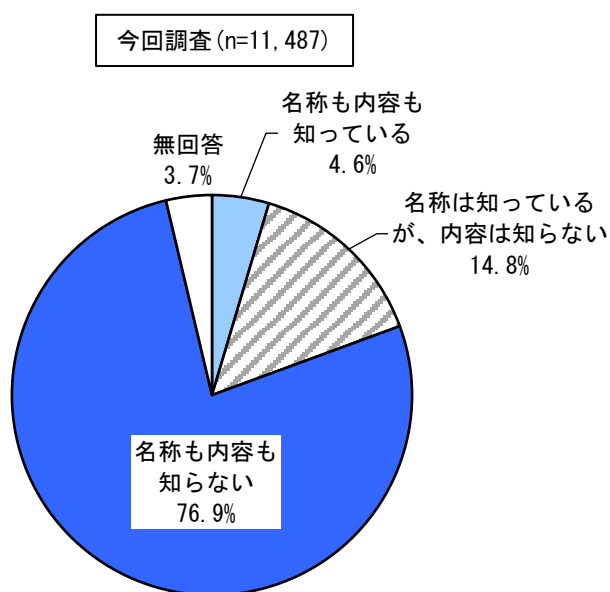
問16 認知症基本法の認知度

あなたは『共生社会の実現を推進するための認知症基本法』を知っていますか。(〇はひとつ)

『共生社会の実現を推進するための認知症基本法』の認知度は、「名称も内容も知らない」の割合が76.9%で最も高く、次いで「名称は知っているが、内容は知らない」が14.8%、「名称も内容も知っている」が4.6%となっている。

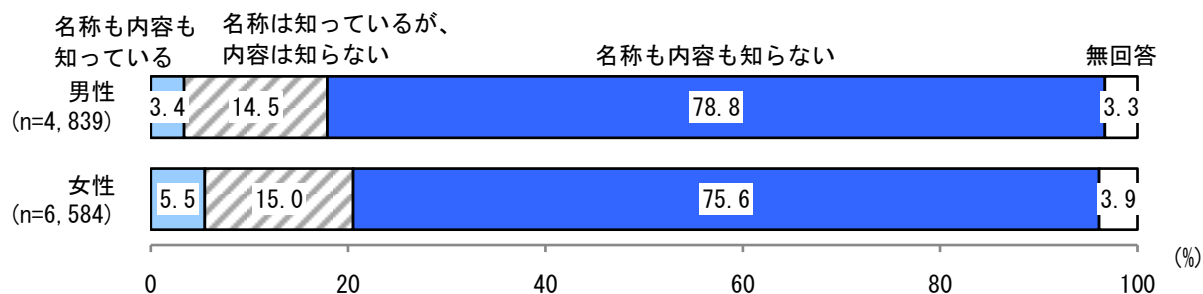
名称の認知度（「名称も内容も知っている」と「名称は知っているが、内容は知らない」の合計）は、19.4%となっている。（問16）

【問16 認知症基本法の認知度】



性別では、名称の認知度は男性より女性の方が高くなっている。（問16-a）

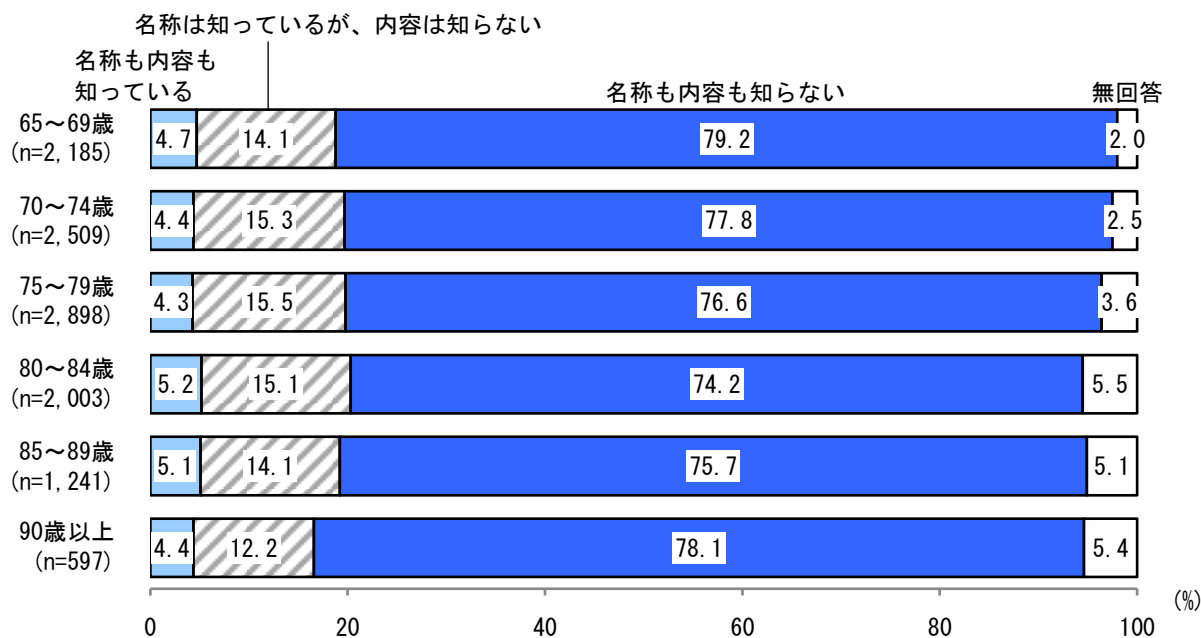
【問16-a 認知症基本法の認知度（性別）】



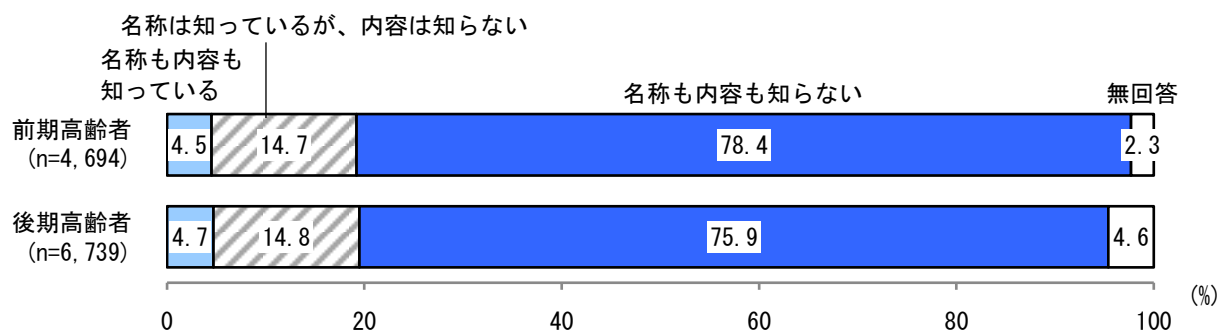
年齢別では、いずれの年齢も「名称も内容も知っている」の割合は5%前後となっている。

名称の認知度は、80～84歳が20.3%で最も高くなっているのに対し、90歳以上が16.6%で最も低く、これに次いで65～69歳の18.8%となっている。逆に、「名称も内容も知らない」の割合は65～69歳が79.2%で最も高くなっている。(問16-b)

【問16-b 認知症基本法の認知度（年齢別）】



* 前期・後期別



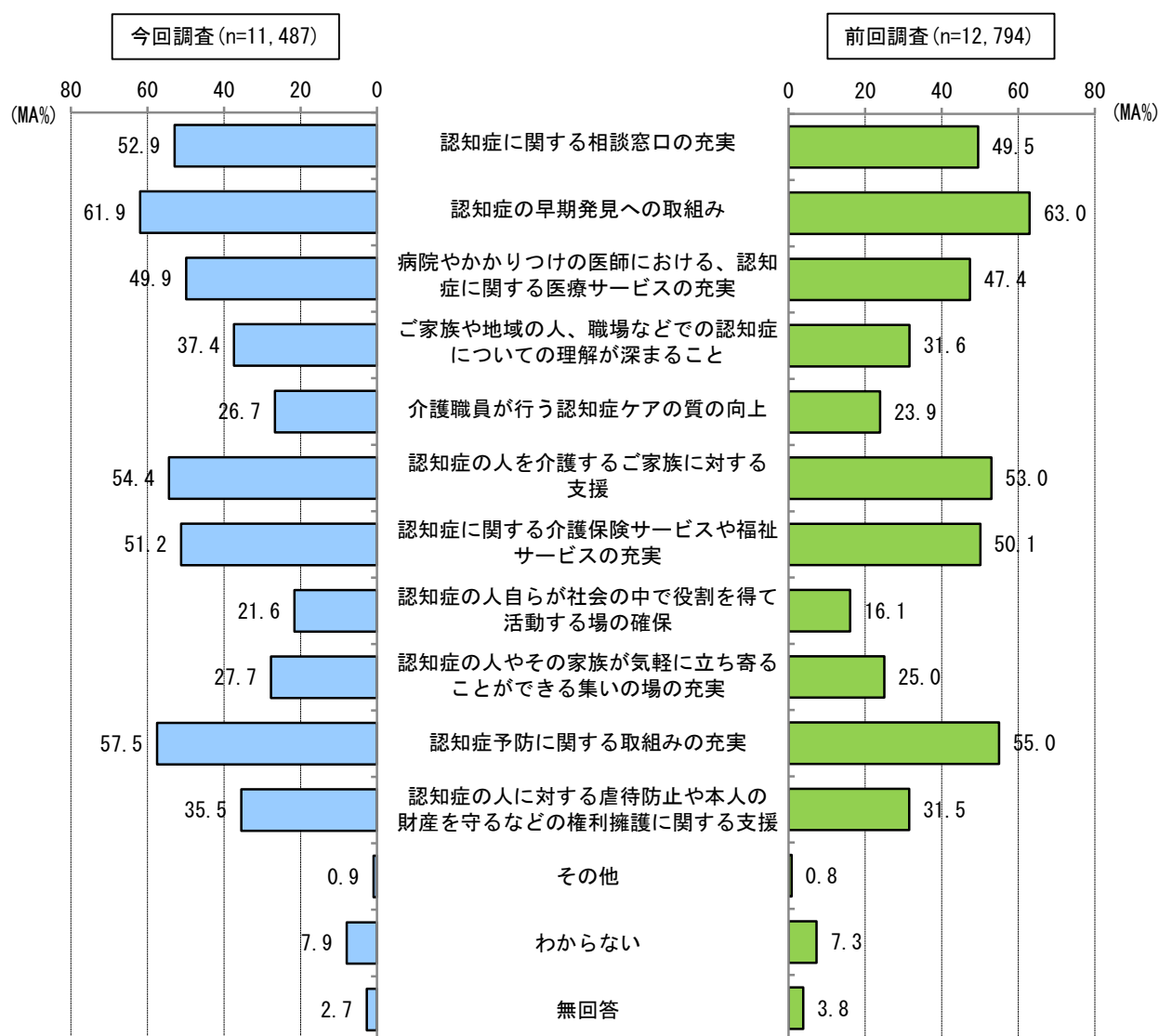
問17 認知症の人の支援

あなたは、認知症の人の支援に必要なことは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

認知症の人の支援に必要なことは、「認知症の早期発見への取組み」の割合が61.9%で最も高く、次いで「認知症予防に関する取組みの充実」が57.5%、「認知症の人を介護するご家族に対する支援」が54.4%、「認知症に関する相談窓口の充実」が52.9%となっている。

前回調査の結果に比べ、特に増加割合が高いのは、「ご家族や地域の人、職場などでの認知症についての理解が深まること」(5.8ポイント増)、「認知症の人自らが社会の中で役割を得て活動する場の確保」(5.5ポイント増)の2項目である。(問17)

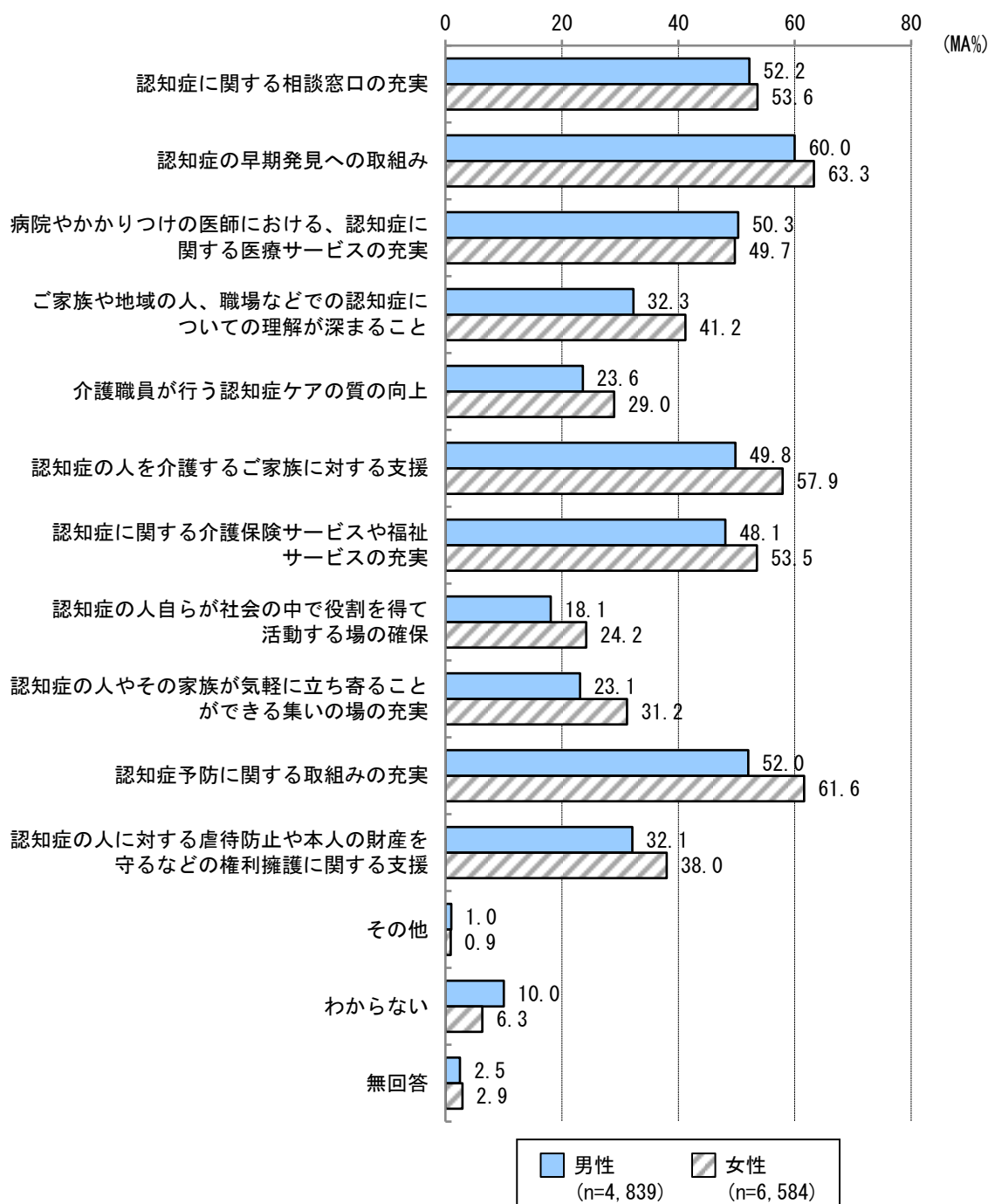
【問17 認知症の人の支援（経年比較）】



性別では、「病院やかかりつけの医師における、認知症に関する医療サービスの充実」「わからない」「その他」以外の項目の割合は、男性より女性の方が高くなっている。（問17-a）

前回調査の結果に比べ、男女とも、「ご家族や地域の人、職場などでの認知症についての理解が深まること」「認知症の人自らが社会の中で役割を得て活動する場の確保」の割合が3～7ポイント程度増加している。（問17-a-1）

【問17-a 認知症の人の支援（性別）】



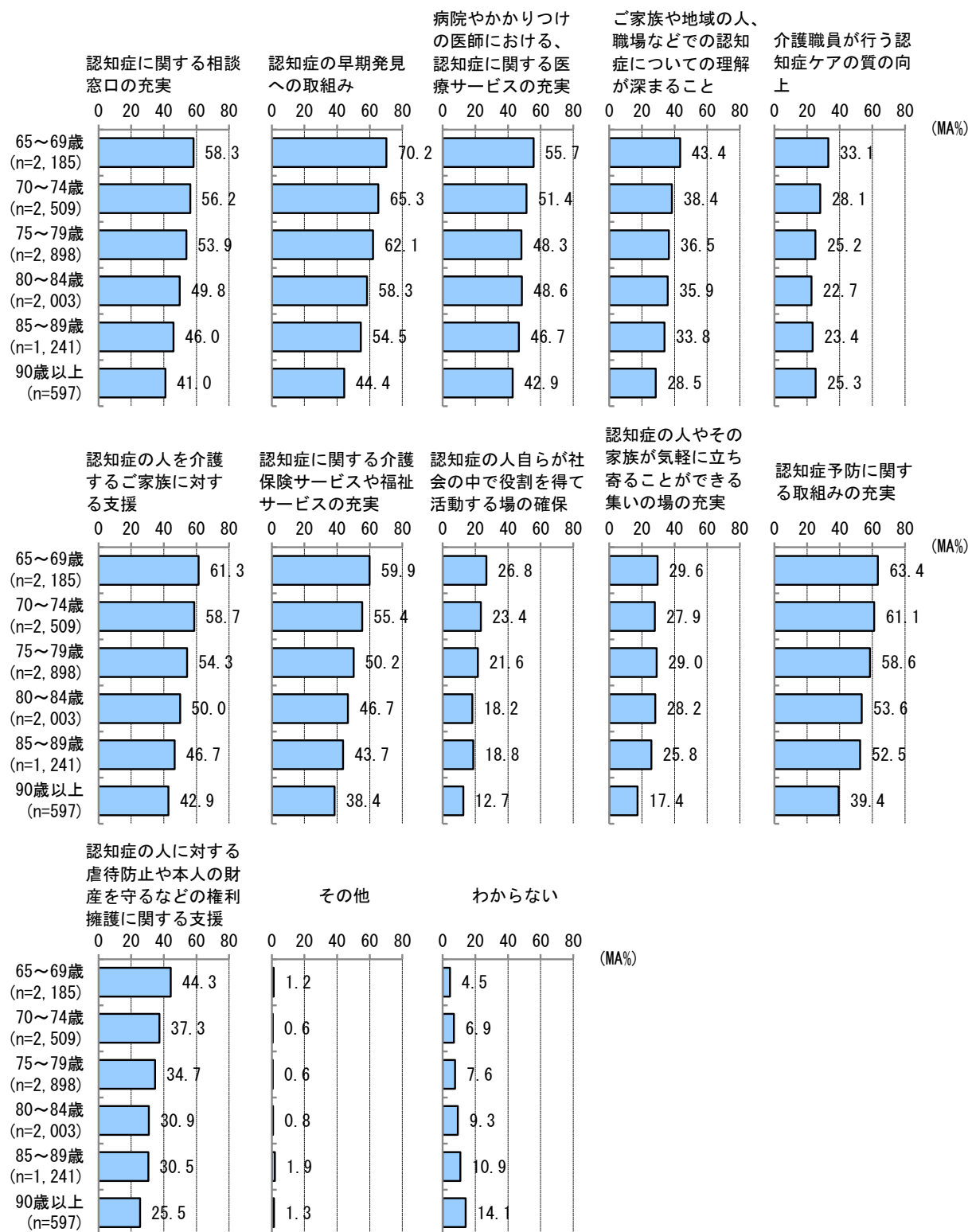
【問17-a-1 認知症の人の支援（性別/経年比較）】

		(MA%)													
		認知症に関する相談窓口の充実	認知症の早期発見への取り組み	病院やかかりつけの医師における、認知症に関する医療サービスの充実	ご家族や地域の人、職場などでの認知症についての理解が深まること	介護職員が行う認知症ケアの質の向上	認知症の人を介護するご家族に対する支援	認知症に関する介護保険サービスや福祉サービスの充実	認知症の人自らが社会の中で役割を得て活動する場の確保	認知症の人やその家族が気軽に立ち寄ることができる集いの場の充実	認知症予防に関する取組みの充実	認知症の人に対する虐待防止や本人の財産を守るなどの権利擁護に関する支援	その他	わからない	無回答
男性	今回調査(n=4,839)	52.2	60.0	50.3	32.3	23.6	49.8	48.1	18.1	23.1	52.0	32.1	1.0	10.0	2.5
	前回調査(n=5,387)	50.0	61.5	48.5	28.5	21.8	51.0	48.3	14.6	21.8	51.4	29.7	0.8	8.6	3.6
	差(今回-前回)	2.2	▲1.5	1.8	3.8	1.8	▲1.2	▲0.2	3.5	1.3	0.6	2.4	0.2	1.4	▲1.1
女性	今回調査(n=6,584)	53.6	63.3	49.7	41.2	29.0	57.9	53.5	24.2	31.2	61.6	38.0	0.9	6.3	2.9
	前回調査(n=7,220)	49.5	64.2	46.8	34.1	25.7	54.8	51.8	17.4	27.5	58.1	32.9	0.8	6.3	3.8
	差(今回-前回)	4.1	▲0.9	2.9	7.1	3.3	3.1	1.7	6.8	3.7	3.5	5.1	0.1	0.0	▲0.9

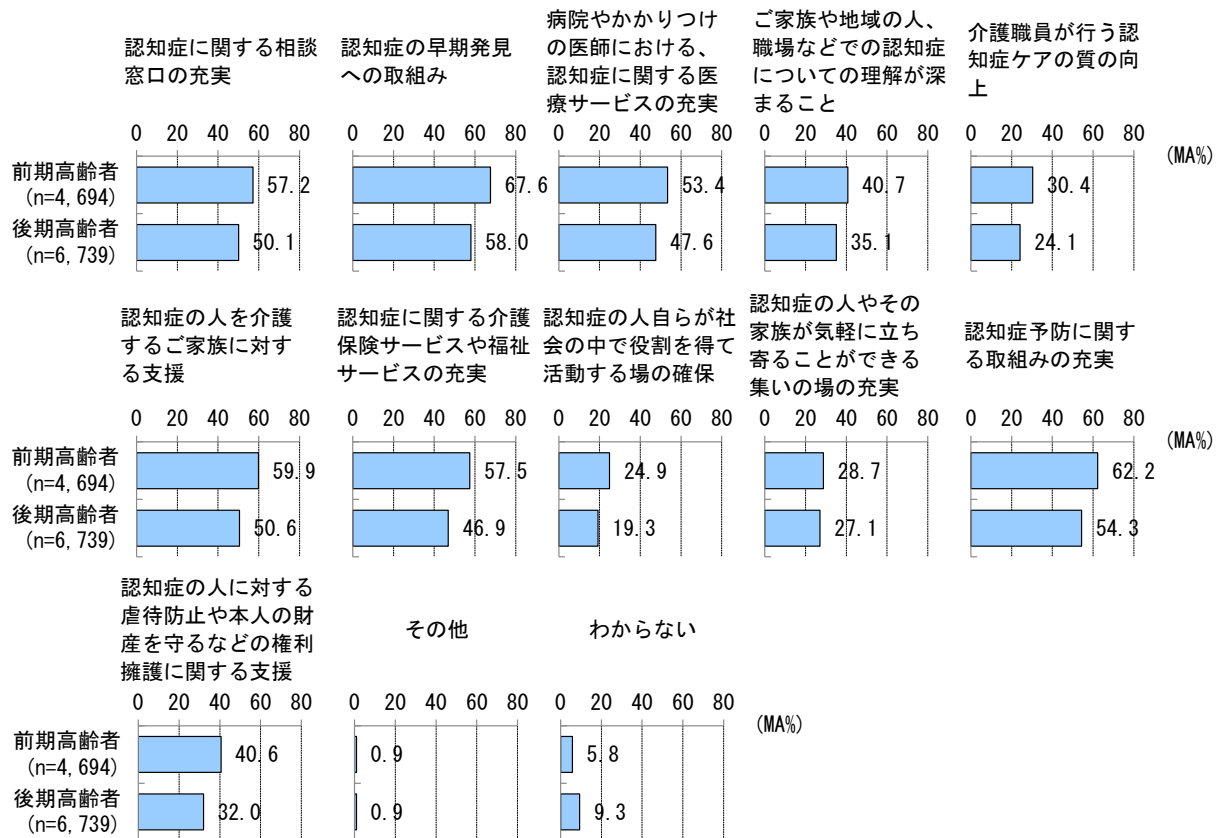
年齢別では、いずれの項目の割合も高齢になるほど低くなる傾向がみられる。(問17-b)

前回調査の結果に比べ、いずれの年代も「ご家族や地域の人、職場などでの認知症についての理解が深まること」「認知症の人自らが社会の中で役割を得て活動する場の確保」の割合は増加し、他の項目に比べ増加割合が比較的高くなっている。(問17-b-1)

【問17-b 認知症の人の支援（年齢別）】



＊前期・後期別



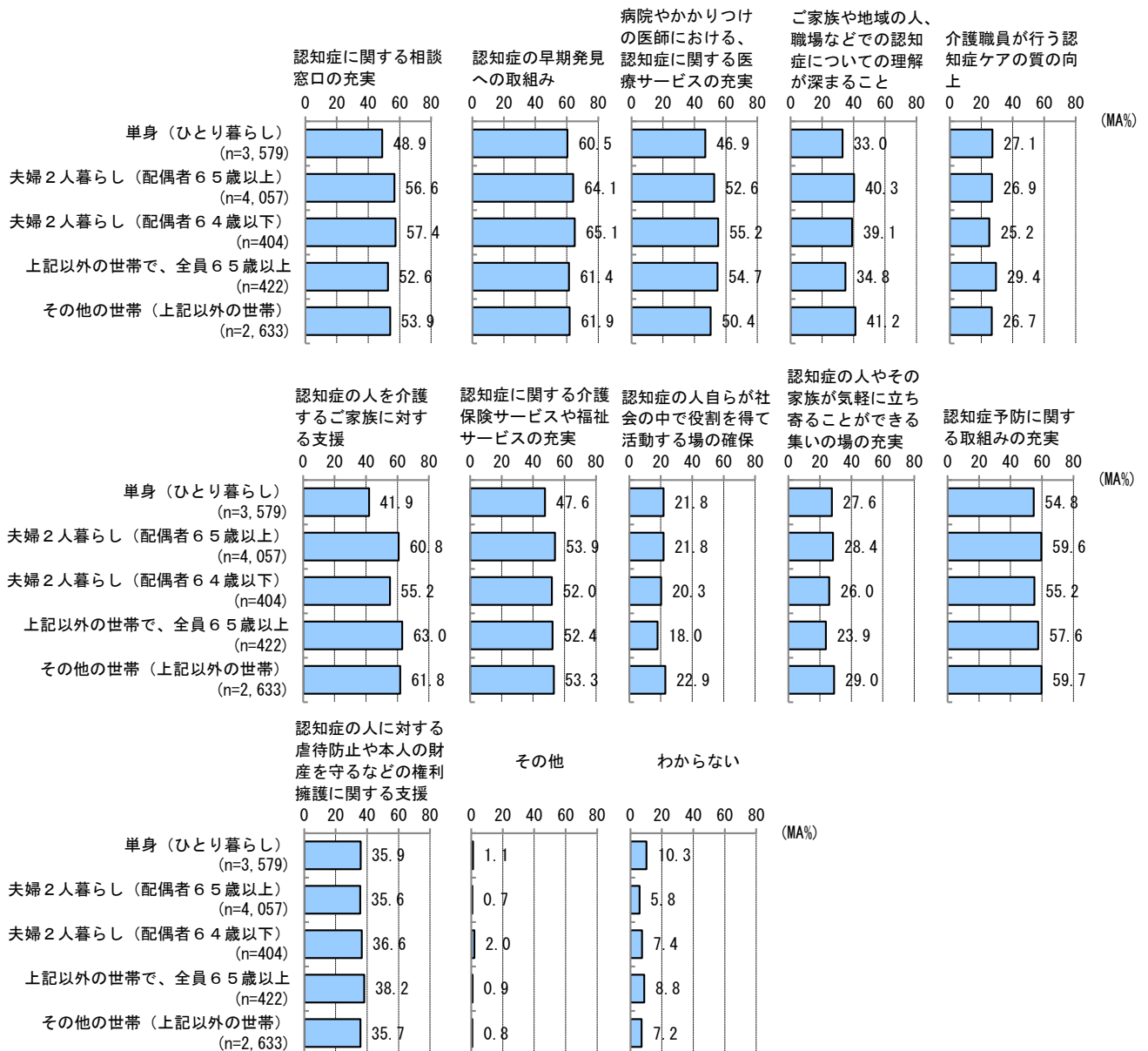
【問17-b-1 認知症の人の支援（年齢別/経年比較）】

		認知症に関する相談窓口の充実	認知症の早期発見への取組み	病院やかかりつけの医師における、認知症に関する医療サービスの充実	ご家族や地域の人、職場などでの認知症についての理解が深まること	介護職員が行う認知症ケアの質の向上	認知症の人を介護するご家族に対する支援	認知症に関する介護保険サービスや福祉サービスの充実	認知症の人自らが社会の中で役割を得て活動する場の確保	認知症の人やその家族が気軽に立ち寄ることができる集いの場の充実	認知症予防に関する取組みの充実	認知症の人に対する虐待防止や本人の財産を守るなどの権利擁護に関する支援	その他	わからない
65～69歳	今回調査 (n=2,185)	58.3	70.2	55.7	43.4	33.1	61.3	59.9	26.8	29.6	63.4	44.3	1.2	4.5
	前回調査 (n=2,361)	54.7	69.7	51.6	35.5	28.4	62.3	59.5	20.5	27.0	61.4	38.3	0.8	3.5
	差 (今回－前回)	3.6	0.5	4.1	7.9	4.7	▲ 1.0	0.4	6.3	2.6	2.0	6.0	0.4	1.0
70～74歳	今回調査 (n=2,509)	56.2	65.3	51.4	38.4	28.1	58.7	55.4	23.4	27.9	61.1	37.3	0.6	6.9
	前回調査 (n=3,421)	53.7	66.5	49.2	33.7	25.9	57.5	54.0	17.8	27.5	59.9	34.3	1.0	6.5
	差 (今回－前回)	2.5	▲ 1.2	2.2	4.7	2.2	1.2	1.4	5.6	0.4	1.2	3.0	▲ 0.4	0.4
75～79歳	今回調査 (n=2,898)	53.9	62.1	48.3	36.5	25.2	54.3	50.2	21.6	29.0	58.6	34.7	0.6	7.6
	前回調査 (n=2,692)	49.3	62.2	46.8	29.9	21.1	50.7	47.7	15.5	25.1	55.0	29.4	0.4	7.4
	差 (今回－前回)	4.6	▲ 0.1	1.5	6.6	4.1	3.6	2.5	6.1	3.9	3.6	5.3	0.2	0.2
80～84歳	今回調査 (n=2,003)	49.8	58.3	48.6	35.9	22.7	50.0	46.7	18.2	28.2	53.6	30.9	0.8	9.3
	前回調査 (n=2,255)	45.9	60.4	45.3	30.0	22.3	47.9	45.6	14.2	24.4	51.7	28.2	1.0	8.9
	差 (今回－前回)	3.9	▲ 2.1	3.3	5.9	0.4	2.1	1.1	4.0	3.8	1.9	2.7	▲ 0.2	0.4
85～89歳	今回調査 (n=1,241)	46.0	54.5	46.7	33.8	23.4	46.7	43.7	18.8	25.8	52.5	30.5	1.9	10.9
	前回調査 (n=1,300)	42.7	55.9	44.1	28.4	21.8	44.7	42.5	12.7	20.5	46.8	26.4	0.8	10.4
	差 (今回－前回)	3.3	▲ 1.4	2.6	5.4	1.6	2.0	1.2	6.1	5.3	5.7	4.1	1.1	0.5
90歳以上	今回調査 (n=597)	41.0	44.4	42.9	28.5	25.3	42.9	38.4	12.7	17.4	39.4	25.5	1.3	14.1
	前回調査 (n=577)	38.0	45.4	40.7	26.3	20.3	40.7	38.8	7.8	14.7	36.4	22.7	1.0	13.5
	差 (今回－前回)	3.0	▲ 1.0	2.2	2.2	5.0	2.2	▲ 0.4	4.9	2.7	3.0	2.8	0.3	0.6

いずれの世帯状況別においても「認知症の早期発見への取組み」や「認知症予防に関する取組みの充実」の各割合が高くなっている。「認知症の人を介護するご家族に対する支援」の割合は、単身（ひとり暮らし）の世帯が41.9%で最も低く、他の世帯では6割前後となっている。

単身（ひとり暮らし）の世帯では、「認知症に関する相談窓口の充実」「病院やかかりつけの医師における認知症に関する医療サービスの充実」「ご家族や地域の人、職場などでの認知症についての理解が深まること」「認知症に関する介護保険サービスや福祉サービスの充実」の各割合も他の世帯に比べ低くなっている。（問17-c）

【問17-c 認知症の人の支援（世帯状況別）】



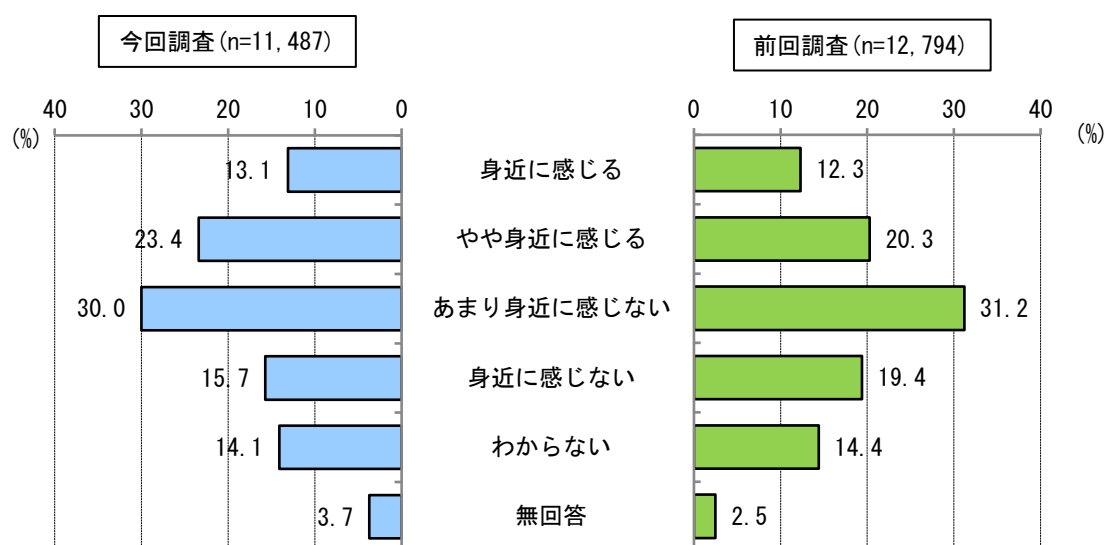
問18 孤立死に対する意識

あなたは、孤立死についてどのように考えますか。(○はひとつ)

孤立死について、「あまり身近に感じない」の割合が30.0%で最も高く、次いで「やや身近に感じる」が23.4%となっている。『身近に感じる』の割合（「身近に感じる」と「やや身近に感じる」の合計）は36.5%で、全体の3分の1ほどの人が身近だと感じている。

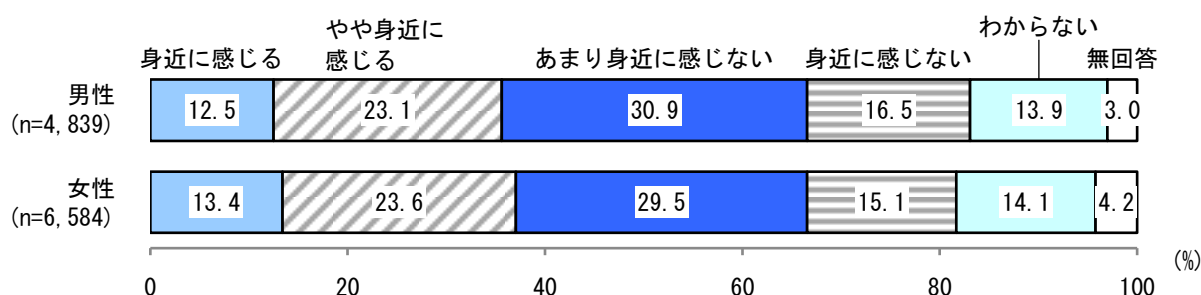
前回調査の結果に比べ、『身近に感じる』の割合は前回より3.9ポイント増え、孤立死を身近に感じている人の割合が前回より増加している。(問18)

【問18 孤立死に対する意識（経年比較）】



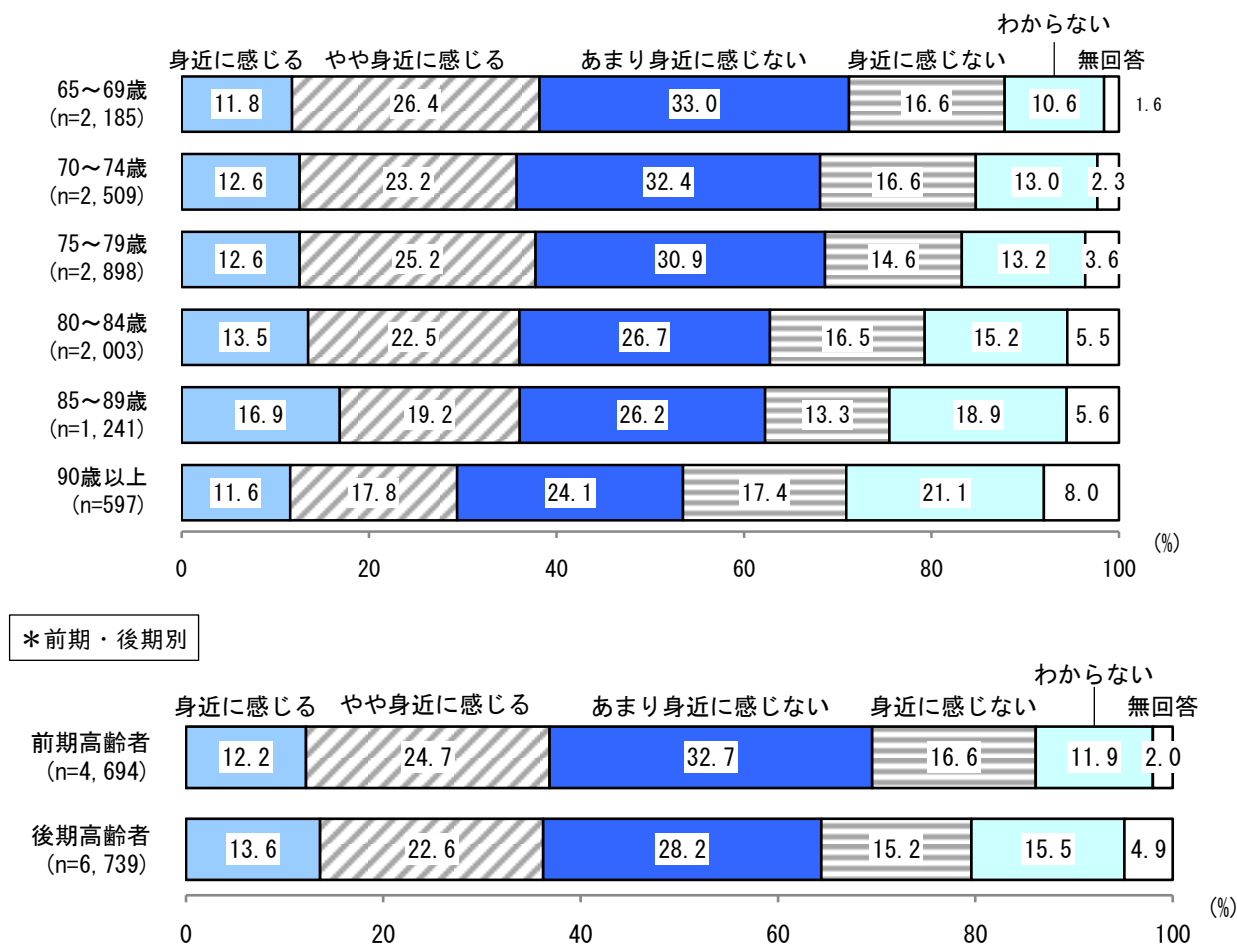
性別では、男女間で意識に大きな違いはみられない。(問18-a)

【問18-a 孤立死に対する意識（性別）】



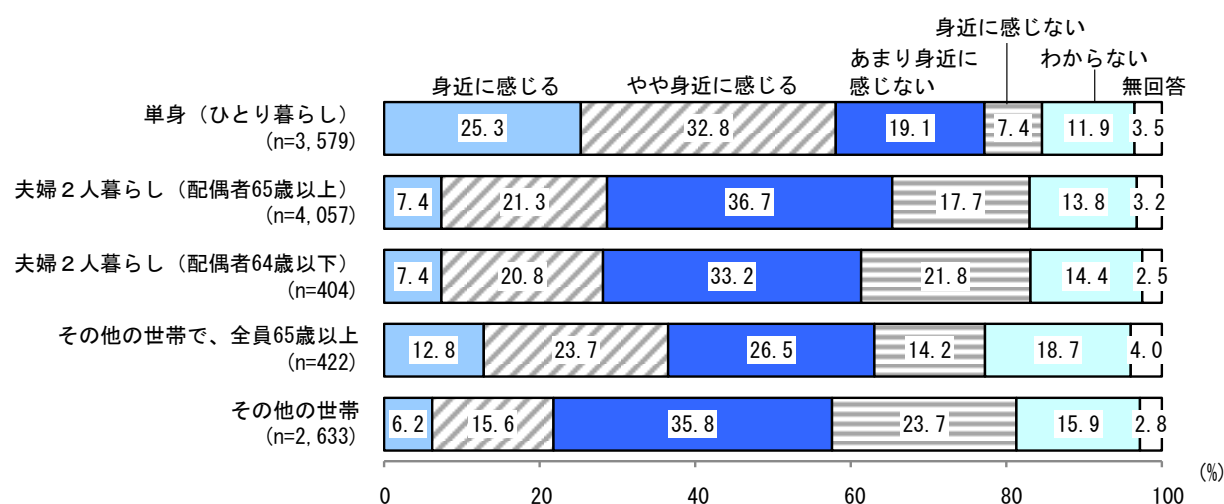
年齢別では、高齢になるとともに、「わからない（無回答含む）」の割合が増加している。『身近に感じる』の割合は、65～69歳が38.2%で最も高く、90歳以上が29.4%で最も低くなっている。（問18-b）

【問18-b 孤立死に対する意識（年齢別）】



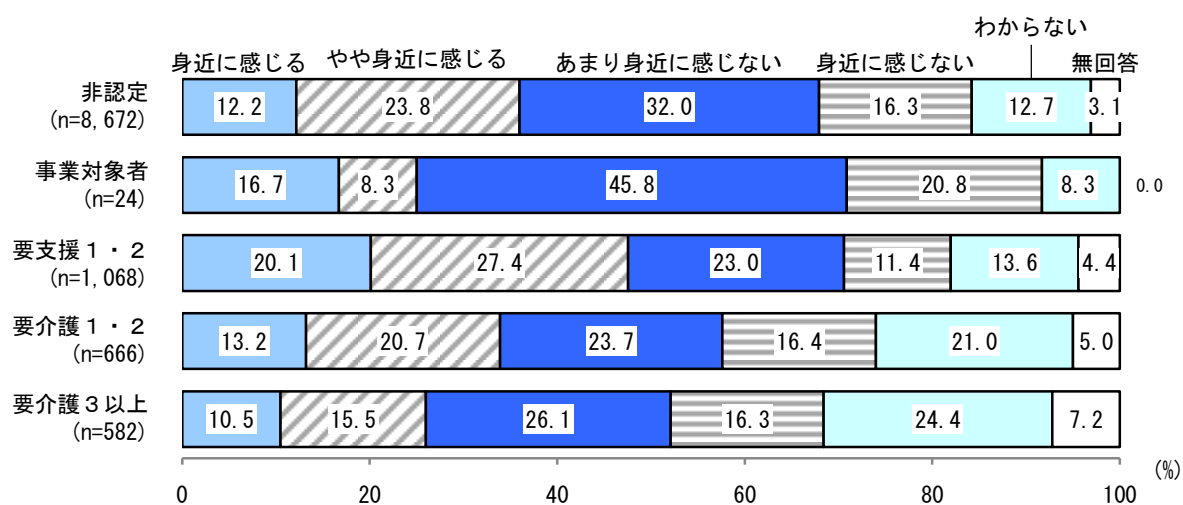
世帯状況別では、『身近に感じる』の割合は、単身（ひとり暮らし）の世帯が58.1%で最も高くなっている。（問18-c）

【問18-c 孤立死に対する意識（世帯状況別）】



介護度別では、『身近に感じる』の割合は要支援１・２が47.5%で最も高くなっている。(問18-d)

【問18-d 孤立死に対する意識（介護度別）】



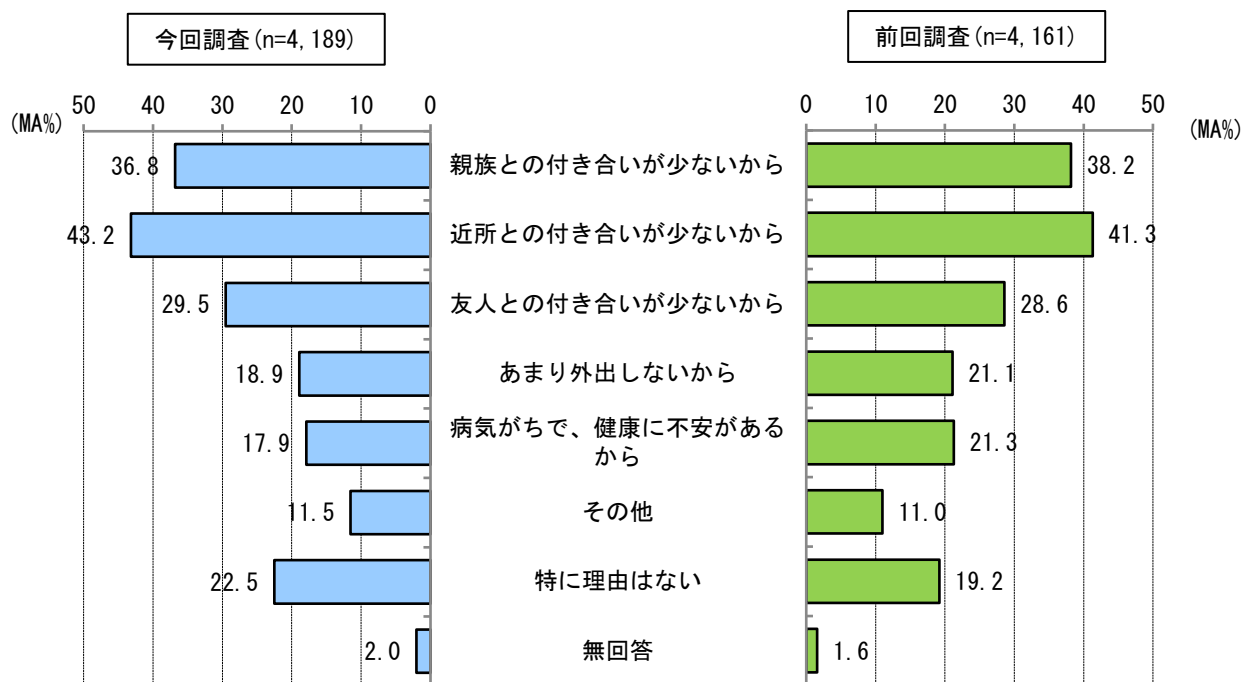
問18-1 孤立死を身近に感じる理由

問18で「1 身近に感じる」「2 やや身近に感じる」と回答された方におうかがいします。
あなたが身近だと感じる理由は次のどれにあたりますか。(〇はいくつでも)

孤立死が身近に感じると回答した人に、その理由をたずねると、「近所との付き合いが少ないから」の割合が43.2%で最も高く、次いで「親族との付き合いが少ないから」が36.8%、「友人との付き合いが少ないから」が29.5%となっている。

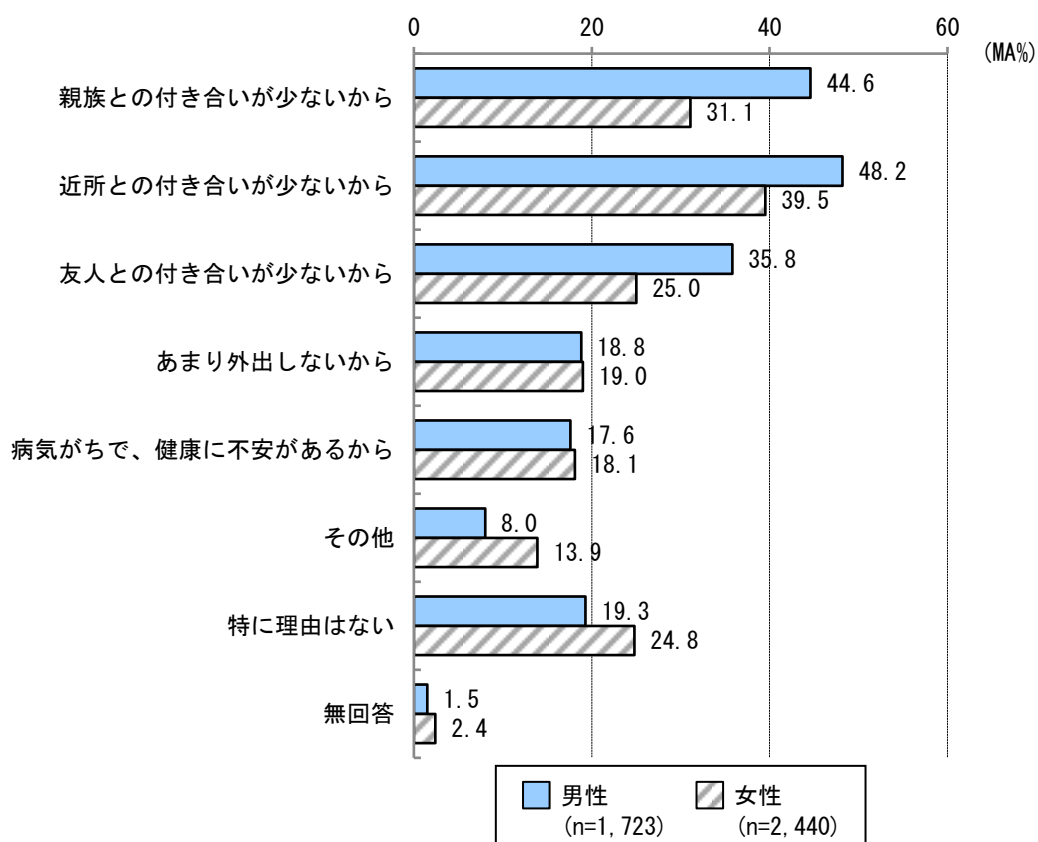
前回調査の結果から大きな変化はみられない。(問18-1)

【問18-1 孤立死を身近に感じる理由（経年比較）】



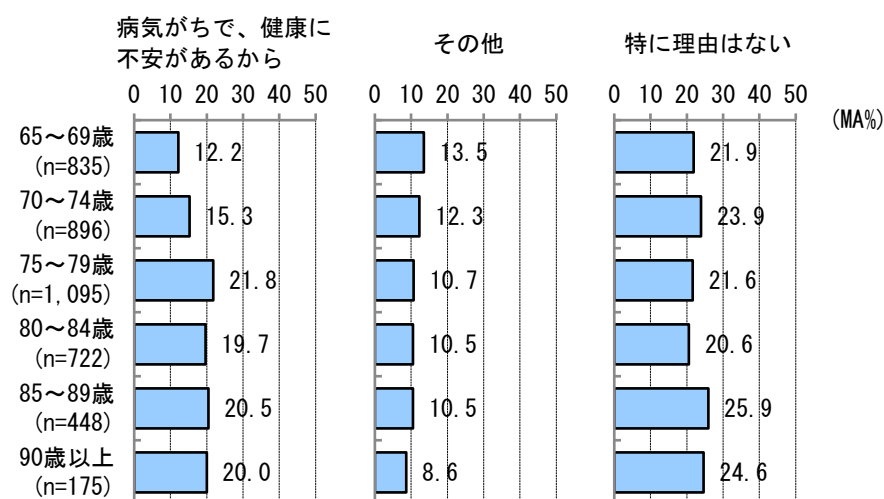
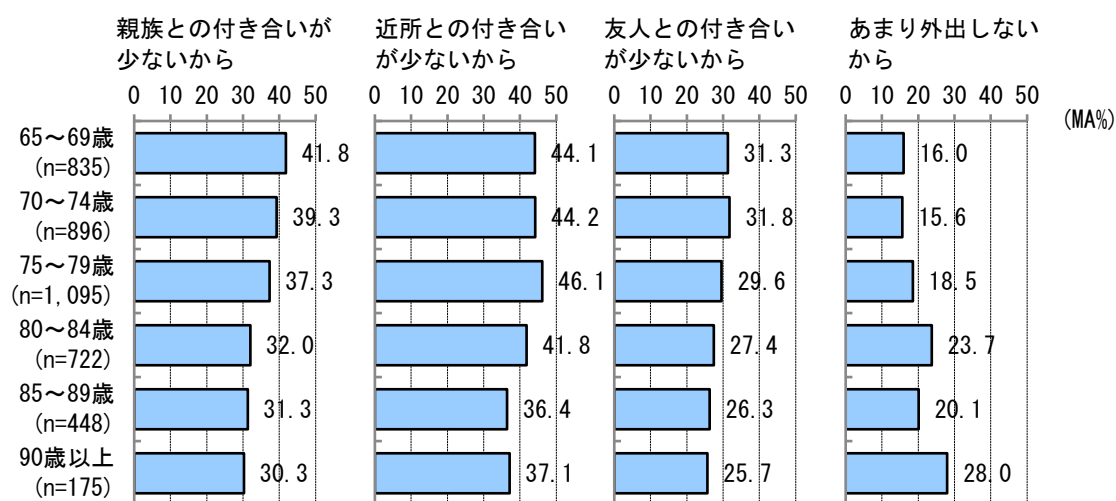
性別では、「親族との付き合いが少ないから」「友人との付き合いが少ないから」の割合は女性より男性の方が10ポイント以上高くなっている。(問18-1-a)

【問18-1-a 孤立死を身近に感じる理由（性別）】

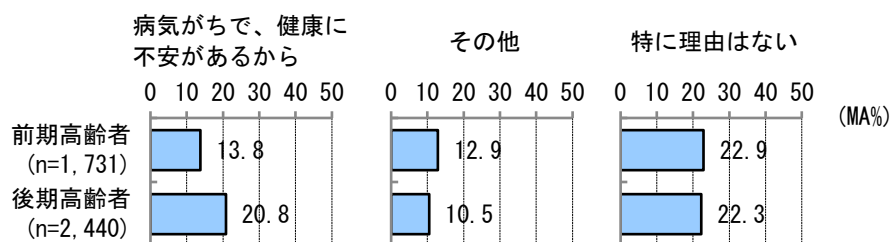
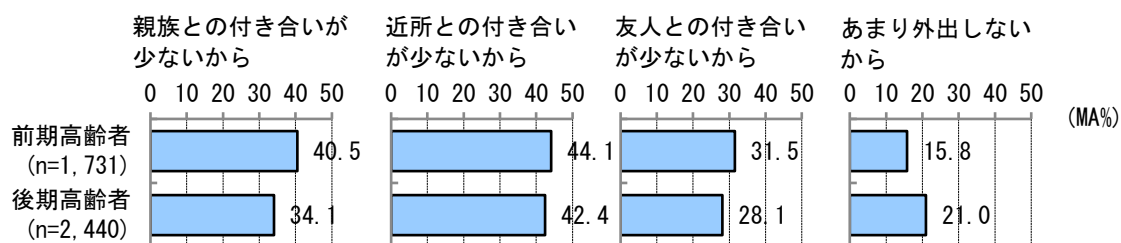


年齢別では、「親族との付き合いが少ないから」「近所との付き合いが少ないから」「友人との付き合いが少ないから」の割合は、高齢になるほど低くなる傾向がある。（問18-1-b）

【問18-1-b 孤立死を身近に感じる理由（年齢別）】

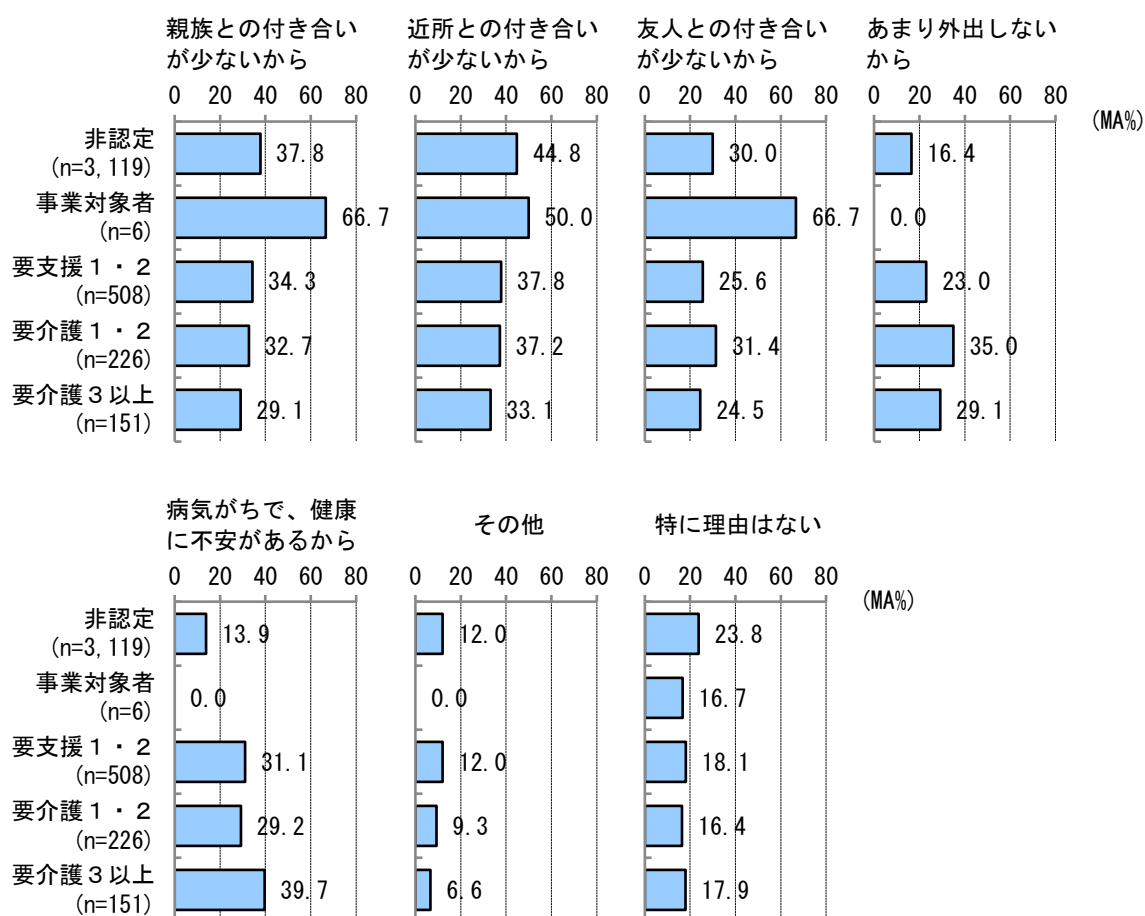


*前期・後期別



介護度別では、「病気がちで、健康に不安があるから」の割合は要介護3以上が39.7%で最も高くなっている。(問18-1-c)

【問18-1-c 孤立死を身近に感じる理由（介護度別）】

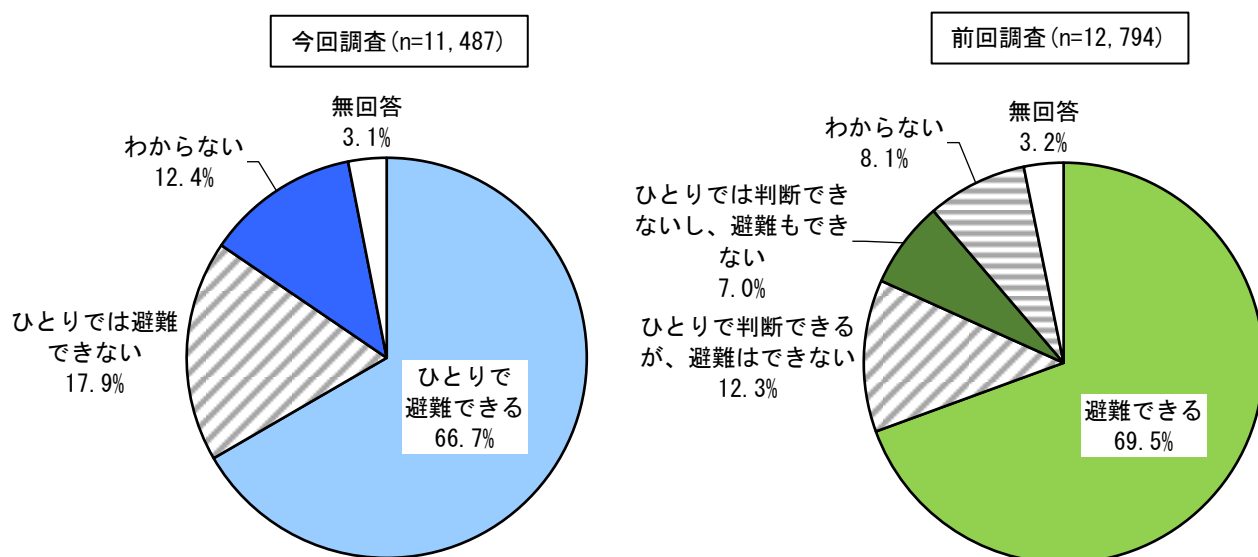


問19 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否

あなたは、災害時や緊急時にひとりで避難することができますか。(○はひとつ)

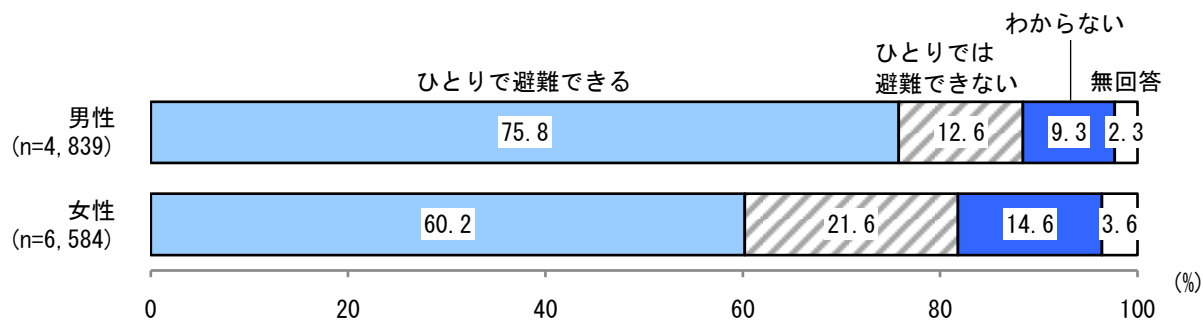
災害時や緊急時にひとりで避難できるかについて、「ひとりで避難できる」が66.7%、「ひとりでは避難できない」が17.9%となっている。(問19)

【問19 災害時・緊急時にひとりで避難の可否（経年比較）】



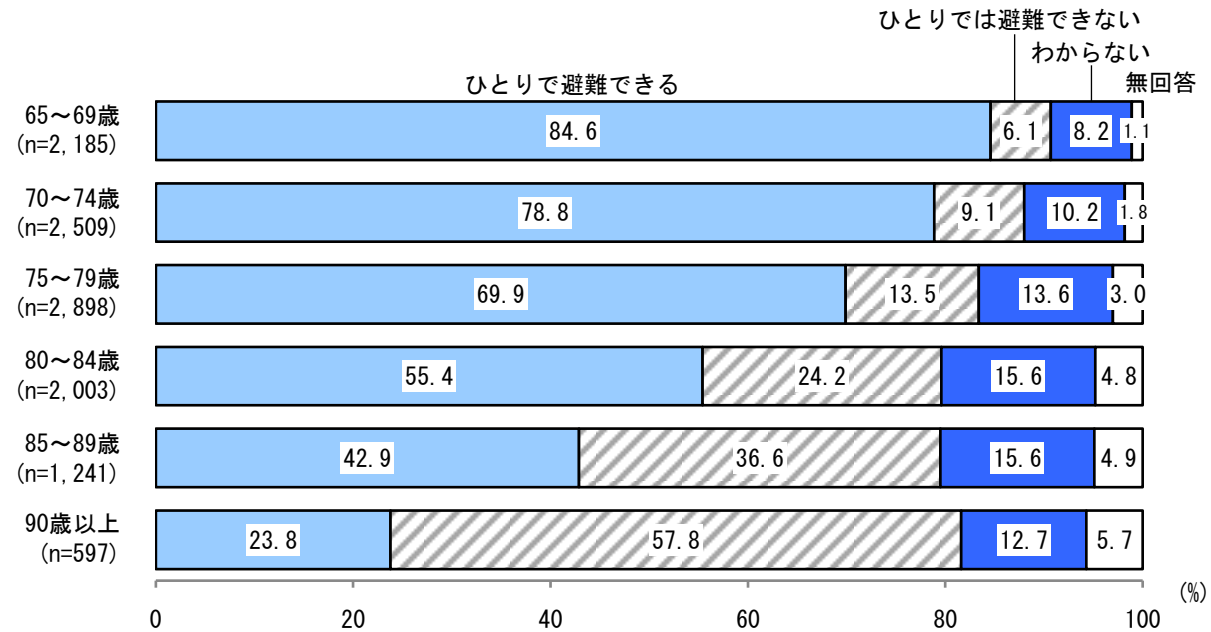
性別では、男性より女性の方が「ひとりで避難できる」の割合は低く、「ひとりでは避難できない」の割合が男性より高い。(問19-a)

【問19-a 災害時・緊急時にひとりで避難の可否（性別）】

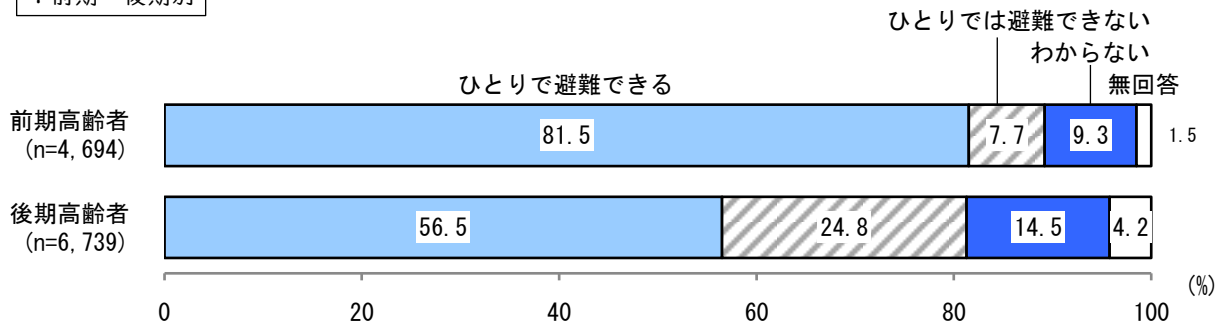


年齢別では、高齢になるほど「ひとりで避難できる」の割合が低くなっている。(問19-b)

【問19-b 災害時・緊急時にひとりで避難の可否（年齢別）】

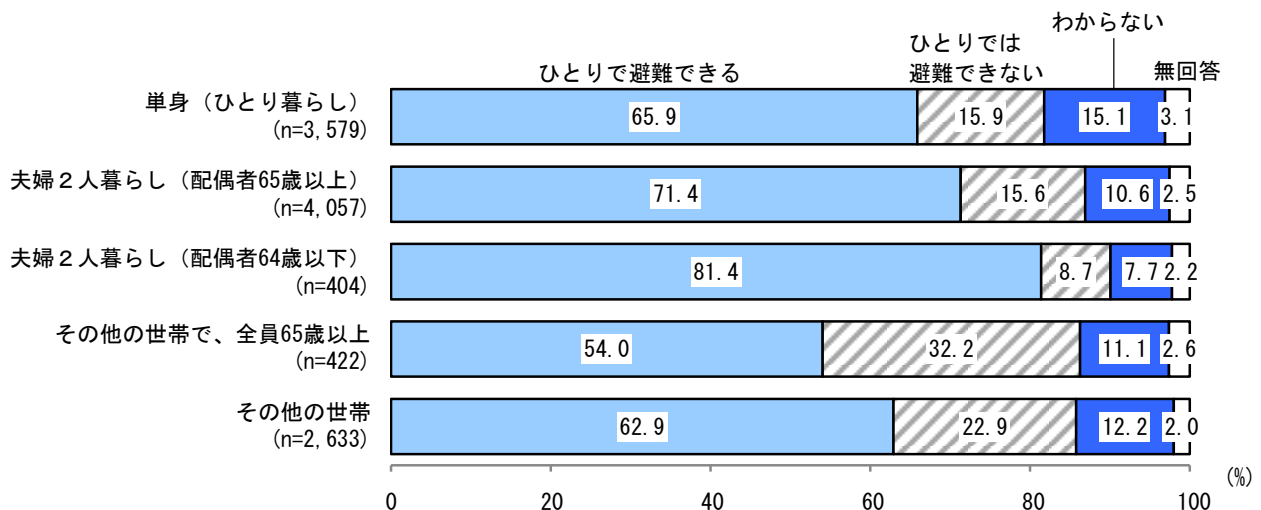


*前期・後期別



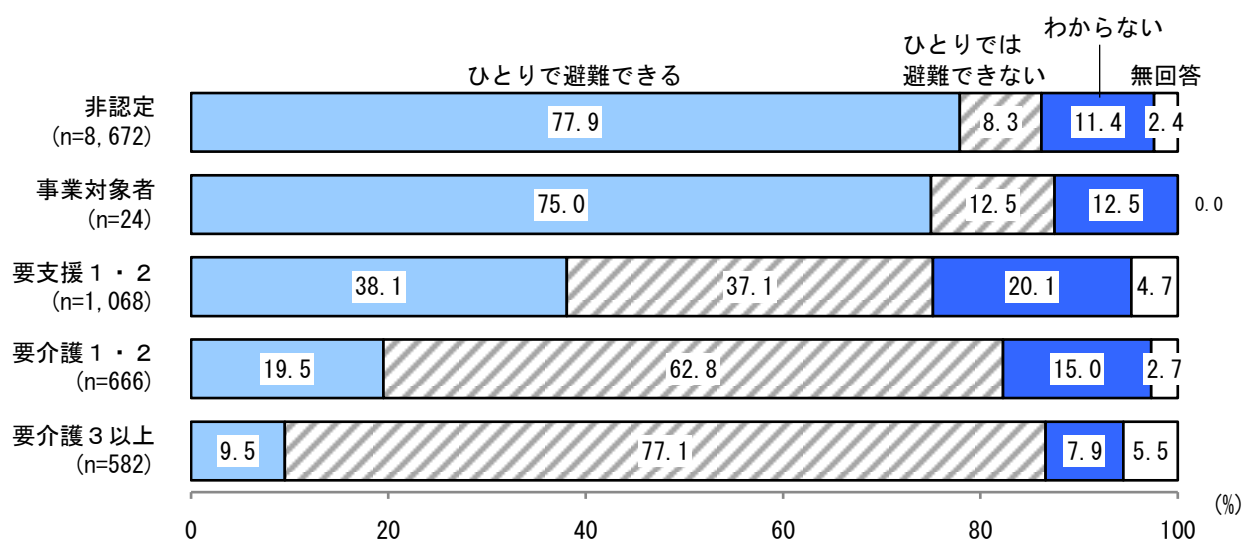
世帯状況別では、「ひとりで避難できる」は、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の世帯の割合が81.4%で最も高く、「ひとりで避難できない」は、その他の世帯で全員65歳以上の世帯が32.2%で最も高い。(問19-c)

【問19-c 災害時・緊急時にひとりで避難の可否（世帯状況別）】



介護度別では、「ひとりで避難できる」の割合は、非認定及び事業対象者では7割台であるが、介護度が重度になるほど減少し、要介護3以上では9.5%となっている。(問19-d)

【問19-d 災害時・緊急時にひとりで避難の可否（介護度別）】



問19-1 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無

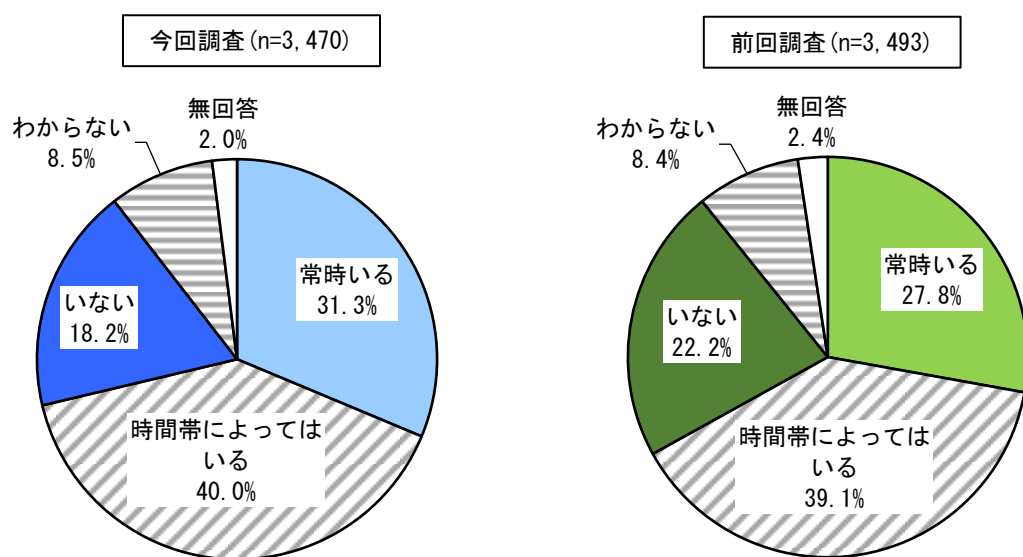
問19で「2 ひとりでは避難できない」「3 わからない」と回答された方におうかがいします。

災害時や緊急時に、手助けを頼める人（同居者を含む）はいますか。（○はひとつ）

ひとりでは避難できない、またはわからないと回答した人に、手助けを頼める人の有無をたずねると、「常時いる」が31.3%、「時間帯によってはいる」が40.0%で、これらをあわせた『手助けを頼める人がいる』の割合は71.3%となっている。

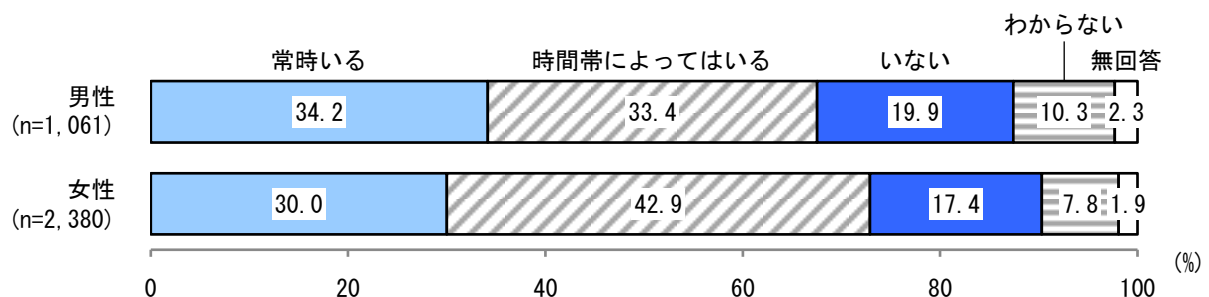
前回調査の結果に比べ、『手助けを頼める人がいる』の割合は4.4ポイント増加している。（問19-1）

【問19-1 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無（経年比較）】



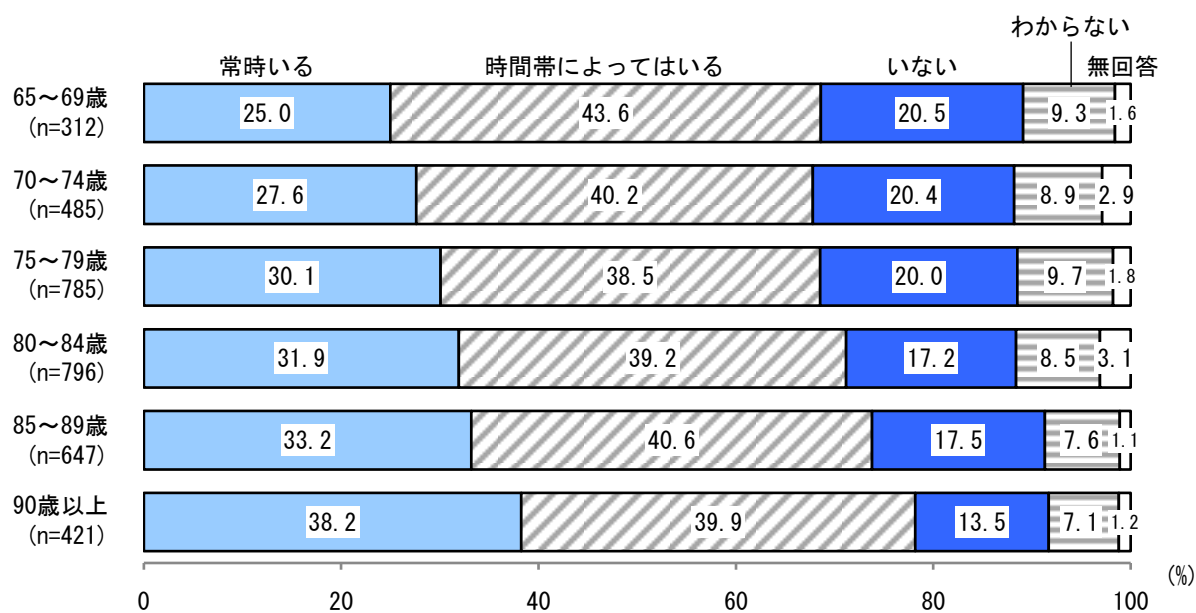
性別では、『手助けを頼める人がいる』の割合は男性より女性の割合の方が高くなっている。（問19-1-a）

【問19-1-a 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無（性別）】

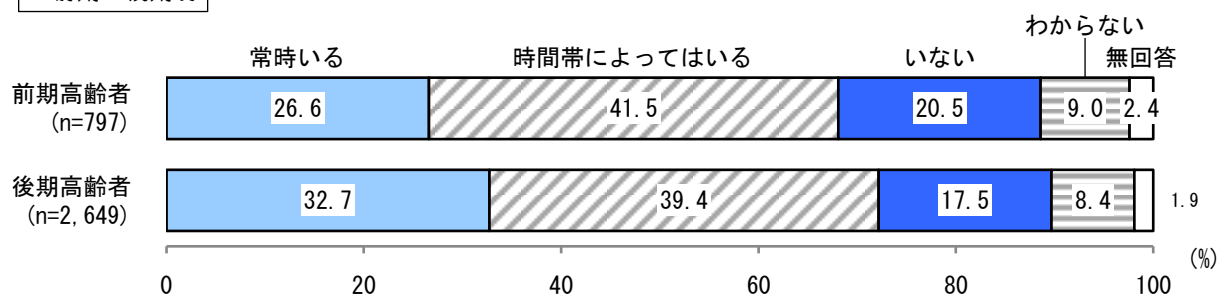


年齢別では、『手助けを頼める人がいる』の割合は、高齢になるほど高くなる傾向がある。(問19-1-b)

【問19-1-b 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無（年齢別）】

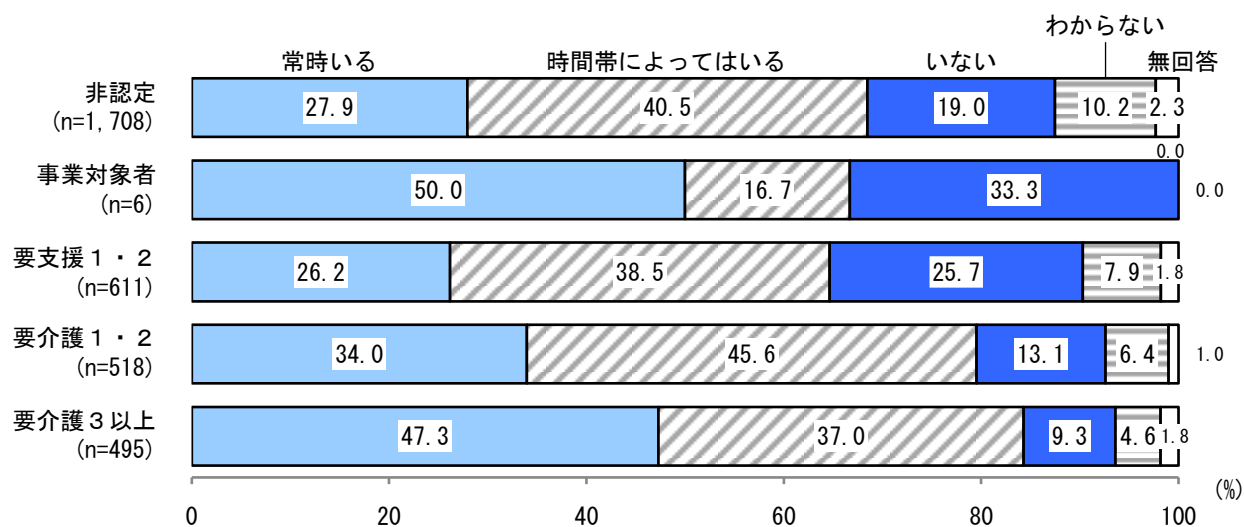


*前期・後期別



介護度別では、『手助けを頼める人がいる』の割合は、要支援１・２が64.7%で最も低く、重度になるほど高くなる傾向がある。（問19-1-c）

【問19-1-c 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無（介護度別）】



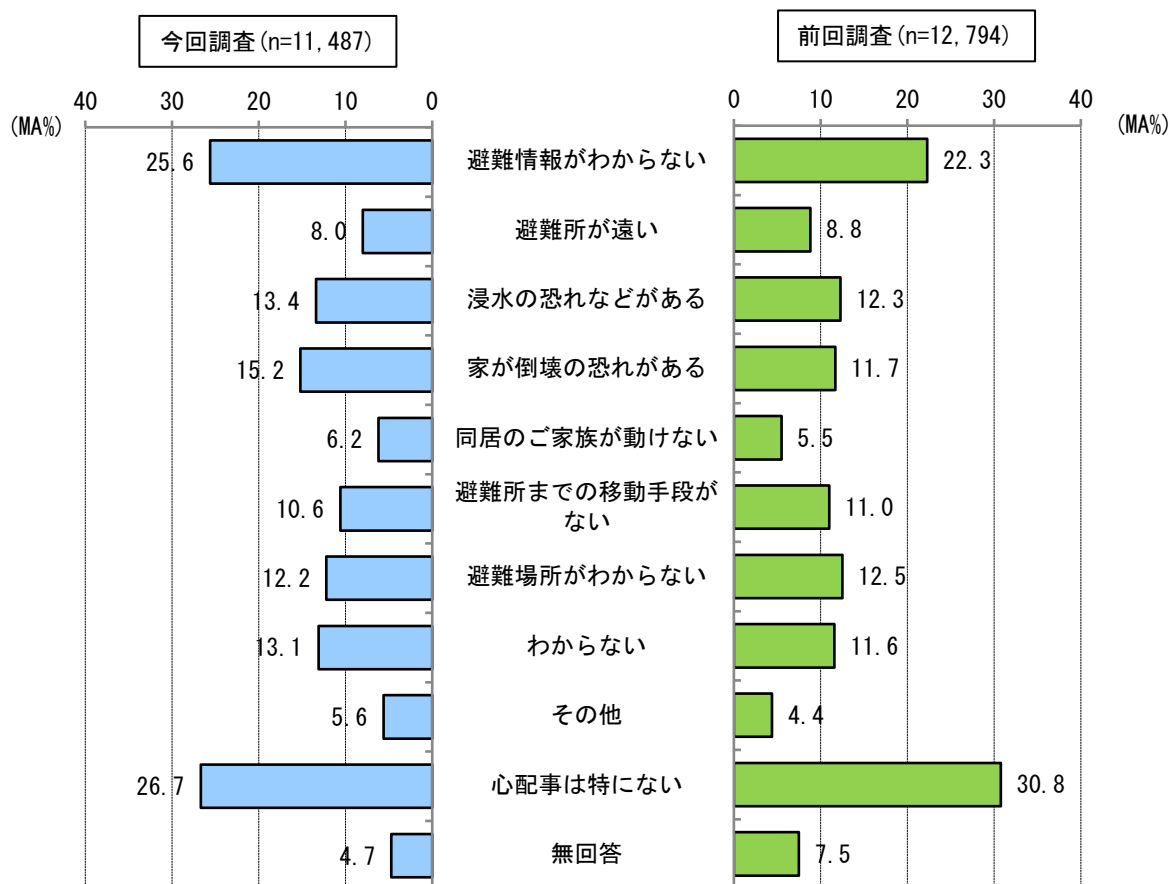
問20 災害時の心配事

あなたは、災害が起きた時の心配事がありますか。(〇はいくつでも)

災害時の心配事は、「避難情報がわからない」の割合が25.6%で最も高く、次いで「家が倒壊の恐れがある」が15.2%、「浸水の恐れなどがある」が13.4%となっている。一方、「心配事は特にない」は26.7%となっている。

前回調査の結果から大きな変化はみられない。(問20)

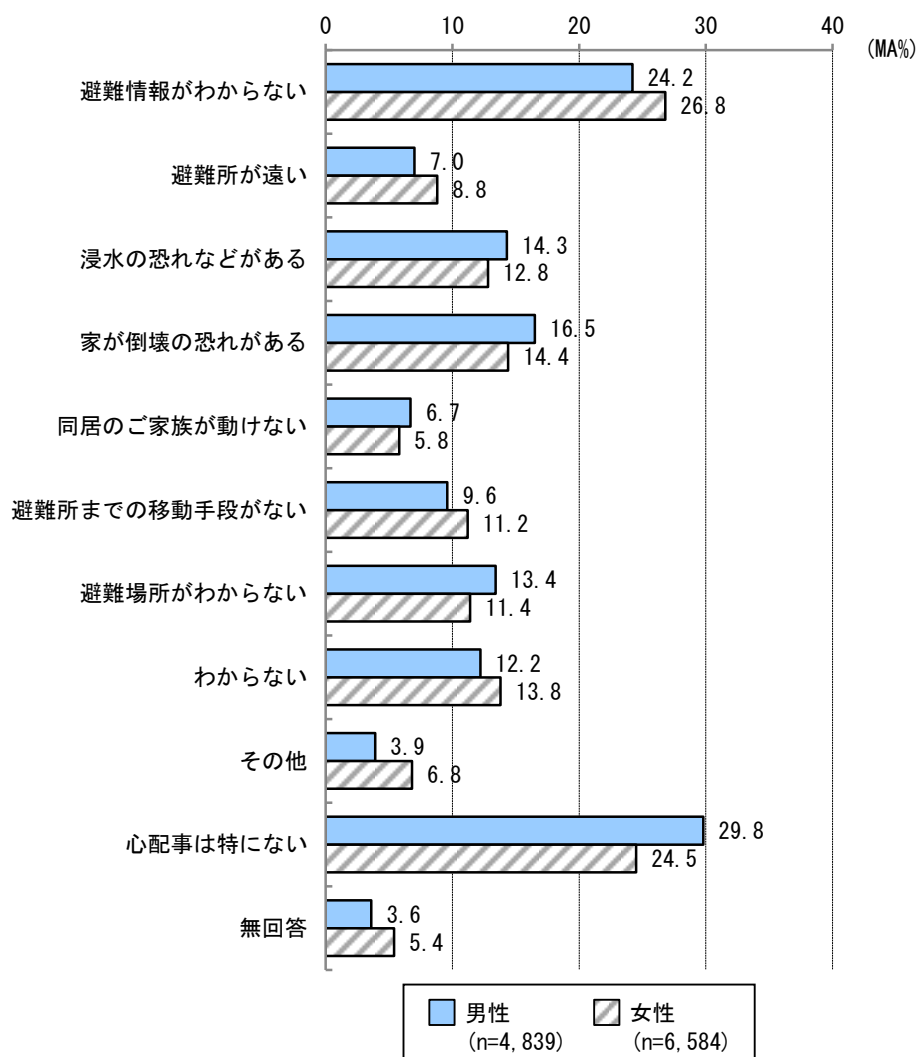
【問20 災害時の心配事（経年比較）】



性別では、「浸水の恐れなどがある」「家が倒壊の恐れがある」「同居のご家族が動けない」「避難場所がわからない」「心配事は特にない」の割合は女性より男性の方が高くなっている。（問20-a）

前回調査の結果に比べ、男女とも「心配事は特にない」の割合が減少し、「避難情報がわからない」「家が倒壊の恐れがある」の割合が3～4ポイント程度増加している。（問20-a-1）

【問20-a 災害時の心配事（性別）】



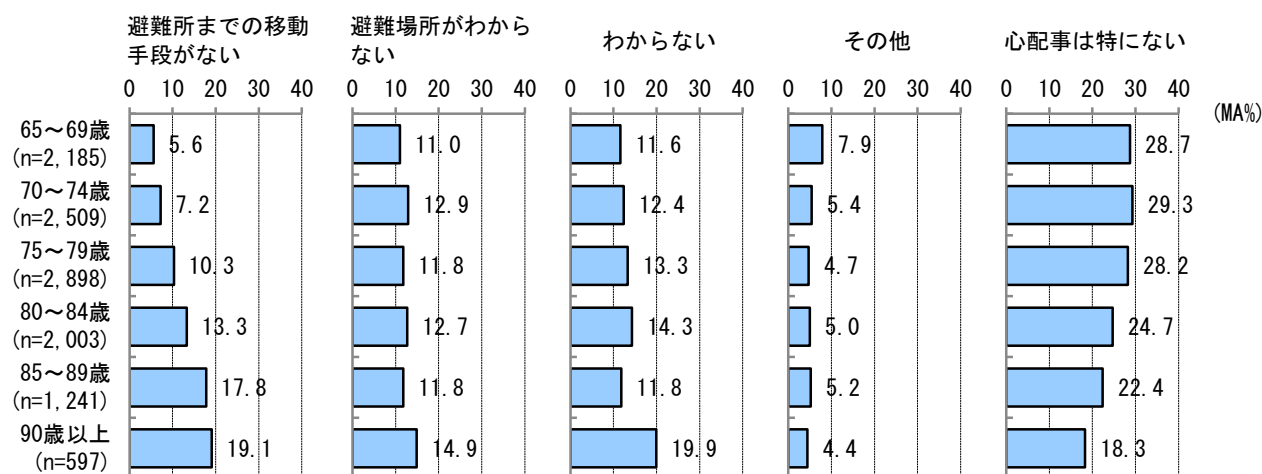
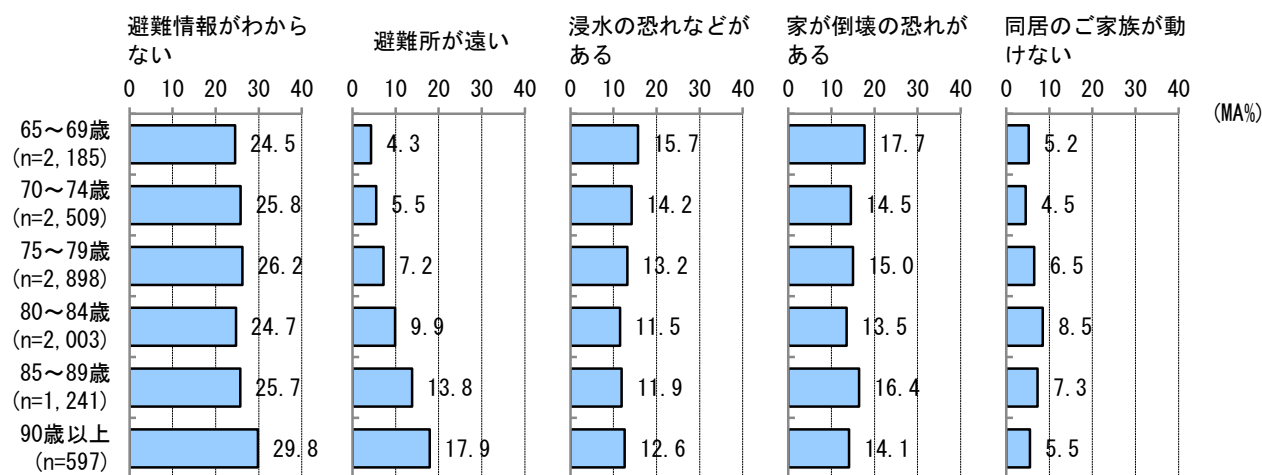
【問20-a-1 災害時の心配事（性別/経年比較）】

		(MA%)										
		避難情報がわからない	避難所が遠い	浸水の恐れなどがある	家が倒壊の恐れがある	同居のご家族が動けない	避難所までの移動手段がない	避難場所がわからない	わからない	その他	心配事は特にない	無回答
男性	今回調査 (n=4,839)	24.2	7.0	14.3	16.5	6.7	9.6	13.4	12.2	3.9	29.8	3.6
	前回調査 (n=5,387)	20.5	7.2	12.8	12.3	5.3	9.2	12.6	11.0	3.1	34.9	6.3
	差 (今回－前回)	3.7	▲0.2	1.5	4.2	1.4	0.4	0.8	1.2	0.8	▲5.1	▲2.7
女性	今回調査 (n=6,584)	26.8	8.8	12.8	14.4	5.8	11.2	11.4	13.8	6.8	24.5	5.4
	前回調査 (n=7,220)	23.8	10.0	12.0	11.3	5.7	12.3	12.4	12.1	5.3	27.8	8.2
	差 (今回－前回)	3.0	▲1.2	0.8	3.1	0.1	▲1.1	▲1.0	1.7	1.5	▲3.3	▲2.8

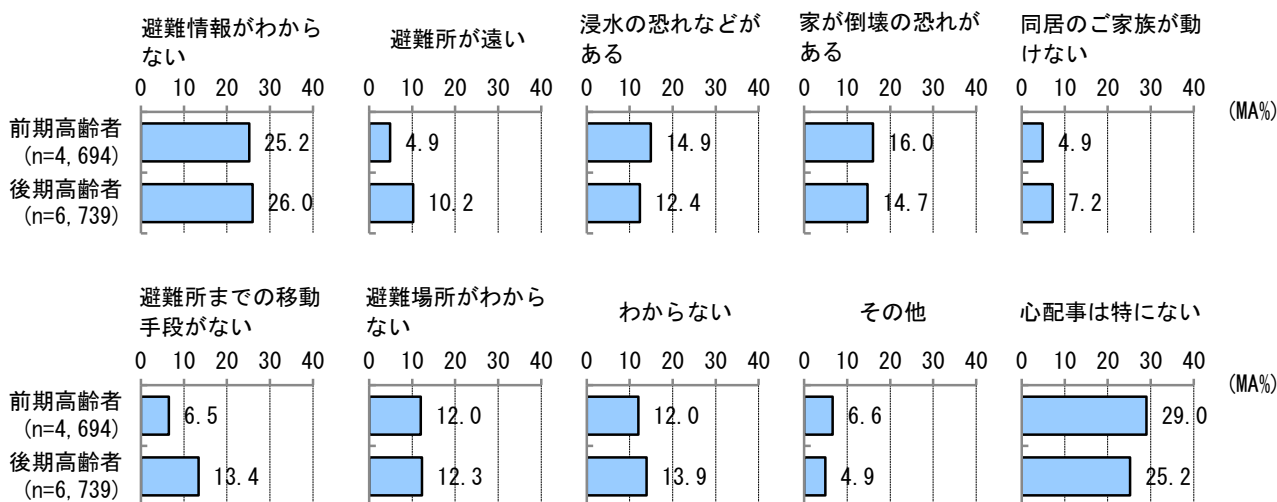
年齢別では、「避難所が遠い」「避難所までの移動手段がない」の割合は高齢になるほど高くなっている。(問20-b)

前回調査の結果に比べ、「浸水の恐れなどがある」「家が倒壊の恐れがある」の割合は、すべての年代で増加している。(問20-b-1)

【問20-b 災害時の心配事（年齢別）】



*前期・後期別



【問 20-b-1 災害時の心配事（年齢別/経年比較）】

(MA%)

		な い 避 難 情 報 が わ か ら な い	避 難 所 が 遠 い	あ る 浸 水 の 恐 れ な ど が	あ る 家 が 倒 壊 の 恐 れ が	け な い 同 居 の ご 家 族 が 動 く	手 段 避 難 所 ま で の 移 動 が な い	な い 避 難 場 所 が わ か ら な い	わ か ら な い	そ の 他	心 配 事 は 特 に な い
65～69歳	今回調査 (n=2, 185)	24.5	4.3	15.7	17.7	5.2	5.6	11.0	11.6	7.9	28.7
	前回調査 (n=2, 361)	20.4	5.4	13.9	12.4	4.4	5.6	12.2	11.3	5.8	34.3
	差 (今回－前回)	4.1	▲ 1.1	1.8	5.3	0.8	0.0	▲ 1.2	0.3	2.1	▲ 5.6
70～74歳	今回調査 (n=2, 509)	25.8	5.5	14.2	14.5	4.5	7.2	12.9	12.4	5.4	29.3
	前回調査 (n=3, 421)	20.6	6.4	13.3	12.1	4.8	7.7	11.2	11.8	4.2	34.0
	差 (今回－前回)	5.2	▲ 0.9	0.9	2.4	▲ 0.3	▲ 0.5	1.7	0.6	1.2	▲ 4.7
75～79歳	今回調査 (n=2, 898)	26.2	7.2	13.2	15.0	6.5	10.3	11.8	13.3	4.7	28.2
	前回調査 (n=2, 692)	20.8	8.4	11.7	11.6	5.5	11.0	11.7	11.1	3.7	31.8
	差 (今回－前回)	5.4	▲ 1.2	1.5	3.4	1.0	▲ 0.7	0.1	2.2	1.0	▲ 3.6
80～84歳	今回調査 (n=2, 003)	24.7	9.9	11.5	13.5	8.5	13.3	12.7	14.3	5.0	24.7
	前回調査 (n=2, 255)	25.7	11.5	11.1	10.8	7.1	15.2	13.4	11.7	4.3	28.3
	差 (今回－前回)	▲ 1.0	▲ 1.6	0.4	2.7	1.4	▲ 1.9	▲ 0.7	2.6	0.7	▲ 3.6
85～89歳	今回調査 (n=1, 241)	25.7	13.8	11.9	16.4	7.3	17.8	11.8	11.8	5.2	22.4
	前回調査 (n=1, 300)	25.2	16.5	11.3	11.8	6.7	16.5	15.4	12.4	3.6	24.3
	差 (今回－前回)	0.5	▲ 2.7	0.6	4.6	0.6	1.3	▲ 3.6	▲ 0.6	1.6	▲ 1.9
90歳以上	今回調査 (n=597)	29.8	17.9	12.6	14.1	5.5	19.1	14.9	19.9	4.4	18.3
	前回調査 (n=577)	28.9	11.4	10.2	10.2	5.2	22.4	14.9	16.3	5.7	17.3
	差 (今回－前回)	0.9	6.5	2.4	3.9	0.3	▲ 3.3	0.0	3.6	▲ 1.3	1.0

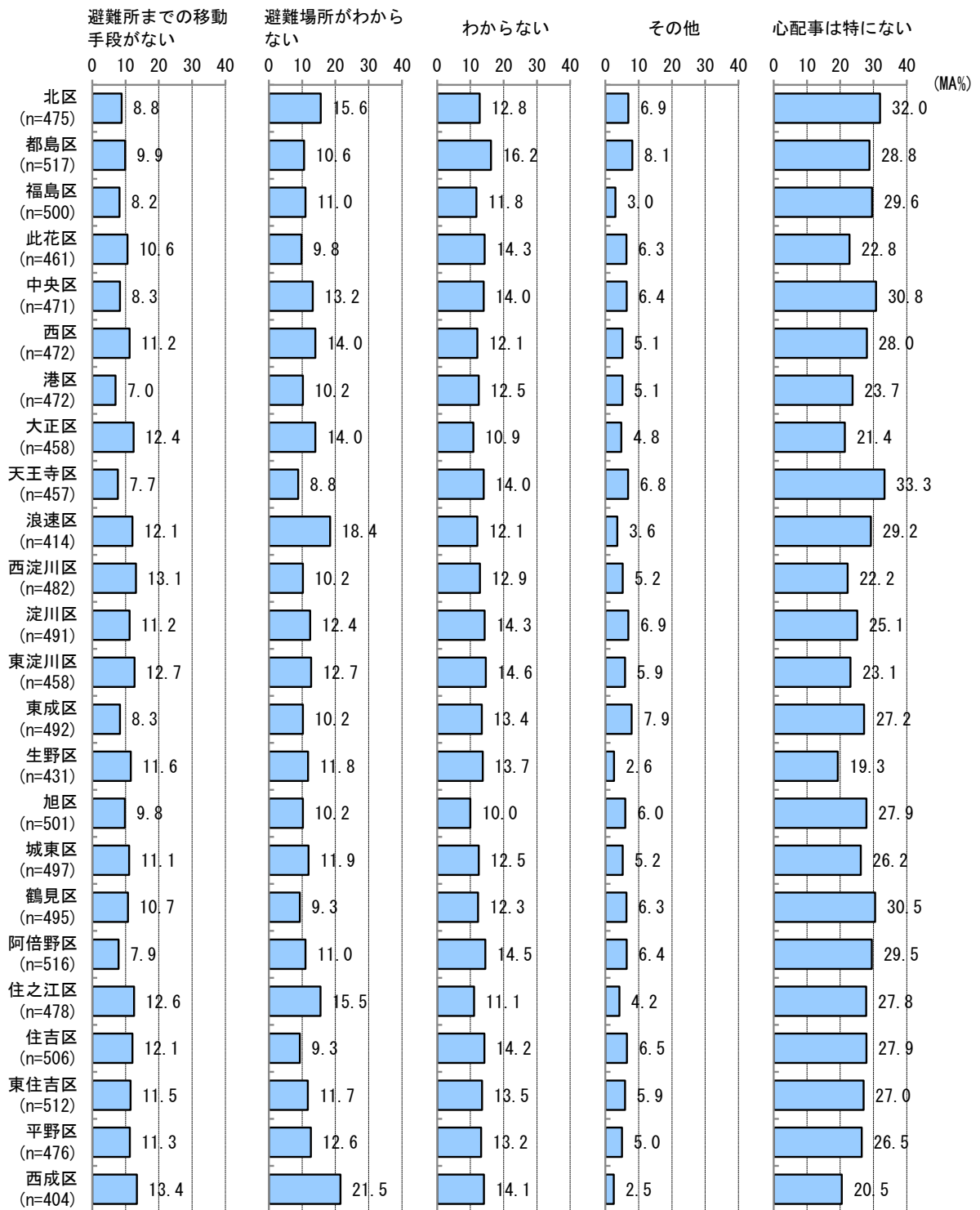
居住区別では、「浸水の恐れなどがある」の割合は「西淀川区」「此花区」など湾岸部で高く、「避難情報がわからない」の割合は「西成区」をはじめ、「生野区」「北区」で高くなっている。
(問20-c①②)

前回調査の結果に比べ、「家が倒壊の恐れがある」の割合は、西淀川区、東成区で約7ポイントと比較的大きく増加している。「避難情報がわからない」の割合は、此花区で7.5ポイント減少している。(問20-c-1)

【問20-c 災害時の心配事（居住区別）①】



【問20-c 災害時の心配事（居住区別）②】



【問20-c-1 災害時の心配事（居住区別/経年比較）】

(MA%)

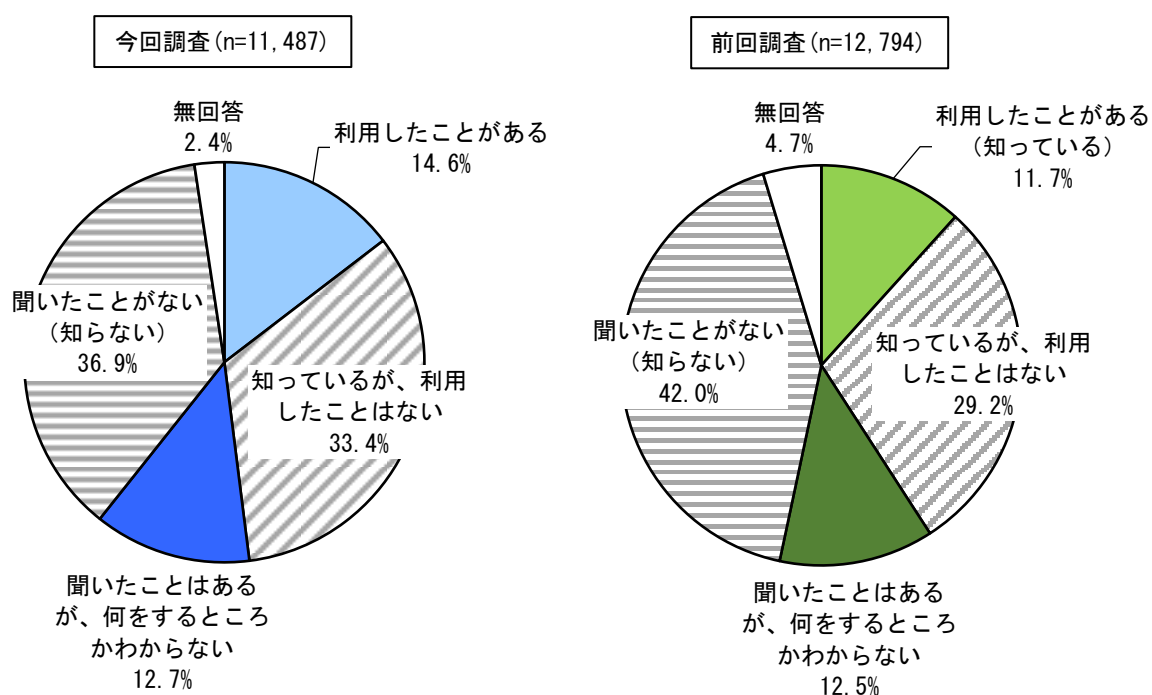
		な い 難 情 報 が わ か ら な い	避 難 所 が 遠 い	あ る 浸 水 の 恐 れ な ど が	あ る 家 が 倒 壊 の 恐 れ が	け な い 同 居 の ご 家 族 が 動 く	手 段 難 所 ま で の 移 動	な い 難 場 所 が わ か ら な い	わ か ら な い	そ の 他	心 配 事 は 特 に な い
北区	今回調査(n=475)	29.1	4.8	9.5	8.8	6.1	8.8	15.6	12.8	6.9	32.0
	前回調査(n=549)	25.7	4.2	7.3	6.9	5.3	9.8	14.0	14.2	5.3	31.7
	差(今回-前回)	3.4	0.6	2.2	1.9	0.8	▲1.0	1.6	▲1.4	1.6	0.3
都島区	今回調査(n=517)	26.7	6.6	10.6	11.0	3.5	9.9	10.6	16.2	8.1	28.8
	前回調査(n=527)	21.6	6.6	12.9	11.4	6.8	9.1	11.2	12.0	4.6	32.6
	差(今回-前回)	5.1	0.0	▲2.3	▲0.4	▲3.3	0.8	▲0.6	4.2	3.5	▲3.8
福島区	今回調査(n=500)	25.2	5.4	19.2	19.0	6.6	8.2	11.0	11.8	3.0	29.6
	前回調査(n=549)	23.3	8.9	20.4	12.6	6.2	9.1	10.7	10.9	3.8	30.6
	差(今回-前回)	1.9	▲3.5	▲1.2	6.4	0.4	▲0.9	0.3	0.9	▲0.8	▲1.0
此花区	今回調査(n=461)	23.6	6.3	25.8	13.0	6.1	10.6	9.8	14.3	6.3	22.8
	前回調査(n=497)	25.4	10.7	26.4	13.9	5.0	11.9	17.3	10.1	5.6	23.7
	差(今回-前回)	▲1.8	▲4.4	▲0.6	▲0.9	1.1	▲1.3	▲7.5	4.2	0.7	▲0.9
中央区	今回調査(n=471)	25.3	4.2	2.5	12.3	4.9	8.3	13.2	14.0	6.4	30.8
	前回調査(n=518)	22.6	6.0	3.5	9.3	4.2	10.6	14.3	12.5	3.9	34.9
	差(今回-前回)	2.7	▲1.8	▲1.0	3.0	0.7	▲2.3	▲1.1	1.5	2.5	▲4.1
西区	今回調査(n=472)	25.6	10.2	13.1	10.8	5.3	11.2	14.0	12.1	5.1	28.0
	前回調査(n=542)	21.0	8.5	11.4	8.1	4.1	12.9	12.7	14.4	5.4	33.2
	差(今回-前回)	4.6	1.7	1.7	2.7	1.2	▲1.7	1.3	▲2.3	▲0.3	▲5.2
港区	今回調査(n=472)	24.4	5.9	21.2	17.2	8.3	7.0	10.2	12.5	5.1	23.7
	前回調査(n=550)	21.3	7.3	18.2	10.9	6.5	8.4	12.0	8.2	2.9	34.0
	差(今回-前回)	3.1	▲1.4	3.0	6.3	1.8	▲1.4	▲1.8	4.3	2.2	▲10.3
大正区	今回調査(n=458)	25.8	10.7	22.9	19.2	6.8	12.4	14.0	10.9	4.8	21.4
	前回調査(n=515)	17.7	11.1	23.3	14.8	5.4	13.8	9.3	10.3	4.5	28.2
	差(今回-前回)	8.1	▲0.4	▲0.4	4.4	1.4	▲1.4	4.7	0.6	0.3	▲6.8
天王寺区	今回調査(n=457)	25.6	3.5	1.5	12.7	6.1	7.7	8.8	14.0	6.8	33.3
	前回調査(n=545)	24.8	5.0	1.8	8.8	5.7	7.5	10.6	10.6	5.0	38.2
	差(今回-前回)	0.8	▲1.5	▲0.3	3.9	0.4	0.2	▲1.8	3.4	1.8	▲4.9
浪速区	今回調査(n=414)	28.5	10.1	8.7	10.9	4.3	12.1	18.4	12.1	3.6	29.2
	前回調査(n=483)	24.2	6.4	5.0	7.9	4.6	10.8	18.8	13.5	2.9	34.0
	差(今回-前回)	4.3	3.7	3.7	3.0	▲0.3	1.3	▲0.4	▲1.4	0.7	▲4.8
西淀川区	今回調査(n=482)	24.9	11.0	27.6	19.7	6.4	13.1	10.2	12.9	5.2	22.2
	前回調査(n=522)	19.3	8.2	26.4	11.9	7.5	10.5	8.0	11.5	4.6	24.7
	差(今回-前回)	5.6	2.8	1.2	7.8	▲1.1	2.6	2.2	1.4	0.6	▲2.5
淀川区	今回調査(n=491)	22.2	7.1	15.5	13.2	7.3	11.2	12.4	14.3	6.9	25.1
	前回調査(n=527)	20.3	9.5	13.5	11.2	5.1	10.6	12.5	10.4	4.9	28.5
	差(今回-前回)	1.9	▲2.4	2.0	2.0	2.2	0.6	▲0.1	3.9	2.0	▲3.4
東淀川区	今回調査(n=458)	26.0	6.8	15.1	13.8	6.3	12.7	12.7	14.6	5.9	23.1
	前回調査(n=545)	22.8	9.2	14.5	11.7	6.2	11.6	10.8	12.7	4.2	28.4
	差(今回-前回)	3.2	▲2.4	0.6	2.1	0.1	1.1	1.9	1.9	1.7	▲5.3
東成区	今回調査(n=492)	20.3	9.1	13.0	20.5	4.9	8.3	10.2	13.4	7.9	27.2
	前回調査(n=508)	23.2	9.8	9.4	13.4	5.1	12.6	10.0	12.8	3.5	28.3
	差(今回-前回)	▲2.9	▲0.7	3.6	7.1	▲0.2	▲4.3	0.2	0.6	4.4	▲1.1
生野区	今回調査(n=431)	29.5	12.8	13.5	24.8	5.6	11.6	11.8	13.7	2.6	19.3
	前回調査(n=492)	23.2	14.0	9.8	18.1	4.5	11.8	13.2	11.2	3.3	27.8
	差(今回-前回)	6.3	▲1.2	3.7	6.7	1.1	▲0.2	▲1.4	2.5	▲0.7	▲8.5
旭区	今回調査(n=501)	25.1	10.0	12.6	18.6	7.2	9.8	10.2	10.0	6.0	27.9
	前回調査(n=526)	21.1	12.0	11.2	12.7	5.3	10.8	10.8	14.3	4.6	29.7
	差(今回-前回)	4.0	▲2.0	1.4	5.9	1.9	▲1.0	▲0.6	▲4.3	1.4	▲1.8
城東区	今回調査(n=497)	25.8	10.5	14.3	14.3	7.2	11.1	11.9	12.5	5.2	26.2
	前回調査(n=571)	23.1	10.5	12.6	11.6	6.1	9.1	10.5	9.5	6.1	31.9
	差(今回-前回)	2.7	0.0	1.7	2.7	1.1	2.0	1.4	3.0	▲0.9	▲5.7
鶴見区	今回調査(n=495)	25.3	11.1	11.5	15.2	5.3	10.7	9.3	12.3	6.3	30.5
	前回調査(n=528)	18.4	12.1	7.8	10.0	7.0	13.8	10.6	11.0	4.5	36.2
	差(今回-前回)	6.9	▲1.0	3.7	5.2	▲1.7	▲3.1	▲1.3	1.3	1.8	▲5.7
阿倍野区	今回調査(n=516)	26.0	5.6	4.7	16.3	6.8	7.9	11.0	14.5	6.4	29.5
	前回調査(n=566)	23.0	7.6	3.2	13.3	6.9	10.1	11.1	12.4	4.6	31.6
	差(今回-前回)	3.0	▲2.0	1.5	3.0	▲0.1	▲2.2	▲0.1	2.1	1.8	▲2.1
住之江区	今回調査(n=478)	27.0	7.5	14.9	12.6	6.9	12.6	15.5	11.1	4.2	27.8
	前回調査(n=518)	25.1	7.5	14.9	11.2	5.4	12.2	14.3	10.6	5.6	28.2
	差(今回-前回)	1.9	0.0	0.0	1.4	1.5	0.4	1.2	0.5	▲1.4	▲0.4
住吉区	今回調査(n=506)	26.3	7.7	12.6	13.8	7.1	12.1	9.3	14.2	6.5	27.9
	前回調査(n=548)	20.6	8.4	9.9	10.0	6.2	10.2	11.5	10.8	4.7	37.0
	差(今回-前回)	5.7	▲0.7	2.7	3.8	0.9	1.9	▲2.2	3.4	1.8	▲9.1
東住吉区	今回調査(n=512)	24.4	8.2	10.9	17.8	7.0	11.5	11.7	13.5	5.9	27.0
	前回調査(n=536)	20.7	10.3	13.2	16.6	4.9	12.1	13.8	11.9	4.1	28.5
	差(今回-前回)	3.7	▲2.1	▲2.3	1.2	2.1	▲0.6	▲2.1	1.6	1.8	▲1.5
平野区	今回調査(n=476)	24.6	9.0	6.9	12.8	7.8	11.3	12.6	13.2	5.0	26.5
	前回調査(n=531)	23.0	10.0	8.9	8.9	4.0	13.2	13.6	9.6	3.8	31.8
	差(今回-前回)	1.6	▲1.0	▲2.0	3.9	3.8	▲1.9	▲1.0	3.6	1.2	▲5.3
西成区	今回調査(n=404)	30.9	8.9	14.9	18.3	4.7	13.4	21.5	14.1	2.5	20.5
	前回調査(n=424)	27.6	8.0	10.8	17.5	3.5	12.0	20.0	14.9	3.1	22.9
	差(今回-前回)	3.3	0.9	4.1	0.8	1.2	1.4	1.5	▲0.8	▲0.6	▲2.4

問21 地域包括支援センター・総合相談窓口(ランチ)の利用状況

あなたは、地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ランチ）を利用したことがありますか。（○はひとつ）

地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ランチ）を「利用したことがある」は14.6%、「知っているが、利用したことはない」は33.4%で、これらをあわせた『知っている』割合は48.0%となっており、『知っている』割合は前回より7.1ポイント増加している。これに対し、「聞いたことがない（知らない）」（36.9%）の割合は前回調査の結果に比べ5.1ポイント減少している。（問21）

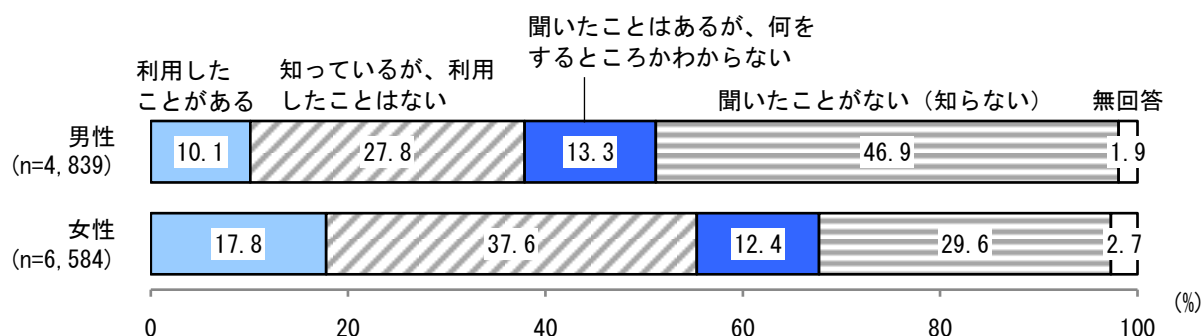
【問21 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）の利用状況（経年比較）】



※前回調査の「利用したことがある（知っている）」は、今回調査では「利用したことがある」に変更している。

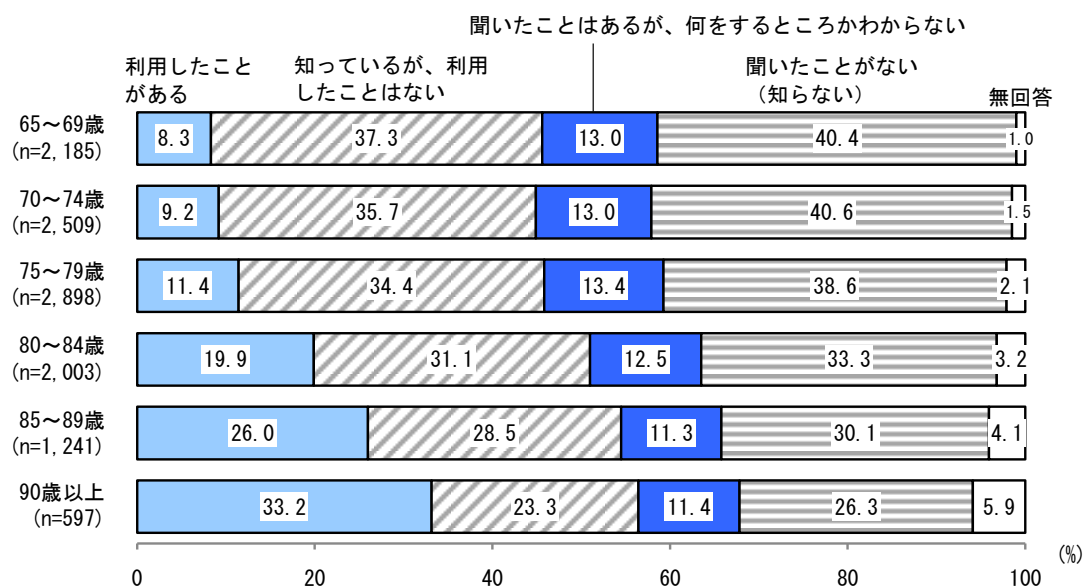
性別では、利用の有無にかかわらず『知っている』の割合は女性の方が高く、「聞いたことがない（知らない）」の割合は、男性の方が高くなっている。（問21-a）

【問21-a 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）の利用状況（性別）】

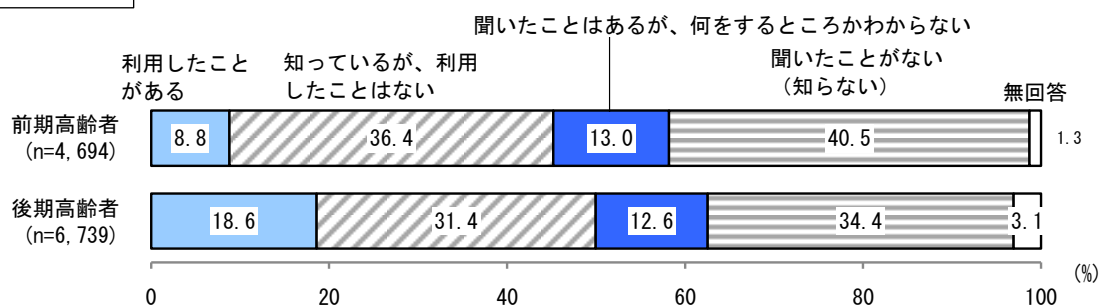


年齢別では、高齢になるほど『知っている』の割合が概ね高くなり、80歳以上の年代では5割を超えている。(問21-b)

【問21-b 地域包括支援センター・総合相談窓口（プランチ）の利用状況（年齢別）】

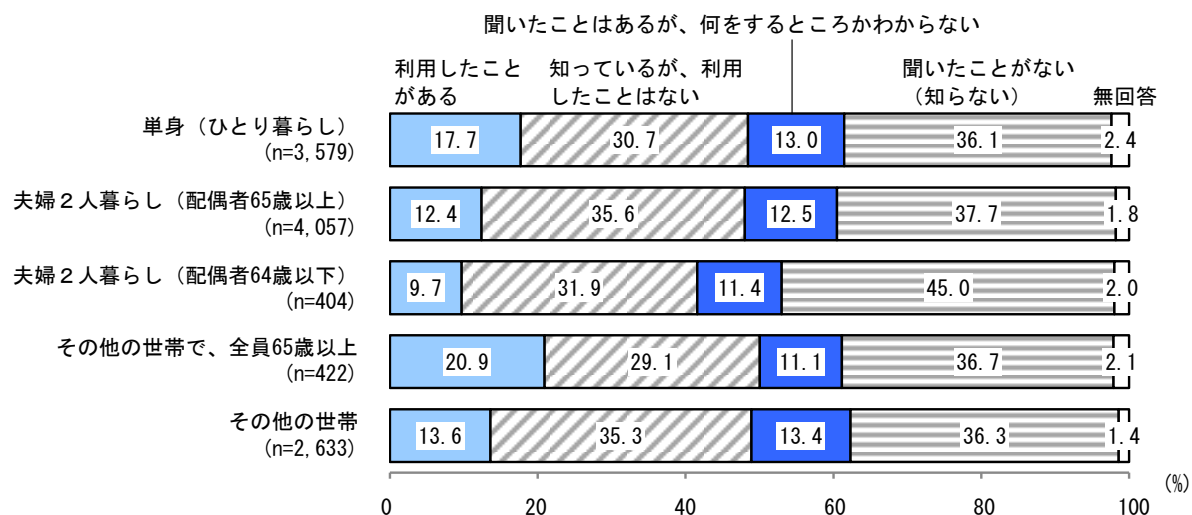


*前期・後期別



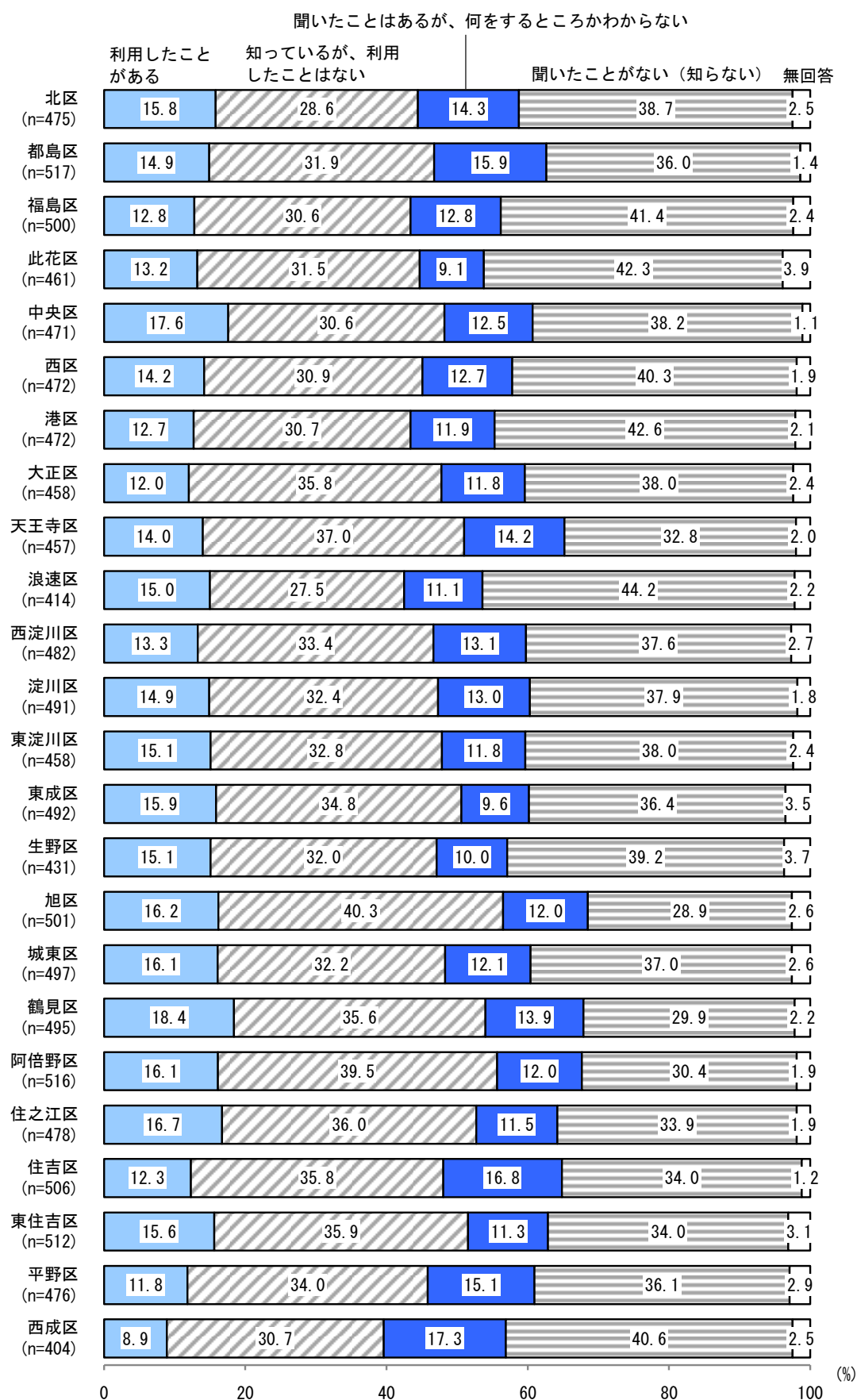
世帯状況別では、『知っている』の割合は、その他の世帯で全員65歳以上の世帯が50.0%で最も高く、「聞いたことがない（知らない）」は、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の世帯が45.0%で最も高くなっている。（問21-c）

【問21-c 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）の利用状況（世帯状況別）】



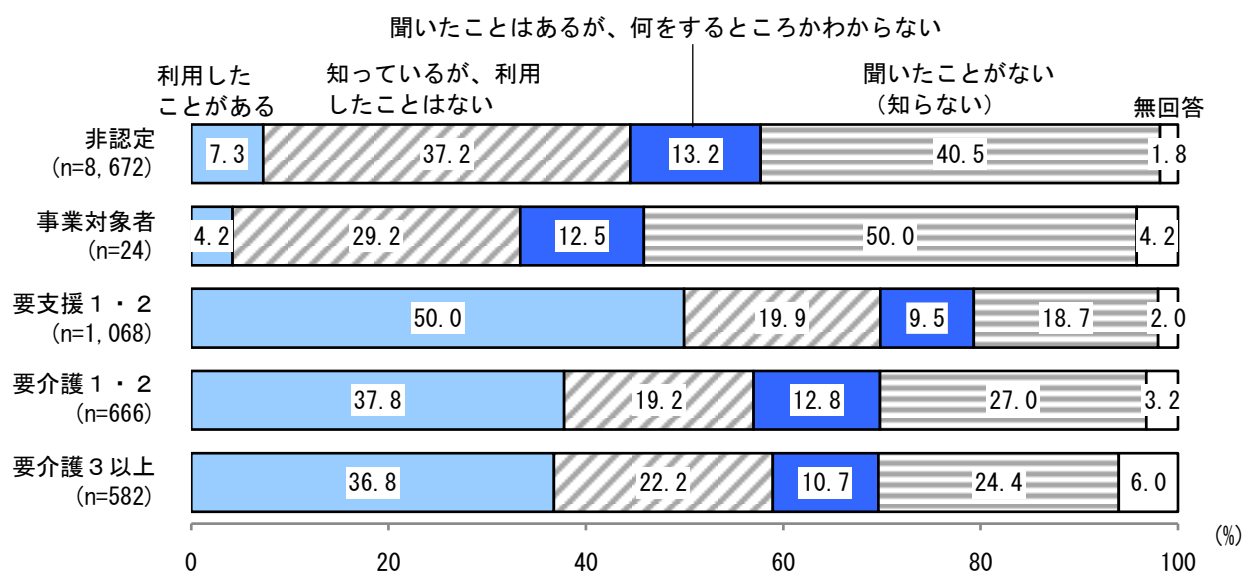
居住区別では、『知っている』の割合は旭区が56.5%で最も高く、「聞いたことがない（知らない）」は浪速区が44.2%で最も高くなっている。（問21-d）

【問21-d 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）の利用状況（居住区別）】



介護度別では、『知っている』の割合は要支援１・２が69.9%と最も高く、次いで要介護３以上が59.0%となっている。（問21-e）

【問21-e 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の利用状況（介護度別）】



問21-1 地域包括支援センター・総合相談窓口(ブランチ)を知った経緯

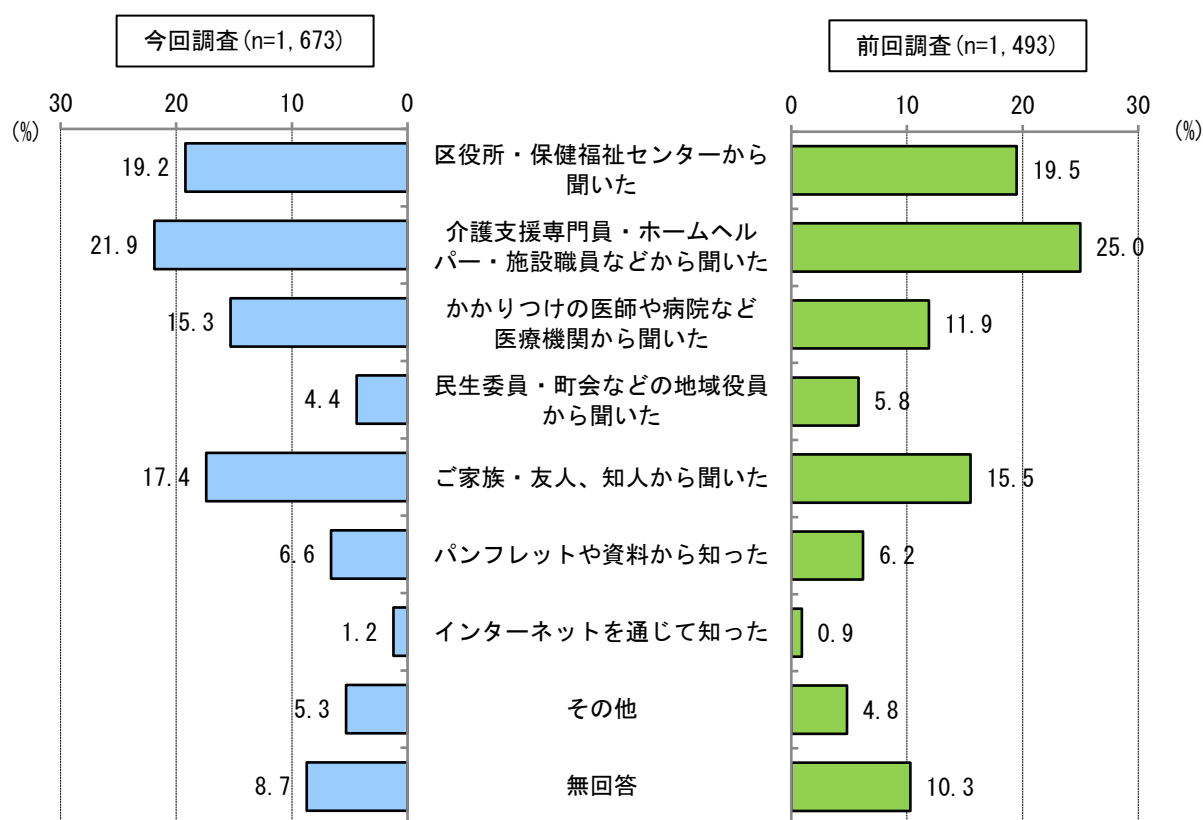
問21で「1 利用したことがある」と回答された方におうかがいします。

あなたは、地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）をどのようにして知りましたか。主なものをひとつ選んでお答えください。（○はひとつ）

地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）を利用したことがあると回答した人に、知った経緯をたずねると、「介護支援専門員・ホームヘルパー・施設職員などから聞いた」の割合が21.9%で最も高く、次いで「区役所・保健福祉センターから聞いた」が19.2%、「ご家族・友人、知人から聞いた」が17.4%となっている。

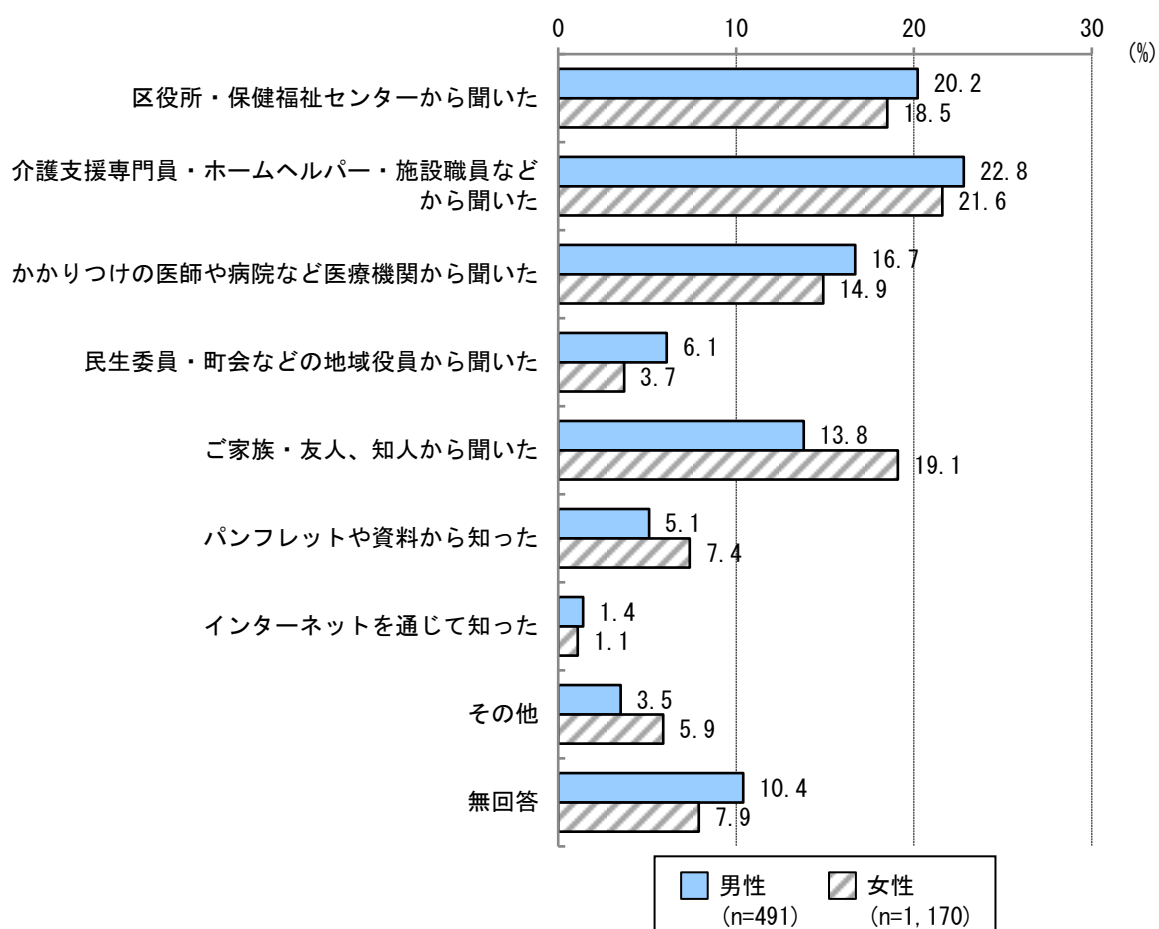
前回調査の結果から大きな変化はみられない。（問21-1）

【問21-1 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）を知った経緯（経年比較）】



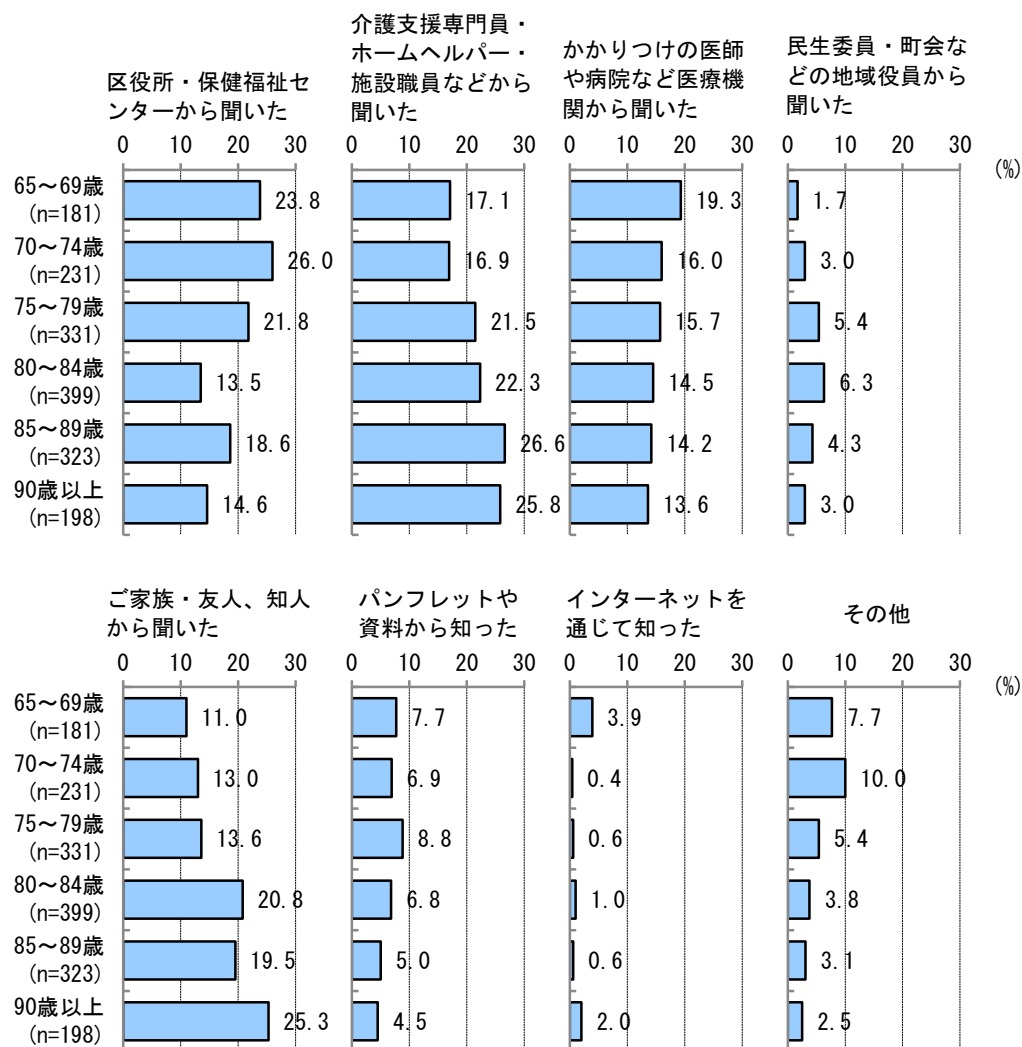
性別では、「ご家族・友人、知人から聞いた」「パンフレットや資料から知った」「その他」以外の割合は女性より男性の方が高くなっている。(問21-1-a)

【問21-1-a 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）を知った経緯（性別）】

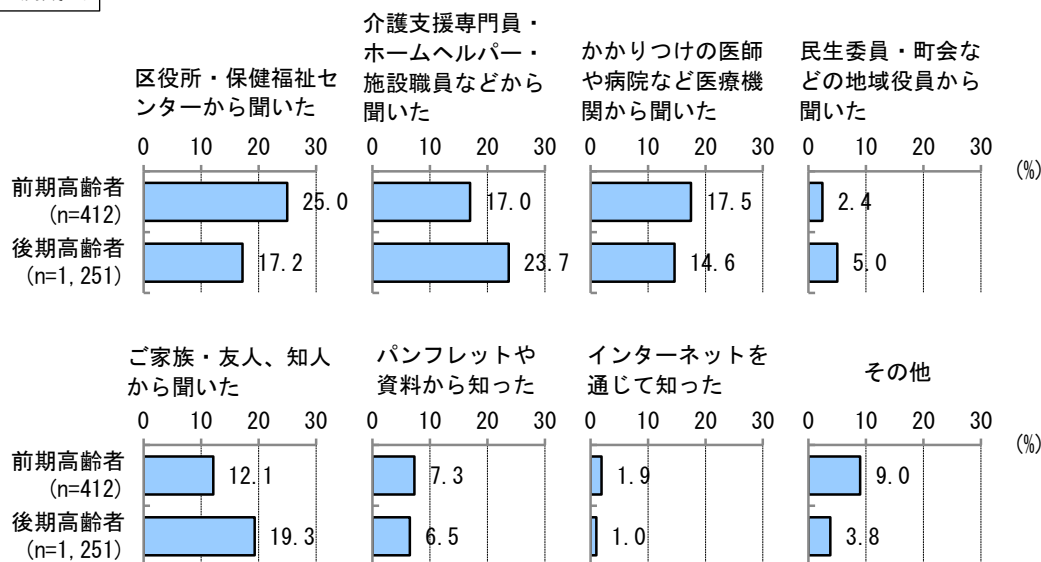


年齢別では、「介護支援専門員・ホームヘルパー・施設職員などから聞いた」「ご家族・友人、知人から聞いた」の割合は高齢になるほど高くなる傾向にある。「かかりつけの医師や病院など医療機関から聞いた」の割合は高齢になるほど低くなっている。（問21-1-b）

【問21-1-b 地域包括支援センター・総合相談窓口（プランチ）を知った経緯（年齢別）】

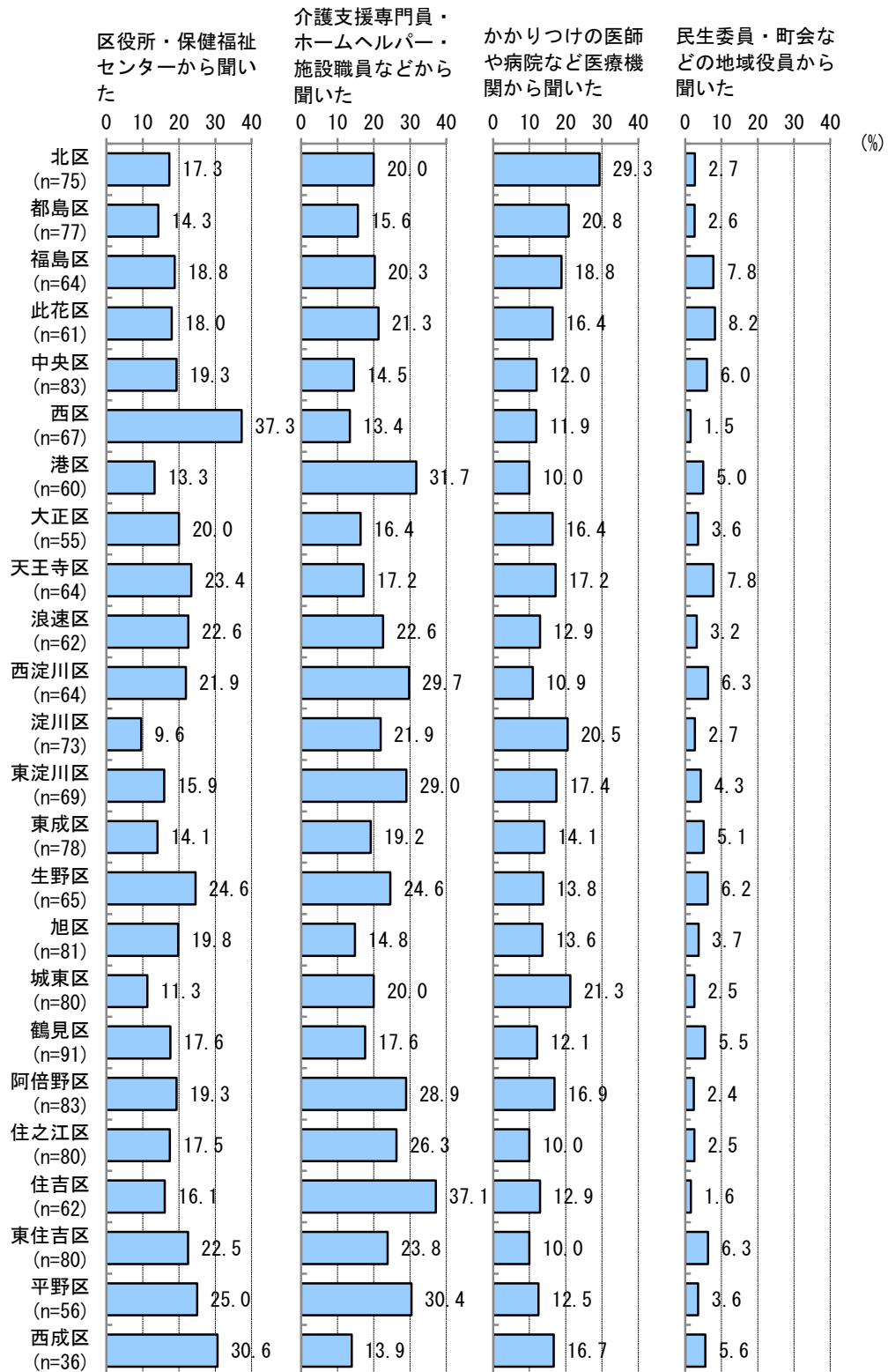


*前期・後期別

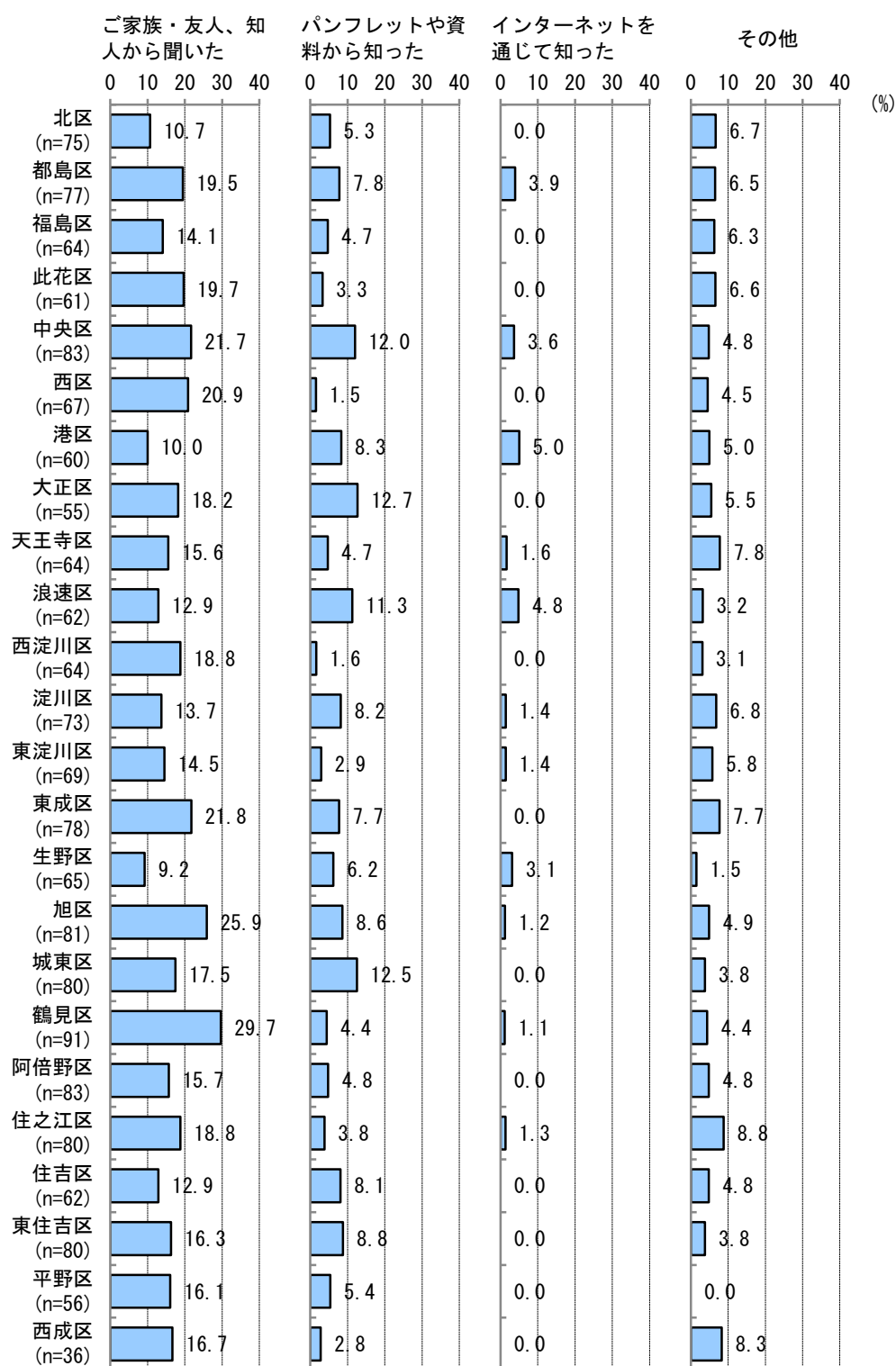


居住区別では、「区役所・保健福祉センターから聞いた」の割合は、西区が37.3%で最も高く、次いで西成区が30.6%となっている。「介護支援専門員・ホームヘルパー・施設職員などから聞いた」の割合は、住吉区が37.1%で最も高く、次いで港区が31.7%となっている。(問21-1-c①②)

【問21-1-c 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）を知った経緯（居住区別）①】



【問21-1-c 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）を知った経緯（居住区別）②】

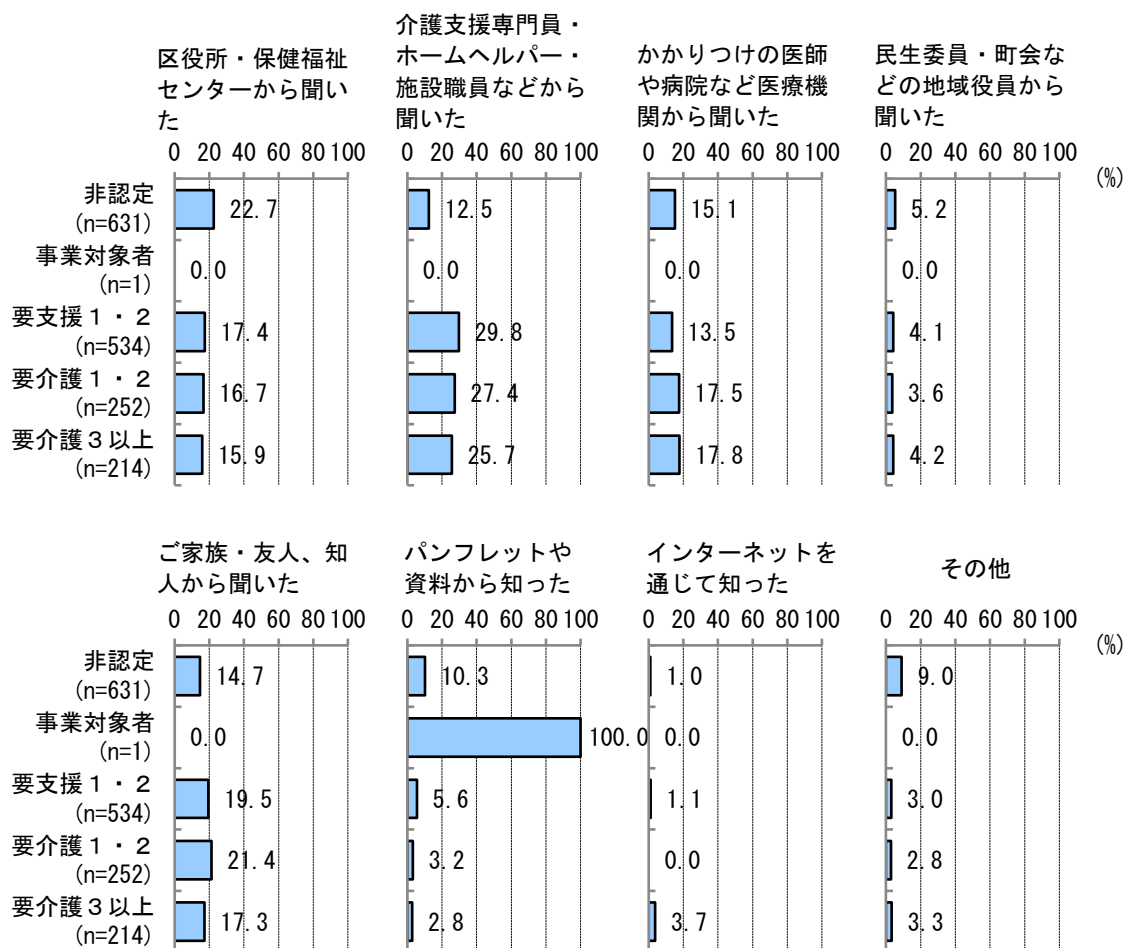


【問21-1-c-1 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）を知った経緯（居住区別/経年比較）】

		(MA%)								
		区役所・保健福祉センターから聞いた	介護支援専門員・ホームヘルパー・施設職員などから聞いた	かかりつけの医師や病院内など医療機関から聞いた	民生委員・町会などの地域役員から聞いた	ご家族・友人、知人から聞いた	パンフレットや資料から知った	インターネットを通じて	その他	無回答
全体	今回調査(n=1,673)	19.2	21.9	15.3	4.4	17.4	6.6	1.2	5.3	8.7
	前回調査(n=1,493)	19.5	25.0	11.9	5.8	15.5	6.2	0.9	4.8	10.3
	差(今回-前回)	▲0.3	▲3.1	3.4	▲1.4	1.9	0.4	0.3	0.5	▲1.6
北区	今回調査(n=75)	17.3	20.0	29.3	2.7	10.7	5.3	0.0	6.7	8.0
	前回調査(n=56)	12.5	21.4	23.2	0.0	12.5	8.9	1.8	7.1	12.5
	差(今回-前回)	4.8	▲1.4	6.1	2.7	▲1.8	▲3.6	▲1.8	▲0.4	▲4.5
都島区	今回調査(n=77)	14.3	15.6	20.8	2.6	19.5	7.8	3.9	6.5	9.1
	前回調査(n=75)	21.3	32.0	12.0	1.3	17.3	4.0	0.0	5.3	6.7
	差(今回-前回)	▲7.0	▲16.4	8.8	1.3	2.2	3.8	3.9	1.2	2.4
福島区	今回調査(n=64)	18.8	20.3	18.8	7.8	14.1	4.7	0.0	6.3	9.4
	前回調査(n=58)	17.2	24.1	13.8	3.4	13.8	8.6	1.7	8.6	8.6
	差(今回-前回)	1.6	▲3.8	5.0	4.4	0.3	▲3.9	▲1.7	▲2.3	0.8
此花区	今回調査(n=61)	18.0	21.3	16.4	8.2	19.7	3.3	0.0	6.6	6.6
	前回調査(n=55)	13.3	28.3	5.0	6.7	26.7	6.7	1.7	1.7	10.0
	差(今回-前回)	4.7	▲7.0	11.4	1.5	▲7.0	▲3.4	▲1.7	4.9	▲3.4
中央区	今回調査(n=83)	19.3	14.5	12.0	6.0	21.7	12.0	3.6	4.8	6.0
	前回調査(n=55)	18.2	30.9	9.1	1.8	9.1	7.3	0.0	12.7	10.9
	差(今回-前回)	1.1	▲16.4	2.9	4.2	12.6	4.7	3.6	▲7.9	▲4.9
西区	今回調査(n=67)	37.3	13.4	11.9	1.5	20.9	1.5	0.0	4.5	9.0
	前回調査(n=52)	28.8	19.2	15.4	5.8	9.6	9.6	1.9	0.0	9.6
	差(今回-前回)	8.5	▲5.8	▲3.5	▲4.3	11.3	▲8.1	▲1.9	4.5	▲0.6
港区	今回調査(n=60)	13.3	31.7	10.0	5.0	10.0	8.3	5.0	5.0	11.7
	前回調査(n=50)	10.0	24.0	12.0	6.0	28.0	0.0	2.0	8.0	10.0
	差(今回-前回)	3.3	7.7	▲2.0	▲1.0	▲18.0	8.3	3.0	▲3.0	1.7
大正区	今回調査(n=55)	20.0	16.4	16.4	3.6	18.2	12.7	0.0	5.5	7.3
	前回調査(n=48)	29.2	18.8	14.6	6.3	16.7	0.0	0.0	2.1	12.5
	差(今回-前回)	▲9.2	▲2.4	1.8	▲2.7	1.5	12.7	0.0	3.4	▲5.2
天王寺区	今回調査(n=64)	23.4	17.2	17.2	7.8	15.6	4.7	1.6	7.8	4.7
	前回調査(n=74)	18.9	27.0	13.5	4.1	16.2	6.8	0.0	4.1	9.5
	差(今回-前回)	4.5	▲9.8	3.7	3.7	▲0.6	▲2.1	1.6	3.7	▲4.8
浪速区	今回調査(n=62)	22.6	22.6	12.9	3.2	12.9	11.3	4.8	3.2	6.5
	前回調査(n=45)	26.7	22.2	11.1	11.1	13.3	4.4	0.0	4.4	6.7
	差(今回-前回)	▲4.1	0.4	1.8	▲7.9	▲0.4	6.9	4.8	▲1.2	▲0.2
西淀川区	今回調査(n=64)	21.9	29.7	10.9	6.3	18.8	1.6	0.0	3.1	7.8
	前回調査(n=52)	11.5	28.8	15.4	5.8	15.4	3.8	3.8	9.6	5.8
	差(今回-前回)	10.4	0.9	▲4.5	0.5	3.4	▲2.2	▲3.8	▲6.5	2.0
淀川区	今回調査(n=73)	9.6	21.9	20.5	2.7	13.7	8.2	1.4	6.8	15.1
	前回調査(n=65)	16.9	23.1	16.9	9.2	20.0	1.5	0.0	4.6	7.7
	差(今回-前回)	▲7.3	▲1.2	3.6	▲6.5	▲6.3	6.7	1.4	2.2	7.4
東淀川区	今回調査(n=69)	15.9	29.0	17.4	4.3	14.5	2.9	1.4	5.8	8.7
	前回調査(n=63)	22.2	22.2	14.3	6.3	11.1	3.2	0.0	1.6	19.0
	差(今回-前回)	▲6.3	6.8	3.1	▲2.0	3.4	▲0.3	1.4	4.2	▲10.3
東成区	今回調査(n=78)	14.1	19.2	14.1	5.1	21.8	7.7	0.0	7.7	10.3
	前回調査(n=54)	20.4	33.3	14.8	5.6	11.1	7.4	0.0	3.7	3.7
	差(今回-前回)	▲6.3	▲14.1	▲0.7	▲0.5	10.7	0.3	0.0	4.0	6.6
生野区	今回調査(n=65)	24.6	24.6	13.8	6.2	9.2	6.2	3.1	1.5	10.8
	前回調査(n=50)	18.0	20.0	6.0	16.0	10.0	6.0	2.0	4.0	18.0
	差(今回-前回)	6.6	4.6	7.8	▲9.8	▲0.8	0.2	1.1	▲2.5	▲7.2
旭区	今回調査(n=81)	19.8	14.8	13.6	3.7	25.9	8.6	1.2	4.9	7.4
	前回調査(n=72)	15.3	23.6	8.3	4.2	18.1	11.1	1.4	2.8	15.3
	差(今回-前回)	4.5	▲8.8	5.3	▲0.5	7.8	▲2.5	▲0.2	2.1	▲7.9
城東区	今回調査(n=80)	11.3	20.0	21.3	2.5	17.5	12.5	0.0	3.8	11.3
	前回調査(n=80)	20.0	20.0	15.0	5.0	12.5	7.5	0.0	5.0	15.0
	差(今回-前回)	▲8.7	0.0	6.3	▲2.5	5.0	5.0	0.0	▲1.2	▲3.7
鶴見区	今回調査(n=91)	17.6	17.6	12.1	5.5	29.7	4.4	1.1	4.4	7.7
	前回調査(n=78)	28.2	21.8	5.1	7.7	19.2	6.4	0.0	2.6	9.0
	差(今回-前回)	▲10.6	▲4.2	7.0	▲2.2	10.5	▲2.0	1.1	1.8	▲1.3
阿倍野区	今回調査(n=83)	19.3	28.9	16.9	2.4	15.7	4.8	0.0	4.8	7.2
	前回調査(n=85)	20.0	32.9	11.8	5.9	9.4	5.9	0.0	8.2	5.9
	差(今回-前回)	▲0.7	▲4.0	5.1	▲3.5	6.3	▲1.1	0.0	▲3.4	1.3
住之江区	今回調査(n=80)	17.5	26.3	10.0	2.5	18.8	3.8	1.3	8.8	11.3
	前回調査(n=62)	19.4	19.4	12.9	1.6	22.6	3.2	3.2	4.8	12.9
	差(今回-前回)	▲1.9	6.9	▲2.9	0.9	▲3.8	0.6	▲1.9	4.0	▲1.6
住吉区	今回調査(n=62)	16.1	37.1	12.9	1.6	12.9	8.1	0.0	4.8	6.5
	前回調査(n=64)	26.6	35.9	7.8	3.1	10.9	4.7	3.1	3.1	4.7
	差(今回-前回)	▲10.5	1.2	5.1	▲1.5	2.0	3.4	▲3.1	1.7	1.8
東住吉区	今回調査(n=80)	22.5	23.8	10.0	6.3	16.3	8.8	0.0	3.8	8.8
	前回調査(n=69)	10.1	24.6	10.1	7.2	14.5	14.5	1.4	5.8	11.6
	差(今回-前回)	12.4	▲0.8	▲0.1	▲0.9	1.8	▲5.7	▲1.4	▲2.0	▲2.8
平野区	今回調査(n=56)	25.0	30.4	12.5	3.6	16.1	5.4	0.0	0.0	7.1
	前回調査(n=69)	14.5	27.5	7.2	11.6	15.9	8.7	0.0	4.3	10.1
	差(今回-前回)	10.5	2.9	5.3	▲8.0	0.2	▲3.3	0.0	▲4.3	▲3.0
西成区	今回調査(n=36)	30.6	13.9	16.7	5.6	16.7	2.8	0.0	8.3	5.6
	前回調査(n=40)	32.5	7.5	15.0	5.0	17.5	2.5	0.0	2.5	17.5
	差(今回-前回)	▲1.9	6.4	1.7	0.6	▲0.8	0.3	0.0	5.8	▲11.9

介護度別では、「区役所・保健福祉センターから聞いた」「介護支援専門員・ホームヘルパー・施設職員などから聞いた」「パンフレットや資料から知った」の割合は、介護度が重度になるほど低くなっている。（問21-1-d）

【問21-1-d 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）を知った経緯（介護度別）】



問21-2 地域包括支援センター・総合相談窓口(ブランチ)の利用目的と満足度

問21で「1 利用したことがある」と回答された方におうかがいします。

あなたが、地域包括支援センターまたは総合相談窓口(ブランチ)を利用(相談)された目的について、次の1～9に○をつけてください。(○はいくつでも)

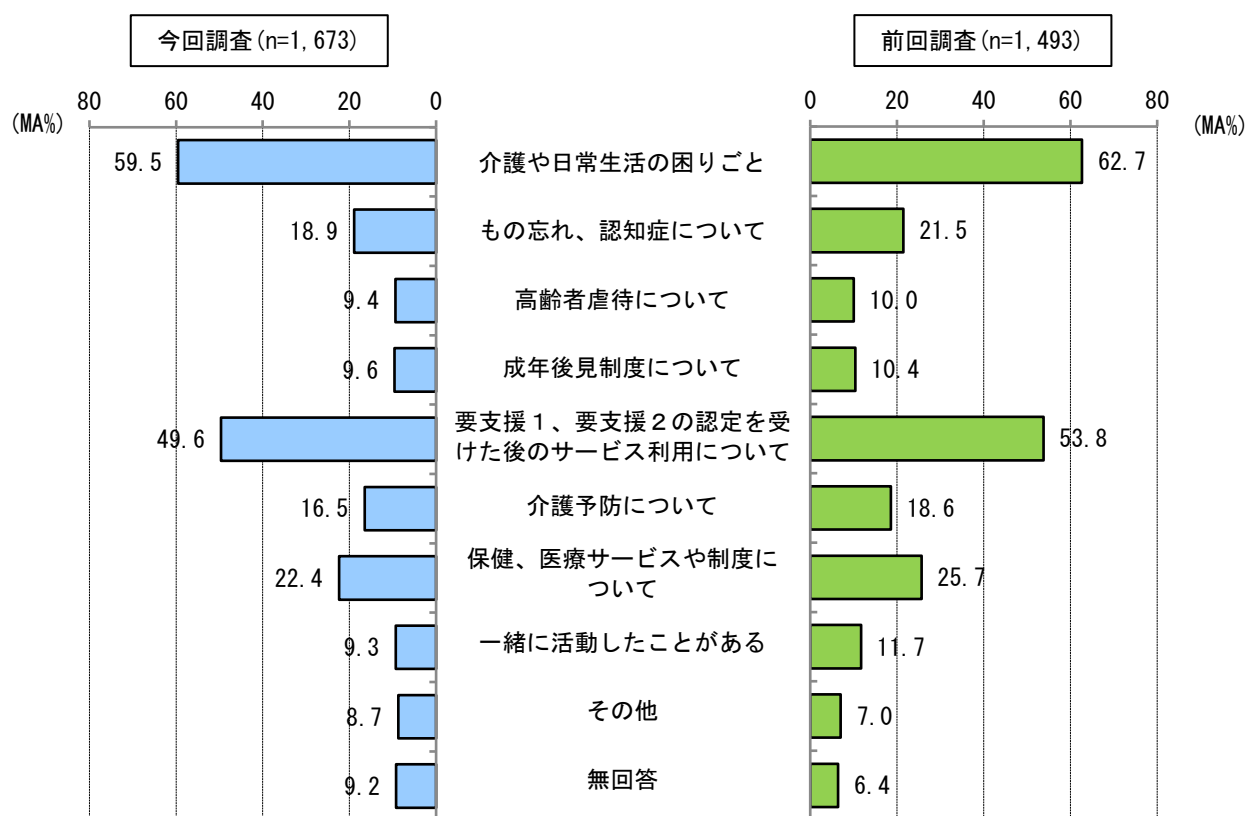
また、その時の満足度についてあてはまるものに○をつけてください。

① 地域包括支援センター・総合相談窓口(ブランチ)の利用(相談)目的

地域包括支援センターまたは総合相談窓口(ブランチ)を利用したことがあると回答した人の利用(相談)目的は、「介護や日常生活の困りごと」の割合が59.5%で最も高く、次いで「要支援1、要支援2の認定を受けた後のサービス利用について」が49.6%、「保健、医療サービスや制度について」が22.4%となっている。

前回調査の結果に比べ、「要支援1、要支援2の認定を受けた後のサービス利用について」の割合が4.2ポイント減少している。(問21-2①)

【問21-2① 地域包括支援センター・総合相談窓口(ブランチ)の利用(相談)目的(経年比較)】

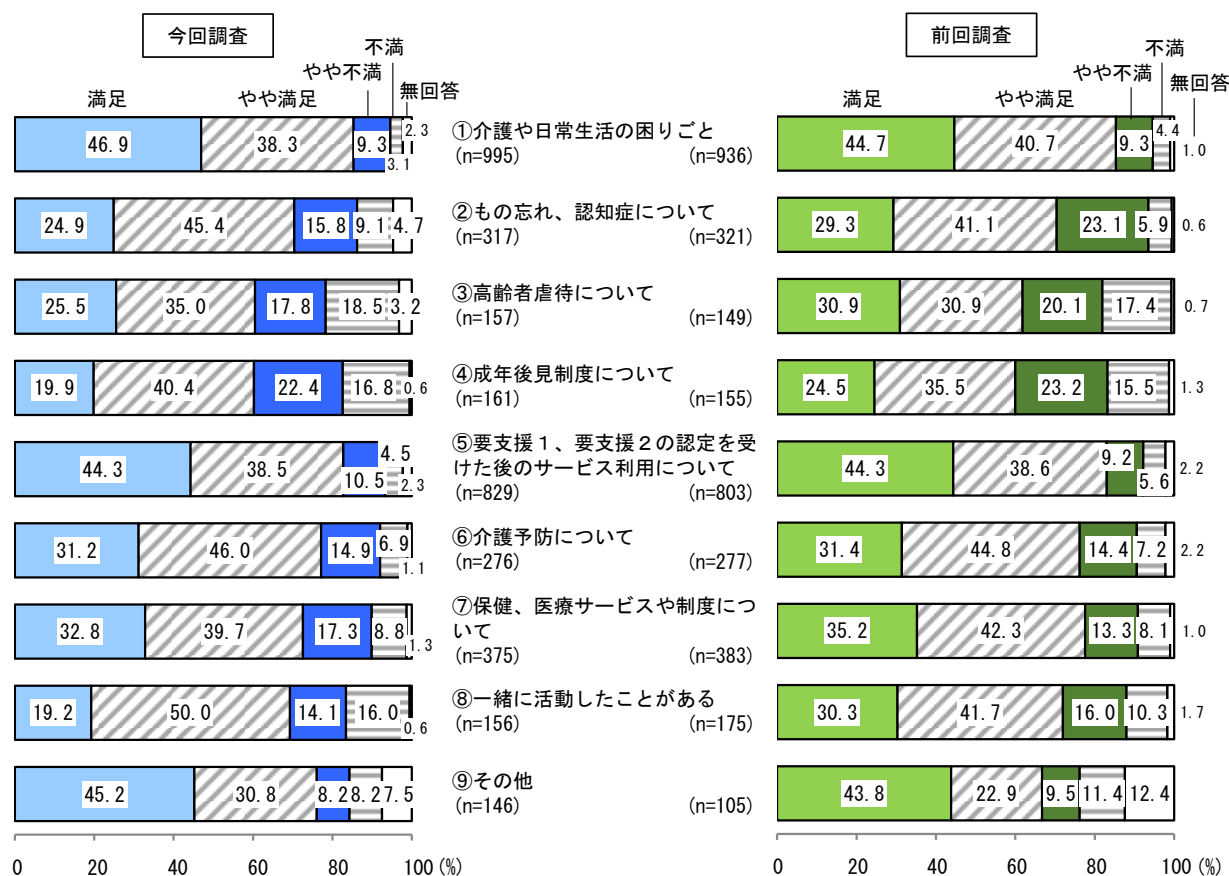


② 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の満足度

地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）を利用したことがあると回答した人に、利用（相談）した目的別の満足度をたずねると、“①介護や日常生活の困りごと”（85.2%）、“⑤要支援１、要支援２の認定を受けた後のサービス利用について”（82.8%）の『満足度』の割合（「満足」と「やや満足」の合計）が高くなっている。

各項目の『満足度』の傾向は、前回調査の結果から大きな変化はみられない。（問21-2②）

【問21-2② 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の満足度（経年比較）】



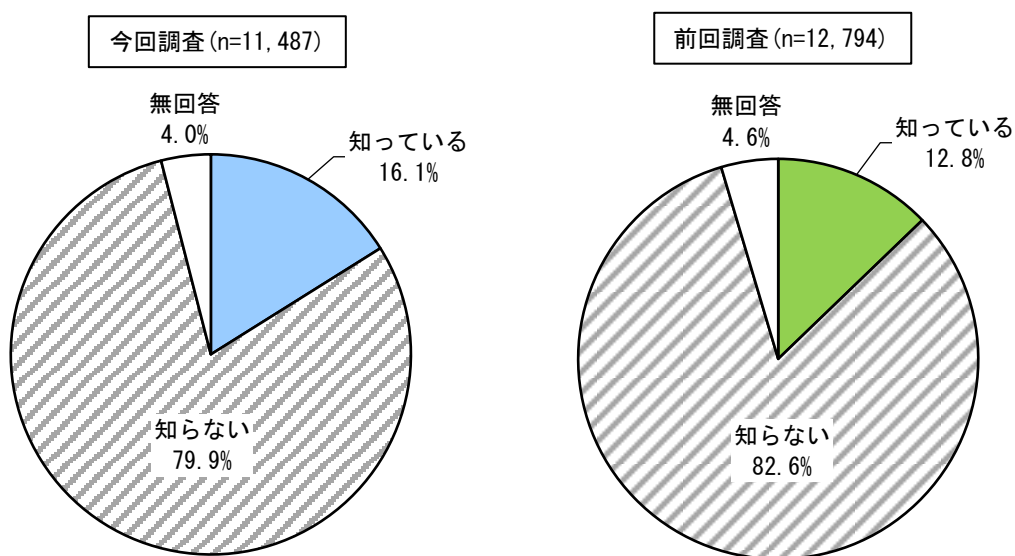
問22 高齢者虐待の相談先の認知度

あなたは、あなた又はあなたの周囲の高齢者が身近な人からの暴力や暴言、身体拘束や閉じ込め、介護や世話の放棄、年金の使い込みといった「高齢者虐待」を受けた場合の通報・相談先をご存じですか。(〇はひとつ)

高齢者虐待を受けた場合の通報・相談先を「知っている」の割合は16.1%に対し、「知らない」が79.9%となっている。

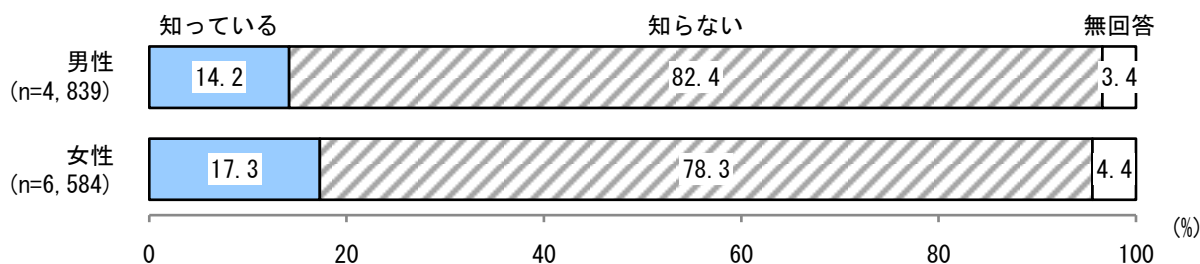
前回調査の結果に比べ、「知っている」の割合が3.3ポイント増加している。(問22)

【問22 高齢者虐待の相談先の認知度（経年比較）】



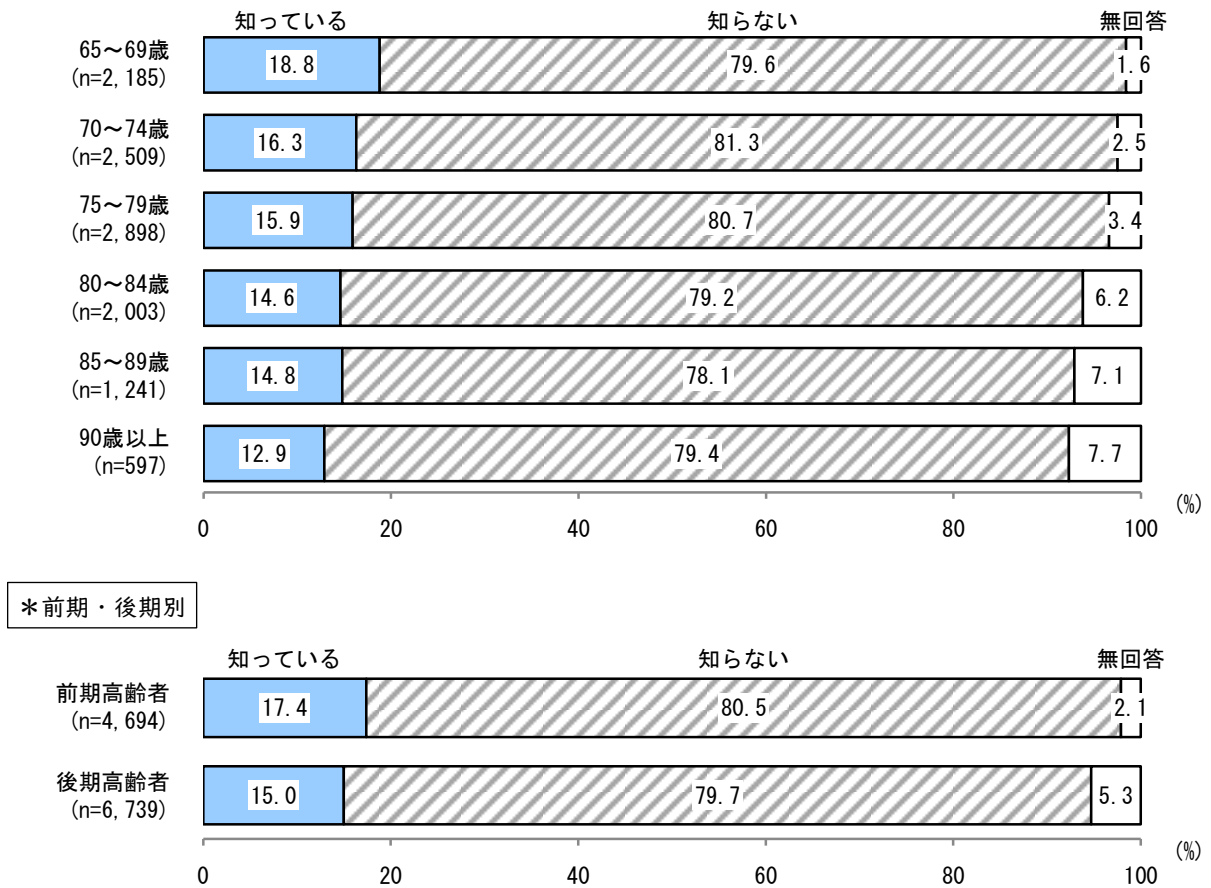
性別では、「知らない」の割合は女性より男性の方が高くなっている。(問22-a)

【問22-a 高齢者虐待の相談先の認知度（性別）】



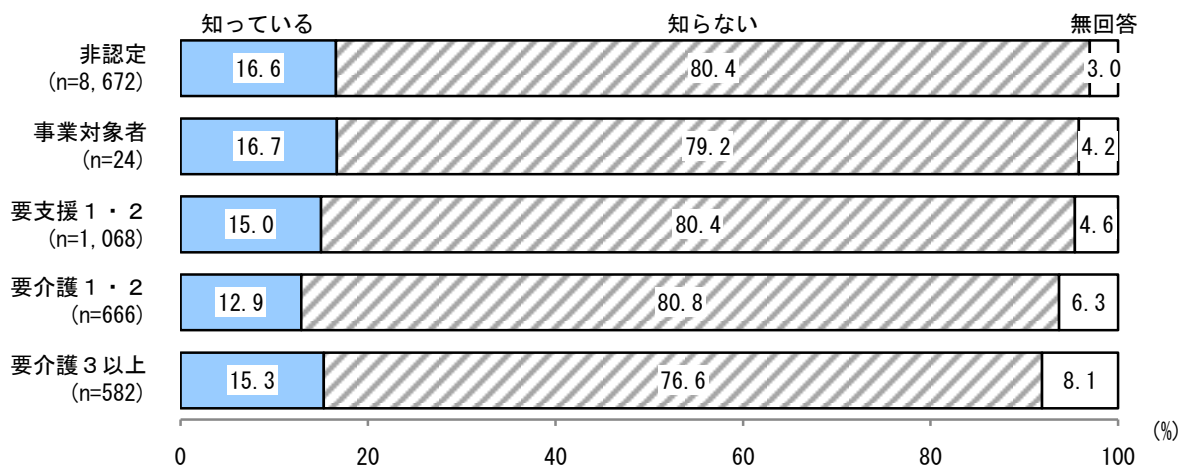
年齢別では、どの年齢層も８割前後は「知らない」と回答している。(問22-b)

【問22-b 高齢者虐待の相談先の認知度（年齢別）】



介護度別では、「知っている」の割合は要介護１・２が12.9%で最も低くなっている。(問22-c)

【問22-c 高齢者虐待の相談先の認知度（介護度別）】



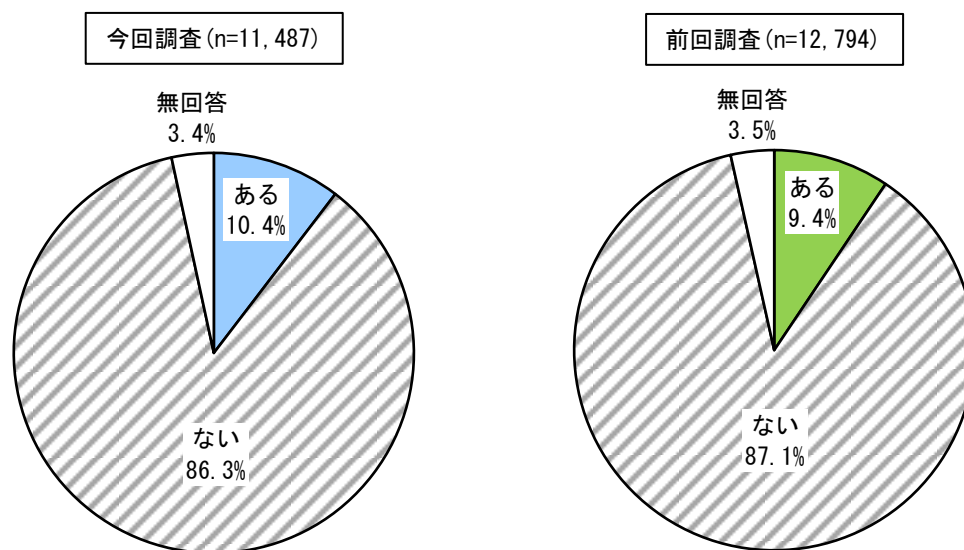
問23 消費者被害の経験有無

あなたは、これまでに消費者被害にあったことや、あいそうになったことはありますか。
(〇はひとつ)

消費者被害にあったことや、あいそうになったことが「ある」は10.4%に対し、「ない」が86.3%となっている。

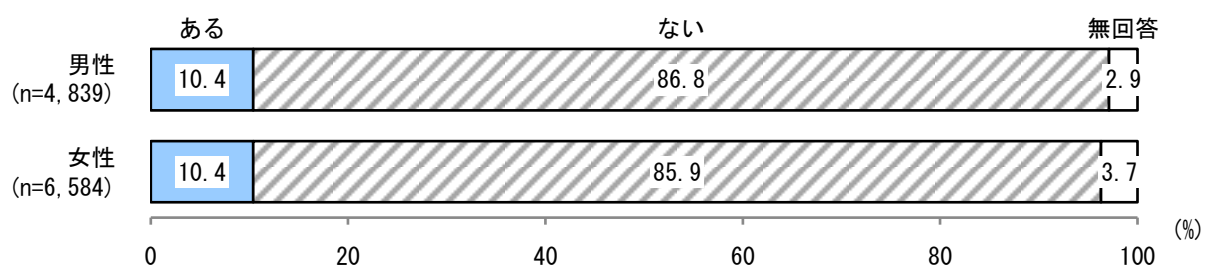
前回調査の結果から大きな変化はみられない。(問23)

【問23 消費者被害の経験有無（経年比較）】



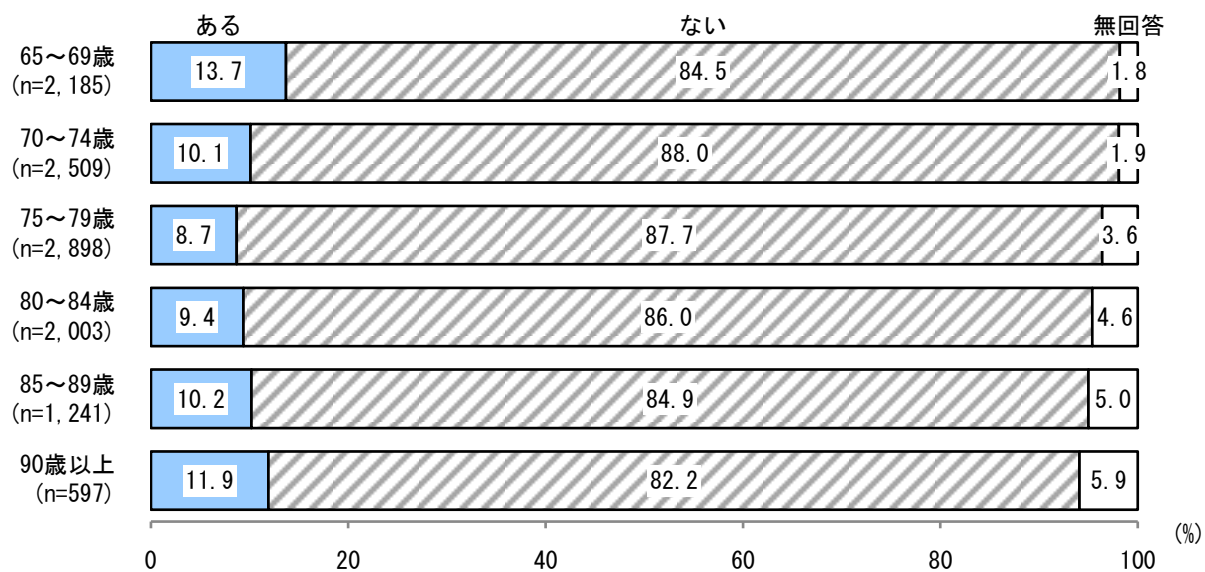
性別では、男女とも同様の傾向であり、大きな差はみられない。(問23-a)

【問23-a 消費者被害の経験有無（性別）】

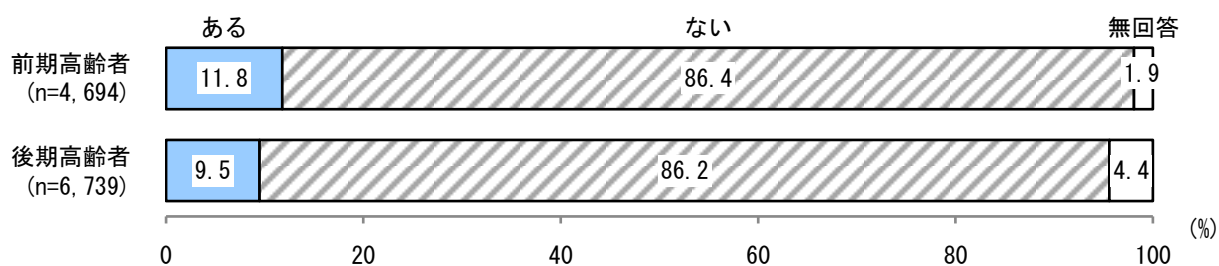


年齢別では、「ある」の割合は、65～69歳が13.7%で最も高くなっている。(問23-b)

【問23-b 消費者被害の経験有無（年齢別）】



*前期・後期別



（５）将来の介護や援護に対する考え

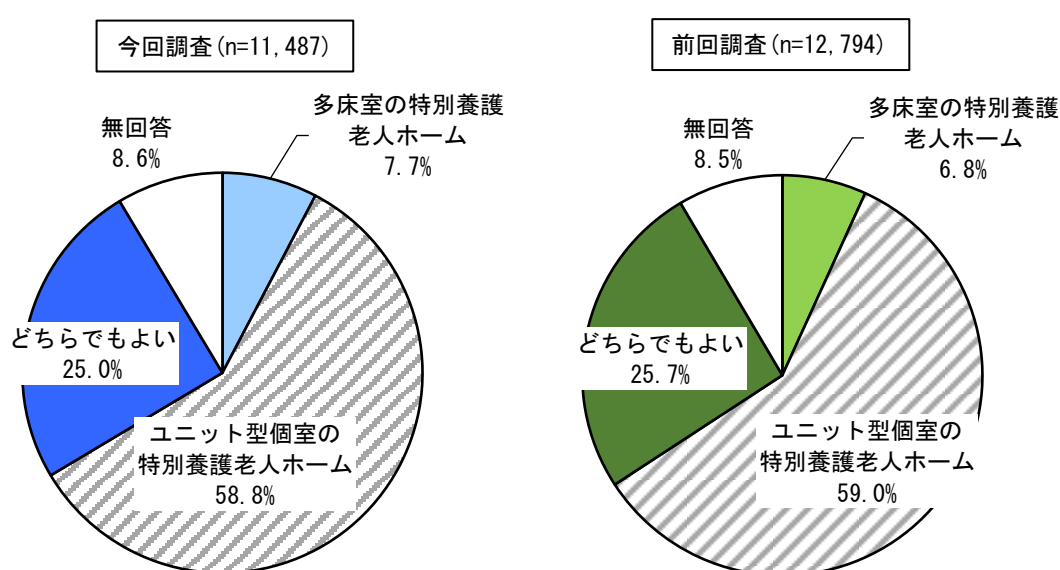
問24 特養入所意向

あなたは、特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）に入所することになった場合、どちらの施設に入りたいと思われますか。（○はひとつ）

特別養護老人ホームに入所する場合に希望する施設は、「ユニット型個室の特別養護老人ホーム」の割合が58.8%で最も高く、次いで「どちらでもよい」が25.0%、「多床室の特別養護老人ホーム」が7.7%となっている。

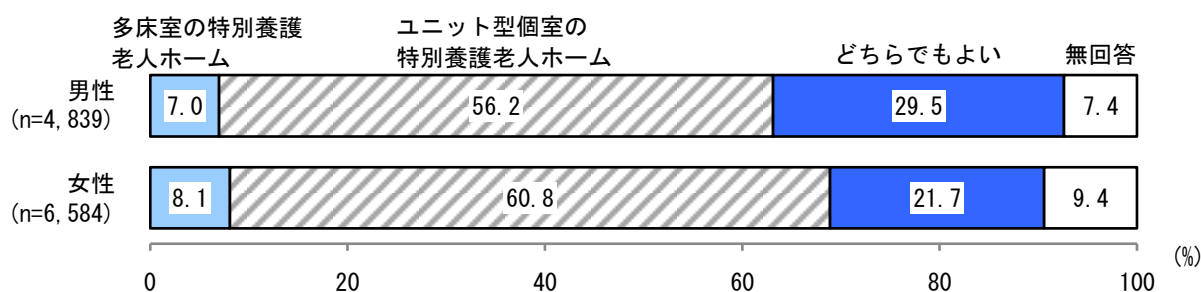
前回調査の結果から大きな変化はみられない。（問24）

【問24 特養入所意向（経年比較）】



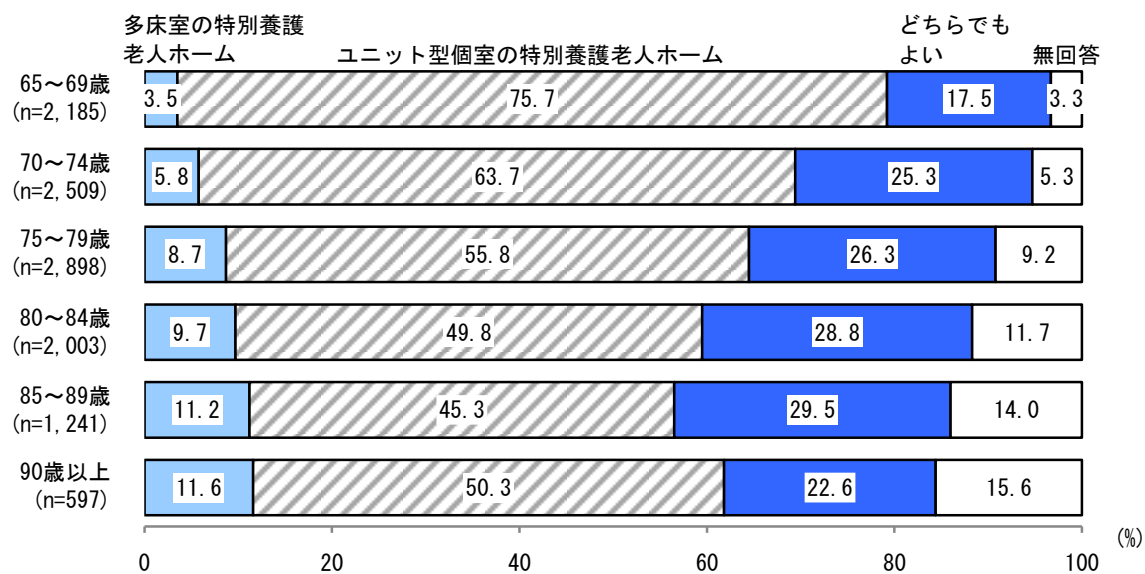
性別では、「多床室の特別養護老人ホーム」「ユニット型個室の特別養護老人ホーム」の割合は、男性より女性の方が高くなっている。（問24-a）

【問24-a 特養入所意向（性別）】

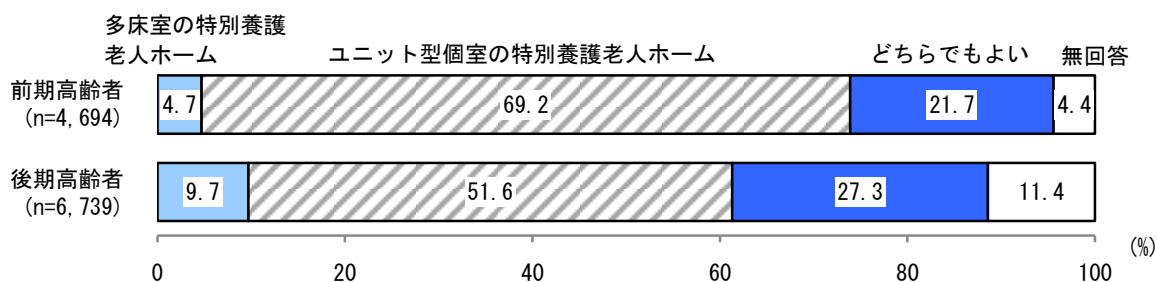


年齢別では、いずれの年代も「ユニット型個室の特別養護老人ホーム」を希望する割合が最も高いが、85～89歳は45.3%で最も低く、「どちらでもよい」の割合が高くなっている。一方、「多床室の特別養護老人ホーム」の回答割合は高齢になるほど高くなり、90歳以上が11.6%で最も高くなっている。（問24-b）

【問24-b 特養入所意向（年齢別）】

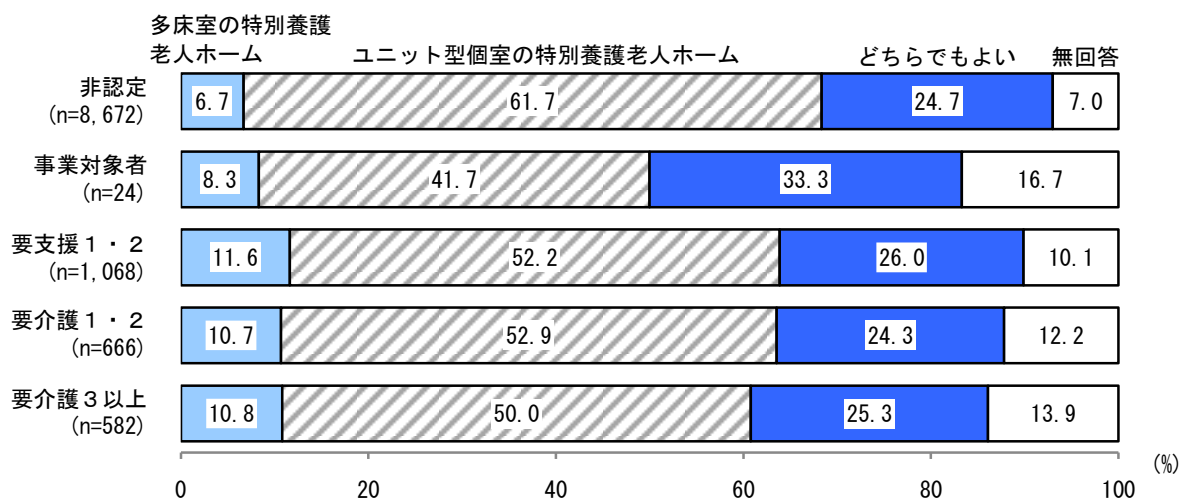


*前期・後期別



介護度別では、いずれの介護度も「ユニット型個室の特別養護老人ホーム」の希望する割合が最も高く、非認定が61.7%で最も高くなっている（問24-b）

【問24-b 特養入所意向（介護度別）】



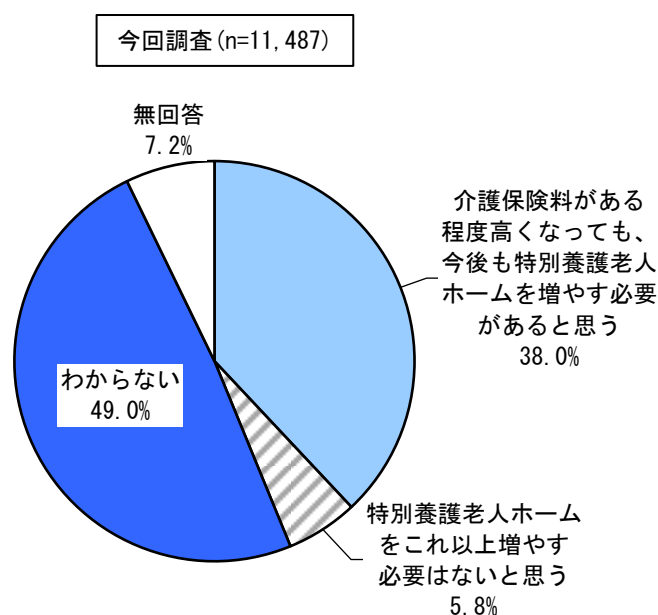
問25 特養の整備と介護保険料

特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）の整備についておたずねします。

令和7年7月1日現在、特別養護老人ホームは14,803人分整備されており、必要性・緊急性の高い入所申込者が概ね1年以内に入所できている状況になっています。特別養護老人ホームの整備が進めば、在宅よりも施設の方が介護サービス費用が高く、介護保険料にも影響します。あなたは、今後の整備についてどう思われますか。（〇はひとつ）

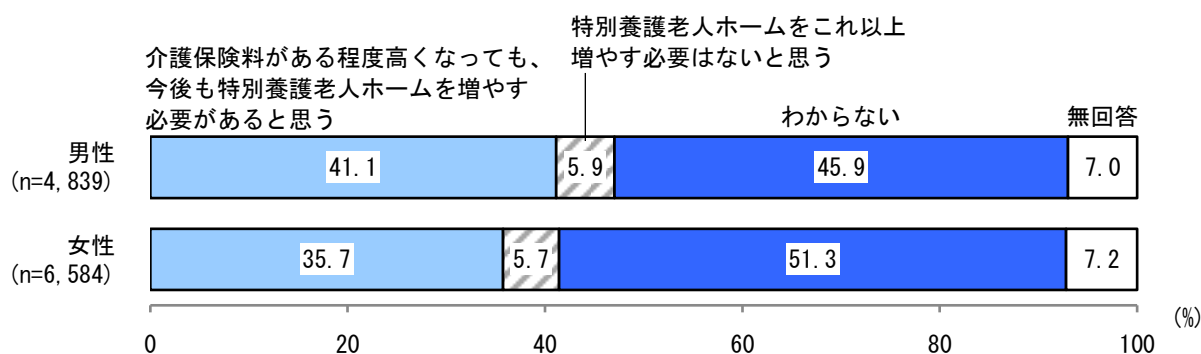
特別養護老人ホームの整備と介護保険料に対する考えは、「わからない」の割合が49.0%。「介護保険料がある程度高くなっても、今後も特別養護老人ホームを増やす必要があると思う」は38.0%で、約4割が増設の必要性を感じている。（問25）

【問25 特養の整備と介護保険料】



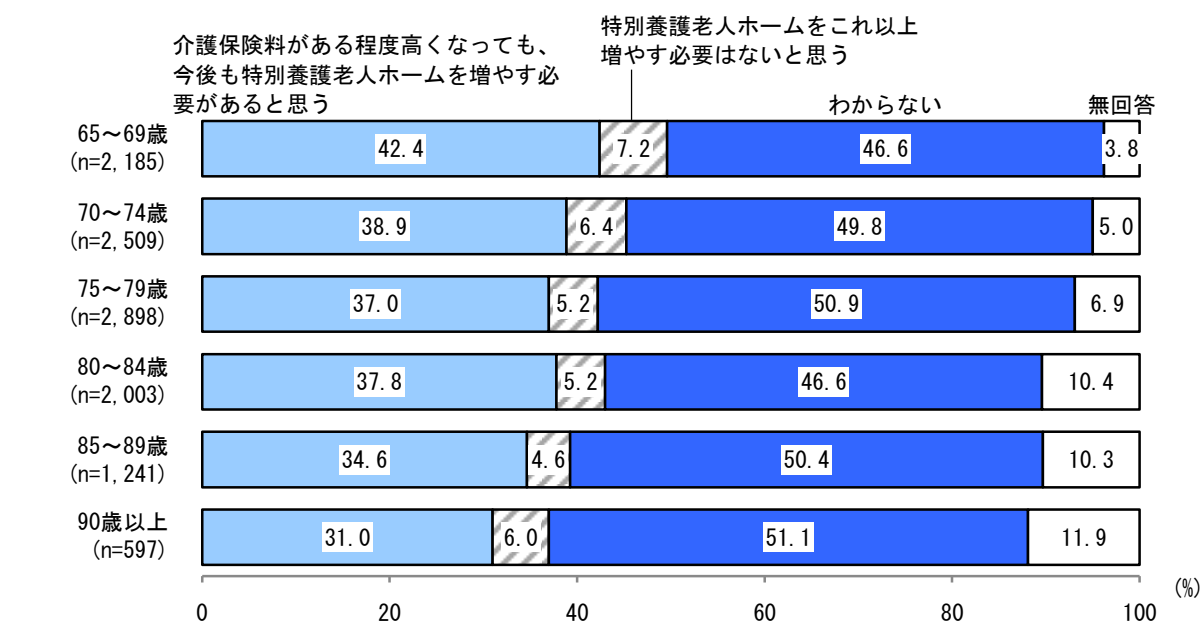
性別では、「介護保険料がある程度高くなっても、今後も特別養護老人ホームを増やす必要があると思う」の割合は女性より男性の方が高くなっている。（問25-a）

【問25-a 特養の整備と介護保険料（性別）】

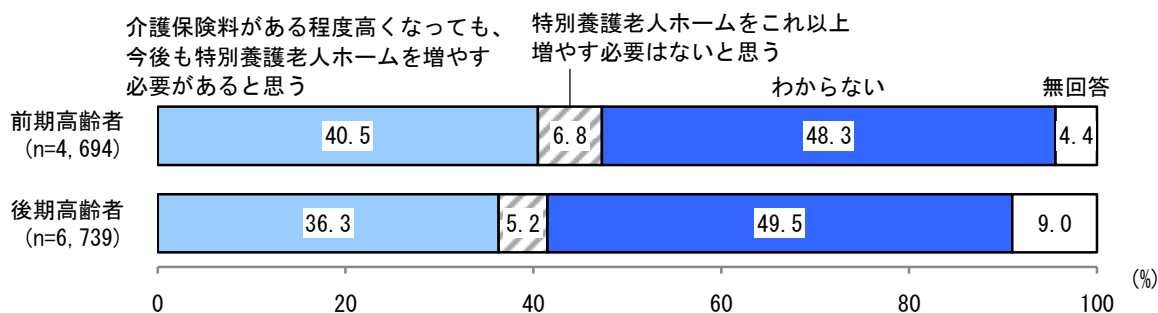


年齢別では、「介護保険料がある程度高くなっても、今後も特別養護老人ホームを増やす必要があると思う」の割合は、高齢になるほど低くなる傾向がある。（問25-b）

【問25-b 特養の整備と介護保険料（年齢別）】

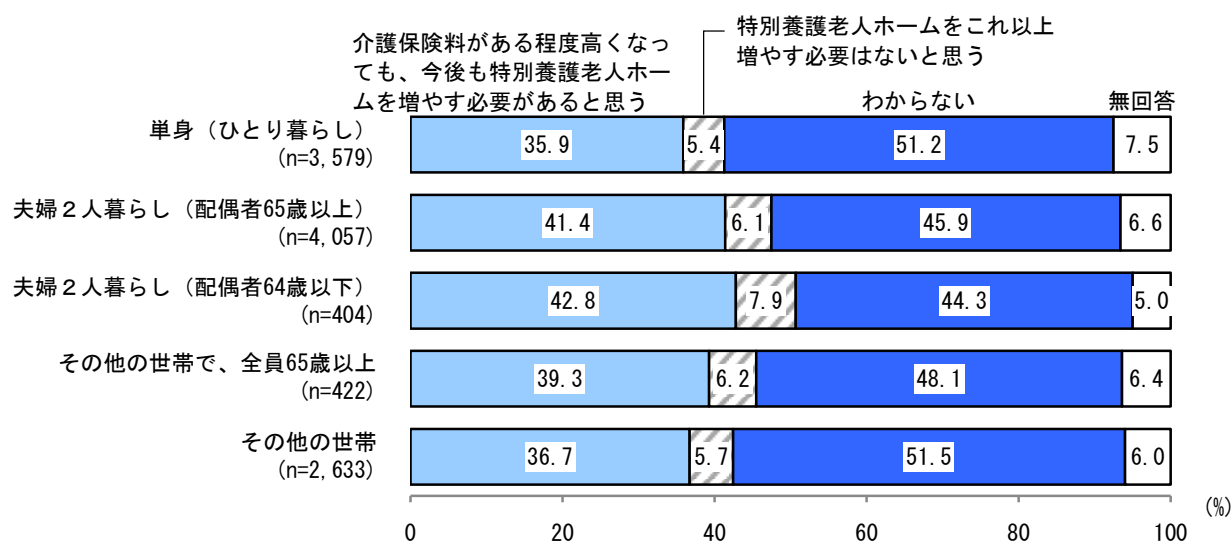


*前期・後期別



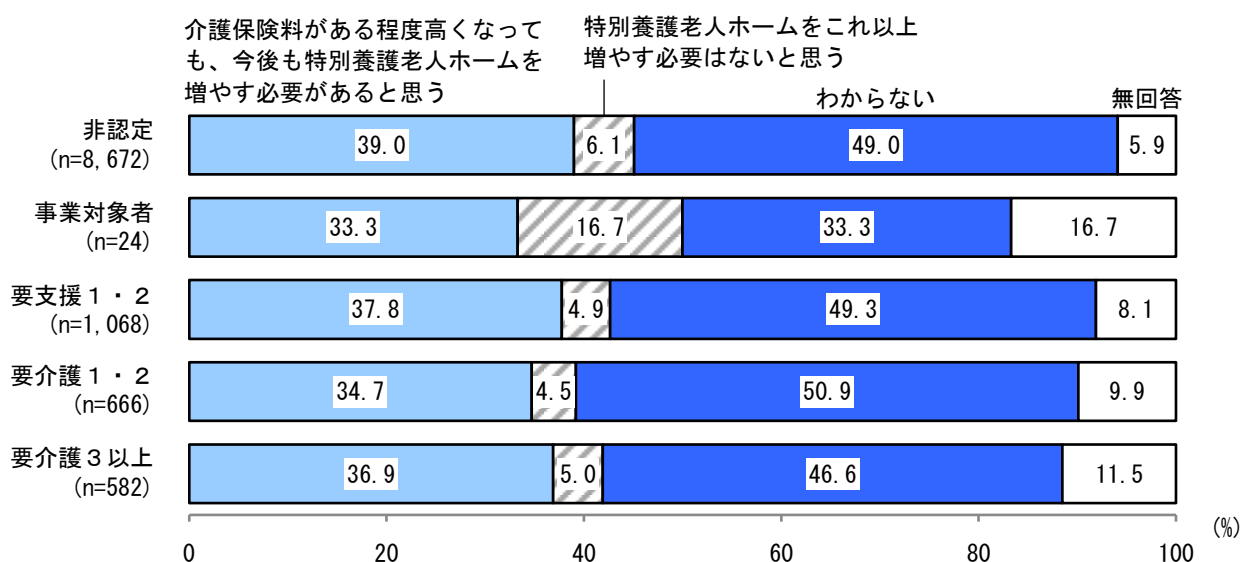
世帯状況別では、「介護保険料がある程度高くなっても、今後も特別養護老人ホームを増やす必要があると思う」の割合は、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の世帯が42.8%で最も高くなっている。（問25-c）

【問25-c 特養の整備と介護保険料（世帯状況別）】



介護度別では、「介護保険料がある程度高くなっても、今後も特別養護老人ホームを増やす必要があると思う」の割合は、非認定が39.0%で最も高く、次いで要支援1・2が37.8%となっている。（問25-d）

【問25-d 特養の整備と介護保険料（介護度別）】



介護が必要になった場合の暮らし方（問5）と特別養護老人ホームの整備と介護保険料に対する考え方（問25）との関係では、特別養護老人ホームや介護老人保健施設、介護医療院などの施設に入所したいと回答した方は、「介護保険料がある程度高くなっても、今後も特別養護老人ホームを増やす必要があると思う」の割合が55.7%で最も高くなっている。また、高齢者向けに配慮された住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したいと回答した方でも51.5%を占めている。これに対し、現在の住宅に住み続けたいと回答した方では「わからない」の割合が高くなっている。（問25-e）

【問25-e 特養の整備と介護保険料（介護が必要になった場合の暮らし方別）】

（単位：％）

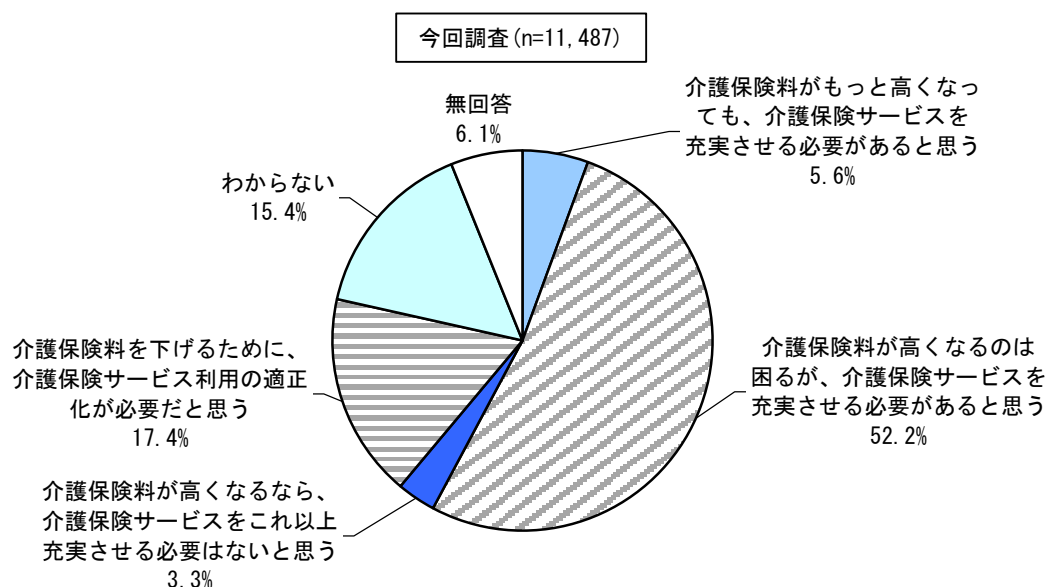
	n	介護保険料がある程度高くなっても、今後も特別養護老人ホームを増やす必要があると思う	特別養護老人ホームをこれ以上増やす必要はないと思う	わからない	無回答
ご家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい	2,061	33.8	6.6	50.4	9.2
介護保険サービスの居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい	4,546	40.1	6.8	47.2	5.9
高齢者向けに配慮された住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい	1,177	51.5	5.5	38.1	4.9
特別養護老人ホームや介護老人保健施設、介護医療院などの施設に入所したい	1,236	55.7	3.5	36.8	4.0
その他	236	27.1	8.1	52.5	12.3
わからない	1,975	21.8	4.1	66.2	7.8

問26 介護保険サービスと介護保険料に対する考え

介護保険サービスの充実が進めば、介護保険料が高額になっていきますが、あなたは、今後の介護保険サービスについてどうお考えですか。(〇はひとつ)

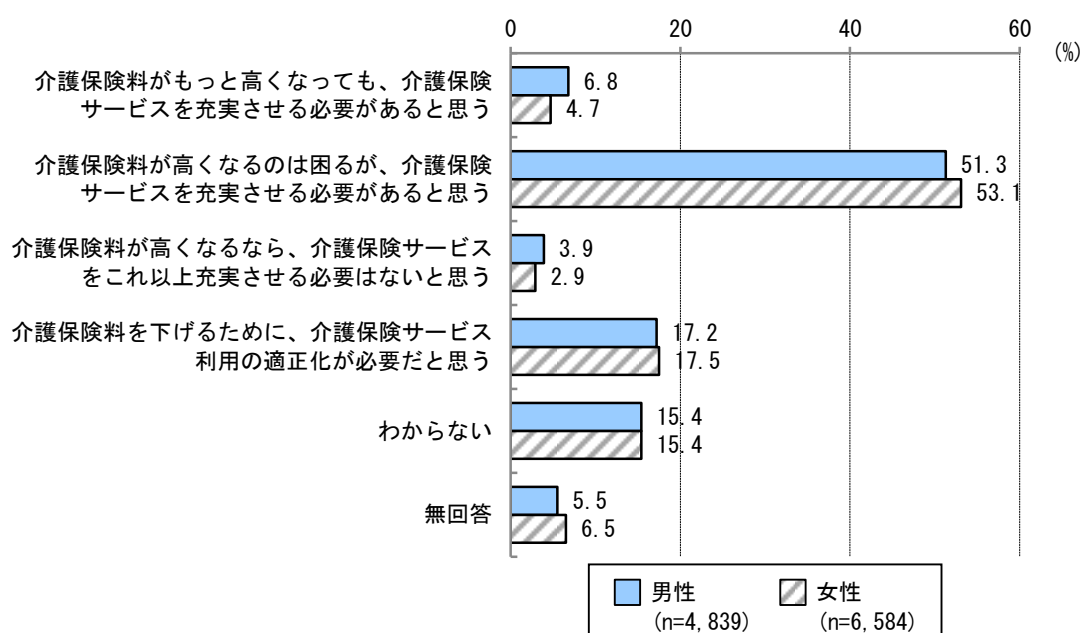
介護保険サービスと介護保険料に対する考えについて、「介護保険料が高くなるのは困るが、介護保険サービスを充実させる必要があると思う」の割合が52.2%で最も高く、次いで「介護保険料を下げるために、介護保険サービス利用の適正化が必要だと思う」が17.4%となっている。(問26)

【問26 介護保険サービスと介護保険料に対する考え】



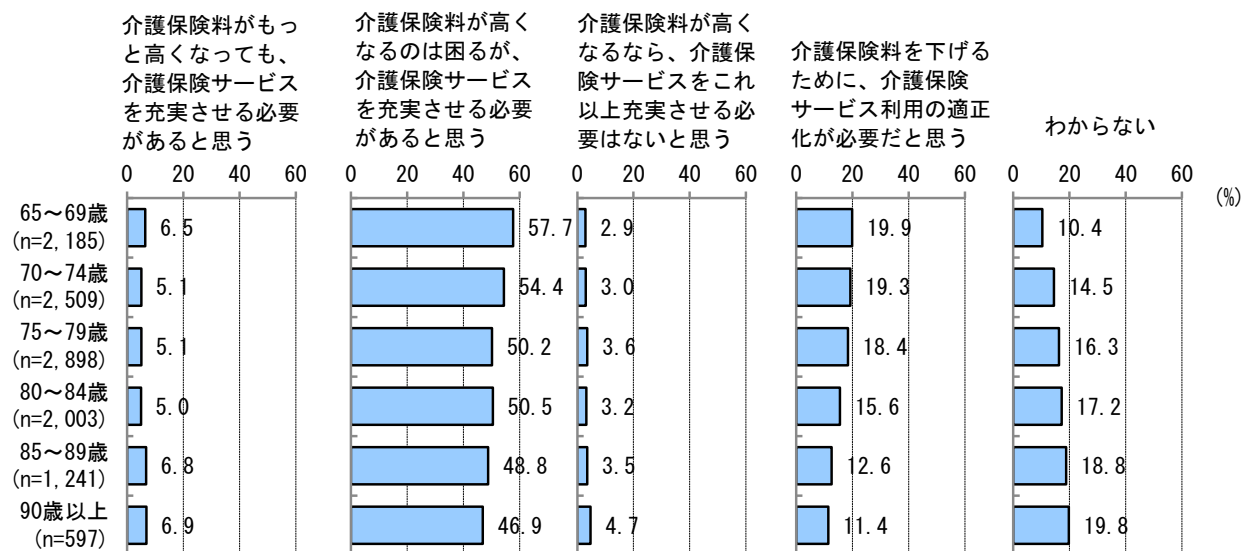
性別では、男女とも同じ傾向であり、大きな差はみられない。(問26-a)

【問26-a 介護保険サービスと介護保険料に対する考え（性別）】

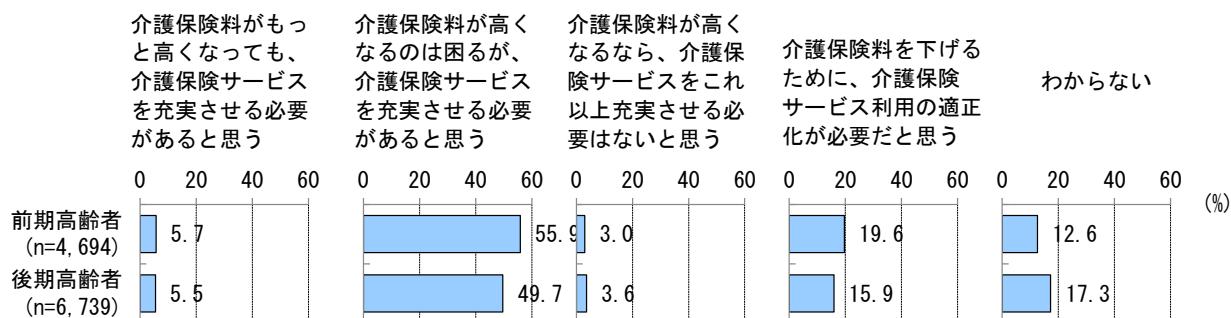


年齢別では、「介護保険料が高くなるのは困るが、介護保険サービスを充実させる必要があると思う」「介護保険料を下げるために、介護保険サービス利用の適正化が必要だと思う」の割合は後期高齢者になるとやや低くなっている。(問26-b)

【問26-b 介護保険サービスと介護保険料に対する考え（年齢別）】



* 前期・後期別

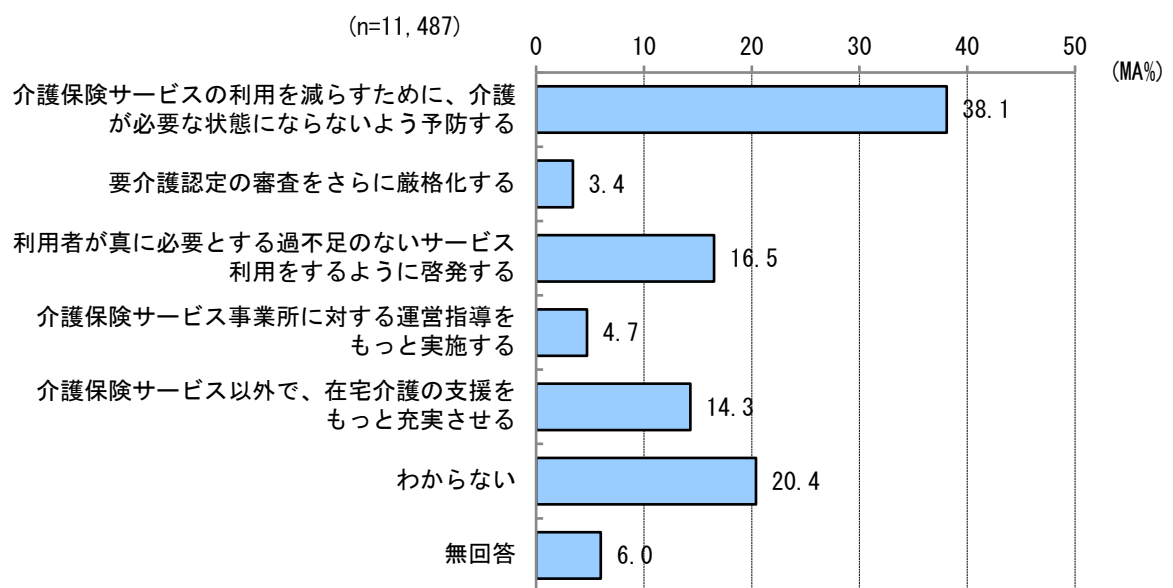


問27 介護保険料の上昇を抑制するために必要な取組

介護保険料の上昇を抑制するために、どのような取組が必要だと思われますか。(〇はひとつ)

介護保険料の上昇を抑制するために必要な取組は、「介護保険サービスの利用を減らすために、介護が必要な状態にならないよう予防する」の割合が38.1%で最も高く、次いで「利用者が真に必要とする過不足のないサービス利用をするように啓発する」が16.5%、「介護保険サービス以外で、在宅介護の支援をもっと充実させる」が14.3%となっている。(問27)

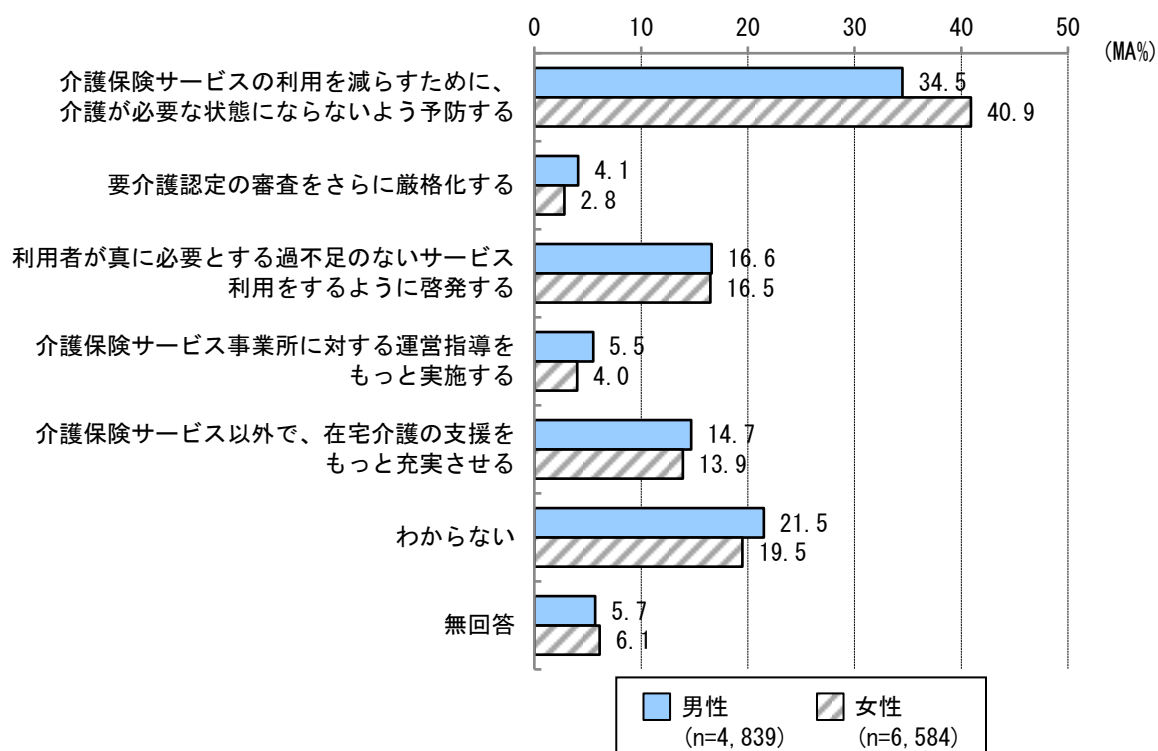
【問27 介護保険料の上昇を抑制するために必要な取組】



※2つ以上の回答が多かったため、複数回答に変更している。

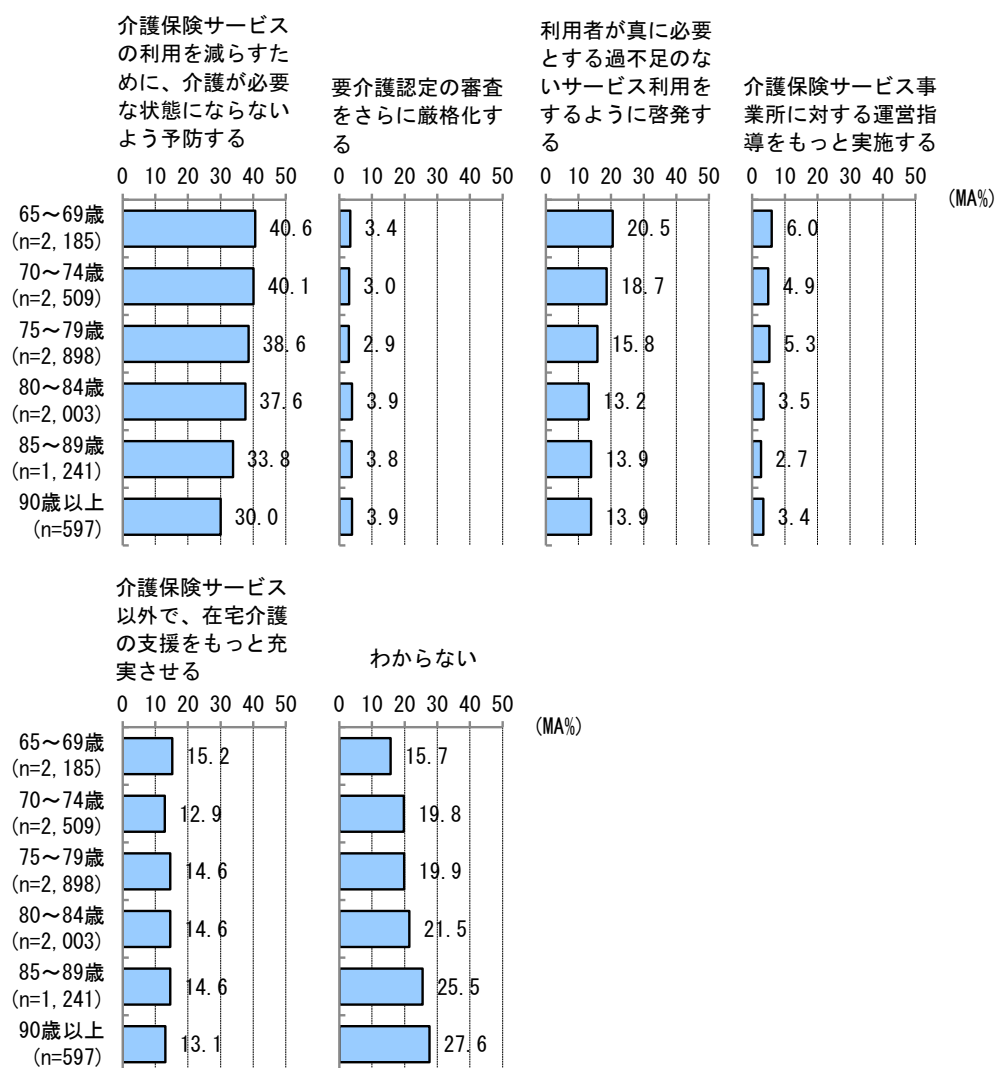
性別では、「介護保険サービスの利用を減らすために、介護が必要な状態にならないよう予防する」の割合は男性より女性の方が高くなっている。（問27-a）

【問27-a 介護保険料の上昇を抑制するために必要な取組（性別）】

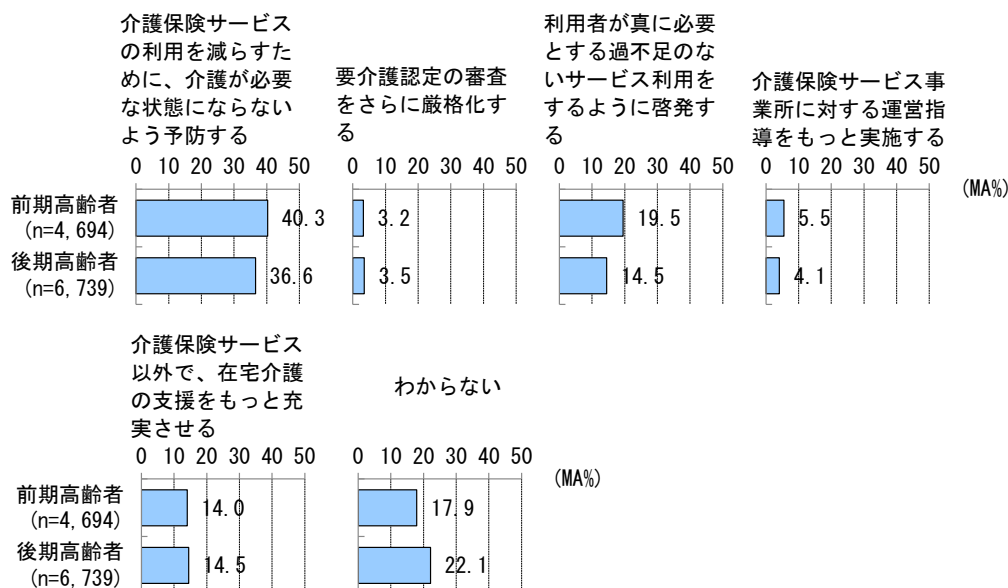


年齢別では、「介護保険サービスの利用を減らすために、介護が必要な状態にならないよう予防する」の割合は高齢になるほど低くなっている。(問27-b)

【問27-b 介護保険料の上昇を抑制するために必要な取組（年齢別）】

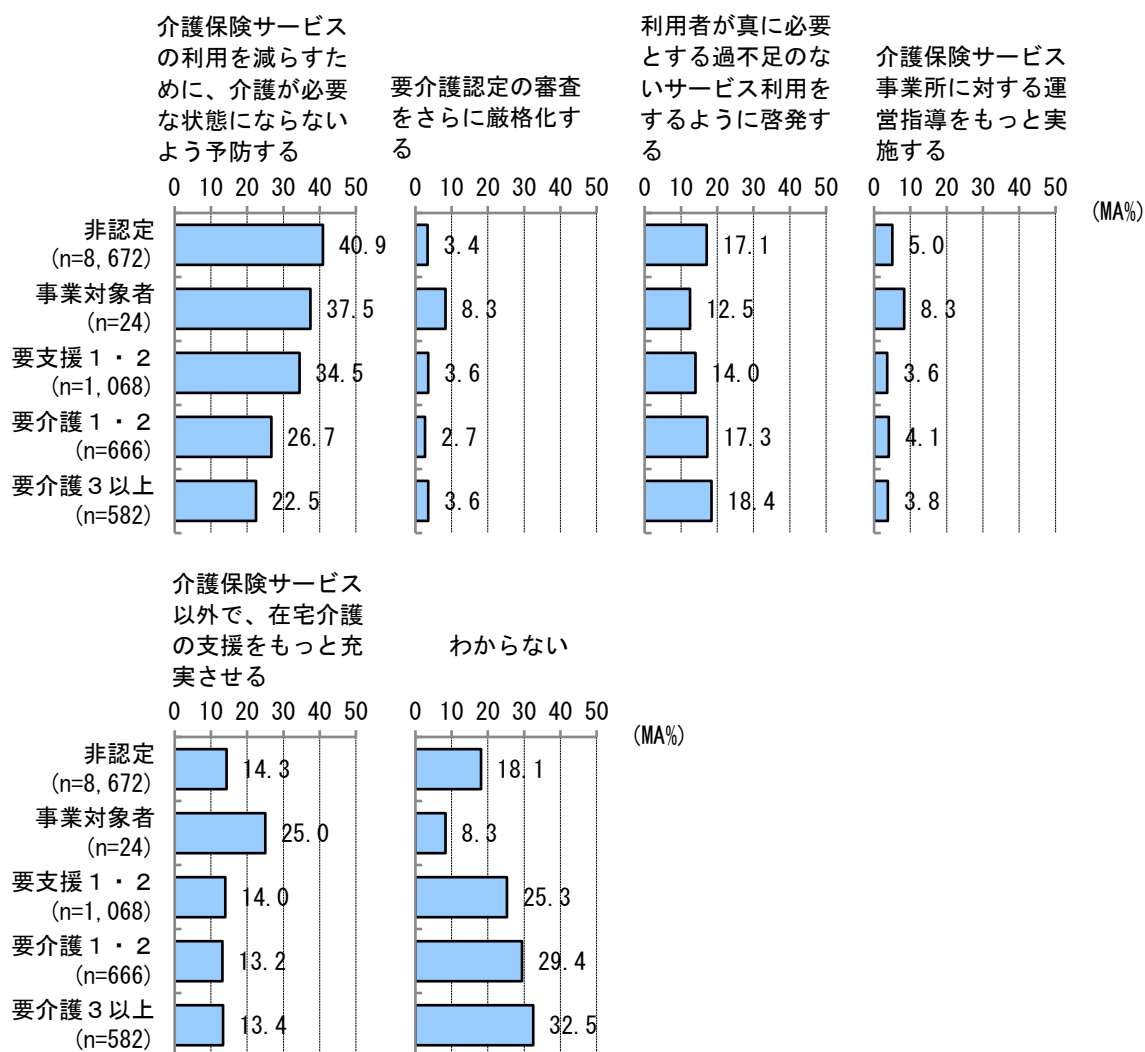


＊前期・後期別



介護度別では、「介護保険サービス以外で、在宅介護の支援をもっと充実させる」の割合は、事業対象者で25.0%となっている。(問27-c)

【問27-c 介護保険料の上昇を抑制するために必要な取組（介護度別）】



介護が必要になった場合の暮らし方（問5）と介護保険料の上昇を抑制するために必要な取組（問27）との関係では、介護が必要になった場合の暮らし方に関係なく、「介護保険サービスの利用を減らすために、介護が必要な状態にならないよう予防する」の割合が最も高く、その割合は、高齢者向けに配慮された住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したいと回答した方が42.5%で最も高い。これに次いで、介護保険サービスの居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたいと回答した方が40.5%となっている。（問27-d）

【問27-d 介護保険料の上昇を抑制するために必要な取組（介護が必要になった場合の暮らし方別）】

（単位：MA%）

	n	介護保険サービスの利用を減らすために予防する	介護認定の審査をさらに厳格化する	利用者が真に必要とする過不足のないサービスを利用する	介護保険サービス事業所に対する運営指導をもつと実施する	介護保険サービス以外で、在宅介護の支援をもつと充実させる	わからない	無回答
ご家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい	2,061	38.0	3.9	12.8	4.7	15.3	20.6	7.5
介護保険サービスの居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい	4,546	40.5	3.5	17.6	4.5	18.1	15.1	4.8
高齢者向けに配慮された住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい	1,177	42.5	3.9	21.8	5.5	10.9	15.0	3.7
特別養護老人ホームや介護老人保健施設、介護医療院などの施設に入所したい	1,236	39.2	3.2	21.4	5.5	10.2	19.7	4.0
その他	236	34.7	3.0	18.2	5.9	12.3	22.5	9.3
わからない	1,975	31.5	2.4	12.9	4.1	9.2	35.1	6.4

（６）高齢者施策全般

問28 高齢者向け施設・事業の利用状況・意向

次の施設や事業について、あなたの利用状況や意向をお答えください。

（○はそれぞれひとつずつ）

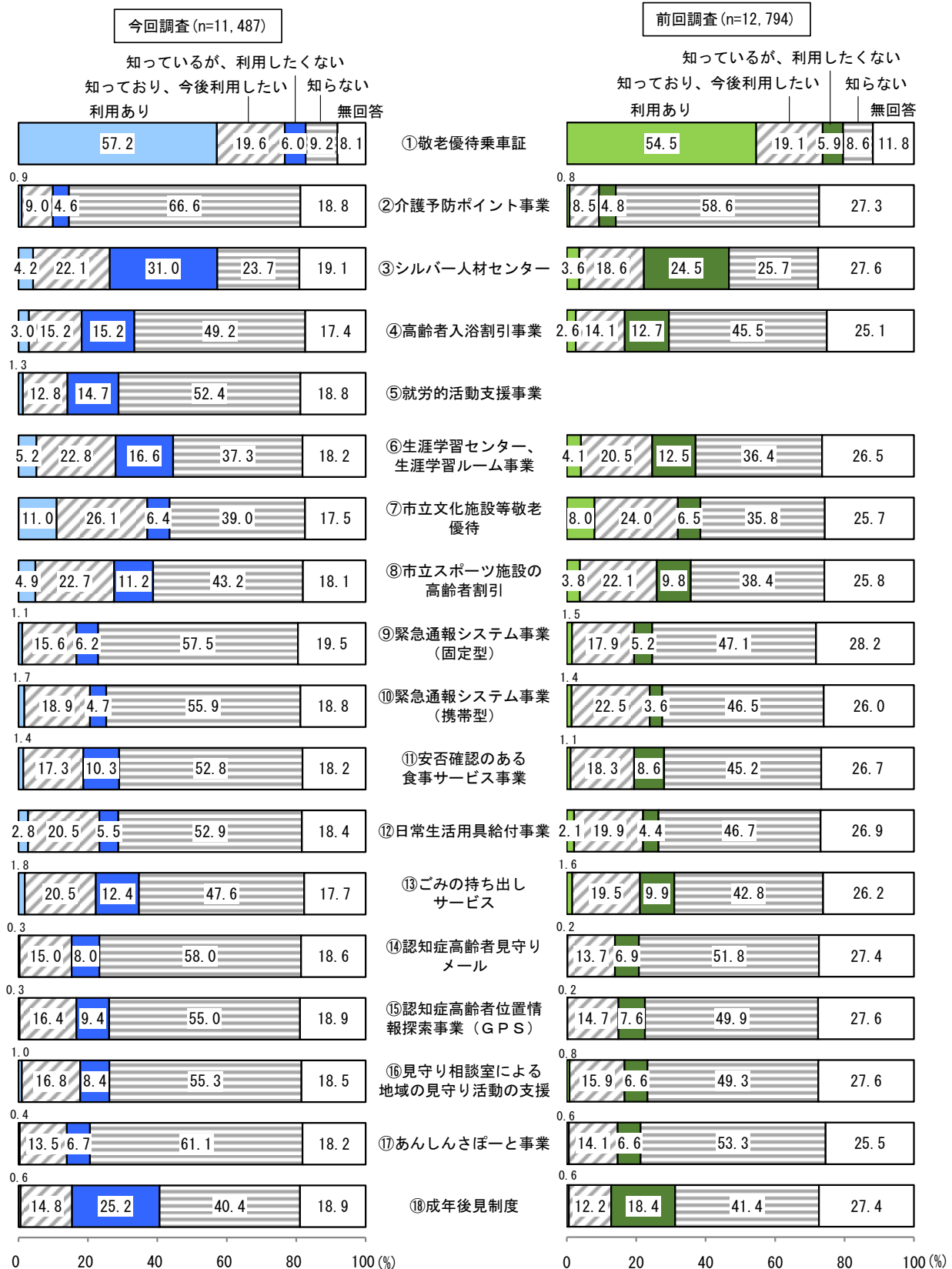
「利用あり」の割合が最も高い事業は、“①敬老優待乗車証”（57.2％）で、半数以上の高齢者が利用している。次いで、“⑦市立文化施設等敬老優待”（11.0％）で、これら以外の事業の利用割合は1割未満で、「知らない」の割合が高くなっている。

また、「知っており、今後利用したい」の割合が高い事業等は、“⑦市立文化施設等敬老優待”（26.1％）、“⑥生涯学習センター、生涯学習ルーム事業”（22.8％）、“⑧市立スポーツ施設の高齢者割引”（22.7％）などとなっている。

“②介護予防ポイント事業”をはじめ、“⑭認知症高齢者見守りメール”や“⑮認知症高齢者位置情報探索事業（GPS）”“⑰あんしんさぽーと事業”は、利用者が限定されるため「知らない」割合が高くなると考えられる。

前回調査の結果に比べ、「知っているが、利用したくない」の割合は、“⑱成年後見制度”が6.8ポイント、“③シルバー人材センター”が6.5ポイントそれぞれ増加している。（問28）

【問28 高齢者向け施設・事業の利用状況・意向】



※「⑤就労的活動支援事業」は、今回調査の新規項目である。

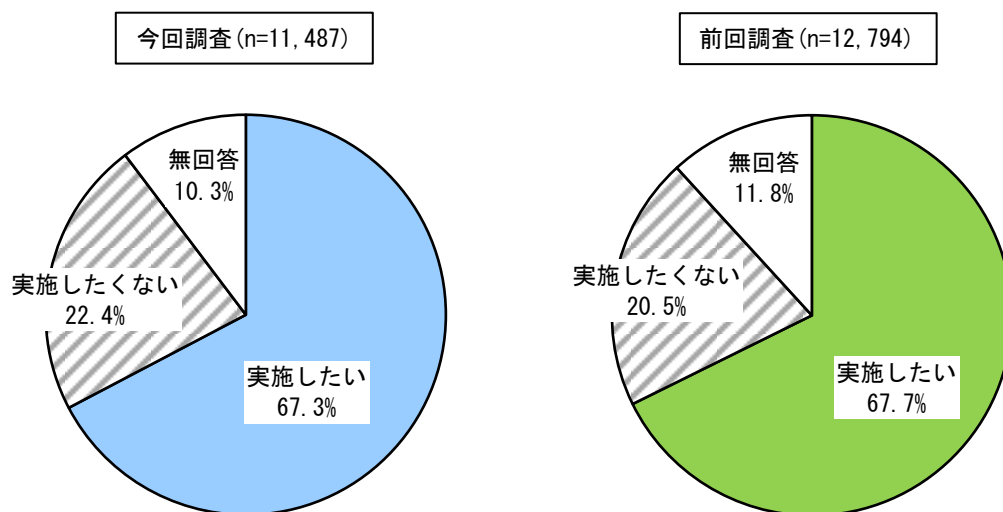
問29 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向

ケアマネジャーから、いつまでも住み慣れた地域でいきいきと生活続けることに役立つケアプランが提案された場合、そのプランに含まれるリハビリテーション等を実施してみたいですか。(〇はひとつ)

自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントについて、「実施したい」が67.3%に対し、「実施したくない」は22.4%となっている。

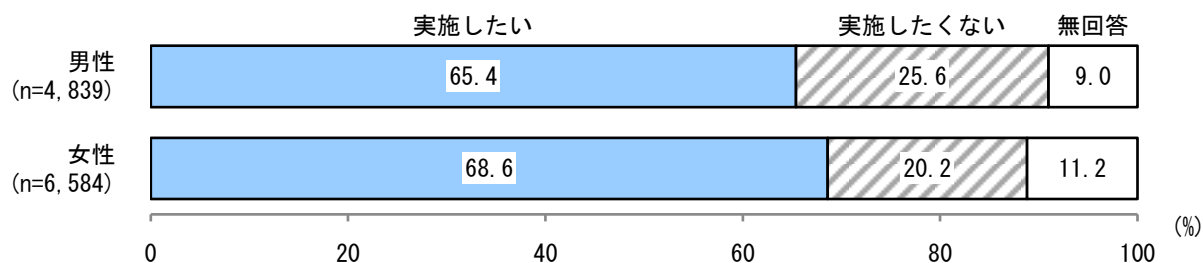
前回調査の結果から大きな変化はみられない。(問29)

【問29 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向（経年比較）】



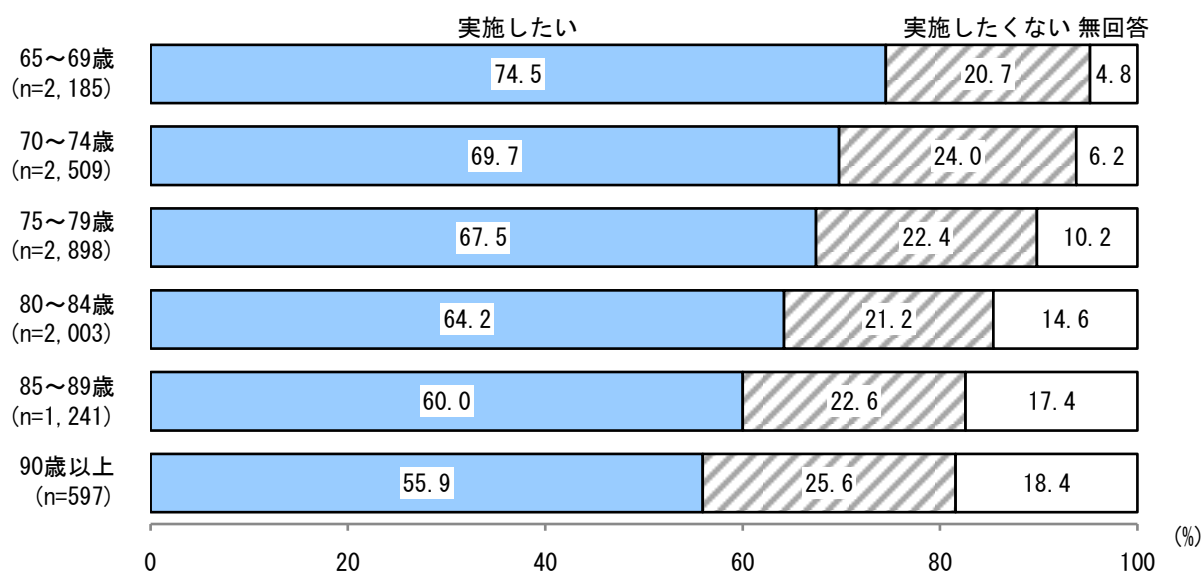
性別では、「実施したい」の割合は男性より女性の方が高くなっている。(問29-a)

【問29-a 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向（性別）】

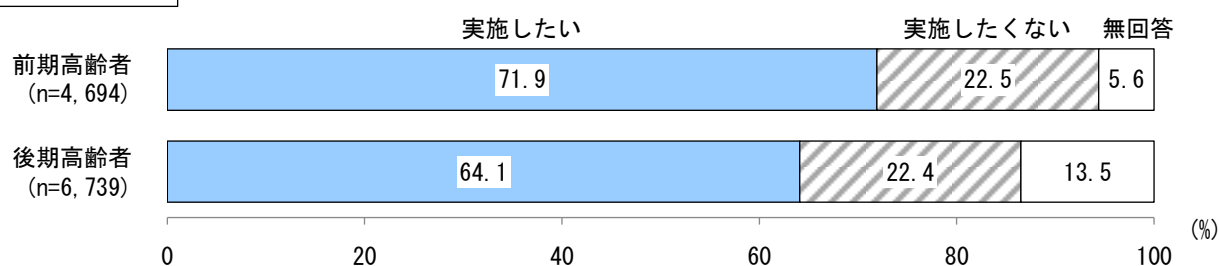


年齢別では、「実施したい」の割合は高齢になるほど低くなっている。（問29-b）

【問29-b 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向（年齢別）】

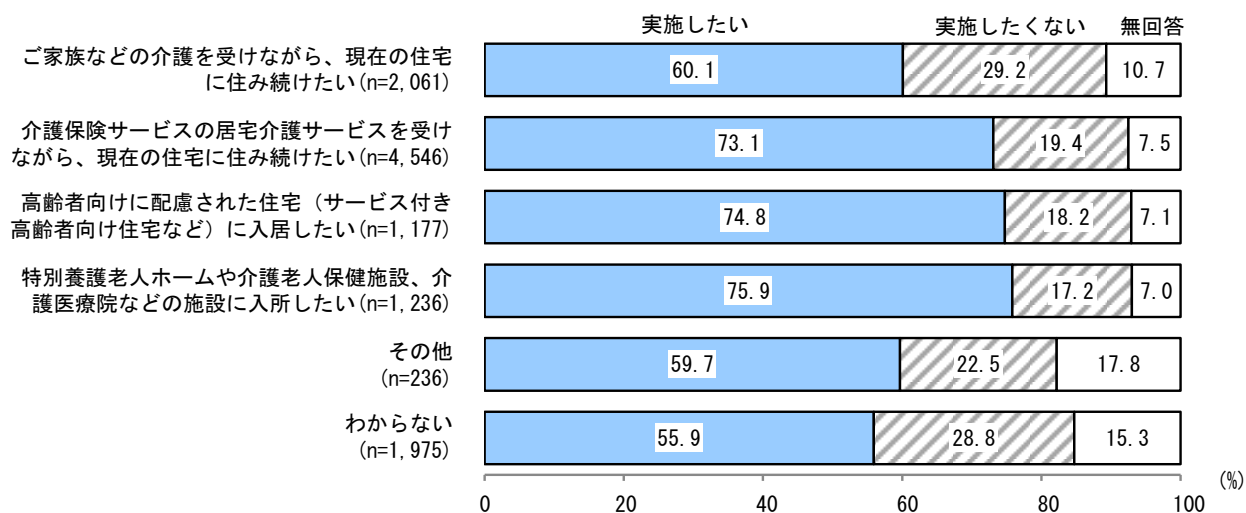


*前期・後期別



介護が必要になった場合の暮らし方別では、「実施したい」の割合は、特別養護老人ホームや介護老人保健施設、介護医療院などの施設に入所したいと回答した方が75.9%で最も高くなっている。（問29-c）

【問29-c 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向（介護が必要になった場合の暮らし方別）】



(7) 高齢者施策に関する意見・要望等

大阪市の高齢者施策についてのご意見・ご要望などを、次の欄に記入してください。

1,914人の回答があり、延べ2,406件の意見があがっている。主な意見は以下のとおり。

【高齢者施策全般】（438 件）

- ・安心して暮らせるように施策を充実させてほしい。個々に寄り添った施策を充実させてほしい。
- ・満足している、感謝している、特に不満はない。
- ・経済的支援をしてほしい。助成制度を充実させてほしい。物価高・光熱費の上昇に対し補助をしてほしい。
- ・敬老優待乗車証は有り難い、拡充してほしい。

【自分・家族の現状・将来について】（257 件）

- ・今は健康なので特に要望はない。まだ自分事に捉えられない。実感がない。現状のままで良い。
- ・自分・家族の将来に不安がある、心配がある。
- ・老々介護・家族の介護をしていて大変である、不安がある。

【介護保険制度・介護現場（職員）】（235 件）

- ・制度の見直し・充実を図ってほしい。制度に疑問がある。
- ・介護職員の労働条件の改善・待遇の改善・人材確保を図ってほしい。
- ・ケアマネジャー・ヘルパー等、介護従事者の質の向上を図ってほしい。

【アンケートについての意見】（235 件）

- ・アンケートは参考になった。知らないことが多くて驚いた。考えるきっかけになった。今後勉強したい。
- ・わかりにくい。書きにくい。回答が難しかった。設問数が多すぎる。

【介護保険料、国民健康保険料】（231 件）

- ・保険料が高い、年金生活者から徴収しないでほしい。地域格差をなくしてほしい。
- ・介護保険や健康保険を利用していない者には保険料を減額・返還してほしい。
- ・徴収されている介護保険料が何に使われているか明らかにしてほしい。

【介護予防・健康維持・自立・交流の場】（207 件）

- ・自立した生活が送れるよう健康管理をしている。自立の意識を持つことが大切である。
- ・高齢者が参加できるイベント・集いの場・交流の場を充実させてほしい。
- ・自立支援・健康維持・生きがいづくりの施策が大切である。

【情報提供、広報、インターネット、スマートフォン】（197 件）

- ・施策・施設・相談窓口等についての情報提供を充実させてほしい。研修や勉強会を実施してほしい。
- ・冊子や一覧表のようなものを作ってほしい。
- ・インターネットやスマートフォンが使えない人への支援や配慮をしてほしい。

【施設サービスの充実】（151 件）

- ・低価格（年金のみ）で入居できる施設を充実させてほしい。
- ・施設を増やして入りやすくしてほしい。希望する施設にすぐに入れるようにしてほしい。
- ・施設サービスの質の向上・虐待等がないようにしてほしい。施設利用に不安がある。

【仕事、地域社会への貢献】（101 件）

- ・今現在、仕事やボランティア活動をしている。今後も仕事を続けたいと思っている。
- ・高齢者の就労支援、働く場の提供を充実させてほしい。

- ・地域のボランティア活動、高齢者の活躍の場・情報を提供してほしい。

【行政全般】（81 件）

- ・国民年金だけでは生活が苦しい、不安である。年金を増やしてほしい。
- ・市バスの本数を増やしてほしい。赤バスを復活させてほしい。

【住まい・まちづくり】（65 件）

- ・高齢者向け住宅を充実させてほしい。住宅改修や家賃補助を充実させてほしい。
- ・歩道・道路の整備をしてほしい。駅周辺のエレベーター設置を充実させてほしい。
- ・市営住宅に優先的に入居させてほしい。

【ひとり暮らし、孤立死、災害】（55 件）

- ・見守り体制・支援を充実させてほしい。家庭訪問・実態調査をしてほしい。
- ・孤立死対策を充実させてほしい。不安がある。
- ・災害時の避難場所・設備を充実させてほしい。

【認知症】（36 件）

- ・認知症を介護する家族のサポートを充実させてほしい。
- ・認知症予防策を充実させてほしい。早期発見できる仕組みを充実させてほしい。
- ・認知症に関する施策・施設・医療機関・相談窓口を充実させてほしい。

【病院、医療制度・医療施設】（32 件）

- ・医療費負担割合を上げないでほしい。医療費の負担を軽減してほしい。
- ・医療従事者の質の向上を図ってほしい。医療施設を充実させてほしい。
- ・病気・怪我の予防法を周知してほしい。

【要介護認定】（26 件）

- ・適正な審査・認定をしてほしい。
- ・要介護認定の基準が厳しい。個々の状況・家族の負担も考慮して判断してほしい。

【地域の自治活動、地域の見守り】（25 件）

- ・地域の交流・支えあい・見守り活動が大切である、充実させてほしい。
- ・地域の役員・民生委員の意識が低い、質の向上を図ってほしい。活動実態がわからない。
- ・町内会活動の促進、加入を推進してほしい。自治会の体質を変えるべきである。

【終活・エンディングサポートに関すること】（14 件）

- ・お一人様高齢者のバックアップを市で取り組んでほしい。
- ・終活アシストをお願いすること切です。
- ・孤立死をしたとき親族に頼らないで、できたらいいと思う。。
- ・終活を考えるにあたり、まずどこに相談に行けばいいのでしょうか？

3 個別テーマに関する分析【ひとり暮らし高齢者の状況】

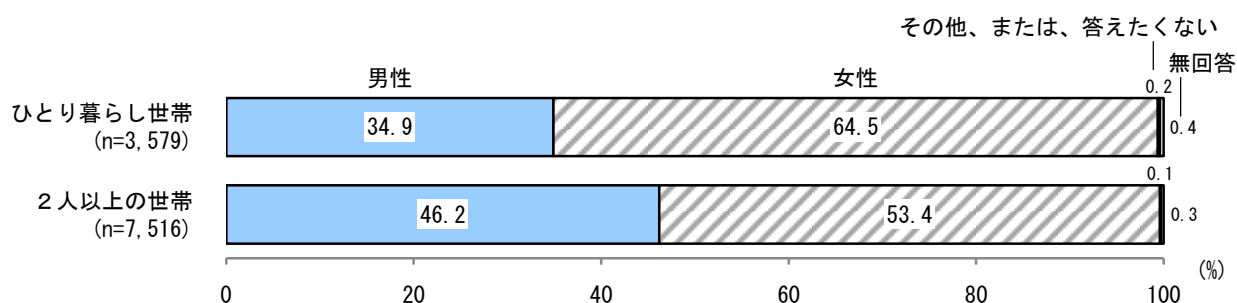
令和2年国勢調査の結果によると、一般世帯に占める本市のひとり暮らし高齢者世帯の割合は14.6%で、全国の12.1%に比べ2.5ポイント高くなっている。また、政令指定都市20市中、北九州市の15.0%に次いで2番目に高く、関西4政令指定都市の中で最も高い状態が継続しており、今後も増加していくと想定されることから、世帯状況（問3）を軸に、ひとり暮らし高齢者世帯に焦点をあて多世帯との生活状況等の違いについて分析を行った。

（1）回答者の基本属性

問2(1) 本人の性別

性別では、「男性」より「女性」の割合の方が高い。また、ひとり暮らし世帯の「女性」の割合は、2人以上の世帯より高くなっている。（問2(1)）

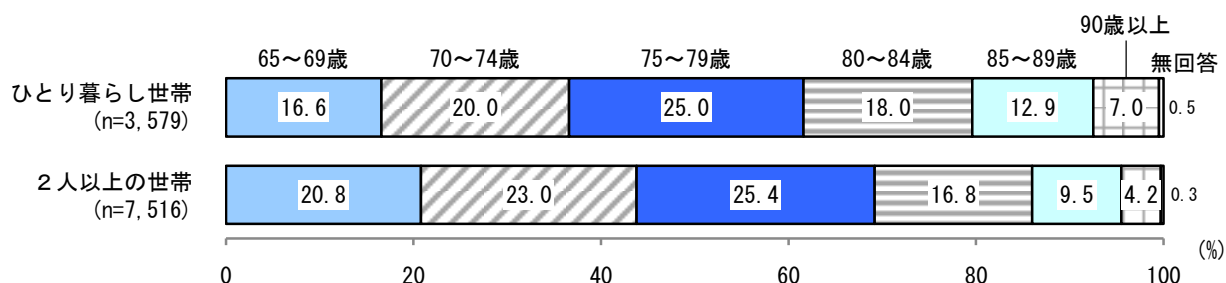
【問2(1) 本人の性別】



問2(2) 本人の年齢

年齢では、75歳以上の後期高齢者の割合が2人以上の世帯より高く、そのうち80歳以上の各年代の割合が高くなっている。（問2(2)）

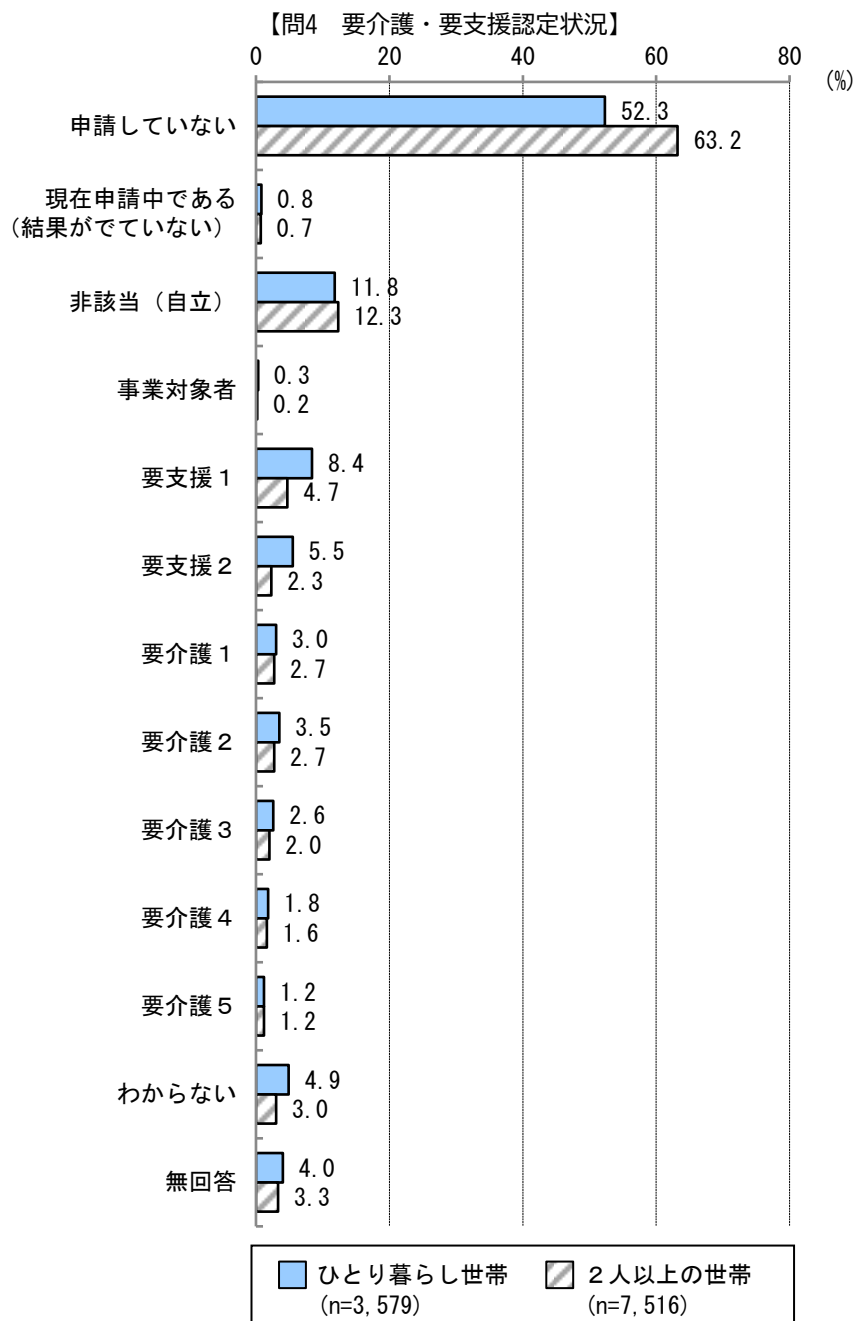
【問2(2) 本人の年齢】



(2) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問4 要介護・要支援認定状況

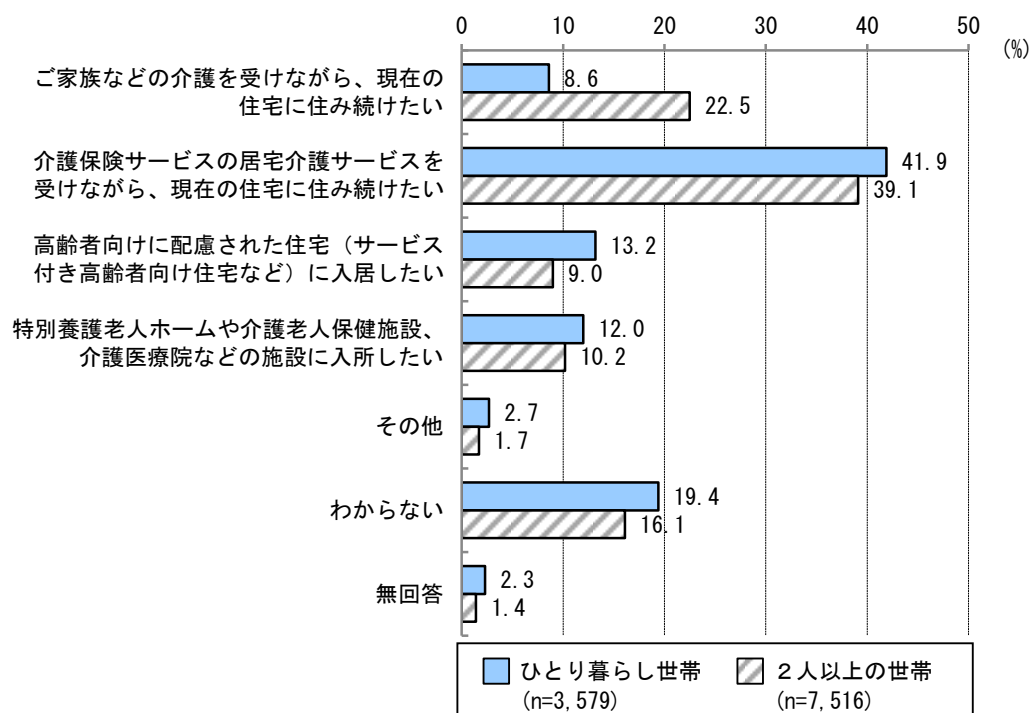
要介護・要支援認定の認定状況では、ひとり暮らし世帯では申請率が高く、「非該当（自立）」以外の全ての項目において2人以上の世帯よりも割合が高い。（問4）



問5 介護が必要になった場合の暮らし方

介護が必要になった場合の暮らし方では「高齢者向けに配慮された住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」（13.2%）と「特別養護老人ホームや介護老人保健施設、介護医療院などの施設に入所したい」（12.0%）をあわせた入所希望の割合が25.2%と、2人以上の世帯の割合（19.2%）に比べ6.0ポイント高くなっている。（問5）

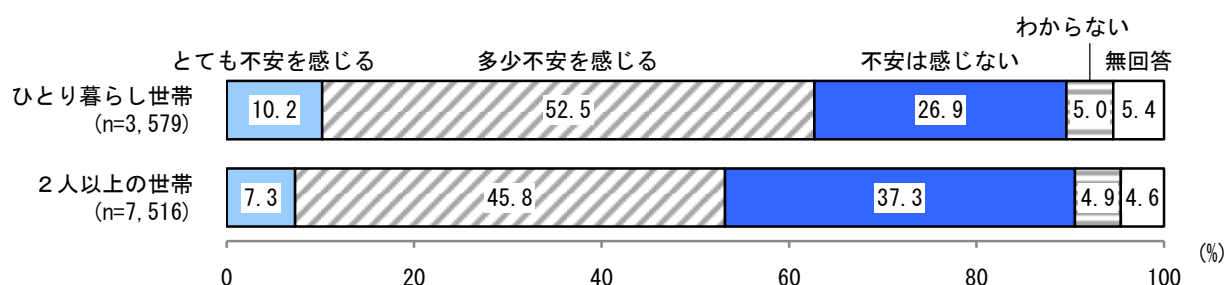
【問5 介護が必要になった場合の暮らし方】



問6 日常生活への不安の有無

日常生活に『不安を感じる』の割合（「とても不安を感じる」と「多少不安を感じる」の合計）が62.7%で、2人以上の世帯の割合（53.1%）に比べ9.6ポイント高くなっている。（問6）

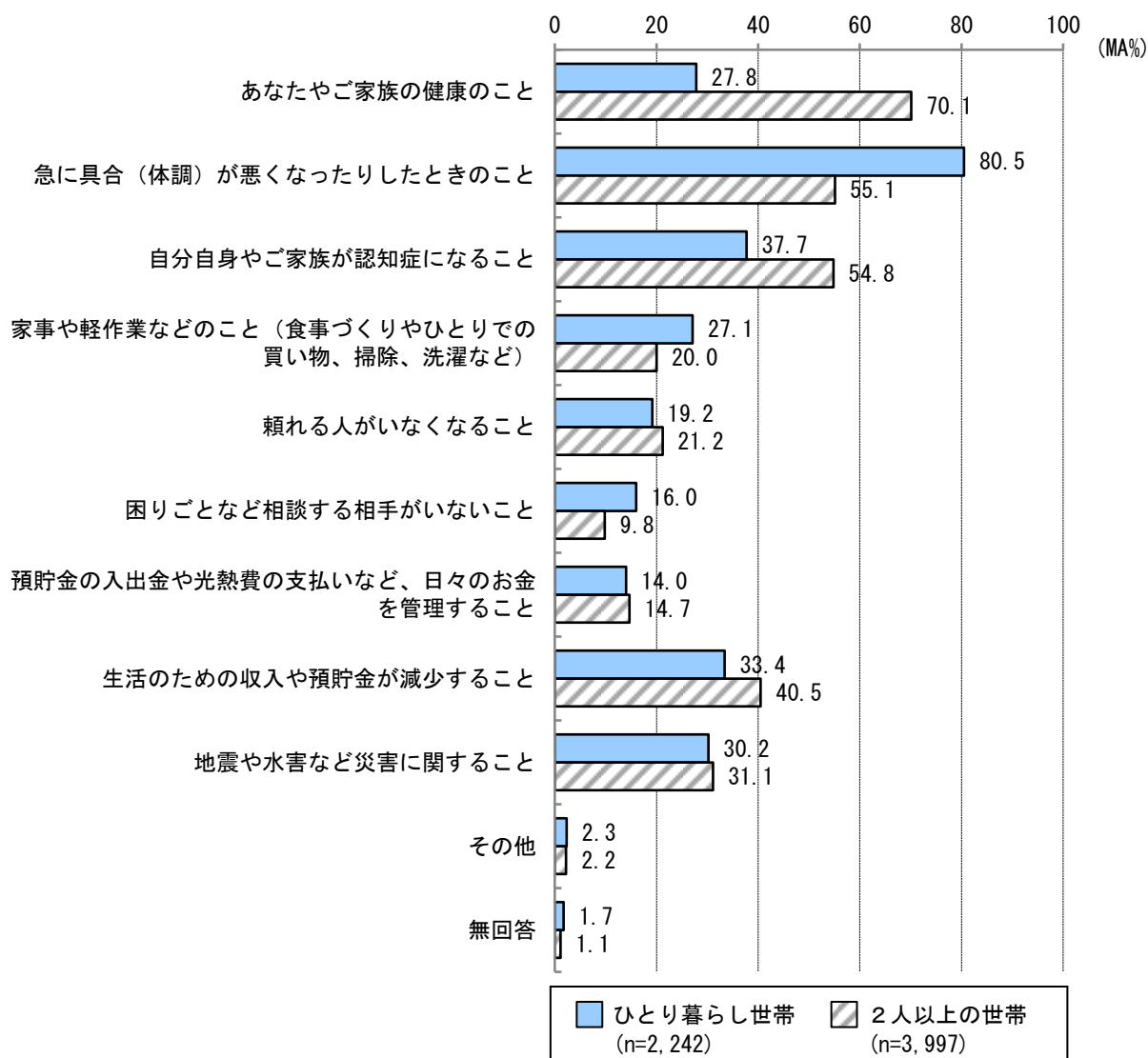
【問6 日常生活への不安の有無】



問6-1 日常生活への不安内容

日常生活への不安内容では、「急に具合（体調）が悪くなったりしたときのこと」の割合が80.5%で、2人以上の世帯の割合（55.1%）に比べ25.4ポイント高くなっている。（問6-1）

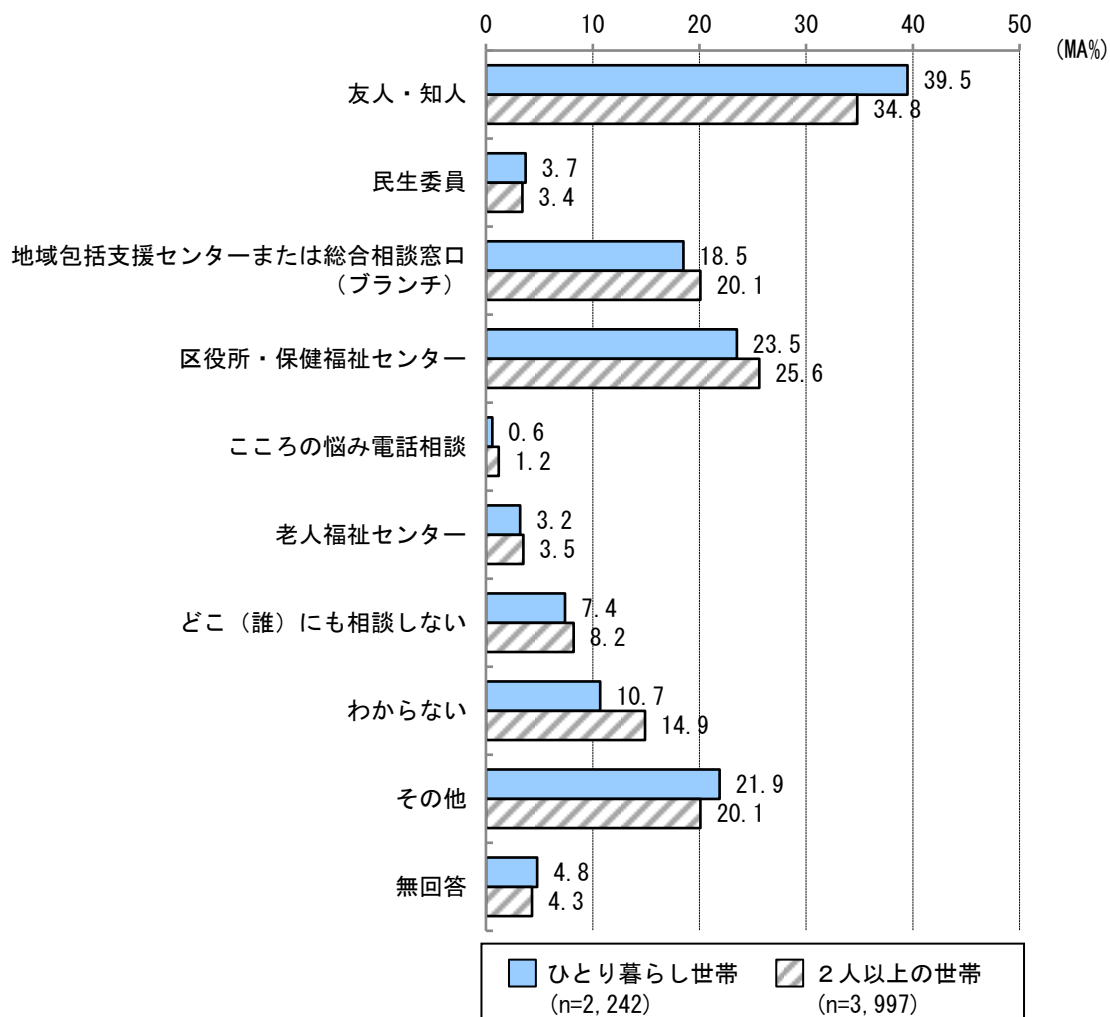
【問6-1 日常生活への不安内容】



問6-2 不安を感じた時の相談先

不安を感じた時の相談先は、「友人・知人」の割合が39.5%で、2人以上の世帯の割合（34.8%）に比べ4.7ポイント高くなっている。（問6-2）

【問6-2 不安を感じた時の相談先】

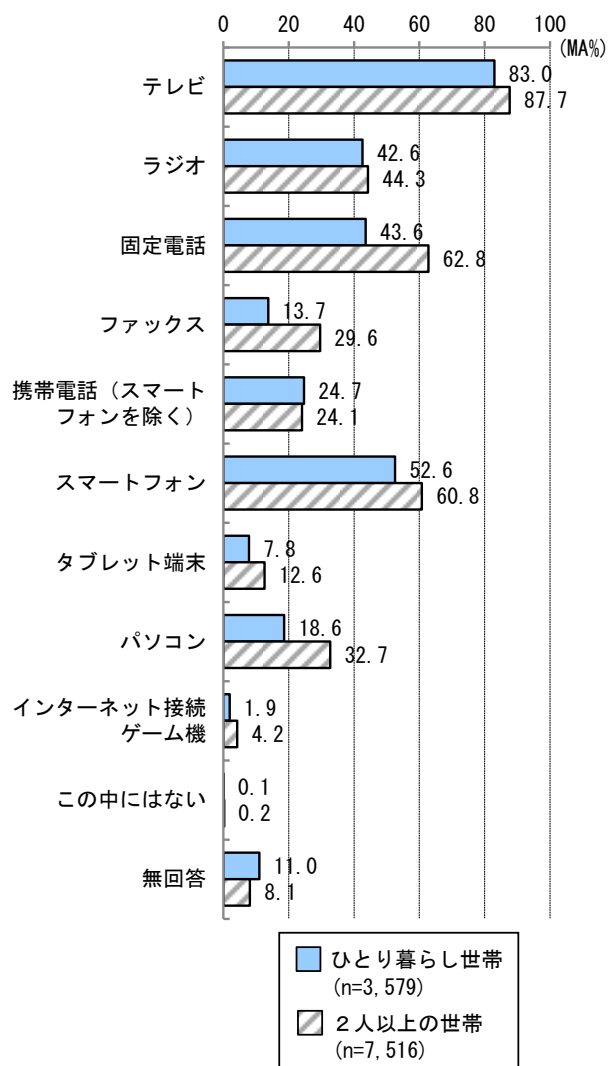


問7 情報通信機器の所有状況と利用状況

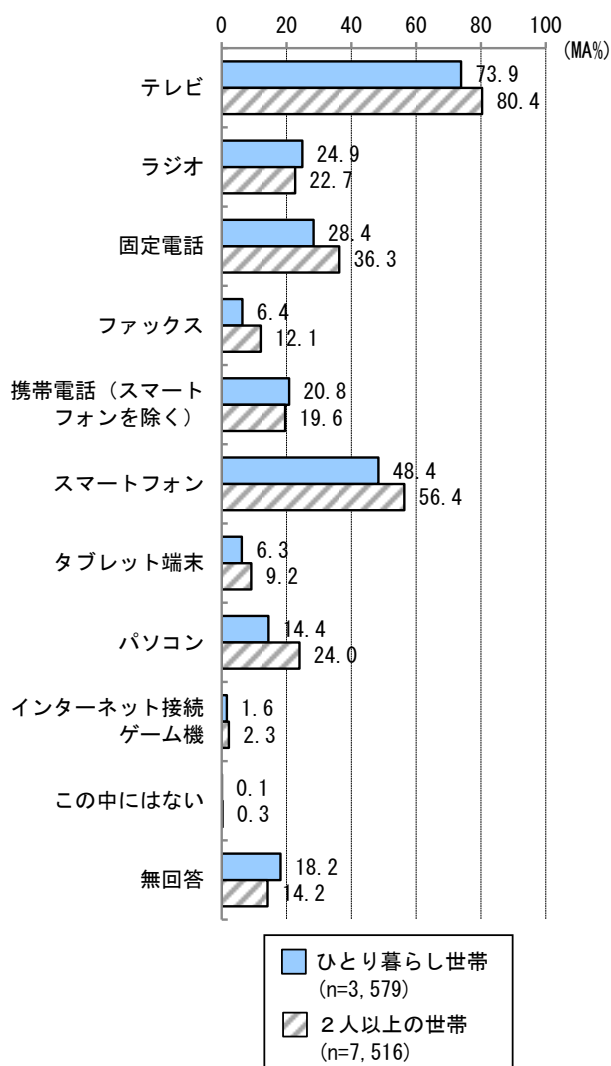
情報通信機器の所有状況は、ひとり暮らし世帯、2人以上の世帯に関係なく、「テレビ」「スマートフォン」の割合が高くなっているが、ひとり暮らし世帯では、「携帯電話（スマートフォンを除く）」（24.7％）を除く機器の割合が2人以上の世帯に比べ低くなっている。（問7①）

また、普段、利用している情報通信機器は「テレビ」（73.9％）、「スマートフォン」の割合が高いが、2人以上の世帯に比べ低くなっている。（問7②）

【問7① 情報通信機器の所有状況】



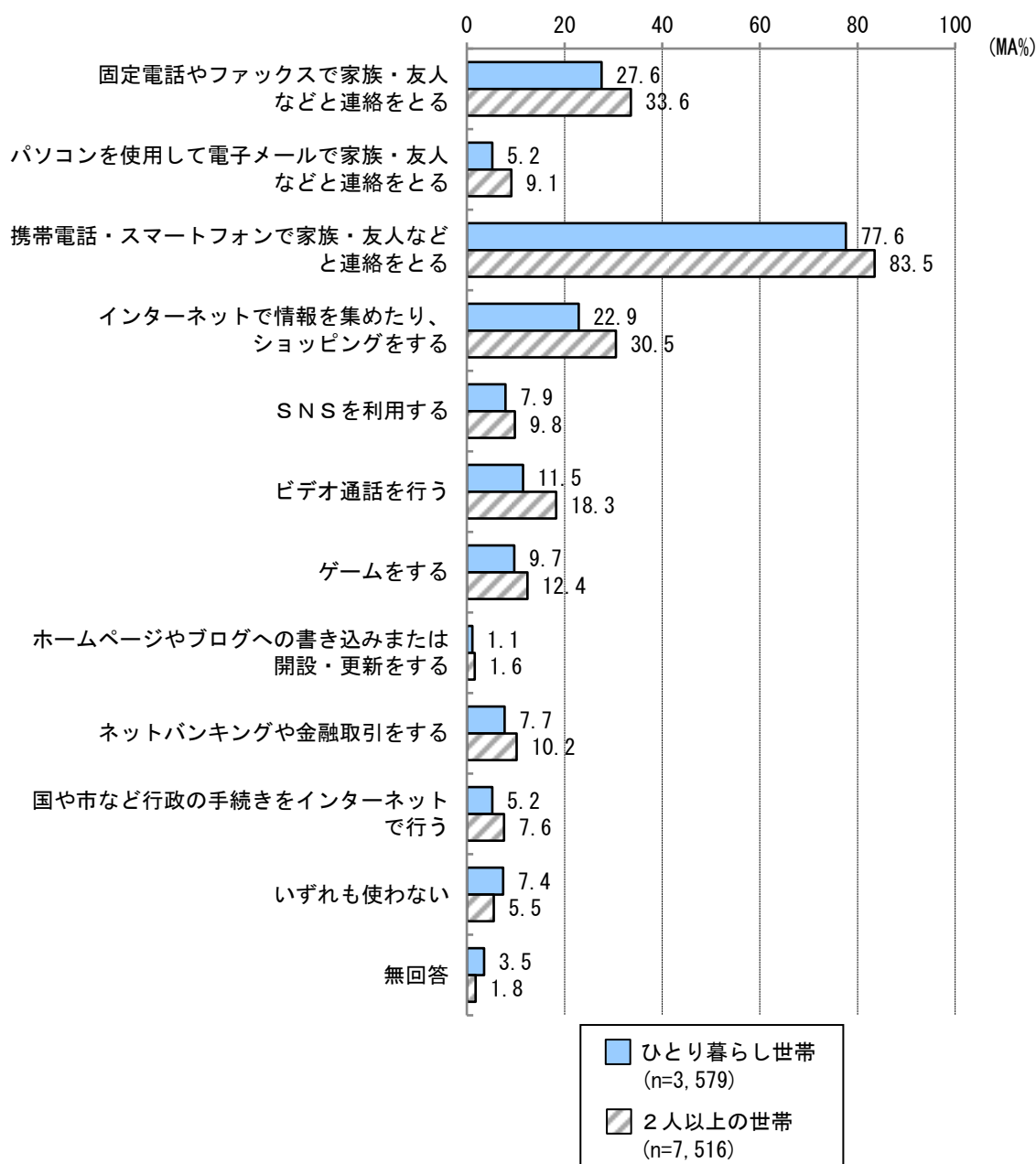
【問7② 情報通信機器の利用状況】



問8 情報通信機器の利用目的

情報通信機器の利用目的は、ひとり暮らし世帯、2人以上の世帯に関係なく、「携帯電話・スマートフォンで家族・友人などと連絡をとる」の割合が最も高く、次いで「固定電話やファックスで家族・友人などと連絡をとる」「インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする」となっている。「いずれも使わない」以外の割合は、2人以上の世帯に比べ、ひとり暮らし世帯が低い。(問8)

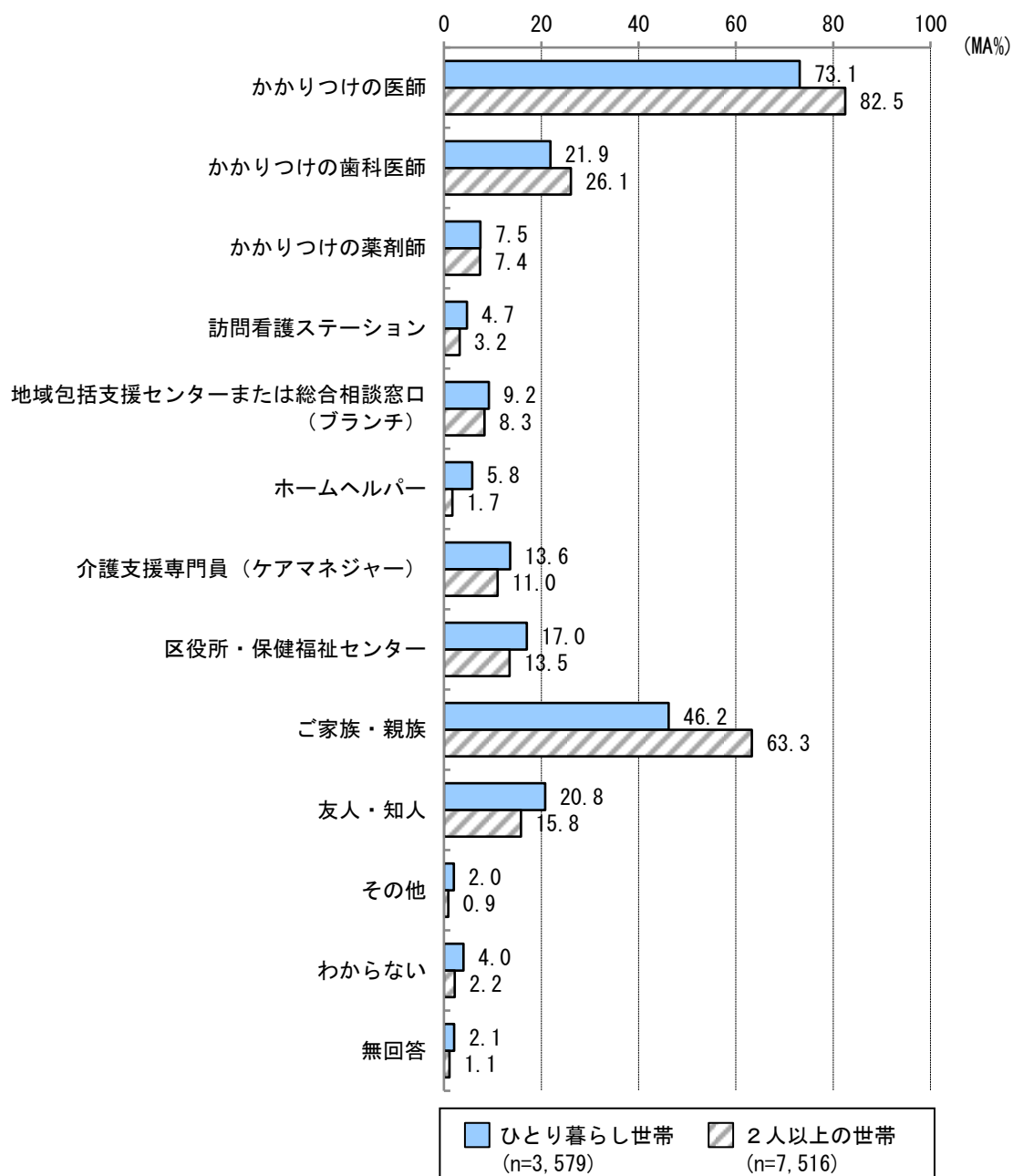
【問8 情報通信機器の利用目的】



問9 医療の相談先

医療の相談先は、2人以上の世帯同様、「かかりつけの医師」(73.1%)の割合が最も高くなっている。次いで「ご家族・親族」(46.2%)で、2人以上の世帯の割合(63.3%)に比べ17.1ポイント低くなっている。(問9)

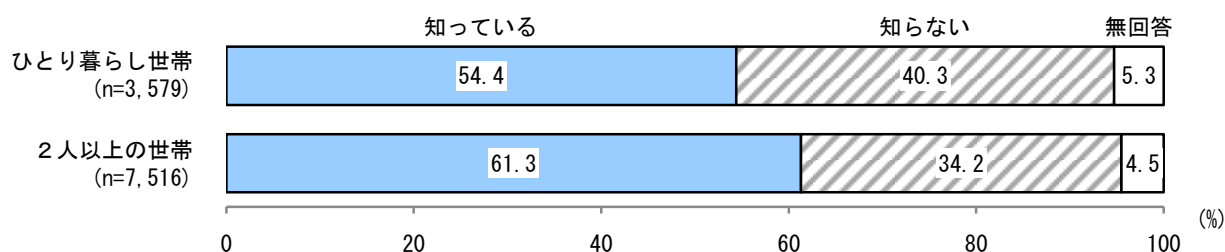
【問9 医療の相談先】



問10 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度

希望すれば在宅医療を受けられることの認知度では、「知っている」の割合は54.4%で、2人以上の世帯（61.3%）に比べ6.9ポイント低くなっている。（問10）

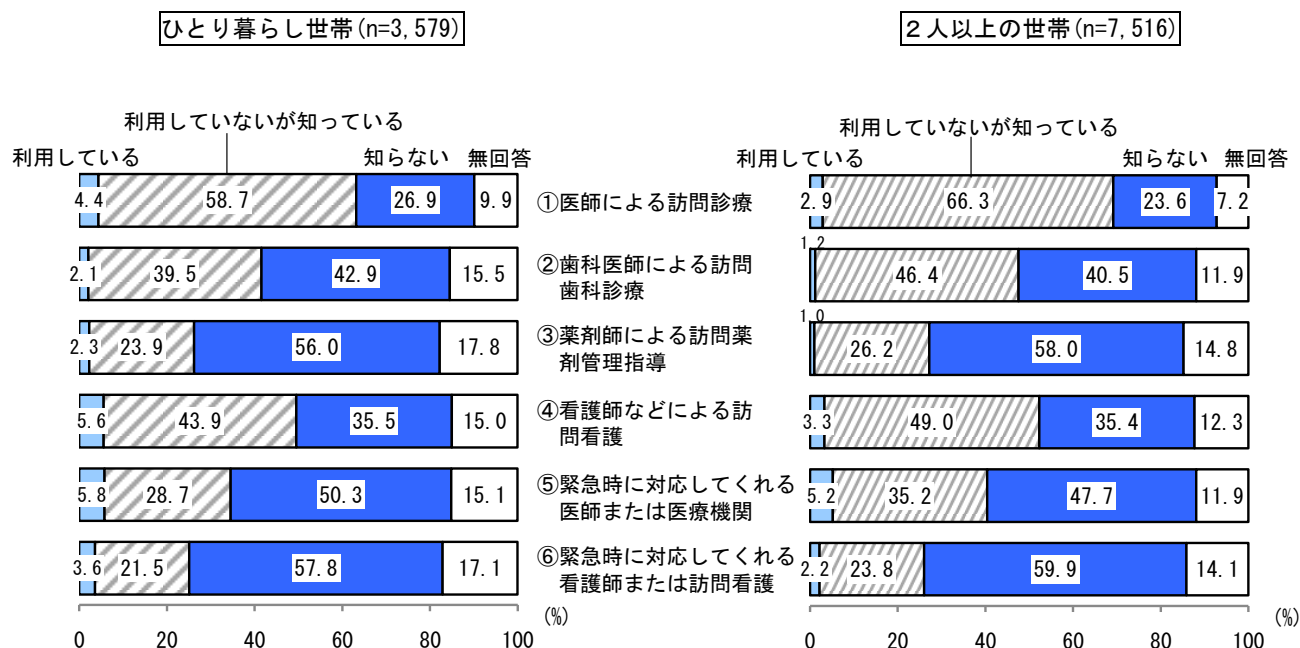
【問10 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度】



問11 在宅医療の利用状況

在宅医療の利用状況で、「利用している」の割合は、ひとり暮らし世帯でいずれも高くなっている。「利用している」と「利用していないが知っている」の各割合を合計した認知度は、いずれも、ひとり暮らし世帯に比べ2人以上の世帯の方が高い。（問11）

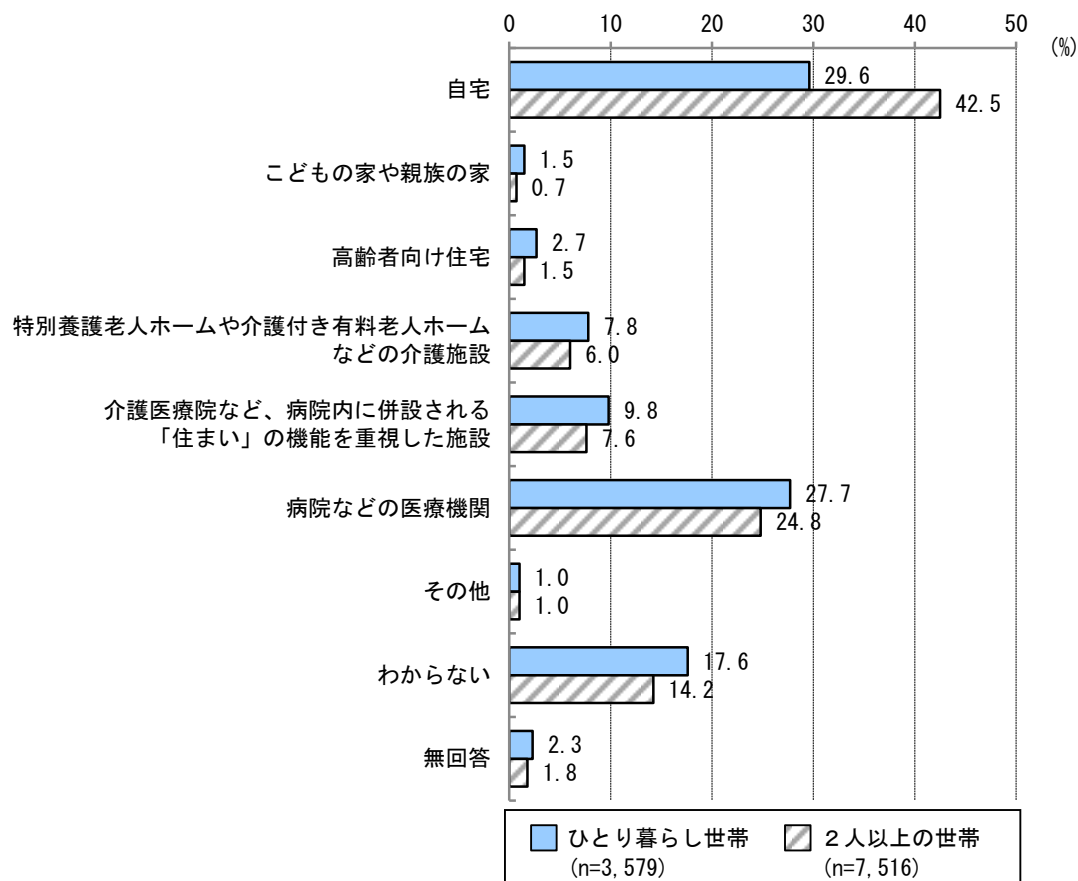
【問11 在宅医療の利用状況】



問13 人生の最終段階に過ごしたい場所

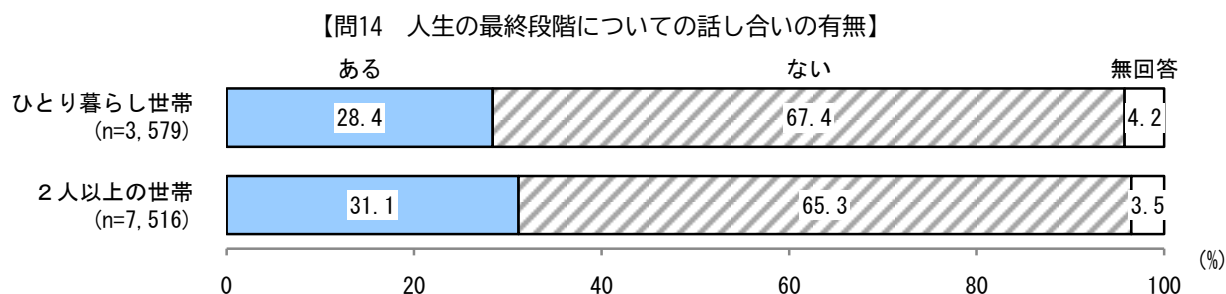
人生の最終段階に過ごしたい場所は、「自宅」(29.6%)の割合が最も高いが、2人以上の世帯の割合に比べ12.9ポイント低く、他の住まいや施設の割合が高くなっている。(問13)

【問13 人生の最終段階に過ごしたい場所】



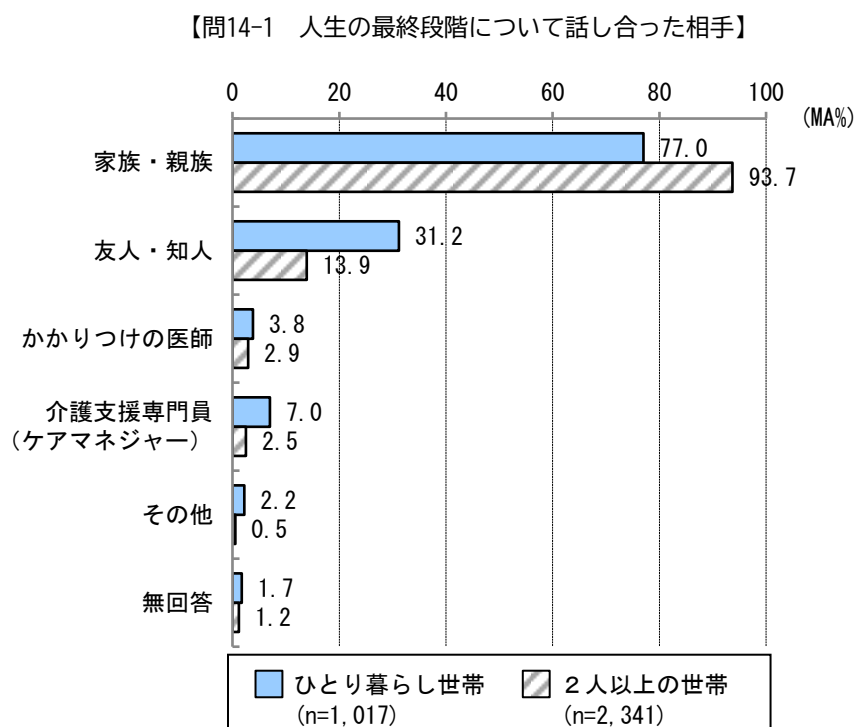
問14 人生の最終段階についての話し合いの有無

ひとり暮らし世帯と2人以上の世帯との比較では、人生の最終段階についての話し合いが「ある」の割合が28.4%で、2人以上の世帯（31.1%）に比べ2.7ポイント低くなっている。（問14）



問14-1 人生の最終段階について話し合った相手

人生の最終段階について話し合った相手は、「家族・親族」（77.0%）の割合が最も高いが、2人以上の世帯の割合（93.7%）に比べ16.7ポイント低くなっている。これとは逆に、ひとり暮らし世帯では、「友人・知人」（31.2%）の割合が2人以上の世帯の割合（13.9%）に比べ17.3ポイント高くなっている。（問14-1）

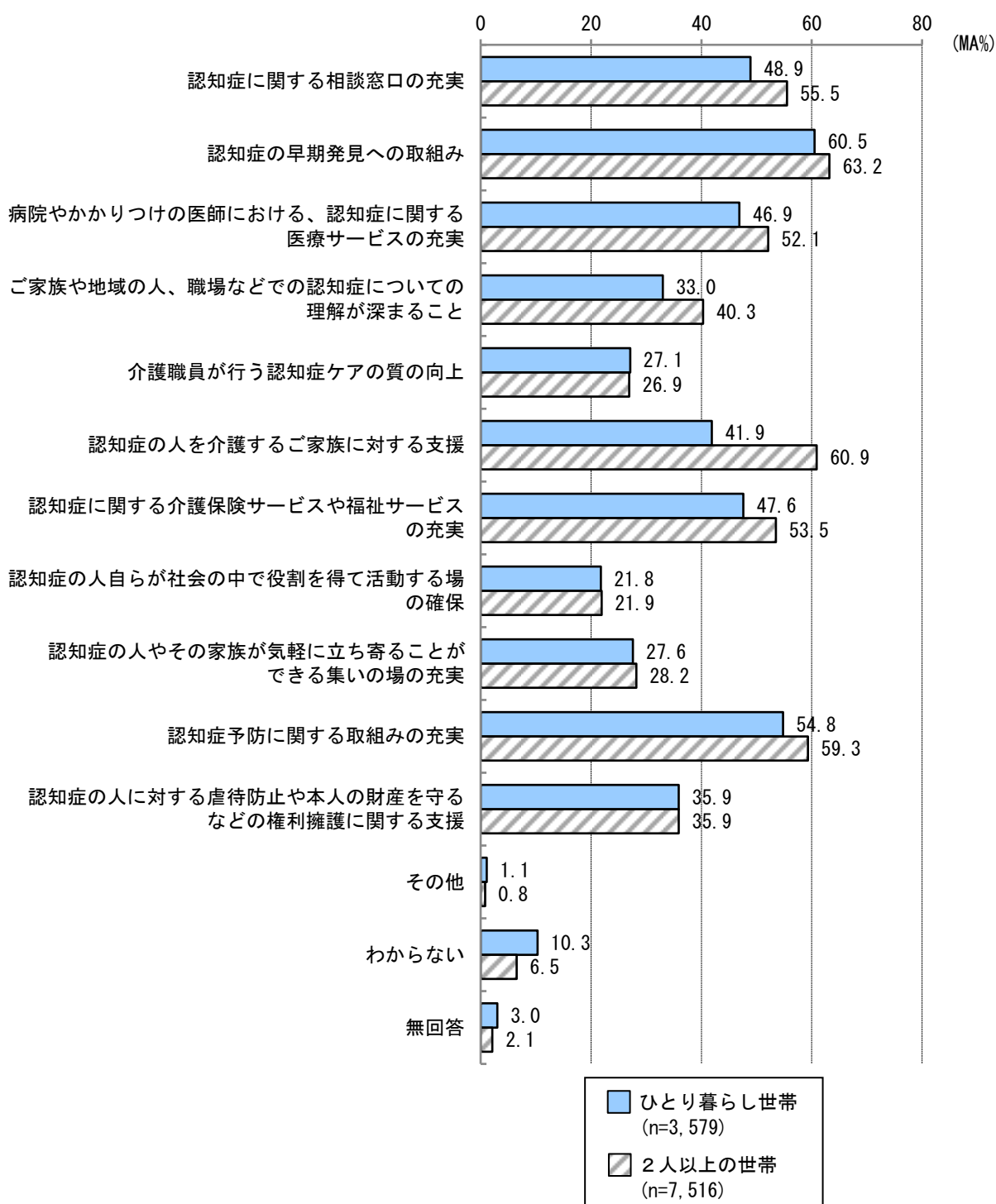


(3) 地域生活支援

問17 認知症の人の支援

認知症の人の支援で必要なことは、ひとり暮らし世帯、2人以上の世帯に関係なく、「認知症の早期発見への取組み」の割合が最も高い。次いで、ひとり暮らし世帯では「認知症予防に関する取組みの充実」が、2人以上の世帯では「認知症の人を介護するご家族に対する支援」がそれぞれ高くなっている。「認知症の人を介護するご家族に対する支援」の割合は、ひとり暮らし世帯に比べ2人以上の世帯の方が19.0ポイント高く、他の項目に比べ差が大きくなっている。(問17)

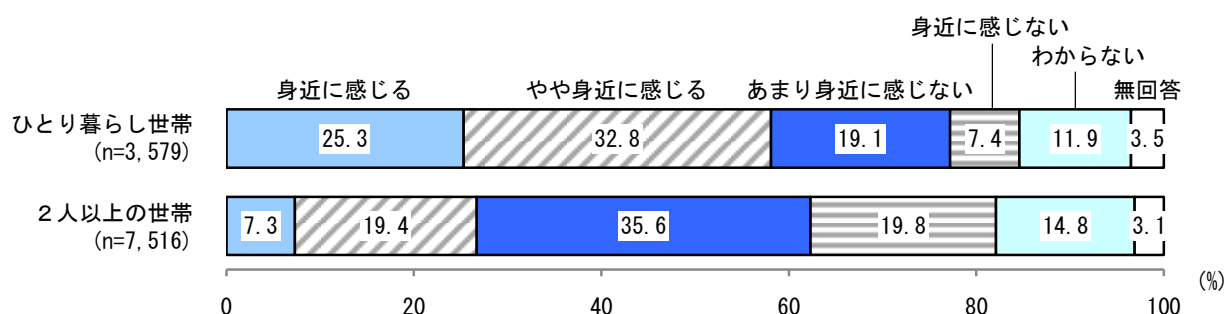
【問17 認知症の人の支援】



問18 孤立死に対する意識

孤立死を、『身近に感じる』の割合（「身近に感じる」と「やや身近に感じる」の合計）は58.1%で、2人以上の世帯の26.7%に比べ、31.4ポイント高くなっている。（問18）

【問18 孤立死に対する意識】

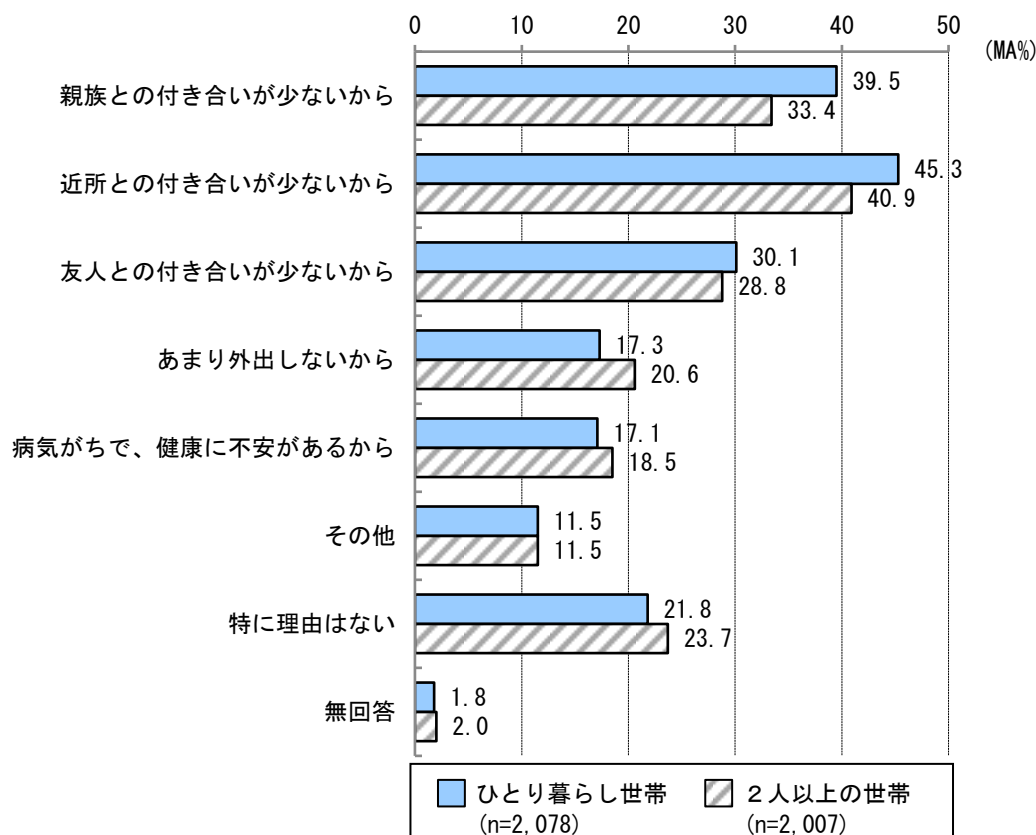


問18-1 孤立死を身近に感じる理由

孤立死を身近に感じる理由は、ひとり暮らし世帯では、「近所との付き合いが少ないから」（45.3%）や「親族との付き合いが少ないから」（39.5%）の各割合が高くなっている。

また、2人以上の世帯に比べ、「親族との付き合いが少ないから」や「近所との付き合いが少ないから」「友人との付き合いが少ないから」の割合が高くなっている。（問18-1）

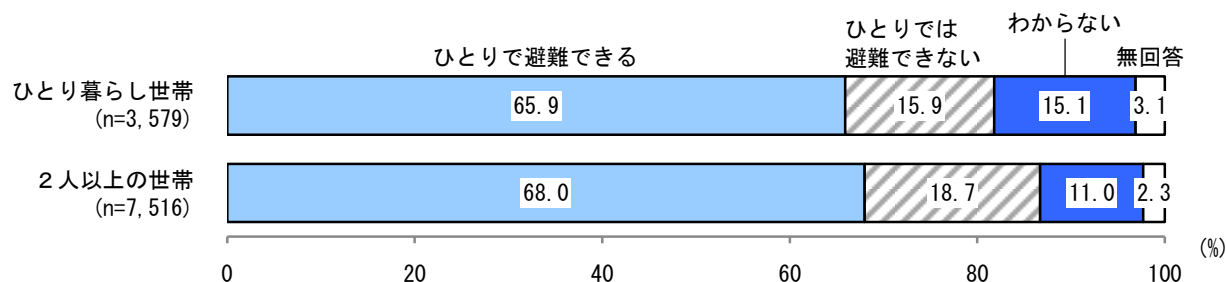
【問18-1 孤立死を身近に感じる理由】



問19 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否

災害時や緊急時にひとりで避難できるかについて、ひとり暮らし世帯では、「ひとりで避難できる」の割合が65.9%となっている。その割合は2人以上の世帯に比べ2.1ポイント低く、「ひとりでは避難できない」割合も2.8ポイント低くなっている。「わからない」の割合は、2人以上の世帯に比べ4.1ポイント高くなっている。(問19)

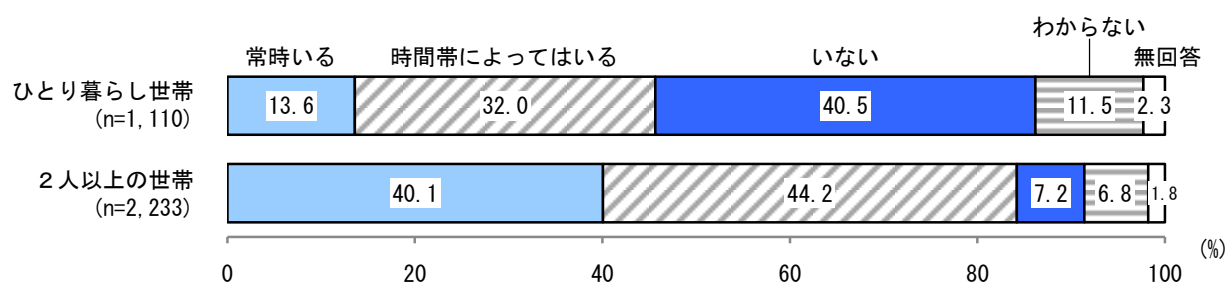
【問19 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否】



問19-1 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無

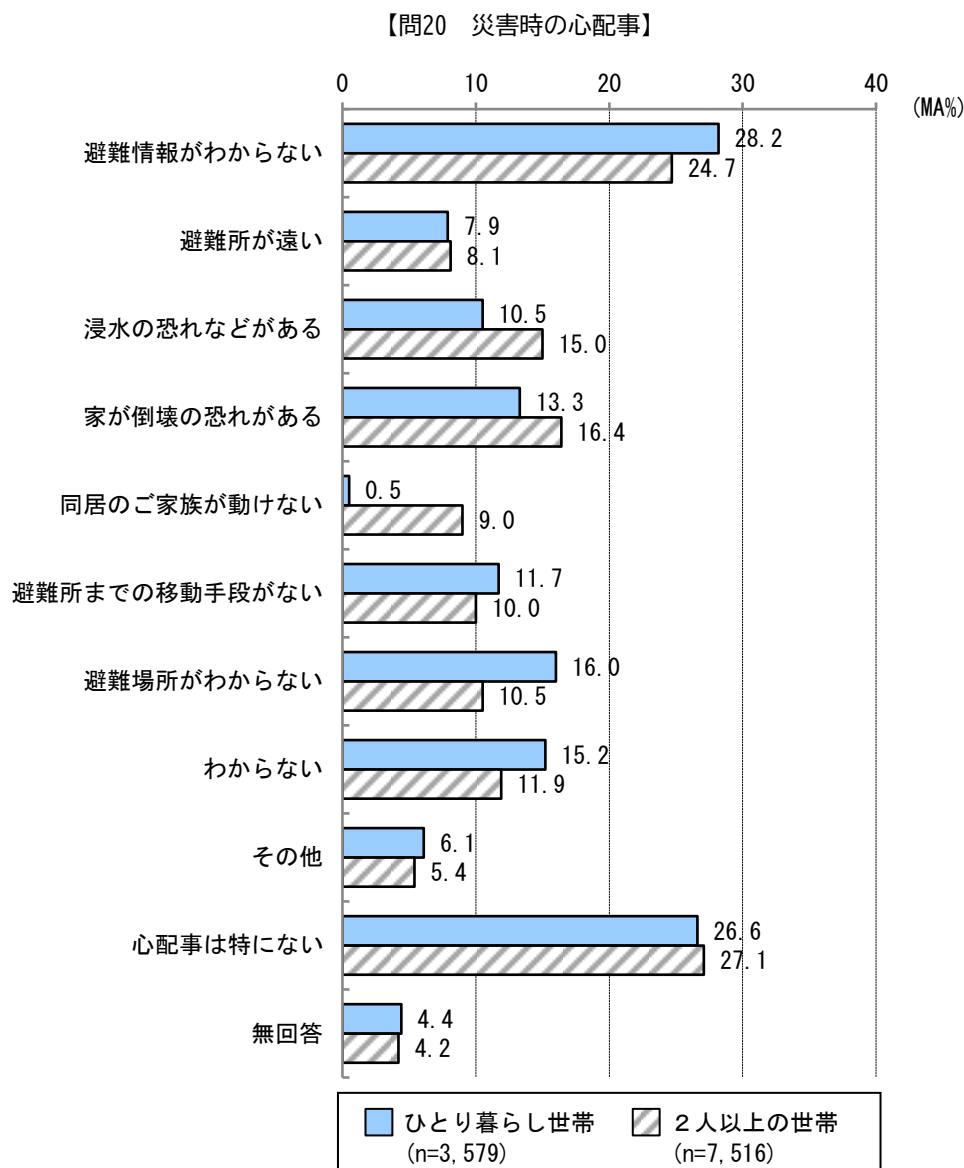
災害時・緊急時にひとりで避難できない、またはわからないと回答した人で、手助けを頼める人は、ひとり暮らし世帯では「いない」が40.5%となっており、2人以上の世帯の7.2%に比べ33.3ポイント高くなっている。(問19-1)

【問19-1 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無】



問20 災害時の心配事

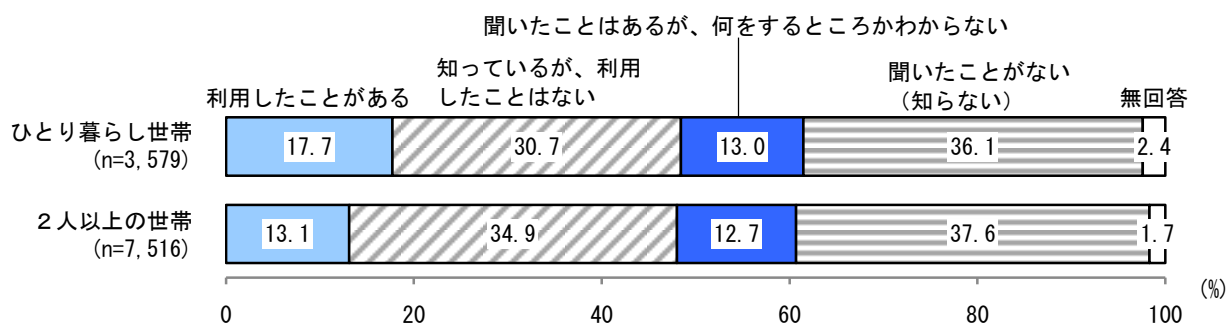
災害時の心配事では、「避難情報がわからない」(28.2%)の割合が最も高く、2人以上の世帯の割合(24.7%)に比べ3.5ポイント高くなっている。次いで「避難場所がわからない」がひとり暮らし世帯では16.0%で、2人以上の世帯に比べ5.5ポイント高くなっている。(問20)



問21 地域包括支援センター・総合相談窓口(ブランチ)の利用状況

ひとり暮らし世帯、2人以上の世帯とも、地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）を『知っている』（「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」の合計）の割合には大きな差はない。「利用したことがある」の割合は、ひとり暮らし世帯は17.7%で、2人以上の世帯（13.1%）より4.6ポイント高くなっている。（問21）

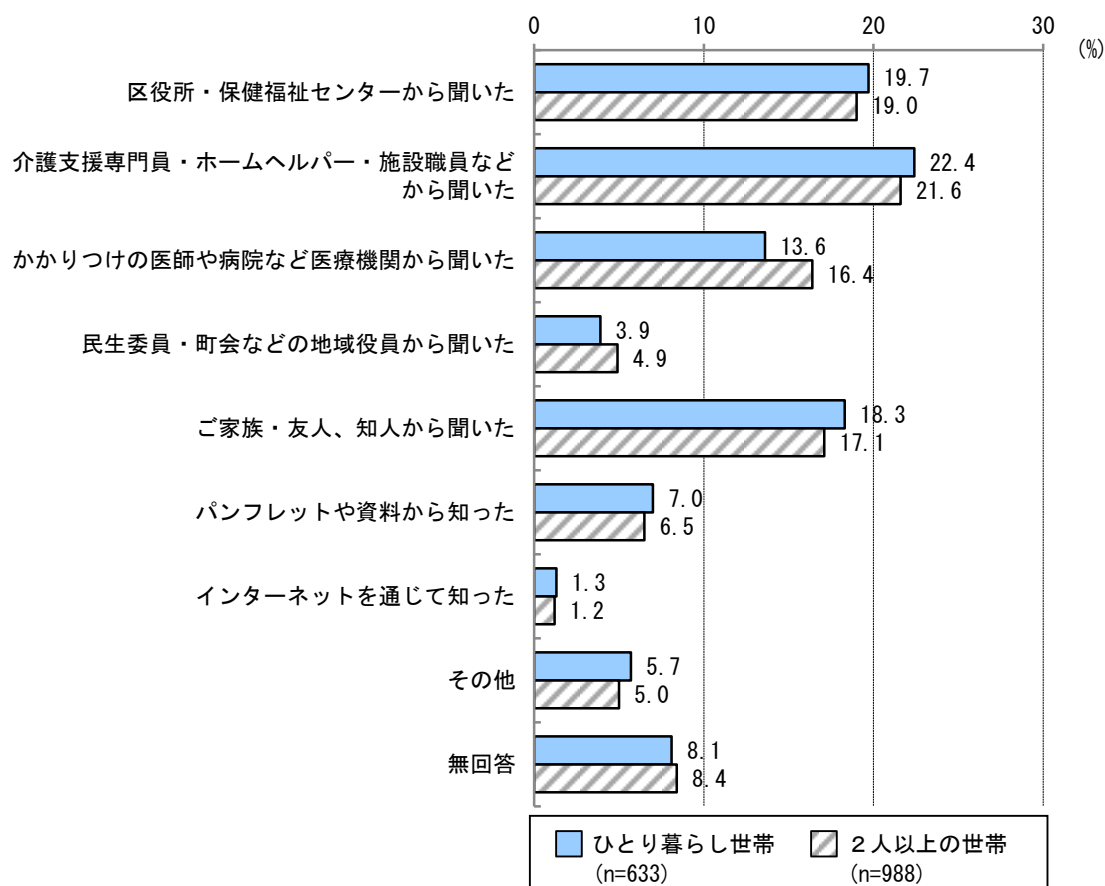
【問21 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の利用状況】



問21-1 地域包括支援センター・総合相談窓口(ランチ)を知った経緯

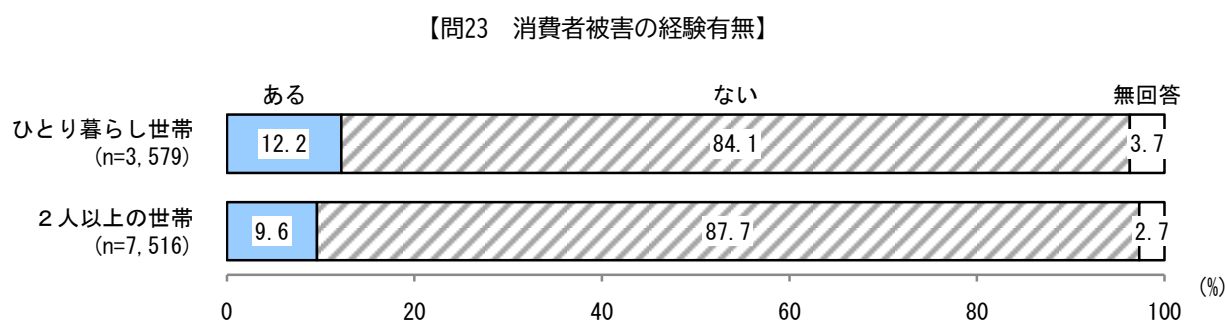
2人以上の世帯と比べて、「かかりつけの医師や病院など医療機関から聞いた」「民生委員・町会などの地域役員から聞いた」の割合は、ひとり暮らし世帯でやや低く、それ以外はひとり暮らし世帯の方が高くなっている。(問21-1)

【問21-1 地域包括支援センター・総合相談窓口(ランチ)を知った経緯】



問23 消費者被害の経験有無

消費者被害にあったことや、あいそうになったことがある割合は12.2%となっている。2人以上の世帯（9.6%）に比べ2.6ポイント高くなっている。（問23）

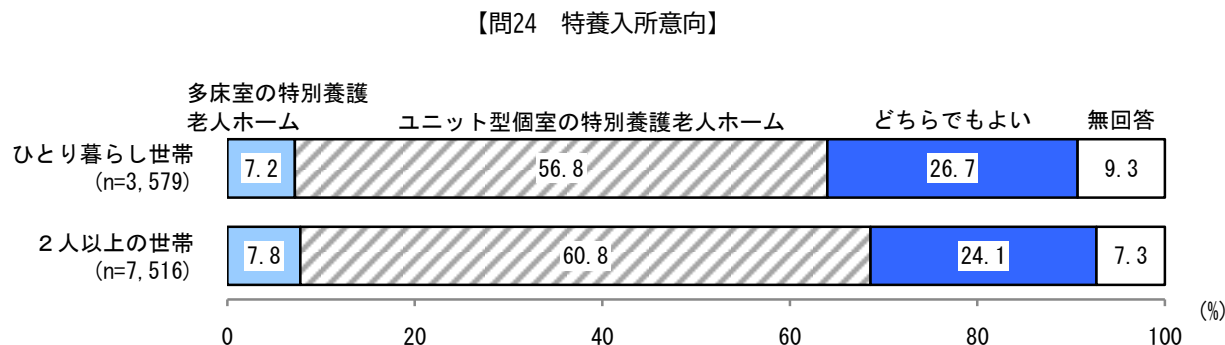


（４）将来の介護や援護に対する考え

問24 特養入所意向

世帯規模に関係なく、「ユニット型個室の特別養護老人ホーム」が6割前後を占めている。

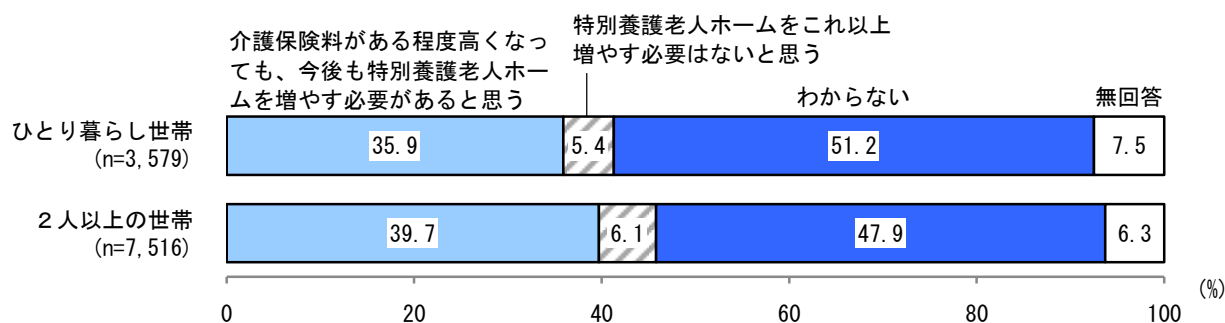
「ユニット型個室の特別養護老人ホーム」の割合は、ひとり暮らし世帯では56.8%で、2人以上の世帯（60.8%）に比べ4.0ポイント低くなっている。（問24）



問25 特養の整備と介護保険料

世帯規模に関係なく、「介護保険料がある程度高くなっても、今後も特別養護老人ホームを増やす必要があると思う」が3割台で、ひとり暮らし世帯（35.9％）の割合は、2人以上の世帯（39.7％）に比べ3.8ポイント低くなっている。（問25）

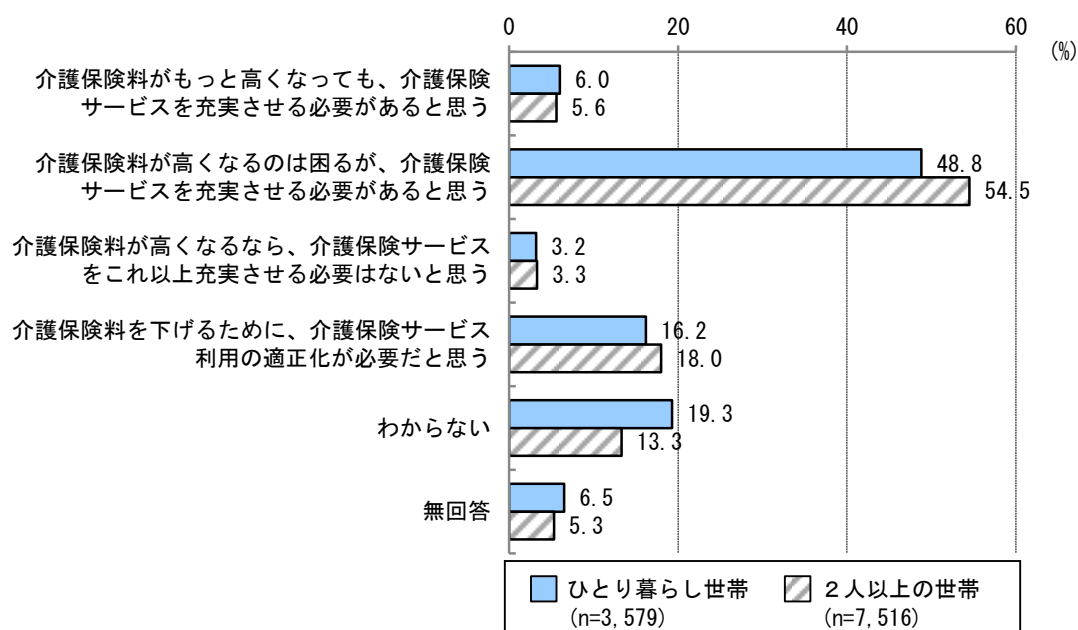
【問25 特養の整備と介護保険料】



問26 介護保険サービスと介護保険料に対する考え

世帯規模に関係なく、「介護保険料が高くなるのは困るが、介護保険サービスを充実させる必要があると思う」の割合が最も高い。ひとり暮らし世帯（48.8％）の割合は、2人以上の世帯（54.5％）に比べ5.7ポイント低くなっている。（問26）

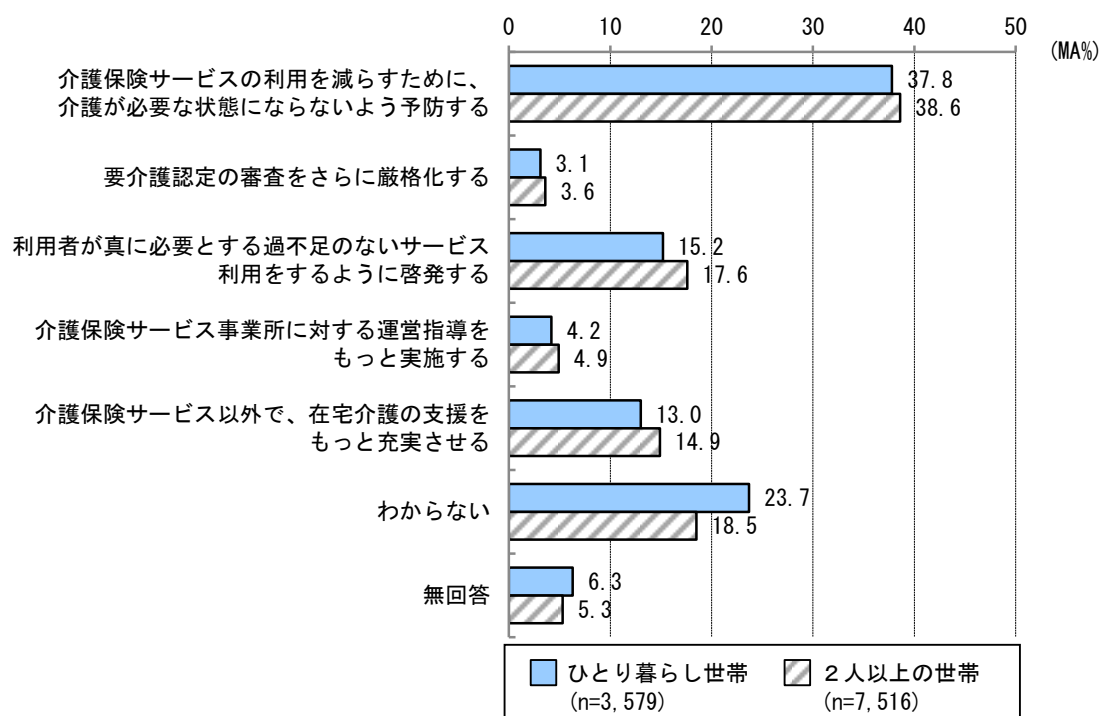
【問26 介護保険サービスと介護保険料に対する考え】



問27 介護保険料の上昇を抑制するために必要な取組

世帯規模に関係なく、「介護保険サービスの利用を減らすために、介護が必要な状態にならないよう予防する」の割合が最も高い。ひとり暮らし世帯の割合は37.8%で、2人以上の世帯（38.6%）と大きな差はみられない。（問27）

【問27 介護保険料の上昇を抑制するために必要な取組】



(5) 高齢者施策全般

問28 高齢者向け施設・事業の利用状況・意向

ひとり暮らし世帯でニーズが高いと考えられる主要な事業について取り上げその結果をみたところ、ひとり暮らし世帯の「利用あり」の割合は、“⑨緊急通報システム事業（固定型）”“⑩緊急通報システム事業（携帯型）”“⑪安否確認のある食事サービス事業”“⑬ごみの持ち出しサービス”の4事業が2～3％程度で、2人以上の世帯に比べ高くなっている。

また、これら4つの事業について「(知っているが利用なし) 今後利用したい」の割合は、2人以上の世帯で高くなっている。一方、“⑮認知症高齢者位置情報探索事業（GPS）”“⑱成年後見制度”を除く各事業の「知らない」の割合は、ひとり暮らし世帯に比べ2人以上の世帯の方が高くなっている。（問28）

【問28 高齢者向け施設・事業の利用状況・意向】

